２０２４年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）

星槎道都大学
SEISA DOHTO UNIVERSITY

目　　次

1304001 数学入門 横山　哲也 ２Ｑ ・・・ 1
2101001 情報基礎演習Ｉ (M) 由水・薦田・佐藤雅 前期 ・・・ 3
2101002 情報基礎演習Ｉ (S) 宮崎・薦田 前期 ・・・ 5
2101003 情報基礎演習Ｉ (D) 薦田・佐藤雅 前期 ・・・ 7
2101004 情報基礎演習Ｉ (A) 薦田・佐藤雅 前期 ・・・ 9
3101101 基礎英語Ｉ (M-信濃) 信濃　吉彦 １Ｑ ・・・ 11
3101102 基礎英語Ｉ (M-岡島) 岡島　徳昭 １Ｑ ・・・ 13
3101103 基礎英語Ｉ (M-石田) 石田　暁子 １Ｑ ・・・ 15
3101104 基礎英語Ｉ (M-井坂) 井坂　肇 １Ｑ ・・・ 17
3101105 基礎英語Ｉ (SDA-西崎) 西崎　毅 １Ｑ ・・・ 19
3101106 基礎英語Ｉ (SDA-宮嶋) 宮嶋　達也 １Ｑ ・・・ 21
3101107 基礎英語Ｉ (SDA-横田) 横田　肇 １Ｑ ・・・ 23
3101108 基礎英語Ｉ (SDA-井坂) 井坂　肇 １Ｑ ・・・ 25
3201101 ﾄﾞｲﾂ語入門Ｉ (M) 河田　一郎 前期 ・・・ 27
4101001 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (M-A) 佐藤和・三嶋・石井 １Ｑ ・・・ 29
4101002 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (M-B) 佐藤和・三嶋・石井 １Ｑ ・・・ 31
4101003 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (M-C) 佐藤和・三嶋・石井 １Ｑ ・・・ 33
4101004 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (S-A) 三嶋・天野 １Ｑ ・・・ 35
4101005 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (S-B) 三嶋・天野 １Ｑ ・・・ 37
4101006 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (D) 小山・三嶋 １Ｑ ・・・ 39
4101007 ｽﾎﾟｰﾂ総合 (A) 小山・三嶋 １Ｑ ・・・ 41
5301001 基本製図 安藤・向井 前期 ・・・ 43
5401000 経営学総論 信濃　吉彦 １Ｑ ・・・ 45
5403000 経営組織論 信濃　吉彦 ２Ｑ ・・・ 47
6200501 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (M) 河野　善文 １Ｑ ・・・ 49
6200502 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (S) 松下・後藤 １Ｑ ・・・ 51
6200503 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (D) 三上　いずみ １Ｑ ・・・ 53
6200504 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習 (A) 安藤佐藤善伊藤佐々木長森赤木小山横山君小笠原向井 １Ｑ ・・・ 55
7023100 精神保健福祉の原理Ｉ 西野　克俊 １Ｑ ・・・ 57
7210001 専門演習ＩＡ 由水　伸 前期 ・・・ 59
7210002 専門演習ＩＡ 信濃　吉彦 前期 ・・・ 61
7210003 専門演習ＩＡ 河野　善文 前期 ・・・ 63
7210005 専門演習ＩＡ 鈴木　重政 前期 ・・・ 65
7210006 専門演習ＩＡ 岡島　徳昭 前期 ・・・ 67
7210008 専門演習ＩＡ 青山　浩之 前期 ・・・ 69
7210009 専門演習ＩＡ 石山　玄幸 前期 ・・・ 71
7210010 専門演習ＩＡ 天野　雅斗 前期 ・・・ 73
7210011 専門演習ＩＡ 石井　祐治 前期 ・・・ 75
7210012 専門演習ＩＡ 篠原　諒介 前期 ・・・ 77
7210013 専門演習ＩＡ 川津　大樹 前期 ・・・ 79
7210014 専門演習ＩＡ 小林　大州介 前期 ・・・ 81
7210062 専門演習ＩＡ 小早川　俊哉 前期 ・・・ 83
7210063 専門演習ＩＡ 上原　正希 前期 ・・・ 85
7210064 専門演習ＩＡ 藤根　収 前期 ・・・ 87
7210065 専門演習ＩＡ 松下　守邦 前期 ・・・ 89
7210068 専門演習ＩＡ 大島　康雄 前期 ・・・ 91
7210069 専門演習ＩＡ 吉江　幸子 前期 ・・・ 93
7210070 専門演習ＩＡ 西野　克俊 前期 ・・・ 95
7210071 専門演習ＩＡ 畠山　明子 前期 ・・・ 97
7210074 専門演習ＩＡ 堀川　厚志 前期 ・・・ 99
7210075 専門演習ＩＡ 宮﨑　剛司 前期 ・・・ 101
7210076 専門演習ＩＡ 蝦名　美穂 前期 ・・・ 103
7210077 専門演習ＩＡ 星野　秀治 前期 ・・・ 105
7305101 基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝＩ 林　春生 ２Ｑ ・・・ 107
7503000 建築設計演習Ｉ 佐藤善・向井・矢部 前期 ・・・ 109
7541000 建築表現Ｉ 安藤・君 前期 ・・・ 111
9101100 教職論 木村　浩紀 １Ｑ ・・・ 113
1103100 人間と哲学 尾崎　有紀 前期 ・・・ 115
1305000 統計学入門 伊藤　裕康 前期 ・・・ 117
1404000 法学 青山　浩之 ２Ｑ ・・・ 119
3102101 基礎英語Ⅱ (M-信濃) 信濃　吉彦 ２Ｑ ・・・ 121
3102102 基礎英語Ⅱ (M-岡島) 岡島　徳昭 ２Ｑ ・・・ 123
3102103 基礎英語Ⅱ (M-石田) 石田　暁子 ２Ｑ ・・・ 125
3102104 基礎英語Ⅱ (M-井坂) 井坂　肇 ２Ｑ ・・・ 127
3102105 基礎英語Ⅱ (SDA-西崎) 西崎　毅 ２Ｑ ・・・ 129
3102106 基礎英語Ⅱ (SDA-宮嶋) 宮嶋　達也 ２Ｑ ・・・ 131
3102107 基礎英語Ⅱ (SDA-横田) 横田　肇 ２Ｑ ・・・ 133
3102108 基礎英語Ⅱ (SDA-井坂) 井坂　肇 ２Ｑ ・・・ 135
5402000 簿記論 川津　大樹 ２Ｑ ・・・ 137
6101061 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ 竹内　美帆 前期 ・・・ 139
6101062 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ 後藤　啓倫 前期 ・・・ 141
6101063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ 戸佐　晃一 前期 ・・・ 143
6101064 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ 米野　宏 前期 ・・・ 145
6101065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ 佐藤　和裕 前期 ・・・ 147
6101068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ 三嶋　康嗣 前期 ・・・ 149

6101069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 井坂　肇 前期 ・・・ 151
6101071 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 阿部　一也 前期 ・・・ 153
6101072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 篠原　諒介 前期 ・・・ 155
6101074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 杉本　大輔 前期 ・・・ 157
6101075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 横田　肇 前期 ・・・ 159
6101076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 櫻井　美帆子 前期 ・・・ 161
6101077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 湯浅　頼佳 前期 ・・・ 163
6101078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 尾西　則昭 前期 ・・・ 165
6101079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 西崎　毅 前期 ・・・ 167
6101082 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 宮嶋　達也 前期 ・・・ 169
6101083 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 横山　哲也 前期 ・・・ 171
6101085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 向井　正伸 前期 ・・・ 173
6101086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 佐藤　恵利 前期 ・・・ 175
6101087 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 千葉　聡美 前期 ・・・ 177
6101089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 河田　一郎 前期 ・・・ 179
6101090 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 大島　康雄 前期 ・・・ 181
6101092 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 山本　一彦 前期 ・・・ 183
6101093 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 木村　浩紀 前期 ・・・ 185
6101094 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 薦田　勇智 前期 ・・・ 187
6101095 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 佐藤　雅一 前期 ・・・ 189
6101096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA 塩﨑　大輔 前期 ・・・ 191
7021100 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ 畠山　明子 ２Ｑ ・・・ 193
7714001 中小企業論 石山　玄幸 １Ｑ ・・・ 195
7718000 ｽﾎﾟｰﾂ心理学 佐藤　和裕 ２Ｑ ・・・ 197
7819000 ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅰ 竹内　美帆 前期 ・・・ 199
1113100 芸術へのｱﾌﾟﾛｰﾁ 梅田　力 前期 ・・・ 201
3103101 英語入門Ⅰ (M) 石田　暁子 前期 ・・・ 203
3103102 英語入門Ⅰ (S) 横田　肇 前期 ・・・ 205
3103103 英語入門Ⅰ (D・A) 宮嶋　達也 前期 ・・・ 207
3203101 中国語入門Ⅰ 孫　暢 ２Ｑ ・・・ 209
7302000 立体構成Ⅰ 梅田　力 前期 ・・・ 211
7305500 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅰ 佐藤　正人 前期 ・・・ 213
7557500 建築士のための基礎数学 横山　哲也 １Ｑ ・・・ 215
7717000 ｽﾎﾟｰﾂ行政学 三嶋　康嗣 １Ｑ ・・・ 217
5303100 建築材料 小笠原　健 ２Ｑ ・・・ 219
6103063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 戸佐　晃一 前期 ・・・ 221
6103064 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 米野　宏 前期 ・・・ 223
6103065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 佐藤　和裕 前期 ・・・ 225
6103068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 三嶋　康嗣 前期 ・・・ 227
6103069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 井坂　肇 前期 ・・・ 229
6103072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 篠原　諒介 前期 ・・・ 231
6103073 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 後藤　啓倫 前期 ・・・ 233
6103074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 杉本　大輔 前期 ・・・ 235
6103075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 横田　肇 前期 ・・・ 237
6103076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 櫻井　美帆子 前期 ・・・ 239
6103077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 湯浅　頼佳 前期 ・・・ 241
6103078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 尾西　則昭 前期 ・・・ 243
6103079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 西崎　毅 前期 ・・・ 245
6103081 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 小山　尋明 前期 ・・・ 247
6103082 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 宮嶋　達也 前期 ・・・ 249
6103083 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 横山　哲也 前期 ・・・ 251
6103085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 向井　正伸 前期 ・・・ 253
6103086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 佐藤　恵利 前期 ・・・ 255
6103089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 大島　康雄 前期 ・・・ 257
6103095 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 竹内　美帆 前期 ・・・ 259
6103096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 千葉　聡美 前期 ・・・ 261
6103097 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 山本　一彦 前期 ・・・ 263
6103099 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 河田　一郎 前期 ・・・ 265
6103100 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA 木村　浩紀 前期 ・・・ 267
6203001 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 山本・河野・青山・星野 ２Ｑ ・・・ 269
7004300 社会福祉の原理と政策Ⅰ 小早川　俊哉 ＩＱ ・・・ 271
7037000 発達心理学Ⅰ 蝦名　美穂 １Ｑ ・・・ 273
7702000 ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 鈴木　重政 前期 ・・・ 275
7710001 ｽﾎﾟｰﾂ社会学 戸佐　晃一 ２Ｑ ・・・ 277
7710002 ｽﾎﾟｰﾂ社会学 (SP) 戸佐　晃一 ２Ｑ ・・・ 279
9110000 社会科・公民科教育法Ⅰ 松下　守邦 前期 ・・・ 281
3401000 日本語Ⅰ 髙橋　真弥 ２Ｑ ・・・ 283
5203001 平面構成Ⅰ 北嶋　洋一 前期 ・・・ 285
5205000 色彩環境論 安田　祐造 前期 ・・・ 287
5208000 西洋美術史Ⅰ 竹内　美帆 前期 ・・・ 289
5306100 建築環境Ⅰ 佐々木　哲之 前期 ・・・ 291
7004400 社会福祉の原理と政策Ⅱ 小早川　俊哉 ２Ｑ ・・・ 293
7330000 漫画Ⅰ 三上　いずみ 前期 ・・・ 295
7506000 建築史 赤木　良子 １Ｑ ・・・ 297
1408000 環境学 西原　智昭 ２Ｑ ・・・ 299
5101101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職 (M) 櫻井　美帆子 １Ｑ ・・・ 301
5101102 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職 (S) 櫻井　美帆子 １Ｑ ・・・ 303
7041000 保育原理 吉江　幸子 １Ｑ ・・・ 305
7516000 建築計画Ⅰ 安藤　淳一 前期 ・・・ 307
7580000 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造 長森　正 前期 ・・・ 309

7721001 経営情報論 薦田　勇智 前期 ・・・ 311
7721002 経営情報論（SP）薦田　勇智 前期 ・・・ 313
7727000 ﾐｸﾛ経済学 河野　善文 前期 ・・・ 315
9107000 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ 塩﨑　大輔 前期 ・・・ 317
1204000 政治学入門 後藤　啓倫 前期 ・・・ 319
3403000 日本語Ⅲ 佐藤　恵利 ２Ｑ ・・・ 321
5109100 医学概論 宮﨑　剛司 前期 ・・・ 323
5312000 建築施工 小笠原　健 前期 ・・・ 325
7043000 保育者論 平山　拓也 ２Ｑ ・・・ 327
7305000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ（1年） 北嶋　洋一 １Ｑ ・・・ 329
7305001 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ（2年） 北嶋　洋一 １Ｑ ・・・ 331
7712000 日本経済史 小林　大州介 １Ｑ ・・・ 333
7733200 まちづくり論 松本　懿 ２Ｑ ・・・ 335
7825000 日本画 岡　惠子 前期 ・・・ 337
7828000 建築設備 君　興治 前期 ・・・ 339
5111100 高齢者福祉 櫻井　美帆子 前期 ・・・ 341
5207101 ﾃﾞｯｻﾝⅢ 西田　陽二 前期 ・・・ 343
5307000 建築構造力学Ⅰ 長森　正 前期 ・・・ 345
7280000 子どもの理解と援助 吉江　幸子 ２Ｑ ・・・ 347
7555000 CAD演習Ⅱ 君・向井 前期 ・・・ 349
7572000 北国の建築と住まい 安藤　淳一 １Ｑ ・・・ 351
7713000 西洋経済史 小林　大州介 ２Ｑ ・・・ 353
7826000 洋画 安田　祐造 前期 ・・・ 355
5114100 障害者福祉 畠山　明子 前期 ・・・ 357
5407001 ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論 天野　雅斗 前期 ・・・ 359
5407002 ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論（SP）天野　雅斗 前期 ・・・ 361
7531100 図学(建築図学を含む）赤木　良子 ２Ｑ ・・・ 363
1206100 日本国憲法（M）青山　浩之 前期 ・・・ 365
1206101 日本国憲法（S・D・A）後藤　啓倫 前期 ・・・ 367
5206001 ﾃﾞｯｻﾝⅠ 西田　陽二 前期 ・・・ 369
7288000 身体表現 尾西　則昭 ２Ｑ ・・・ 371
7566000 建築表現Ⅲ 安藤・君 前期 ・・・ 373
7786001 ｽﾎﾟｰﾂ文化論 細川　光法 ２Ｑ ・・・ 375
7786002 ｽﾎﾟｰﾂ文化論（SP）細川　光法 ２Ｑ ・・・ 377
1208000 日本事情 佐藤　恵利 １Ｑ ・・・ 379
7006101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ（M）櫻井　美帆子 １Ｑ ・・・ 381
7006102 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ（S）櫻井　美帆子 １Ｑ ・・・ 383
1205000 日本の歴史 及川　琢英 １Ｑ ・・・ 385
5309000 建築法規Ⅰ 佐藤　善太郎 前期 ・・・ 387
7007101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ（M）櫻井　美帆子 ２Ｑ ・・・ 389
7007102 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ（S）櫻井　美帆子 ２Ｑ ・・・ 391
7560000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論（1年） 北嶋　洋一 １Ｑ ・・・ 393
7560001 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論（2年） 北嶋　洋一 １Ｑ ・・・ 395
7746000 ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論 川津　大樹 前期 ・・・ 397
7008100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅰ 大島　康雄 前期 ・・・ 399
7055000 特別支援教育総論 堀川　厚志 １Ｑ ・・・ 401
7143002 人文地理学Ⅰ 塩﨑　大輔 前期 ・・・ 403
7331000 ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 田中　靖之 前期 ・・・ 405
7340000 ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 赤木　良子 前期 ・・・ 407
7520100 建築材料実験（1年） 長森　正 ２Ｑ ・・・ 409
7520101 建築材料実験（2年） 長森　正 ２Ｑ ・・・ 411
7775100 ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語 石田　暁子 １Ｑ ・・・ 413
7009100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅱ 大島　康雄 前期 ・・・ 415
7525001 都市計画 安藤　淳一 前期 ・・・ 417
7593002 職業指導（A）横山　哲也 前期 ・・・ 419
7787001 ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論 鈴木　重政 前期 ・・・ 421
7787002 ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論（SP）鈴木　重政 前期 ・・・ 423
7052000 生涯学習概論Ⅰ 藤根　収 前期 ・・・ 425
7318100 ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 北嶋　洋一 前期 ・・・ 427
7569000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅢ 伊藤　裕康 前期 ・・・ 429
7010100 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 上原　正希 前期 ・・・ 431
7510000 建築設計演習Ⅲ 向井　正伸 前期 ・・・ 433
7723000 商法 青山　浩之 前期 ・・・ 435
7752000 ｽﾎﾟｰﾂとﾍﾙｽｹｱ 佐藤和・三嶋 前期 ・・・ 437
7848000 公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 山本　一彦 ２Ｑ ・・・ 439
7061000 聴覚障害教育総論 室岡　弘明 ２Ｑ ・・・ 441
7186000 日本文化史 及川　琢英 ２Ｑ ・・・ 443
7318200 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 林　春生 前期 ・・・ 445
7575000 建築構造力学Ⅲ 小笠原　健 前期 ・・・ 447
9126000 保健体育科教育法Ⅰ 髙井　雅一 前期 ・・・ 449
7184000 社会思想史 後藤　啓倫 前期 ・・・ 451
7508000 住宅設計演習Ⅰ 君　興治 前期 ・・・ 453
5119100 刑事司法と福祉 西野　克俊 前期 ・・・ 455
7013100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅰ 小早川杉本櫻井大島星野 前期 ・・・ 457
7722000 原価計算論 鈴木　重政 前期 ・・・ 459
7821000 写真表現Ⅰ 林　春生 前期 ・・・ 461
7152000 ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論 蝦名　美穂 前期 ・・・ 463
9102001 教育原理（1年） 西崎　毅 １Ｑ ・・・ 465
9102002 教育原理（2年） 西崎　毅 １Ｑ ・・・ 467
5117000 福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営（S）大島　康雄 前期 ・・・ 469

5117001 福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営（M）大島　康雄 前期 ・・・ 471
7122000 臨床心理学 蝦名　美穂 前期 ・・・ 473
7586000 建築法規Ⅲ 佐藤　善太郎 前期 ・・・ 475
7733500 ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 五ノ井　壽一 １Ｑ ・・・ 477
7024100 精神保健福祉の原理Ⅱ（1年） 西野　克俊 ２Ｑ ・・・ 479
7024101 精神保健福祉の原理Ⅱ（2年） 西野　克俊 ２Ｑ ・・・ 481
7336000 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅠ 浩而　魅論 前期 ・・・ 483
7589000 建築の職能と倫理 君　興治 前期 ・・・ 485
9121001 教育方法論（M・D・A）藤根　収 前期 ・・・ 487
9121002 教育方法論（S）藤根　収 前期 ・・・ 489
7331100 ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 三上　いずみ 前期 ・・・ 491
7361000 技法・材料研究Ⅰ 安田　祐造 前期 ・・・ 493
7367001 漫画Ⅲ 五十嵐・鴨 前期 ・・・ 495
7735000 情報ｼｽﾃﾑ論 由水　伸 前期 ・・・ 497
7364000 彫刻Ⅰ 梅田　力 前期 ・・・ 499
7198000 ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ論 上原　正希 前期 ・・・ 501
7556000 応用物理 伊藤　裕康 前期 ・・・ 503
7829000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ製図 松岡　龍介 前期 ・・・ 505
7366001 工芸実習Ⅲ（楠本） 楠本　祐弘 前期 ・・・ 507
7366002 工芸実習Ⅲ（中島知） 中島　知之 前期 ・・・ 509
7366003 工芸実習Ⅲ（森迫） 森迫　暁夫 前期 ・・・ 511
7366004 工芸実習Ⅲ（島田） 島田　晶夫 前期 ・・・ 513
7366005 工芸実習Ⅲ（中島義） 中島　義博 前期 ・・・ 515
7603000 建築設備Ⅱ 君　興治 前期 ・・・ 517
5106000 心理学 吉澤　英里 ２Ｑ ・・・ 519
7278000 子ども家庭支援論 杉本　大輔 前期 ・・・ 521
7341000 ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 安藤　淳一 前期 ・・・ 523
7371000 造形論Ⅰ 松岡　龍介 前期 ・・・ 525
7379000 彫刻Ⅲ 国松　明日香 前期 ・・・ 527
7855000 ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅠ 阿部　裕樹 １Ｑ ・・・ 529
7481000 子どもの保健 宮﨑　剛司 前期 ・・・ 531
7483000 保育内容演習Ⅰ(健康) 宮﨑　剛司 前期 ・・・ 533
7542200 一級対策製図Ⅰ 君・向井 前期 ・・・ 535
7373000 東洋・日本美術史Ⅰ 苫名　真 １Ｑ ・・・ 537
7290000 音楽表現Ⅱ 小黒　万里子 １Ｑ ・・・ 539
7532200 一級建築士演習Ⅰ 伊藤裕・佐々木哲・君 前期 ・・・ 541
7786100 ｽﾎﾟｰﾂ原理 髙井　雅一 １Ｑ ・・・ 543
9127001 教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)（M・D・A） 蝦名　美穂 前期 ・・・ 545
9127002 教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)（S）蝦名　美穂 前期 ・・・ 547
7353000 映像表現Ⅰ 北嶋　洋一 前期 ・・・ 549
7532300 一級建築士演習Ⅱ 安藤・佐々木哲 前期 ・・・ 551
7597000 建築表現Ⅴ 安藤　淳一 前期 ・・・ 553
7733300 体育史 尾西　則昭 前期 ・・・ 555
9103000 教育史 西崎　毅 ２Ｑ ・・・ 557
7322200 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ 林　春生 前期 ・・・ 559
7792000 学校保健 天野　雅斗 前期 ・・・ 561
7485000 保育内容演習Ⅲ(環境) 佐藤　慶知 ２Ｑ ・・・ 563
7542400 二級対策製図Ⅰ 佐藤善・向井 前期 ・・・ 565
7797000 生理学 黒川　泰任 ２Ｑ ・・・ 567
7799000 衛生学及び公衆衛生学 宮﨑　剛司 前期 ・・・ 569
9109000 工業科教育法Ⅰ 横山　哲也 前期 ・・・ 571
7522200 二級建築士演習Ⅰ 佐藤善・向井 前期 ・・・ 573
7744000 経営分析論 石山　玄幸 前期 ・・・ 575
7744001 経営分析論（SP）石山　玄幸 前期 ・・・ 577
9111000 美術科教育法Ⅰ 竹内　美帆 前期 ・・・ 579
7337100 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅢ 佐藤　正人 前期 ・・・ 581
7522300 二級建築士演習Ⅱ 佐藤善・向井 前期 ・・・ 583
7598000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅤ 伊藤　裕康 前期 ・・・ 585
7768001 人的資源管理論 信濃　吉彦 前期 ・・・ 587
7768002 人的資源管理論（SP）信濃　吉彦 前期 ・・・ 589
7806000 精神保健Ⅱ 畠山　明子 前期 ・・・ 591
7789100 体つくり運動 是枝　亮 ２Ｑ ・・・ 593
7811000 社会学概論 松下　守邦 前期 ・・・ 595
7800100 器械運動 廣田　修平 １Ｑ ・・・ 597
9115000 工芸科教育法Ⅰ 三上　いずみ 前期 ・・・ 599
7604000 建築積算 佐々木　哲之 前期 ・・・ 601
7322600 ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 梅田　真紀 １Ｑ ・・・ 603
7521100 施工管理技士演習Ⅱ 小笠原　健 前期 ・・・ 605
7017100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅱ 小早川上原杉本櫻井大島星野 前期 ・・・ 607
7322700 ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 梅田　真紀 ２Ｑ ・・・ 609
7731000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論 猪尾　紀幸 ２Ｑ ・・・ 611
7795100 球技Ⅰ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ) 天野　雅斗 前期 ・・・ 613
7796100 球技Ⅱ(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ) 天野　雅斗 前期 ・・・ 615
7531000 図学 赤木　良子 ２Ｑ ・・・ 617
7802101 球技Ⅳ(ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ) 米野　宏 前期 ・・・ 619
7026100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅳ 西野　克俊 前期 ・・・ 621
7355000 ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 上坂　恒章 前期 ・・・ 623
7844000 ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ 上坂　恒章 １Ｑ ・・・ 625
7804100 球技Ⅵ(ｻｯｶｰ) 木島・小助川 前期 ・・・ 627
7845000 ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ 上坂　恒章 ２Ｑ ・・・ 629

7116000 精神保健福祉援助演習Ⅰ 畠山・西野 前期 ・・・ 631
7782200 地域情報論 猪尾 紀幸 １Ｑ ・・・ 633
7118000 精神保健福祉援助演習Ⅱ 畠山・西野 前期 ・・・ 635
7812000 ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ論 石山 玄幸 前期 ・・・ 637
7282000 ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習 上原 正希 前期 ・・・ 639
7279000 社会的養護Ⅰ 杉本 大輔 前期 ・・・ 641
7612000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅦ 佐藤 善太郎 前期 ・・・ 643
7486000 保育内容演習Ⅳ(言葉) 太田 俊一 ２Ｑ ・・・ 645
7487000 保育内容演習Ⅴ(表現) 吉江 幸子 ２Ｑ ・・・ 647
7132000 子どもの食と栄養 湯浅 頼佳 前期 ・・・ 649
7755000 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 由水 伸 前期 ・・・ 651
7137000 障害児保育Ⅰ 坂上 俊樹 １Ｑ ・・・ 653
7298000 子育て支援 杉本 大輔 前期 ・・・ 655
7146000 病弱教育 千葉 聡美 前期 ・・・ 657
7754000 国際経営論 岡島 徳昭 前期 ・・・ 659
7158000 発達障害等教育総論 堀川 厚志 前期 ・・・ 661
7761000 産業社会論 山本 一彦 前期 ・・・ 663
7309000 工芸実習Ⅰ 中島義・梅田力・三上 前期 ・・・ 665
7015100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅲ 小早川上原杉本櫻井美大島畠山 前期 ・・・ 667
7056000 肢体不自由者の心理・生理・病理 坂上 俊樹 ２Ｑ ・・・ 669
7175100 精神医学と精神医療Ⅰ 伊東 隆雄 前期 ・・・ 671
7166000 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 畠山・西野 前期 ・・・ 673

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 （科目ナンバリング：MAT071046 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が教養力を身につけるために，「自然と環境」を幅広く学ぶための科目で、 大学で必要となる数学の基礎知識をしっかり身に付け、次に、高校の数学から大学の数学への橋渡しができる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2024年度）
全学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
全学科のDP1、DP8に対応する。（2021年度）

到達目標

様々な分野で活躍する人材に求められる課題探求能力のうちの，基本的な数学知識の修得と思考能力の向上を図ることができる。さらに，それらのことを通して，数学において重要なのは，答えではなく，計算過程（思考過程の説明）であることを理解し，習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
数の計算から始まり，分数・因数分解・平方根・無理式・一次方程式・連立方程式・二次方程式・高次方程式・一次関数・二次関数・三角関数・集合・順列と組み合わせ・確率などについて，豊富な練習問題をこなすことによって，数学を解くことの実感と意味をつかむ。「SDG9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

最近は，学生が積極的に参加する形での授業が要望されている。そこで，本講義では，教科書に沿って板書により授業を進める中で，学生自らが習熟度の向上を実現させるために，積極的に質問や要望を述べることが求められる。また、学生が課題を提出した後に板書にて解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・課題等の提出方法については授業中に支持するので，授業を欠席することのないよう留意すること。
・講義に対して積極的に取り組むこと。
・解らないところは積極的に質問すること。
・授業で求めている以上の習熟度の向上を望む場合には，申し出ること。適切に対応します。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績は，１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	数学の基礎知識が完全に修得できた。	数学の基礎知識が修得できた。	数学の基礎知識がほぼ修得できた。	数学の基礎知識が大体修得できた。	数学の基礎知識が修得できなかった。
思考能力の向上	数学の思考能力が完全に向上した。	数学の思考能力が向上した。	数学の思考能力がほぼ向上した。	数学の思考能力が大体向上した。	数学の思考能力が向上しなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	授業中に不明な点を全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を解決し思考過程の習慣化が大体できた。	思考過程の習慣化ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 （科目ナンバリング：MAT071046 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学新入生のための数学入門（増補版）』	石村　園子	共立出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス。シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明及び基礎学力試験	基礎学力試験のための準備をする（９０分）	基礎学力試験問題を再度解く（９０分）
2	整数と計算	数の分類・性質と四則計算の基本を理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
3	分数・小数・繁分数	教科書の問題を丁寧に解く練習をする（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
4	展開・因数分解	展開と因数分解における公式を覚え，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
5	平方根	平方根の性質と計算方法を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
6	分数式・無理式の計算	教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
7	一次方程式	一次方程式の解き方とその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
8	連立方程式	連立方程式の解き方とその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
9	二次方程式・高次方程式	二次方程式と高次方程式の解き方およびその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
10	一次関数とグラフ	一次関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
11	二次関数	二次関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
12	三角関数	三角関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
13	集合	集合の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
14	順列と組み合わせ	順列と組み合わせの違いを理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
15	確率及び授業改善アンケートの実施	確率の意味を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
16	６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。（９０分）	総理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M）（科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田勇智	研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Microsoft Word使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：SOF061042 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水　伸（経営学科・教授）、薦田勇智		研究室等所在	1号館2階（佐藤）・1号館2階（由水）・2号館7階（薦田）	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Microsoft Officeの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成ついて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇Wordによる文書作成 ・チラシの作成	チラシに書かれる文章、構造等を調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
15	●PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
16	●PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（S）（科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎　剛司（社会情報学科・専任講師）・薦田勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	1号館2階（宮崎）・2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Microsoft Word使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（S）（科目ナンバリング：S0F061042 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎　剛司（社会情報学科・専任講師）・薦田勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	1号館2階（宮崎）・2号館7階（薦田）		
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows11/Office+Access 2021対応版』』	矢野　文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Microsoft Officeの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成１ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成2ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇Wordによる文書作成 ・チラシの作成	どんなチラシがあるか調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
15	●PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
16	●PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（D）（科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（佐藤）、2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Microsoft Word使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	０%	50%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（D）（科目ナンバリング：S0F061042 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（佐藤）、2号館7階（薦田）		
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Microsoft Officeの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成１ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成2ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇Wordによる文書作成 ・チラシの作成	どんなチラシがあるか調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
15	●PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
16	●PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（A）（科目ナンバリング：S0F061042）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階（佐藤）、2号館7階（薦田）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
・ＰＣによる文書作成の方法について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
・PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨く。
・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
・Microsoft PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に分かりやすく、かつ効果的に説明できる。

授業全体の内容と概要

・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
・実習編前半では、Microsoft Word使った、文書処理（定型文書やレポートの作成等）を学ぶ。
・実習編後半では、Microsoft PowerPointを使った、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、特別な理由がない限りそれ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	０%	50%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Word を使った文書作成	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅めだが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅰ（A）（科目ナンバリング：S0F061042 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階（佐藤）、2号館7階（薦田）	
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、学内のネットワーク、アカウントとパスワード等の説明	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇ 大学生に必要なネットワーク上のマナー、セキュリティの知識 ◇ Microsoft Officeの全般的な設定	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・フォントと文字サイズ、文章と段落	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇Wordの基本操作・書式設定（基本編） ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成１ 単純な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成１ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成２ 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成2ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	画像や図形の挿入方法について調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇Wordによる文書作成 ・表作成 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	表やヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇Wordによる文書作成 ・複雑な表組	表について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇Wordによる文書作成 ・チラシの作成	どんなチラシがあるか調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇Wordまとめ	これまで学んだWordの内容について復習する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	●PowerPoint ・基礎課題を通じてPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本を理解する2	PowerPointの基本的な使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
14	●PowerPoint ・各自自由にテーマ決めをする ・テーマに沿った内容のプレゼンテーション資料を	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
15	●PowerPoint ・作成の続き	授業中に終わらなかった作業を行う（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
16	●PowerPoint ・PowerPoint資料の完成、動画の提出 ・授業評価改善アンケート	授業中に終わらなかった作業を行い、動画を撮影する（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-信濃）（科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語に関して、その構造の理解を目指す。具体的には翻訳アプリが身近にない状態でも基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎的文法事項の理解）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

「辞書さえあれば英語は大丈夫！」といった自信を持つことができる。

授業全体の内容と概要

品詞（特に動詞と名詞）を中心とした言語構造（５文型）と様々な場面における基礎表現を身につける。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行う。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。平常点とは出席・授業参加度・授業記録のことを指す。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英語に関するレポート課題を複数回実施し採用する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。特に、1回目の授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。１２回以上の出席を基準とし１０回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には，加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成をみた。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定しコミュニケーションをとる土台が出来つつあった。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べだし辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台つくりの努力が見られた。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もできない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けていた。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『A New Approach to Understanding English Grammar』	藤田　直也	朝日出版社	２０１０	9784255154794	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『よくわかる英語の基本』基本文型・文と文の結びつき』	澤井　康佑　著	株式会社　開　拓社	２０１５	9784758915304	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 英語の構造に関する基本的な考え方 授業改善アンケート結果に関する説明	専用のノートを準備し Unit-0 を読み込む（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	英語と日本語の違い	テキストの Unit-1～3 を読み込む　（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	英語の基本文型①	テキストのUnit-4 ～5　を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	英語の基本文型②	テキストのUnit-6～7 を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	英語の動詞とその使い方①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	英語の動詞とその使い方②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	品詞に関するイメージ①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	品詞に関するイメージ②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	英文の構造を理解する①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	英文の構造を理解する②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	文型確認小テスト	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	時制①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	時制②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ② テストリビュー 授業改善アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分）	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（６０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習を通し、英語運用能力の向上を図る。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の４技能向上を目指し、学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席重視、テキスト・辞書持参

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「英検準２級　合格への道」』	坂部俊行，岡島徳昭　他	南雲堂	２０１１	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関する ガイダンス。（シラバスの説明） Practice Test	シラバスを読むこと。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
2	Lesson １　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
3	Lesson １　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
4	Lesson ２　語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
5	Lesson ２　語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
6	Lesson ３　語句空所補充 読解の基礎練習　Robots that Appear	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
7	Lesson ３　語句空所補充 読解の基礎練習　Robots that Appear	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
8	中間テスト	試験の準備学習。 （４５分）	試験の復習。 （４５分）
9	Lesson ４　語句空所補充 読解の基礎練習　Lighthouse　Homes	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
10	Lesson ４　語句空所補充 読解の基礎練習　Lighthouse　Homes	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
11	Lesson ５　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
12	Lesson ５　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
13	Lesson ６　語句空所補充 読解の基礎練習　Virtual Reality	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
14	Lesson ６　語句空所補充 読解の基礎練習　Virtual Reality	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
15	全体復習　Simulation Test（P７４-５）	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施	指示されたリーディングアサイメントと単語学習。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

８身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

最重要事項を板書することによって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意すること。同じ名称のクラスが複数あるので、自分のクラスを間違えないよう、確認の上、履修登録すること。教科書も異なるので購入時に注意は必要。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋　哲徳　他	朝日出版社	２０１７	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 be動詞の種類・意味・否定文・疑問文	テキストp.2～5予習(４５分)	授業内容復習 (４５分)
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.6 予習 (４５分)	授業内容復習 (４５分)
3	一般動詞の種類・語形変化・否定文・疑問文	テキストp.8～11 予習（４５分）	授業内容復習 (４５分)
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.12 予習 (４５分)	授業内容復習 (４５分)
5	疑問詞を用いた疑問文の作り方	テキストp.14～16 予習(４５分)	授業内容復習 (４５分)
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.17予習 （４５分）	授業内容復習 (４５分)
7	進行形の基本・否定文・疑問文	テキストp.19～21 予習(４５分)	授業内容復習 (４５分)
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.22　予習 (４５分)	授業内容復習 (４５分)
9	未来形の表現・否定文・疑問文	テキストp.24～26 予習(４５分)	授業内容復習 （４５分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.27 予習 (４５分)	授業内容復習 (４５分)
11	完了形の種類・基本・用法・否定文・疑問文	テキストp.29～34 予習(４５分)	授業内容復習 (４５分)
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.35 予習 (４５分)	授業内容復習 (４５分)
13	基本的な前置詞と代名詞の格変化	テキストp.36～39 予習(４５分)	授業内容復習 (４５分)
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.40 予習 (４５分)	授業内容復習 (４５分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (４５分)	期末試験準備 (４５分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分）・解説（３０分）	期末試験準備 (４５分)	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-井坂）（科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で７５点以上の得点を上げた。	定期試験で６０点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（M-井坂）（科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『Live Escalate Book 1: Base Camp』』	角山　照彦 / LiveABC editors 共著	成美堂	２０２１	9784791972210	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	Unit１ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	Unit１ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Unit２ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	Unit２ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Unit３ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit３の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	Unit３ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit３の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Unit４ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit４の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	Unit４ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit４の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Unit５ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit５の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	Unit５ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit５の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Unit６ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit６の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	Unit６ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit６の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Review１　テスト	Review１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	Review１　解説	Review１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（SDA-西 （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

英語の5つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG.4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、教材提示装置等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど対策を講じること。
○授業資料は電子媒体による配信を基本とするので、個人のフォルダを作成するなど、適切に管理し，学修に役立てること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用は禁止する。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要な最低出席回数は11回。
◎成績評価は、定期試験の点数（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（４０％）を基に総合的に判断して行う。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し，評価に活用する。
○講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９割以上の得点を上げた。	定期試験ｱ８割以上の得点を上げた。	定期試験で７割以上の得点を上げた。	定期試験で６割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が６割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては求められるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（SDA-西 （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法から学ぶ基本英語Polish Up Your English』	登美　博之 / Bill Benfield	成美堂	2015	9784791900701	
2	『リスニング教材は別途購入案内する。』					
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 文の構造（動詞と５文型） 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考えておくこと。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	文型（S+V）、文型（S+V+C）、文型（S+V+O） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	文型と修飾語句（形容詞、副詞） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	文型（S+V+O+O）、文型（S+V+O+C） リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	５文型の総復習 リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	文の要素と名詞相当語・句・節 リスニング演習①	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された 事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	文の要素と名詞相当語・句・節 リスニング演習②	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	文の要素と名詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表①	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	文の要素と形容詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表②	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	文の要素と形容詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表③	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	文の要素と形容詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表④	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	文の要素と副詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表⑤	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	文の要素と副詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表⑥	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（９０分）
14	文の要素と副詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表⑦	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	文の構造の総復習 リスニング演習・英語による発表⑧ 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う。	前回までの学修内容を復習すること、（４５分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（SDA-宮 （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（２）（４）に対応する。（２０２３・２２年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP3、DP8に対応する。（２０２１年度）

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意識する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べることができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ，スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、４技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造（挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる）を理解し，表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。
テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。
授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。
テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。
授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。
授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。
授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	１０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-宮 （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Grammar 5sentence patterns Ⅰ(5文型)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
3	Grammar 5sentence patternsⅡ(5文型)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
4	Unit 1 Speaking About Yourself	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
5	Unit 2 What Do You Do?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
6	Unit 3 What Does He Look Like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
7	Review Units 1-3	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
8	Unit 4 Where Are You From?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
9	Grammar Gerunds and Infinitives Ⅰ(動名詞＆不定詞)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
10	Grammar Gerunds and InfinitivesⅡ(動名詞＆不定詞)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
11	中間テスト	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
12	Unit 5 Likes and Dislikes	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
13	Unit6 What ’ s She Like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
14	Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
16	Final Exam.　試験終了後，授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。（４５分）	授業で説明を受けた解説を復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-横　（科目ナンバリング：ENL041029　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を身につける。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションの基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

学生が英語の基本的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎の理解と習得ができている。また、平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。さらに、平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、所定のテキストに基づき、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて、関連する読解、作文、会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、所定のテキストに即し、パワーポイントと板書等により各項目の全体的な説明（一斉）を行う。その後、個人・グループワークによる練習問題の解答を行う。解答の終了後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎的な理解が完全にでき、十分な応用力がついた。	英文法の基礎的な理解がほぼできており、いくらか応用できる力がついた。	英文法の基礎的な理解が大体できた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が正確・完全に読解でき、十分に応用することができた。	テキストの英文がほぼ理解でき、いくらか応用できた。	テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分の理解ができなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅰ（SDA-横　（科目ナンバリング：ENL041029　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Simply Grammar 改訂版』	K.Saito	南雲堂	２０１７	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読んでおく。（４５分）	アルファベットの基礎について調べる。（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）発音の基礎、単語の成り立ち、アルファベットの基礎	アルファベットの基礎について調べる（４５分）	アルファベットの基礎について調べる（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）be動詞の使い方	教科書Unit１説明文の予習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）be動詞の使い方	Unit１練習問題の予習（４５分）	Unit１練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）be動詞の使い方	Unit１練習問題の予習（４５分）	Unit１練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）一般動詞の使い方	Unit２説明文の予習（４５分）	Unit２説明文の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）一般動詞の使い方	Unit２練習問題の予習（４５分）	Unit２練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）一般動詞の使い方	Unit２練習問題の予習（４５分）	Unit２練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）一般動詞の使い方	Unit２練習問題の予習（４５分）	Unit２練習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）動詞の使い方の注意すべき点	Unit１・２全体の確認（４５分）	Unit１・２全体の確認（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）動詞の使い方の注意すべき点	Unit１・２全体の確認(４５分)	Unit１・２全体の確認（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）英文の構造の注意すべき点	Unit１・２全体の確認（４５分）	Unit１・２全体の確認（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）英文の構造の注意すべき点	j配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）英文の構造の注意すべき点	配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
15	総復習（既習事項の復習）	配布資料の予習（４５分）	配布資料の復習（４５分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit１・２全体、配布資料の確認（４５分）	Unit１・２全体、配布資料の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（SDA-井 （科目ナンバリング：ENL041029 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。
文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で７５点以上の得点を上げた。	定期試験で６０点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ｉ（SDA-井　（科目ナンバリング：ENL041029　）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『Live Escalate Book 1: Base Camp』』	角山　照彦 / LiveABC editors 共著	成美堂	２０２１	9784791972210	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （４５分）
2	Unit１ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	Unit１ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Unit２ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	Unit２ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Unit３ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit３の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	Unit３ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit３の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Unit４ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit４の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	Unit４ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit４の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Unit５ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit５の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	Unit５ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit５の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Unit６ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit６の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	Unit６ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit６の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Review１　テスト	Review１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	Review１　解説	Review１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：GER051034 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光・留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅰ（M） （科目ナンバリング：GER051034 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『気分はドイツ(改訂版）』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	２０２１	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
2	［ドイツ語の発音について］　発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
3	［ドイツ語の動詞について］　動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
4	［不規則変化動詞について］　不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
5	［SEINとHABENについて］　SEINとHABENについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
6	［名詞と冠詞について］　名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
7	［名詞の複数形について］　ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
8	［人称代名詞について］　人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
9	［定冠詞類について］　ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
10	［不定冠詞類について］　ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
11	［前置詞について］　ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
12	［３・４格支配の前置詞について］　３・４格支配の前置詞について学び、３格と４格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
13	［接続詞について］　ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
14	［ヒアリング練習］　ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
15	［前期学修内容の復習］前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
16	［定期試験および解説］　６０分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	試験に向け全体を復習すること。（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-A）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	阿部　一也（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者：　阿部　一也　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリェーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-A）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	阿部　一也（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 阿部　一也 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-B）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリェーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-B）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-C）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）		CAP制	実技	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（M-C）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）		CAP制	実技	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-A）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動をとおして社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
２アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。
３携帯電話の電源は必ず切る。
４貴重品・多額の現金は持参しない。
５爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	４０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果すことができ，とても意欲的に取り組み，且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をはたさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール，審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-A）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	２０１９	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-B）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動をとおして社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
２アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。
３携帯電話の電源は必ず切る。
４貴重品・多額の現金は持参しない。
５爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
＊健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	４０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果すことができ，とても意欲的に取り組み，且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割をはたさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解（ルール，審判，運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定的マスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（S-B） （科目ナンバリング：HSS031027 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	２０１９	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定①	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定②	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球，バドミントン，バレーボール，ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール，フットサル，アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ニュースポーツ（スポレック，キンボール，ボッチャ，モルック）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	護身術	護身術について確認しておく（４５分）	護身術について理解しておく（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（D） （科目ナンバリング：HSS031027 ）				
授業担当者（所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石井　祐治 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため，健康と体力を保持増進するとともに，身体活動を通して社会性や協調性を養い，高齢化社会を迎えた現在，将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ1、DP2、DP3に対応する。(2024年度)

到達目標

地域や職域に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し，競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び，ゲーム中心に授業を進める。 SDG4．「質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計，指輪，ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は，申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（D）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石井　祐治 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく（４５分）	身体のケアーを怠らない（４５分）
4	ボールゲーム／ネット型（卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
5	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
6	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
7	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
8	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
9	ボールゲーム／ネット型（卓球、バトミントン、バレーボール、ミニバレー）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
10	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）基礎動作と審判法，ゲーム運営	種目の特性について理解しておく（４５分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（４５分）
11	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ボールゲーム／ゴール型（バスケットボール、フットサル、アルティメット）ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく（４５分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（A）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	小山　尋明（建築学科・准教授）・三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者：　小山　尋明　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP2、DP5に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のDP１、DP2、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

地域や職域におけるスポーツ・レクリエーション活動に実践できるよう、競技の特性やルールを学び理解できる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

1　ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。2　アクセサリー（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。3　携帯電話の電源は必ず切る。4　貴重品・多額の現金は持参しない。5　爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	４０%	５０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ，とても意欲的に取り組み，かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ，意欲的に取り組み，安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ，普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり，意欲もない時があり安全に注意を配っていなかった。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく，安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ充分にできていた。	各種目の運動技能が７割程度できた。	各種目の運動技能が５割程度できた。	各種目の運動技能が３割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解(ルール，審判，運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールほとんどにマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について部分的な理解に留まっていた。	ルールをまったくマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合（A）	（科目ナンバリング：HSS031027 ）			
授業担当者（所属・職名）	小山　尋明（建築学科・准教授）・三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者：　小山　尋明　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス(シラバス説明)（小山・三嶋）	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	体力測定（小山・三嶋）	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアーを怠らない（45分）
3	体力測定（小山・三嶋）	健康に留意し体調を整えておく（45分）	身体のケアーを怠らない（45分）
4	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)基礎動作と審判法，ゲーム運営（小山・三嶋）	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
5	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
6	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
7	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
8	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)基礎動作と審判法，ゲーム運営（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
9	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)基礎動作と審判法，ゲーム運営（小山・三嶋）	種目の特性について理解しておく（45分）	次回の授業の為にルールを理解しておく（45分）
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)（小山・三嶋）	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施（小山）	種目の特性やルールについて理解しておく（45分）	生涯スポーツとしての基礎を理解する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 （科目ナンバリング：APT311001 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　向井正伸（建築学科・講師）		研究室等所在	２号館３階　２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実技形式の授業であり，建築製図に必要な道具とその使い方，手書きによる製図法の基本から木造建築の基図面作成の手順や表現内容を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

図面作成の基礎的能力，木造建築の基本図面の理解と作図方法ならびに期限内課題提出のための基本的自己管理能力を習得する。

授業全体の内容と概要

課題内容は，毎回授業時間内に完成できる程度のものとしている。ただし時間内に完成できない場合は，演習室で引き続き作業を進めるか自宅での作業とし，次回授業開始時までに完成させること。
「SDGs11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

建築製図の基礎能力を身につけるためのカリキュラムであるため，毎回課題のテーマがありその内容に従って授業が進められる。課題内容は配布資料と、当日板書した情報をもとに詳細な説明をおこなう。作成した図面については，提出ごとにチェックをし，不備・誤りの部分についての指摘をおこない，手直し後に再提出する。なお，指導教員がSAの学生とともに，一人ひとりの理解度や進捗状況を確認しながら授業を進める。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であることと，建築製図能力養成の最も根幹となる授業であるため，欠席せず毎回課題の説明を聞き期限内に課題提出ができるよう努めなければならない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること（最低出席回数２２回以上），積極的に基礎技術習得に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図道具を自己で事前に準備し，それを十分に使いこなせる。	道具をすべて事前に準備し，十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し，十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し，使いこなすことができた。	道具をすべて準備し，おおむね使いこなすことができた。	道具を準備できない，使いこなすことができなかった。
木造建築を理解した上で正確な図面を作成する。	すべての点で正確な図面作成ができ，自分で誤りを見つけることができた。	すべての点で正確な図面作成ができた。	正確な図面を作成できた。	おおむね図面は作成できた。	理解不足のため，図面を作成することができなかった。
製図課題をスケジュールに則り提出期限内に作成・完成する。	すべての課題を余裕をもって期限前に作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	ほとんどの課題を期限内に作成完成できた。	おおむね期限内に課題を作成完成できた。	すべての課題が期限内に作成完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 （科目ナンバリング：APT311001 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　向井正伸（建築学科・講師）	研究室等所在	２号館３階　２号館７階		
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での設計業務経験を図面作成能力育成に活かすことができる		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『コンパクト設計資料集成〈住居〉』	日本建築学会	丸善	2006	4621076884	なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業の進め方，授業スケジュールの解説	シラバスの事前確認（90分）	授業を受ける際の注意事項と製図道具の確認（90分）
2	ガイダンス（製図道具及び製図台の解説）	シラバスの確認（90分）	際の注意事項と製図道具の確認（90分）
3	線の練習１－１　実線・破線の種類	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
4	線の練習１－２　実線・破線の描き分け	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
5	線の練習２－１　線の太さと強さの意味	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
6	線の練習２－２　線の太さと強さの描き分け	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
7	建築記号１－１（文字・数字の表記方法）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
8	建築記号１－２（階段の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
9	建築記号２－１（壁・開口部の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
10	建築記号２－２（平面図の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
11	木造住宅模写１－１（配置図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
12	木造住宅模写１－２（配置図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
13	木造住宅模写２－１（平面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
14	木造住宅模写２－２（平面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
15	木造住宅模写３－１（断面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
16	木造住宅模写３－２（断面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	木造住宅模写４－１（立面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
18	木造住宅模写４－２（立面図）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
19	木造住宅模写５－１（１階平面図　柱の割り付け）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
20	木造住宅模写５－２（１階平面図　詳細表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
21	木造住宅模写５－３（１階平面図　外構の表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
22	木造住宅模写６－１（２階平面図　柱の割り付け）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
23	木造住宅模写６－２（２階平面図　詳細表現）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
24	木造住宅模写７－１（エスキース図面の解説）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
25	木造住宅模写７－２（柱の割付の考え方）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
26	木造住宅模写７－３（建具の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
27	木造住宅模写７－４（設備の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
28	木造住宅模写７－５（家具の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
29	木造住宅模写７－６（外構の表記）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
30	木造住宅模写７－７（図面の確認）	教科書の確認（90分）	課題内容と作業内容の再確認（90分）
31	講評会１（提出課題の講評と解説）	制作課題の提出状況の確認（90分）	建築図面の理解の再確認（90分）
32	講評会２（提出課題の講評と解説） 授業アンケートの実施	制作課題の提出状況の確認（90分）	建築図面の理解の再確認と振返り（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論	（科目ナンバリング：MAN411001，MAN511001　　）			
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経営学の全体的な流れを中心に、本学科の各分野で必要となる基礎的な内容を理解し、伝統的な理論から現在一般化している理論等を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。

到達目標

実社会で必要となる考え方（意思決定等）に必要とされる基本的な理論・事柄を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

板書された内容や配布物の要点はもちろんのこと、専門用語とその定義、重要人物名とその功績等は必ずノート（または専用データベース）にまとめることを日々のルーティンとする。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し経営学の全体的な内容を俯瞰的に学習する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。日々の連絡等にはMSチームズを有効的に活用すること。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，テキスト・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない事柄は調べて書き残す癖をつけること。ノート提出は平常点の最大７５％に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	２０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業や課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	授業や課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	授業や課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	授業や課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	学習活動への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における専門用語や理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する努力が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 （科目ナンバリング：MAN411001，MAN511001 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初学者のための経営学概論』	前田　卓雄　他	株式会社　同友館	2021	9784496055515	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンガ経営戦略全史』	三谷　宏治	株式会社日経BP	２０２３	9784296116522	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業評価アンケートの結果に対する説明 企業論	専用のノートを準備する（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
2	経営学の重鎮①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
3	経営学の重鎮②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
4	経営学の重鎮③	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
5	経営組織	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
6	人的資源管理	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
7	モチベーション論	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
8	リーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
9	経営戦略①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
10	経営戦略②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
11	種々の分析手法①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
12	種々の分析手法②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
13	種々の分析手法③	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
14	種々の分析手法④	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック 企業の社会的責任 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験（６０分）及び総括（３０分）	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 （科目ナンバリング：MAN412003，MAN512003 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。				

概要

履修目標

経営組織とは、何なのか。どういった構造や活動をするのか。その基礎を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

２年次以降の専門分野の活動に必要な経営の基本となる用語及び組織メカニズム（特に意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメント）が理解できている。

授業全体の内容と概要

経営活動の基本要素であるに意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメントに関する基本知識を理解・習得する。
SDG４．「質の高い教育をみんなに」のテストケースとして授業中の発言を重視し、ハンドアウトやプリントを多用する。

授業の方法

座学においてPCによるプロジェクタ投影と配布資料による講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。教科書に関する事前学習は当たり前のことで予習のページを指定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視し、20分以上の遅刻および１５分以上の途中退出は欠席扱いとする。授業中の私語、居眠り、携帯・スマートホン利用は厳禁。これを破った場合は欠席扱いとする。また、本科目は座席を指定する。板書の撮影は許可するが次回の授業までに必ずノートに転記すること。加えて、平素の学習状況を確認するためノートチェックを行う。10回以上の出席がない学生は評価の対象としない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので必ず相談して欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回（厳守）。12回以上の出席を標準とし、これに満たない場合は平常点の加点を失う。教科書を持参しない学生に関しては評価対象としない。本科目は後期科目なので２回目以降の授業で教科書未持参の学生には履修中止を勧告する。よって、教科書未購入の学生の履修は、これを認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	様々な組織形態、組織デザインを完全に理解し、事例に対応した理想的な組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを十分に理解し、事例に対応した新たな組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解し、事例の組織形態を理解できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していなかった。
思考力・判断力・表現力	モチベーション理論を完全に理解し、事例に対応した自らのモチベーション論を展開できた。	モチベーション理論を十分に理解し、事例に対応したモチベーションの在り方を理解できた。	モチベーション理論を理解し、事例のモチベーションの形態を理解できた。	モチベーション理論を理解していた。	モチベーション理論を理解していなかった。
主体性	リーダーシップを完全に理解し、自らもリーダーシップを発揮し様々な意見を提案できた。	リーダーシップを十分に理解し、事例に対応したリーダーシップ論を理解できあた。	リーダーシップを理解し、リーダーシップの目的を理解できた。	リーダーシップを理解していた。	リーダーシップを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 （科目ナンバリング：MAN412003，MAN512003 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経営組織入門』	上林憲雄・庭本佳子	文眞堂	2020	9784830950698	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
2	経営組織とは	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
3	組織形態と活動	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
4	バーナードの組織論	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
5	組織の基本原理	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
6	意思決定	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
7	「やる気」を高める・・・モチベーション理論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
8	「やる気」を高める・・・モチベーション理論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
9	リーダーシップ論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
10	リーダーシップ論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
11	チームワークとチームマネジメント①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
12	チームワークとチームマネジメント②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
13	イノベーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
14	ネットワーク　　ノートチェック指示	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
15	総括レビュー 授業改善アンケートの実施	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	試験に向け全体を復習する。（９０分）
16	定期試験及び解説 （６０分の試験終了後、３０分で総括を行う）	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受け講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（M） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・ 青山　浩之	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（青		
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学生として、自分で考える・詳しく調べる・自分の意見を表現するなどの基礎力を身に付けるために、講義と演習をまじえて大学生にふさわしい学び方の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

日々の学習において未来につながるエビデンスやデータベースを構築し、知的根幹を築いてもらう。
大学の授業のなかで以下の目標にむけた取り組みができる。
・板書の写しではない自分なりのノートが作れる。
・資料を読み、必要な文献情報と要点をノートに整理できる。
・構成と書式の整のったレポートを作成できる。
・大学で何をどのように学ぶかが理解できる。

授業全体の内容と概要

授業内容は、日々のノートテイキング、授業のポイント作成、調べ方講座、各種文型等の読み方・書き方、レポートに関してなど「聞く」「調べる」「読む」「書く」「まとめる」を学習し自分のものとしてもらう。特にレポートの書き方を通して客観表現の重要性を理解し大学生としての自覚を持ってもらう。さらに、研究倫理およびコンプライアンスについて学ぶ
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教員が担当分野に関してオムニバス形式で授業を進める。本科目は出席を重視する。欠席可能回数は三回までとし、これを超えた場合は単位認定の対象としない。事後学習においては、教員が各回の課題のテーマを指定する。定期試験は実施せず、最終的に各自でレポートを作成して提出する。また、教員によってはプリントを配布する場合があるが、各回の授業内容を各自がノートにまとめる形で授業をすすめる。特定の教科書を指定しないため、事後学習を行うさいには、各自が作成した授業ノートが必要となる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１３回以上の出席を以ってグレーディングの対象とする。科目の性格上、１年生での履修完了が求められる。不合格になった学生は１年生に間に必ず再履修すること。原則２年次以降の再履修を認めない。
本講座は定期試験を実施しないため、各回の演習課題（平常点）ならびに最終レポートの評価で単位認定を行う。欠席があると単位の取得は難しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１３回以上
また、最終レポート提出を１回課し評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	０%	０%	６０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	レポートで90点以上の得点を挙げた。	レポートで80点以上の得点を挙げた。	レポートで70点以上の得点を挙げた。	レポートで60点以上の得点を挙げた。	レポートで60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を　確立するための努力をしている。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての　努力が見られる。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるがなかなか定着していない。	日々の授業・レポートへの取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が見受けられない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に対する前向きな姿勢が見受けられない。
レポートの構成と書式	レポートの書式と構成を理解し、本学経営学科が求める内容を十分に理解しいつでも実施できる状態にある。	レポートの書式と構成をほぼ理解し、本学経営学科が求める内容を理解し実施できる状態にある。	レポートの書式と構成をおおむね理解し、今後の活動に耐え得るレベルには到達できている。	レポートの書式と構成に関して最低限必要な内容を理解するにとどまっており、実施に際しては細かな支持が必要と思われる。	レポートの書式と構成を理解できなかったため今後の活動に支障をきたすレベルにとどまった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（M）	（科目ナンバリング：BAS001001 ）			
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・　青山　浩之	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（青		
単位数	1 （単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションとシラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明（信濃他全担当教員）、各学科のディプロマ・ポリシー（DP）説明等（河野	本授業の専用のノートを1冊用意して、DP・シラバスの要点をまとめる（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
2	学生主体の学び、履修ルール、学修成果等（学務課）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
3	GPS-Academic実施と社会人基礎力等（ＩＲ企画課）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
4	話を聞き、ノートを取る１：大学と高校までの板書の違いとノートテイキングの重要性（河野）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
5	話を聞き、ノートを取る２（河野）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
6	話を聞き、ノートを取る３（河野）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
7	文章を読み、ノートを取る１　（青山）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
8	文章を読み、ノートを取る２　（青山）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
9	文章を読み、ノートを取る３　（青山）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
10	資料を読み、読書ノートを作成する１（河田）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
11	資料を読み、読書ノートを作成する２（河田）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
12	資料を読み、読書ノートを作成する３（河田）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめ課題・宿題に取り組む（４５分）
13	レポートを書く・考えたことを表現する１（信濃）	前回ノートを読み返す（４５分）	ノートをまとめレポートに取り組む（４５分）
14	レポートを書く・考えたことを表現する２（信濃）	レポートを組む（４５分）	ノートをまとめレポートに取り組む（４５分）
15	レポートを書く・考えたことを表現する３（信濃） 最終レポート課題の確認	レポートを組む（４５分）	ノートを完成させる（４５分）
16	レポートを書く・考えたことを表現する４（信濃） 最終レポート課題の確認 授業総括、授業改善アンケートの実施（信濃他全担	レポート提出または準備（４５分）	本科目の総復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（S） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師） ・松下　守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館４階・１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（本科目）に、履修学生と授業者の履修相談方法、連絡方法などを情報提供する。				

概要

履修目標

・本科目の履修目標は、社会福祉学科における学生としての基本的スキル、「大学の学び方」、「学術レポートの書き方」、「論理的な考え方」を学修することである。
・授業の目的は、正解の用意されない課題について、知識の理解、覚えることのみではない、自らが「学術の方法」を使い、疑問を明らかにする能力を身につけることにある。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

次の3つを主に学修する。
①大学生として、主体的な学び方を習得し、行動することができる。
②学術レポートの形式、先行研究の引用、文献リストを作成し、文章表現することができる。
③論理的に考え、整合性、一貫性のある主張表現ができる。

授業全体の内容と概要

・社会福祉学科の学生として、主体的学修をおこない、自らが思考する学生として、行動できるためのスキルを習得する。
・「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
大学で学ぶための学術倫理　（研究倫理とコンプライアンス）
対人援助を行う職業倫理　（社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、特別支援学校教諭等の各種倫理綱領）を理解する。

授業の方法

・授業は、テキスト、授業資料を使用し、解説する。Teamｓチーム「２０２４スタートアップ演習」のファイルに授業資料を提供する。
・課題はFormsを利用し、適宜、理解度を把握しながら履修学生へ応答する。
・学生の質問等は、授業前後の教室にて積極的に伝えてほしい。Teamsによる質問相談にも回答するので利用してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・授業では、「誰もが自分自身の気持ちを表現し、尊重する権利をもつこと(assertion)」を大切にする。
・遅刻、欠席、事務手続き等の対応ルール、授業中の私語、入退室、座席表、スマホ操作、水分補給等のマナーについて、オリエンテーションにて確認する。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要になる。
この基準は、評価に必要となる基準であるが、評価の十分条件にはならない。
全授業１６回終了まで継続して学修につとめてほしい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	４０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
大学生としての主体的な学び方を習得し、行動することができる。	学生として行動することを模範的に理解をし、発展的な実践ができた。	学生として行動することを正確に理解し、充分に主体的な実践ができた。	学生として行動することを基礎的に理解し、主体的な実践ができた。	学生として行動することの理解は部分的にとどまるが、実践があった。	学生として行動することの理解に大きな欠落があり、実践は乏しかった。
学術レポートの形式、先行研究の引用、文献リストを作成し、文章表現することができる。	学術レポートの形式を精密に理解し、引用、文献リストを作成しており、文章表現は熟練していた。	学術レポートの形式を正確に理解し、引用、文献リストを作成しており、文章表現は明瞭であった。	学術レポートの形式を基礎的理解があり、引用、文献リストを作成しており、表現は適切であった。	学術レポートの形式基礎的理解が部分的にとどまり、引用、文献リスト、文章表現は十分ではなかった。	学術レポート形式の基礎的理解に欠落があり、引用、文献リスト、文章表現は欠陥があった。
論理的に考え、整合性、一貫性のある主張表現ができる。	タイトルと文章全体が一貫しており、整合性があり、結論は示唆的であった。	タイトルと文章全体が一貫性を備えており、結論は明瞭であった。	タイトルと文章全体において、論理的に主張がなされ、説得力があり、結論は適切であった。	タイトルと文章全体の論理性は、部分的にとどまり整合性に欠け、結論を明確化する必要があった。	タイトルと文章全体の論理性は、一貫性が乏しく、全面的修整の必要があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（S） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師） ・松下　守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館４階・１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛える大学の学び入門　第２版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０２０	9784766426519	
2	『星槎道都大学　学生便覧　２０２４年度版』	星槎道都大学学務部編		２０２４		
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』	日本学術振興会		２０１５		https://www.jsps.go.
2	『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会福祉学分野』	日本学術振興会		２０１５		https://www.scj.go.
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、社会福祉学科のディプロマ・ポリシー（DP）の説明等（社会福祉学科長）、	シラバスの内容をよく読んでおく。（４５分）	今回の学習内容について、シラバス、学生便覧などを復習する。（４５分）
2	学生主体の学び、履修ルール、学修成果等（学務課）	授業前に、学生便覧、テキストなどの学習範囲について予習する。（４５分）	今回の学習内容について、学生便覧、テキストなどを復習する。（４５分）
3	GPS-Academic実施と社会人基礎力等（IR企画課）	授業前に、学生便覧、テキスなどの学習範囲について予習する。（４５分）	今回の授業内容について、学生便覧、テキストを復習する。（４５分）
4	大学の学び方①：オリエンテーション（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
5	大学の学び方②：ノートテイキング、学術倫理（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
6	学術レポートの書き方①：レポートの構成を知る（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
7	学術レポートの書き方②：信頼できる情報を集める（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
8	学術レポートの書き方③：引用し、文献リストを作る（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
9	学術レポートの書き方④正しい文法と学術表現をする（松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
10	論理的な考え方①：問いを立てる（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
11	論理的な考え方②：情報を集め、分類する（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
12	論理的な考え方③：論理を組み立てる（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
13	論理的な考え方④：文章化する（後藤）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
14	学術レポートの作成（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
15	学術レポートの提出（後藤・松下）	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。（４５分）	今回のテキスト、資料を復習する。（４５分）
16	本科目のまとめ：授業総括と学修の教員講評、 授業改善アンケートの実施（後藤・松下）	本科目のまとめの準備をする。（４５分）	本科目全体の学習振り返りをする。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（D） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を発揮する。
研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努める。
自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出す。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5 に対応する。（2022、2023年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP4 に対応する。（2021年度）

到達目標

自己表現や主体性を身につける。
研究に向かう姿勢を学ぶ。
自己の興味や専門性を知る。

授業全体の内容と概要

これから大学で制作していくにあたっての方法論を学ぶ。
研究倫理およびコンプライアンスについて学ぶ。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業内容はPowerPointや配布資料を用いて説明し、授業後にTeamsに保存、振り返り可能。
３つの課題があり、課題説明後、制作、発表、Teamsに提出する。
PowerPointでの課題制作あり。
プレゼンテーション、グループワーク、個人制作、フィールドワーク、ロールプレイあり。
質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必要な機材は学生各自で準備すること。
授業の始めに説明をするので遅刻はしないこと。
提出期限を守ること。
欠席する場合は事前に連絡すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
主体的な学びの促進	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を充分発揮することができた。	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を発揮することができた。	自らのアイデアや提案を出し、自己表現や主体性を身につけることができた。	自己表現や主体性を身につけることができた。	自己表現や主体性を身につけることができなかった。
研究に向かう姿勢の醸成	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努め、研究に活かすことができた。	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考え、研究の深化に努めることができた。	研究に向かう姿勢を学び、研究の意義を考えることができた。	研究に向かう姿勢を学ぶことができた。	研究に向かう姿勢を学ぶことができなかった。
将来の方向性の明確化	自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出し、今後の目標を定めることができた。	自己の興味や専門性を明確化し、将来の方向性を見出すことができた。	自己の興味や専門性を知り、将来の方向性について考えることができた。	自己の興味や専門性を知ることができた。	自己の興味や専門性を知ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（D）	（科目ナンバリング：BAS001001 ）			
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1	（単位認定責任者：　三上　いずみ　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ディプロマ・ポリシー（DP）説明等（学科長） シラバスの説明・便覧の使い方	シラバスを読んでおく（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
2	主体の学び、履修ルール、学修成果等（学務課）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
3	GPS-Academic実施と社会人基礎力等（ＩＲ企画課）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
4	グループワーク①「他己紹介」インタビュー作業	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
5	グループワーク②「他己紹介」口頭発表（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
6	作品制作の取り組み方①　組み立て	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
7	作品制作の取り組み方②　口頭発表（ひとり１分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
8	大学での研究活動 研究倫理およびコンプライアンスについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	課題を次授業開始時までに完成提出する。（４５分）
9	展覧会プロジェクト① 情報収集	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
10	展覧会プロジェクト② 企画・立案・役割分担	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
11	展覧会プロジェクト③ 中間報告（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
12	展覧会プロジェクト④ PowerPoint作成１	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
13	展覧会プロジェクト⑤ PowerPoint作成２	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
14	展覧会プロジェクト⑥ PowerPointによる発表（グループごとに５分間）	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
15	展覧会プロジェクト⑦ まとめと展開	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
16	講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（A） （科目ナンバリング：BAS001001 ）				
授業担当者（所属・職名）	建築学科教員		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 伊藤 裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	赤木 良子（実務経験あり）、安藤 淳一（実務経験あり）、	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	赤木（一級建築士）、安藤（一級建築士）、小笠原（一級建築士）、君（一級建築士）、佐々木（一級建築士）、佐藤（一級建築士）、向井（一級建築士）		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生は大学卒業後、「自分で考え、調べ、自分の意見を表現する力」を社会から求められる。自分のアイディアを思いつきで終わらせず、大学レベルの知識・教養を活用して、より多くの人が理解しやすい「ことば」に変えて論理的に表現する力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。（2021年度）

到達目標

授業で学んだ知識を理解できており、自らの考えを論理的に表現(レポート、議論など)することができる。

授業全体の内容と概要

「SDG 11. 住み続けられるまちづくりを」の関連科目。
建築学科教員がオムニバス形式で授業を担当する。授業では、大学生活の概観、研究倫理およびコンプライアンス、授業理解のためのスキル、実験や調査を進めるスキル、考えをまとめるスキル、考えたことを表現するスキル、レポート作成のスキルなどについて身につける。人に伝えるための授業のため、予習・復習時間を利用して教員と時間外に積極的なコミュニケーションを心がけてほしい。

授業の方法

各教員によって異なり、板書・パワーポイント・視聴覚メディア等による多種の授業形態により展開する。場合によってはグループによるフィールドワークも行い、プレゼンテーションの作成と発表も行う。提出課題や発表に対しては講評を行い、フィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は口頭説明にも注意を向けノートを取ること。授業で発表した内容、授業で活動した内容も含めて評価の対象となる。
提出物は必ず期限までに提出すること。また、インターネットや文献からのコピーや書き写したものは採点の対象としない(０点とする)。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築に関わる知識の修得	授業で学んだ知識や内容について、ノートに分かりやすくまとめることができたほか、他人に簡潔に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、他人に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、ノートにまとめることができた。	授業で学んだ知識について理解できた。	授業で学んだ知識について理解できなかった。
プレゼンテーション能力の育成	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて自分の考えを論理的かつ簡潔に表現することができ、画面のスライドを用いて分かりやすく説明できた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使って自分の考えを論理的に表現することができた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使いこなすことができた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できなかった。
主体性を持ったグループワーク活動	グループワークにおいて、行動計画の立案や実際の学習活動を積極的に行い、グループ全体の行動に主体的に関わることができた。	自分の分担する役割を十分に果たすだけでなく、他のメンバーとサポートし合うことができた。	グループのメンバー同士と円滑にコミュニケーションをとることができた。	自分の分担する役割を果たすことができた。	自分の分担する役割を果たすことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習（A）	（科目ナンバリング：BAS001001 ）			
授業担当者（所属・職名）	建築学科教員		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	赤木　良子（実務経験あり）、安藤　淳一（実務経験あり）、	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	赤木（一級建築士）、安藤（一級建築士）、小笠原（一級建築士）、君（一級建築士）、佐々木（一級建築士）、佐藤（一級建築士）、向井（一級建築士）		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『BRUTUS特別編集 合本 建築を楽しむ教科書』	マガジンハウス【編】	マガジンハウス	2022	9784838755707	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、各学科のディプロマ・ポリシー（DP）説明等／研究倫理およびコンプライアンスについて（伊藤	入学時に配布された履修関係の資料と学生便覧の関連項目を読んでおく（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
2	学生主体の学び、履修ルール、学修成果等（学務課）	学生便覧の関連項目を事前に読んでおく（４５分）	毎日の履修計画を見直しまとめる（４５分）
3	GPS-Academic実施と社会人基礎力等（ＩＲ企画課）	試験実施要項を事前に読んでおく（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
4	建築の学びについて　建築学生の大学生活の送り方（君　興治）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
5	実験・実習の進め方　実験の意義と方法、手順（長森　正）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
6	ひとかじり建築史　～北海道の近代建築～（赤木良子）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
7	都市を豊かにする建築空間（向井　正伸）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
8	建築士資格取得に向けて（小笠原　健）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
9	建築の基礎知識と技能　建築用語の理解（佐々木哲之）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
10	プレゼンテーション練習　出身地の紹介（横山　哲也）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
11	建築を学ぶ先にある進路について（安藤　淳一）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
12	まちウォッチング１　まちの景観デザインについて（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
13	まちウォッチング２　北広島駅周辺を実際に見てみよう（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
14	グループワーク１　撮影した景観写真の整理と発表準備（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
15	グループワーク２　景観調査結果の発表（佐藤　善太郎・伊藤　裕康）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
16	前期の学びのふりかえりと確認（小山　尋明）	指定した事項を調査する（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122038 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2024年度）

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目。

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し,ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	１０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅰ　（科目ナンバリング：SWS122038　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	障害者福祉の思想と原理について シラバスの説明、授業改善アンケート結果の反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	障害者福祉の理念について①（ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	障害者福祉の理念について②（エンパワメント、自立生活、機会均等等）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	障害者福祉の歴史的展開について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	国際機能分類について（ICIDH、ICFの理解）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	制度における「精神障害者」の定義について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	精神障害の障害特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	諸外国の動向について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について①（相馬事件、ライシャワー事件）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について②（宇都宮病院事件、大和川病院事件）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について③（池田小事件、相模原事件）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	社会的障壁の理解について①（欠格事項、強制不妊手術など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	社会的障壁の理解について②（コンフリクトの種類など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	社会的障壁の理解について③（人権侵害、アルコール・薬物問題など）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	まとめ「障害者福祉」、「日本における事件」、「社会的障壁」等について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 由水 伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。
最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。
原則としてＳ評価は授業全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	20%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んえいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 由水 伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明、本専門演習の学習上の注意点 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	◇ 学習環境の整備 ・PCの設定確認 ・PCの性能測定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	◇ ハードウェア（1） PCの分解 各パーツの役割の理解	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	◇ ハードウェア（2） PCの組み立て 各パーツの性能とPCんｐ総合性能	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	◇ オペレーティングシステム（1） インストール（Windows）と環境設定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	◇ オペレーティングシステム（2） インストール（Linux）と環境設定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	◇ オペレーティングシステム（3） LINUXの利用方法	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	◇ アプリケーション（1） ・オフィスソフト	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	◇ アプリケーション（2） ・画像編集ソフト	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	◇ アプリケーション（3） ・音声編集ソフト	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	◇ アプリケーション（4） ・動画編集ソフト	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	◇ アプリケーション（4） ・ユーティリティソフト	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	◇ ネットワーク ・TCP/IP ・ファイル共有	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	◇ セキュリティと知的財産権 ・マルウェア ・ネットワークセキュリティ	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	◇ 生成AI ・生成AIの種類と利用 ・効果的な利用法	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	○ 定期試験 定期試験と解答解説	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えにもとづいたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

経済学の概念とその応用を学ぶ。経済学について学んだことを知識としてただ理解するだけでなく、その考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりまぜて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえてグループ討議による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１０%	０%	９０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてある程度とらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的な観点を適用できなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的解答を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取りくめた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	シラバス等の確認とまとめ（４５分）
2	経済的厚生について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
3	経済的厚生に関する事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
4	経済的厚生に関する事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
5	経済的厚生に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
6	経済学的費用について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
7	経済学的費用の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
8	経済学的費用の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
9	経済学的費用に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
10	合理性の問題について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
11	合理性の問題の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
12	合理性の問題の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
13	合理性の問題に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
14	前期演習のまとめ	これまでの演習について振り返る（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
15	前期学生生活の振り返り	半期の学生生活について振り返る（４５分）	半期の学生生活について振り返りをまとめる（４５分）
16	補講・課題等 授業改善アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う（４５分）	演習ノートの整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義　演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　鈴木　重政　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

目標は『未来を見通しビジネスを創造する力をつける』である。　コロナ禍や強権国家の台頭など世界の環境の変化は目まぐるしく、未来を見通すには高度な分析力と総合力そして実行力が必要となる。　分析力、総合力、実行力を涵養することを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の視点に立つ分析力、総合力、実行力を身につける。

授業全体の内容と概要

北海道の北広島市、由仁町、神恵内村でのフィールドワークを中心に、実用的な活動を行う。SDGsでは「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「11．住み続けられるまちづくりを」「12．つくる責任 つかう責任」「14．海の豊かさを守ろう」「15．陸の豊かさも守ろう」に関連する。

授業の方法

授業はフィールドワーク（北広島市、由仁町、神恵内村）が中心となる。研究室にて企画を立て、対象地域の人々とともに行動する。したがってコミュニケーション力も必要となる。フィールドワーク終了後はレポートを作成する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

分析力、総合力、実行力、改善力を存分に発揮すること。積極的な発言を望む。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要とされる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営学の視点に立つ分析力	経営学の視点に立つ分析力が極めて高い	経営学の視点に立つ分析力がやや高い	経営学の視点に立つ分析力が高い	経営学の視点に立つ分析力がある	経営学の視点に立つ分析力が不足している
経営学の視点に立つ立案力	経営学の視点に立つ立案力が極めて高い	経営学の視点に立つ立案力がやや高い	経営学の視点に立つ立案力が高い	経営学の視点に立つ立案力がある	経営学の視点に立つ立案力が不足している
運営能力	経営学の視点に立つ運営能力が極めて高い	経営学の視点に立つ運営能力がやや高い	経営学の視点に立つ運営能力が高い	経営学の視点に立つ運営能力がある	経営学の視点に立つ運営能力が不足している
評価能力	経営学の視点に立つ評価能力が極めて高い	経営学の視点に立つ評価力がやや高い	経営学の視点に立つ評価力が高い	経営学の視点に立つ評価力がある	経営学の視点に立つ評価力が不足している
改善能力	経営学の視点に立つ改善力が極めて高い	経営学の視点に立つ改善力がやや高い	経営学の視点に立つ改善力が高い	経営学の視点に立つ改善力がある	経営学の視点に立つ改善力が不足している

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義　演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　鈴木　重政　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　地域活性化の定義	地域活性化の定義を考える	地域の分析を行う
2	フィールドワーク（北広島市　エスコンフィールド）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
3	フィールドワーク（北広島市）の振り返り　由仁町での事業計画	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
4	フィールドワーク（由仁町）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
5	フィールドワーク（由仁町）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
6	フィールドワーク（由仁町）の振り返り	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
7	フィールドワーク（神恵内村）計画	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
8	フィールドワーク（神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
9	フィールドワーク（神恵内村）振り返り	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
10	フィールドワーク（由仁町）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
11	フィールドワーク（由仁町）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
12	フィールドワーク（北広島市）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
13	フィールドワーク（北広島市）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
14	フィールドワーク（北広島市）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
15	フィールドワーク（北広島市）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
16	フィールドワーク（北広島市）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島 徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島 徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得すること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「商法」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・演習科目なので、積極的な出席が必要
・私語などの迷惑行為は厳禁
・講義中スマホの操作は厳禁
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	３０%	０%	７０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
2	オリエンテーション、アセスメントテスト 株式会社（１）－設立・株式 キャリアデザイン（１）キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
3	株式会社（２）－設立・株式 キャリアデザイン（２）キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
4	株式会社の機関設計（１） キャリアデザイン（３）大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
5	株式会社の機関設計（２） キャリアデザイン（４）大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
6	式会社の機関設計（３） キャリアデザイン（５）大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
7	株式会社の機関設計（４）事例研究 キャリアデザイン（６）キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
8	株式会社の機関設計（５）事例研究 キャリアデザイン（７）キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
9	株式会社の機関設計（６）事例研究 キャリアデザイン（８）自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（１）株主総会 キャリアデザイン（９）自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
11	式会社の経営体制－骨格と役割（２）株主総会・取締役・取締役会 キャリアデザイン（１０）キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
12	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）取締役・取締役会 キャリアデザイン（１１）キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（４）取締役・取締役会 キャリアデザイン（１２）大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（５）事例研究 キャリアデザイン（１３）大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
15	株式会社の経営体制－骨格と役割（６）事例研究 キャリアデザイン（１４）大学とキャリア 個別面談・履修指導	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
16	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）事例研究 個別面談・履修指導 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	前期全体の振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ全てに対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

当ゼミナールは、グループディスカッションの基本を学ぶことから始める。基本を学んだ後は、ゼミナールでの研究テーマの決定、実行、検証、つまりＰＤＣＡサイクルを活用しながら、組織で行動しながら、成果を出すという方法を学んでいきます。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評と評価についての説明	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚だけではなく客観的事実（データ）からも評価できるようにする。その過程を通して、①保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識の定着、②様々な人々と一緒に仕事をしていくための人間力の育成、③プロジェクトを遂行するためのマネジメント力、④学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための社会人基礎力を向上させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

①スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。②調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案（Excel，Word，Power Pointなどを使用）について学ぶ。③グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践経験（体験活動）に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	スポーツ科学のスポーツ現場への応用	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	研究法の基礎（実験系）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究法の基礎（調査系）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究法の基礎（文献系）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	実験・調査・分析法の基礎①柔軟性	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	実験・調査・分析法の基礎②筋力	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	実験・調査・分析法の基礎③瞬発力、アジリティ、クイックネス、反応速度	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	実験・調査・分析法の基礎④持久力（30-15IFT、YOYOIRT、他）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	研究計画の立案①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	研究計画の立案②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	実地調査①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	実地調査②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	調査データの分析	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	調査結果のまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	調査結果発表 まとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石井　祐治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
・トレーニング内容の改善および実践。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・レース分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組みトレーニングの実践。
トレーニング経過を発表し，意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

状態に応じてトレーニング内容を変更するなど、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。トレーニング結果をもとに試合など評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石井　祐治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明	ガイダンス （45分）	学習内容の復習（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング実践①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング実践②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング実践③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング実践④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング実践⑤	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング実践⑥	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成 （45分）	学習内容の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
・新たな指導法を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・ゲーム分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
・途中経過をパワーポイントで発表し，意見交換を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者：　篠原　諒介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	学習内容の復習（４５分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	論文発表①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	論文発表②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	論文発表③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	論文発表④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	プレ測定①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	プレ測定②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	プレ測定③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	プレ測定④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	プレ測定⑤	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
15	プレ測定⑥	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成（４５分）	学習内容の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

財務会計に関する知識を習得するとともに、経営分析等を通じてそれを活用する力を身につける。
また、４年次の卒業論文の執筆に向けて、その論点（財務会計の問題点）を自ら発見するため、自発的に考える力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・財務会計の理論、国内外の会計基準およびそれらに基づく実務にまつわる知識を身につける。
・有価証券報告書等の公表資料を用いて、実際の企業を分析する力を身につける。
・卒業論文の書き方や参考文献等の資料収集を体得するとともに、卒業論文のテーマ・論点を見つける。

授業全体の内容と概要

３年次では、財務会計にまつわる文献を輪読し、近年における財務会計の動向を把握する。
その中で、自分なりに財務会計における論点（問題点）を見つけ、卒業論文の執筆に備える。
授業最終回では、半年間のまとめとして、財務会計の動向または実際の企業に関する経営分析をテーマとしたプレゼンテーション回を行う予定である（具体的なテーマや実施形式は、受講生との話し合いによって決定する）。
このほか、卒業論文の書き方や文献収集について随時指導していく。

授業の方法

テキスト等の指定された文献の箇所・テーマを各自レポート形式で事前にまとめ、当日はそれに基づいてディスカッションを深めていく。
ディスカッションにおいては、積極的な発言を期待する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

他の会計科目を履修済みもしくは今年度に履修予定であることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
自主的・積極的な演習内での発言を評価する一方、無断欠席は大きな減点要因となるので要注意。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
財務会計にまつわる知識の習得	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれをある程度活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用しようと試みた。	授業で取り上げた財務会計の知識を最低限習得できた。	授業で取り上げた財務会計の知識を習得できなかった。
財務会計に対する問題意識の醸成と論点の発見	財務会計の論点・問題点を見つけ、その解決に向けた考察を行っている。	財務会計の論点・問題点を見つけた。	財務会計に対する問題意識を抱き、その論点となる問題を探している。	財務会計に対する問題意識を抱き始めた。	財務会計に対する問題意識を全く抱かなかった。
主体的・意欲的な授業への参加	自分だけでなく、他の受講者も巻き込んだ形で授業に参加し、授業全体の活発化に取り組んだ。	積極的に質問やディスカッションを行い、能動的に授業に参加した。	積極性は乏しいものの、質問やディスカッションに一部参加した。	授業には参加したものの、質問やディスカッションについて、受動的に姿勢に終始した。	授業に意欲的に参加しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・現代会計入門　第6版』	伊藤邦雄	日経ＢＰＭ	2024年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：自己紹介・講義の方針確認 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	現代会計のフレームワーク①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
3	現代会計のフレームワーク②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
4	財務会計制度の概観①　企業会計原則	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
5	財務会計制度の概観②　概念フレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
6	損益計算書①　総論	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
7	損益計算書②　収益	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
8	損益計算書③　費用	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
9	損益計算書④　個別論点	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
10	キャッシュフロー計算書	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
11	貸借対照表①　総論	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
12	貸借対照表②　資産	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
13	貸借対照表③　負債	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
14	貸借対照表④　純資産（資本）	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
15	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
16	プレゼンテーション報告会（本番）と総評 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備（４５分）	報告会での指摘事項を再確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ全てに対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション　授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（４５分）	授業の復習（４５分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
15	担当教員による授業⑬ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
16	前期授業の総括について	前期授業の復習（４５分）	全体の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川俊哉（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小早川俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会の変化から社会政策（福祉政策）の変化を理解できるようになる。
文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどを通して、社会システム理解を目指す。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

・自の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の「勉学テーマ」の糸口を掴む。
・自らの研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに対する論理的背景（要因、理由、原因等）自身の言葉で表現できるスキルを身につける。
・研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

大学生として理解すべき社会システム、特に政治経済の基礎、並びに、社会福祉学部の学生として福祉制度変革の背景の理解を主目的に議論中心の授業を展開する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教員の指導方針及び学生の資質・要望のもとに行うので、講義・ゼミナール・ディスカッション・見学・調査等様々は授業形態を採る。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、プレゼンやレポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

2月時点で配布された担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩＡ」で所属した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１／１６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット等検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
自らの研究テーマの背景を論理的に表現できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、研究課題を発見して、それをプレゼンやレポートに構成できるスキルを獲得する。	論理的背景と自らの結論を結び付けることができる。	論理的背景を見出し、論理的に表現できる。	論理的背景を見出せる。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川俊哉（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小早川俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションとシラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習ＩＡ・ＩＢの授業の目的は『卒業論文のテーマを見つける』ことである。
卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要である。
様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。
よって、専門演習ＩＡ・専門演習ＩＩＢは、その過程を生み出す学習である。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造することが到達目標である。

授業全体の内容と概要

１．卒業論文のテーマを見つける。
２．卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。
３．卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。
４．卒業論文のテーマを確定させる。
５．「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。
２．適宜、質疑応答を交える。
３．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．３年生前期に専門演習ＩＡ、その後、後期に専門演習ＩＢを担当する。
２．不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低１０回は出席をしなければならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット検索やボランティア活動で研究テーマを模索できるようになる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業及び地域活動１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業及び地域活動２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業及び地域活動３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業及び地域活動４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業及び地域活動５	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業及び地域活動６	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業及び地域活動７	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業及び地域活動８	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業及び地域活動９	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業及び地域活動１０	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業及び地域活動１１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業及び地域活動１２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業及び地域活動１３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業及び地域活動１４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 藤根　収 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『生徒指導提要　改訂版』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4491051758	
2	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 「担当教員によるガイダンス」	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 「課題演習の進め方について」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２ 「演習等の役割分担、ディスカッション」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１ 「教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 専門ゼミＩＡのまとめ・発表	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 松下 守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備（アカデミック･シンキング）の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2024・2023・2022年度）
社会福祉学科のDP2、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7、DP9に対応する。（2021年度）

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩABでは、アカデミック・シンキングを学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
次の①から④について段階的理解をすすめる。
①学術論文のスタイルを確認する。
（書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ）
②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて
図書情報館レファレンスサービスをうけ取寄せる。
③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
（定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける ）

授業の方法

社会福祉学科Teams「２０２４年度 専門演習Ｉ履修方法」（２０２４年１月開示）には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」（PDF）がある。アカデミック・シンキングのための文献講読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。
コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料をまとめたものである。

準備学習に必要となる教材（論文コピー、報告書など）
課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料）
授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報
授業者への相談質問のための案内

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べており、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明していた。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明していた。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定していた。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼確認の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示されていた。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえていた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されていなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心･意欲･態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 松下 守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第３版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０１９		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	２０１５		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	２０１３		
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、演習ガイダンス	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック･シンキング基礎１（学術文献の種類）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
3	アカデミック･シンキング基礎２（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
4	アカデミック･シンキング基礎３（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
5	アカデミック･シンキング基礎４（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
6	アカデミック･シンキング基礎５	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
7	アカデミック･シンキング基礎６	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
8	アカデミック･シンキング基礎７	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
9	アカデミック･シンキング基礎８	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
10	文献講読１（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト、資料の整理（４５分）
11	文献講読２（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
12	文献講読３（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
13	文献講読４（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
14	文献講読５（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
15	文献講読６（分担報告）	テキスト資料の読解（４５分）	テキスト文献精読（４５分）
16	まとめ	テキスト資料の読解（４５分）	次学期への課題設定（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1 （単位認定責任者： ）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1 （単位認定責任者： ）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

こども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケ―ションを図る。
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見収集	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括としての評価・ディスカッション	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。
②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。
③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。
④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①現業のSW話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。
②状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。
③個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。
④終盤には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループワーク①準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	グループワーク①実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	グループワーク②準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	グループワーク②実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	グループワーク③準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	グループワーク③実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	グループワーク④準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	グループワーク④実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	グループワーク⑤準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	グループワーク⑤実施	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	グループホーム振り返り	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	グループワーク振り返り	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	まとめ	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	まとめ	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩＡ」に所属した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポートを執筆できた。	左記の内容が何一つできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	テキスト購読・ディスカッション①	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	テキスト購読・ディスカッション②	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	テキスト購読・ディスカッション③	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	テキスト購読・ディスカッション④	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	テキスト購読・ディスカッション⑤	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	テキスト購読・ディスカッション⑥	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	テキスト購読・ディスカッション⑦	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	テキスト購読・ディスカッション⑧	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	テキスト購読・ディスカッション⑨	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	調査活動準備①	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	調査活動準備②	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	調査活動準備③	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	調査活動準備④	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	調査活動準備⑤	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室（２号館・８階）	
単位数	1 （単位認定責任者： 堀川 厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育を中心とする関連分野について、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
「専門演習ＩＡ」を担当した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	１０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自身の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室（２号館・８階）	
単位数	1 （単位認定責任者： 堀川 厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 （活動の目的、方法、年間の活動計画等）	所属研究室選択資料の確認 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
2	特別支援教育、障害のある子に対する教育の今日的課題等の確認１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
3	特別支援教育、障害のある子に対する教育の今日的課題等の確認２ 関連する各自の関心事、課題等の提起	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
4	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の提起と確認１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
5	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の提起と確認２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
6	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の確認と全体共有	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
7	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
8	全体発表会（中間報告） （各自の関心事、課題等の検討状況、経過、その後の方針）	前半の振り返り （４５分）	振り返りの確認 （４５分）
9	その後の推進方法の説明 特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
10	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化 各自の追究する内容等（概要）の設定と説明	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
11	各自の追究する内容等（概要）の設定と説明	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
12	各自の追究する内容等（概要）の設定と説明 一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
13	一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明 各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画（時期、内容、方法）の立案	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
14	各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画（時期、内容、方法）の立案 全体発表資料の作成	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
15	全体発表会１ （各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画発表、全体の振り返りとその後の取組方針）	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返りと次年度方針の確認 （４５分）
16	全体発表会２ （各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画発表、全体の振り返りとその後の取組方針）	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返りと次年度方針の確認 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。
「専門演習ＩA」に所属した教員が後期の「専門演習ＩB」を担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

臨床心理学を中心に，社会科学の方法論を文献研究，フィールドワーク，ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する科目（2022年度）。

到達目標

・自分の方向性をみつけ、自ら解決できる力をつける。

・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記の研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し，的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

『居場所』とはどのようなものか？をテーマとして、それに関連するテキストを講読する。
各章の担当を決め，レジュメを作成し発表を行う。テキスト講読後は，卒業論文のテーマを考える。
「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。したがって，大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し，レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩA」に所属した教員が後期の「専門演習ＩB」を担当する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。テキストを必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる	ネット，文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき，まとめることができ、さらに自分の学習課題として昇華できる。	ネット，文献検索などのツールを使いこなし，提示された課題についての資料を具体的に掲示でき，まとめることができる。	ネット，文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に掲示できる。	掲示された課題についてネット検索を行い，資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し，その方法に沿って，レポートを執筆でき，そこからさらに研究課題を発見でき，それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆スキルを獲得し，その方法に沿って，レポート執筆でき，さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆スキルを獲得し，その方法に沿って，レポート執筆できる。	具体的なレポートを執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき，他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて，プレゼンを行い、他の学生を納得されることができ，それについてディスカッションができ，且つ，他者の意見と研究を尊重しながら，双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて，プレゼンを行い，他の学生を納得されることができ，それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて，プレゼンを行い、他の学生を納得されることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『心理臨床と「居場所」』	中藤信哉	創元社	2017	9784422116433	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認　（４５分）
2	テキスト講読と発表①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	テキスト講読と発表②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	テキスト講読と発表③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	テキスト講読と発表④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	テキスト講読と発表⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	テキスト講読と発表⑥	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	テキスト講読と発表⑦	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	テキスト講読と発表⑧	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	テキスト講読のまとめ①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	テキスト講読のまとめ②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	テキスト講読のまとめ③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	卒業論文のテーマを探す①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒業論文のテーマを探す②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒業論文のテーマを探す③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り　（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＡ　（科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093　）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　星野　秀治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
なお、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習ＩＡ」に所属した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩA （科目ナンバリング：SEM133145，SEM433086，SEM533093 ）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 星野　秀治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES211016 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。
頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
また、自己レベル認識を持てるようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事ができる。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々な製品の鉛筆スケッチを行う。
既製品をモチーフにスケッチするが、後半は自分の想像（脳内のイメージ）スケッチを
行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

身の回りにある製品やイメージしたものを鉛筆を使ってデザインスケッチする。自分の作品の意図したところを
プレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
三菱鉛筆のハイユニのA4～B4を使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。
A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と消しゴム、カルトンを用意してください。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	モノの形を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	モノの形を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
材質を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	材質感を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	材質感を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
架空のモノを頭の中に造り上げ、手を通して紙に表現する事を学ぶ。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	想像物を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	想像物を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES211016 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、デザインとは？ 授業改善アンケート結果反映の説明 基本形1　鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	基本形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	想像形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	想像形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	基本形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	基本形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	想像形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	想像形２　鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	基本形３鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	基本形３鉛筆デザインスケッチ、想像形３鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	想像形３鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	基本形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	基本形４鉛筆デザインスケッチ、想像形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	想像形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	想像形４鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	デザイン概念 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習Ⅰ　（科目ナンバリング：APT312003　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）・矢部か		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	向井・矢部　実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築設計を学ぶはじめての授業として、空間デザインと設計、そして製図を含むプレゼンテーションの基礎を学ぶ。本講では、併用住宅の設計を通して、コンセプト立案からゾーニニング・プランニングを行い計画内容を的確に表現する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

与条件を踏まえ、自分なりの考えを持って建築が設計ができる。製図規約に従って設計図面の描写によって表現することができる。

授業全体の内容と概要

建築設計は思いつきのアイディアをカタチにするだけでは不十分で、明確なビジョンと多角的な視点を持って設計を行うことが大切である。そのため、授業は対話によるエスキスを中心に展開し、エスキスを通じてビジョンを明確化し、多角的視点での設計ができるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は、初めに板書と配布資料等により課題解説をおこない、エスキス・作図を個別でチェックをする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

製図道具は必ず携帯すること。授業では途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を積極的に行うこと。
授業はエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が必要である。課題制作のために，自宅に製図道具を備えておくことも不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。
木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習Ⅰ　（科目ナンバリング：APT312003　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）・矢部か		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	向井・矢部　実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における実務経験を活かし、実践的な指導を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。ガイダンス　授業の進め方と課題提出までのスケジュール 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読（９０分）	課題内容を復習(９０分)
2	第一課題　エスキスチェック1	課題コンセプト立案(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
3	第一課題　エスキスチェック2	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
4	第一課題　エスキスチェック3	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
5	第一課題　　発表・講評会	プレゼン資料にまとめ提出(９０分)	講評内容を振り返る(９０分)
6	第二課題　課題発表	敷地調査を行う(９０分)	課題内容を復習(９０分)
7	第二課題　エスキスチェック1	コンセプトを立案する(90分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
8	第二課題　エスキスチェック2	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
9	第二課題　エスキスチェック3	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
10	第二課題　エスキスチェック4	改善案を作成する(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
11	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
12	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
13	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
14	第二課題　作図・プレゼンテーション作成	作図準備をする(９０分)	エスキス内容を踏まえ改善案を検討(９０分)
15	提出・プレゼンテーション・講評会 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(９０分)	感想レポート提出(９０分)
16	振り返り（予備日）	ポートフォリオ作成準備(９０分)	ポートフォリオ作成(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅰ （科目ナンバリング：AHD321039 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は，図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのためには，考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。「建築表現Ⅰ」では，空間表現や建築図面表現に必要な平面系の基礎力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

平面系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分，期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

毎回，課題の制作を主とした実技形式の授業をおこなう。基礎的練習課題とその作品の講評会を２週ごとにおこなう。課題製作は，原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし，課題制作に取り組む。ひとつの課題シリーズ終了ごとに講評会を開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこととする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(ただし最低出席回数１０回以上)とし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８５％	０％	１５％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
平面系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を理解し習得した上で実践する。	基本的使い方に加え応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおおむねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おおむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。
平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすること，それを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができず，作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅰ　（科目ナンバリング：AHD321039　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	使用する道具と材料の種類と使い方の説明	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	点景１（空の表現）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	点景２（樹木の表現　立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（点景）	使用道具の確認と準備（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	色彩１（建具）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	色彩２（建築外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	トレードマークの製作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	表札の製作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	講評会（トレードマークと表札）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
12	フリーハンド表現　課題説明　平面図・立面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	フリーハンド表現　平面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	フリーハンド表現　立面図	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（平面図と立面図）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評） 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論	（科目ナンバリング：EDU141150，EDU241093，EDU341089，EDU441091，EDU541098）			
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　木村　浩紀　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）について理解する。

授業の位置づけ

設定なし（２０２４年度）

到達目標

教師の役割や責務について、歴史・関係法規・保護者等の視点から考察し、教師の使命と責任並びに求められる教師像を把握するとともに、これから求められる役割について理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回設定するテーマに関して、理論的・体系的に講義するとともに、そのテーマに関する内容について、レポートを作成することで、主体的に学ぶ活動を実施する。

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布物資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。
各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全学科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１ 回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	４０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教職の意義・関連法規と求められる教師像	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの説明	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ 時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論	（科目ナンバリング：EDU141150，EDU241093，EDU341089，EDU441091，EDU541098）			
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　木村　浩紀　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教職概論』	佐藤晴雄	学陽書房	2022	978-4-313-61146-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 なぜ教師を目指すのか	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	教職の意義	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	教職観と理想の教師像	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	教師と教員養成の歴史	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	教員の任用と服務（１）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	教員の任用と服務（２）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	教師の役割と仕事（１）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	教師の役割と仕事（２）	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	管理職・主任の役割	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	教師の職場環境	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	教師の資質向上と研修	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	教育実習の意義と心得	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	教職への進路選択と教員採用選考	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	面接・模擬授業にどう臨むか	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	教職論のまとめ	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	定期試験（６０分） 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分 ）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人間と哲学 （科目ナンバリング：PHE021017 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 尾崎　有紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし，非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

過去の哲学や具体例を踏まえながら、合理的に考える力と自他の心の支えとなるような価値観を形成する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

推論や論証についての基礎知識を身につける。また、道徳哲学における主要な立場の考え方を理解し、具体的なケースに照らして各立場の考え方についてのみずからの見解を述べ他者と議論することができる。

授業全体の内容と概要

過去の哲学の考えを紹介するとともに、質疑応答やディベートなどを通して、学生自身がみずからの価値観を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、積極的に授業に参加し、発言することが不可欠である。

授業の方法

認識論と道徳哲学を中心とした哲学の概要を講義形式で説明する。また、講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、レポート作成やグループディスカッション等を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート課題については、その都度指示する。
・配布する講義資料を活用し、講義内容の理解に努めること。
・不測の事態が起きた際には，オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位の認定に必要な最低出席回数は１１回。定期試験（期末試験）は行わないが、数回のレポート課題（グループディスカッション課題を含む）に対するレポートの論理構成と内容、講義期間中に行う中間テストの結果などを総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
推論や論証に関する基礎概念の理解	推論や論証に関する基礎概念を深く理解でき、実践に応用できた。	推論や論証に関する基礎概念を深く理解できた。	推論や論証に関する基礎概念をよく理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できた。	推論や論証に関する基礎概念を理解できなかった。
道徳哲学における様々な立場の考え方の理解	道徳哲学における様々な立場の考え方を深く理解でき、実践に応用できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方を深く理解できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方をよく理解できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方を理解できた。	道徳哲学における様々な立場の考え方を理解できなかった。
ディベートとグループワーク	ディベートとグループワークで中心的役割を演じた。	ディベートとグループワークで積極的に質の高い発言ができた。	ディベートとグループワークで積極的に発言できた。	ディベートとグループワークで発言できた。	ディベートとグループワークで発言できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人間と哲学 （科目ナンバリング：PHE021017 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 尾崎　有紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明 授業改善アンケート結果の反映の説明 イントロダクション	シラバスを読む（９０分）	第１回講義の復習（９０分）
2	認識論（１）：F. ベーコンの経験主義と帰納法	第１回講義の復習と第２回講義の予習（９０分）	第２回講義の復習（９０分）
3	認識論（２）：R. デカルトの理性主義と演繹法	第２回講義の復習と第３回講義の予習（９０分）	第３回講義の復習（９０分）
4	認識論（３）：J. ハーシェルの仮説演繹法とC. S. パースのアブダクション	第３回講義の復習と第４回講義の予習（９０分）	第４回講義の復習（９０分）
5	認識論（４）：確率の哲学	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	認識論（５）：R. カルナップの帰納論理	第５回講義の復習と第６回講義の予習（９０分）	第６回講義の復習（９０分）
7	道徳哲学（１）：ケーススタディ（トロッコ問題）	第６回講義の復習と第７回講義の予習（９０分）	第７回講義の復習（９０分）
8	道徳哲学（２）：I. カントの義務論	第７回講義の復習と第８回講義の予習（９０分）	第８回講義の復習（９０分）
9	道徳哲学（３）：I. カントの義務論	第８回講義の復習と第９回講義の予習（９０分）	第９回講義の復習（９０分）
10	道徳哲学（４）：J. ベンサムの「最大多数の最大幸福」	第９回講義の復習と第１０回講義の予習（９０分）	第１０回講義の復習（９０分）
11	道徳哲学（５）：J. S. ミルの質的功利主義	第１０回講義の復習と第１１回講義の予習（９０分）	第１１回講義の復習（９０分）
12	道徳哲学（６）：ケーススタディ（ミニョネット号事件）	第１１回講義の復習と第１２回講義の予習（９０分）	第１２回講義の復習（９０分）
13	全体討論	第１２回講義の復習と第１３回講義の予習（９０分）	第１３回講義の復習（９０分）
14	道徳哲学（７）：R. ノージックのリバタリアニズム	第１３回講義の復習と第１４回講義の予習（９０分）	第１４回講義の復習（９０分）
15	道徳哲学（８）：J. ロールズの正義論	第１４回講義の復習と第１５回講義の予習（９０分）	第１５回講義の復習（９０分）
16	課題（レポート）に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第１５回講義の復習（９０分）	第１６回講義の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 （科目ナンバリング：STS071047 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、そこで得られたデータには“ばらつき”が存在する。この“ばらつき”の大きさを分析し、データから有益な情報を導き出すための統計的手法について、記述統計を中心とした統計学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2024年度）
全学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
経営学科のDP2、DP6、社会福祉学科のDP2、DP8、デザイン・建築学科のDP1、DP4に対応する。（2021年度）

到達目標

記述統計において、集めたデータを分析するための度数分布表とヒストグラムを作成することができるほか、確率変数や確率分布について理解し、正規分布表から確率変数に対応する確率を求めることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。
記述統計は、度数分布表やヒストグラムの作成と平均値、分散、標準偏差などの特性値の理解と導出を中心に行う。また、確率変数と正規分布などの確率分布の特徴や標準化について学ぶ。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業はパワーポイント及び教科書・配布物資料で実施し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。表計算ソフトExcelを使用する場合と手計算の場合がある。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・Excelを活用して問題を解く場合に、自分のノートPCを用いて良い。
・大学のPCを利用する場合にはUSBメモリーを持参すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計についての理解	度数分布表とヒストグラムを作成し、表から平均値や分散、標準偏差も求めることができた。	与えられた統計データの平均値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	平均値などの代表値や、分散、標準偏差などの散布度について理解できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できた。	度数分布表とヒストグラムを作成できなかった。
確率と確率分布についての理解	確率変数と確率分布について理解し、与条件から確率変数の期待値や分散、標準偏差を求めることができた。	確率変数の期待値や分散、標準偏差を求める方法を理解できた。	確率変数の期待値や分散の性質について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できた。	確率変数や確率分布について理解できなかった。
標本分布についての理解	正規分布に従う確率変数に対して、データの標準化を行い、標準正規分布表を用いて確率を求めることができた。	データの標準化について理解することができた。	正規分布の特徴について理解し、期待値および標準偏差との関係を理解できた。	正規分布表の見方を理解し、必要な確率を求めることができた。	正規分布表の見方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	統計学入門 （科目ナンバリング：STS071047 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明／授業改善アンケート結果反映の説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理について	シラバスと教科書をよく読み，専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
2	度数分布表の作成	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
3	ヒストグラムと相対度数	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
4	代表値の考え方	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
5	度数分布と平均値	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
6	散布度と偏差	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
7	分散と標準偏差	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
8	相関係数と回帰直線	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
9	演習問題（度数分布表・平均値・分散）	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
10	確率の考え方	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
11	確率変数について	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
12	確率変数の平均値と分散	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
13	確率分布について	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（90分）
14	正規分布と標準化について	専門用語の意味を予習すること（90分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
15	正規分布表を用いた演習	専門用語の意味を予習すること（９０分）	専門用語の意味と統計処理の復習をすること（９０分）
16	授業改善アンケートの実施／定期試験（60分の試験終了後、解説を行う）	試験範囲について復習すること（９０分）	試験内容について復習すること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学	（科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174 LAW261132 LAW461144）			
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者：　青山　浩之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

法律は，市民生活や経済活動を送るうえで欠かせないものである。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう，条文を理解し，適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。（2024年度）

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き，法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし，条文を理解し，適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには，法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。法の基本となる知識を修得し，実例に即し講義を行う。具体的には，日本において法律の基礎となる六つの法典，憲法，民法，商法，刑法，民事訴訟法，刑事訴訟法について，条文をベースに解説する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために２回（前年実績）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。①②についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどは、Microsoft Formsの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べる	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できる	事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を理解できる	事例を読み取れず，法律の条文を理解できない
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えているが，解答は答えている	改善すべき点があるが，解答は一通り答えている	的確ではないが，解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学	（科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174 LAW261132 LAW461144）			
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者：　青山　浩之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『法学入門』	宍戸常寿・石川博康	有斐閣	２０２１年	9784641126183	
2	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009240	
3	『条文ガイド六法 憲法 第２版』	尾崎哲夫	自由国民社	２０１４年	9784426118730	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・粟谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	２０２２年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス　法とは何か	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス　法とは何かー法と道徳，法の目的・種類	シラバスの確認 法とは何かを考える調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	法の適用と解釈ー法と裁判 確認テスト１（前年実績）	法と裁判についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
4	日本国憲法の基本原理ー基本的人権	基本的人権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	日本国憲法の基本原理ー権力分立	権力分立二についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	日本国憲法の基本原理ー国民主権と国会	国民主権と国会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
7	民法ー全体像と基本原理 確認テスト２（前年実績）	民法と基本原理についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
8	民法ー契約	契約についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	民法ー権利主体と法律行為 ビデオ視聴１（前年実績）	権利主体と法律行為についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
10	民法ー物権 民事訴訟法ー全体像と目的 確認テスト３（前年実績）	物権と民事訴訟法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
11	会社法ー全体像と株式会社のしくみ	会社法と株式会社のしくみについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
12	刑法ー法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義	法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
13	刑法ー犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論 確認テスト４（前年実績）	犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
14	刑法ー犯罪の構成要件，犯罪の保護法益 刑事訴訟法ー全体像と目的	犯罪の構成要件，犯罪の保護法益と刑事訴訟法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
15	まとめ 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第３回から第１４回まで復習（９０分）。	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃）　（科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語の基礎運用を場面ごとに理解することを目的とする。具体的には翻訳アプリを併用しながら基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎会話および定型・応用表現）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

基礎英語Ⅰの内容をさらに深め、「辞書さえあれば英語は大丈夫！」といった自信を持つことができる。加えて、会話力へ繋がる文法事項・表現方法を習得することができる。

授業全体の内容と概要

場面における会話の運用や日常の基礎表現を英語で行うことができるようVoiceTraを併用しながら、学習する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英文日記を課し、採用する。
前向きな課題の提出には、加点する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。初回授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。１２回以上の出席を基準とし１０回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、英語の理解において必要となる文法・語法を学び、英語によるコミュニケーション力の基礎がほぼ確立している。	課題に取り組み、英語の語彙力や文法・語法への理解が深まりつつある。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーション力の重要性や基本文法の理解に対する努力が見られる。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーションの基礎を理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、英語による情報交換の基本に対する進歩が見られず、自分なりの学習ができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られる。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『A New Approach to Understanding English Grammar』	藤田　直也　著	朝日出版社	２０１０	9784255154794	基礎英語Ｉと同じ
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 英語の構造に関する基本的な考え方（おさらい）VoiceTraとその使い方	専用のノートを準備する（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	基礎英語Ｉの復習①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	基礎英語Ｉの復習②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	日常表現と定型句①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	日常表現と定型句②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	アメリカの大学①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	アメリカの大学②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	Unit‐１０＆１１	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	Unit-１２＆１３	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	Unit-１４＆１５	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	Unit-１６＆１７	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	Unit-１８＆１９	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	Unit-２０＆２１	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	ノートチェック	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	文法の補足とテストビュー 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分）	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（３０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし、英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習をとおし、英語運用能力の向上を図る。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の４技能向上を目指し，学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席重視、テキスト・辞書持参

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「英検準２級　合格への道」』	坂部俊行、岡島徳昭　他	南雲堂	２０１１	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関する ガイダンス。（シラバスの説明）	シラバスを読むこと。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
2	Lesson ７　語句空所補充 読解の基礎練習　Choosing a Pet	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
3	Lesson ７　語句空所補充 読解の基礎練習　Choosing a Pet	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
4	Lesson ８　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
5	Lesson ８　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
6	Lesson ９　語句空所補充 Relation-　読解の基礎練習　Gaming and	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
7	Lesson ９　語句空所補充 Relation-　読解の基礎練習　Gaming and	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
8	中間テスト	試験の準備学習。（４５分）	試験の復習。 （４５分）
9	Lesson １０　語句空所補充 Birth　読解の基礎練習　Music before	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
10	Lesson １０　語句空所補充 Birth　読解の基礎練習　Music before	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
11	Lesson １１　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
12	Lesson １１　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
13	Lesson １２　語句空所補充 読解の基礎練習　Crayola Crayo	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
14	Lesson １２　語句空所補充 読解の基礎練習　Crayola Crayo	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
15	全体復習　Simulation Test (P-７６)	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とし、学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認する。最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は、前期の「基礎英語Ⅰ」と同じものを継続して使用する。一回目の授業から持参すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋　哲徳　他	朝日出版社	２０１７	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 比較の表現	テキストp.42～45 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.46 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	助動詞の基本的用法・過去形	テキストp.47～49 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.50 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	受動態	テキストp.51～53 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.54予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	現在分詞と過去分詞の用法	テキストp.55～58 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.59　予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	不定詞の基本と用法	テキストp.61～64 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.65 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	動名詞の基本と用法	テキストp.67～70 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.71 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	接続詞の種類・時制の一致	テキストp.73～76 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.77 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （４５分）	期末試験準備 （４５分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分）・解説（３０分）	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂）（科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。
文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で７５点以上の得点を上げた。	定期試験で６０点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂）（科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『Live Escalate Book 1: Base Camp』』	角山　照彦 / LiveABC editors 共著	成美堂	２０２１	9784791972210	基礎英語Ⅰと同様
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （４５分）
2	Unit７ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit７の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	Unit７ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit７の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Unit８ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit８の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	Unit８ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit８の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Unit９ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit９の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	Unit９ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit９の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Unit１０ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１０の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	Unit１０ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１０の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Unit１１ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	Unit１１ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Unit１２ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	Unit１２ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Review２　テスト	Review２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	Review２　解説	Review２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

英語の５つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、教材提示装置等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

〇講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
〇講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
〇受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど対策を講じること。
○授業資料は電子媒体による配信を基本とするので、個人のフォルダを作成するなど、適切に管理し，学修に役立てること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
〇講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用は禁止する。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
〇上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

〇単位認定に必要な最低出席回数は11回。
○成績評価は、定期試験の点数（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（４０％）を基に総合的に判断して行う。
〇受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
〇講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９割以上の得点を上げた。	定期試験で８割以上の得点を上げた。	定期試験で７割以上の得点を上げた。	定期試験で６割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が６割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては求められるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基礎英語Ｉで使用したテキストを継続使用する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） ５文型の復習①　リスニング・リーディング活動 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考えておくこと。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	５文型の復習② リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	５文型の復習③ リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	準動詞① リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	準動詞② リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	準動詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	準動詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	接続詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	接続詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	接続詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	接続詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	関係詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	関係詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	関係詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	関係詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）
16	６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行う。	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（２）（４）に対応する。（２０２３・２２年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP3、DP8に対応する。（２０２１年度）

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意識する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べることができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ，スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、４技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造（挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる）を理解し，表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も，評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	１０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Modal Verbs Ⅰ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
3	Modal Verbs Ⅱ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
4	Unit 7 Tell Me About Your Family	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
5	Unit 8 Communication	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
6	Unit 9 How Are You Feeling?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
7	Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
8	Grammar Present perfect Ⅰ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
9	Grammar Present perfect Ⅱ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
10	中間テスト	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
11	Unit 10 Memories	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
12	Unit 11 How Healthy Are You?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
13	Unit 12 You Can Fly!	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
14	Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
16	Final Exam.　試験終了後に授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。（４５分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横　（科目ナンバリング：ENL041030　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を理解する。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションについて理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

学生が英語の基礎的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎の理解と習得ができている。また、平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができる能力を身に付けている。さらに、平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、テキストに即し、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて関連する読解、作文、英会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、テキストに即し、パワーポイントと板書、配布資料により各項目の全体的な説明（一斉）を行ない、その後、個人・グループワークによる練習問題（課題）の解答を行う。解答後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないようにに留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎が完全に理解できており、十分に応用することができた。	英文法の基礎がほぼ理解できており、ある程度応用することができた。	英文法の基礎が大体理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が完全に理解でき、十分に応用することができた。	テキスト内の英文がほぼ理解でき、ある程度応用することができた。	テキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横　（科目ナンバリング：ENL041030　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Simply　Grammar　改訂版』	K.Saito	南雲堂	２０１７	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読んでおく（４５分）	Unit３練習問題の予習（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）未来形	Unit３練習問題の予習（４５分）	Unit３練習問題の復習（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）未来形	Unit３練習問題の予習（４５分）	Unit３練習問題の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）助動詞	Unit４練習問題の予習（４５分）	Unit４練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）助動詞	Unit４練習問題の予習（４５分）	Unit４練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）冠詞	Unit５練習問題の予習（４５分）	Unit５練習問題の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）冠詞	Unit５練習問題の予習（４５分）	Unit５練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）代名詞	Unit６練習問題の予習（４５分）	Unit６練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）前置詞	Unit７練習問題の予習（４５分）	Unit７演習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）前置詞	Unit７練習問題の予習（４５分）	Unit７練習問題の復習（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）接続詞	Unit８説明文の予習（４５分）	Unit８練習問題の復習（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）進行形	Unit９説明文の予習（４５分）	Unit９練習問題の復習（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）受動態	Unit１０説明文の予習（４５分）	Unit１０練習問題の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）完了形	Unit１１説明文の予習（４５分）	Unit１１練習問題の復習（４５分）
15	英文法と英語の運用について（14）完了形	Unit１１練習問題の予習（４５分）	Unit１１全体の復習（４５分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	既習事項の復習（４５分）	既習事項の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。
文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で７５点以上の得点を上げた。	定期試験で６０点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井　（科目ナンバリング：ENL041030　）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『Live Escalate Book 1: Base Camp』』	角山　照彦 / LiveABC editors 共著	成美堂	２０２１	9784791972210	基礎英語Ⅰと同様
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく （９０分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	Unit７ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit７の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
3	Unit７ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit７の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
4	Unit８ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit８の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
5	Unit８ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit８の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
6	Unit９ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit９の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
7	Unit９ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit９の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
8	Unit１０ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１０の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
9	Unit１０ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１０の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
10	Unit１１ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１１の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
11	Unit１１ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１１の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
12	Unit１２ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
13	Unit１２ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
14	Review２　テスト	Review２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
15	Review２　解説	Review２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 （９０分）	期末試験内容復習 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 （科目ナンバリング：ACC411007，ACC511004 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

簿記とは、企業の取引を一定のルールに従って、記録、計算および整理し、報告書を作成する一連の手続きのことであり、広く社会的にも重要な役割を果たしている。また、簿記の基本原理は、会計学の理論的な側面を理解するためにも重要な基礎となる。
本講義は、簿記の一連の手続きを理解し、財務諸表（損益計算書・貸借対照表）の作成と読解ができることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

・５つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）の意味を理解し、具体的な簿記一巡の手続きを習得する。
・決算手続きを理解し、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成することができる。
・完成した財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を読み取ることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、簿記・会計の初心者を対象に、商業簿記に関する授業を行い、簿記の仕組みを基礎から学ぶ。
授業中は、テキストの解説のみならず、設例を用いた解説や演習問題に解答する時間を設ける。
授業では、小テストを毎回実施する。小テストの提出をもって、出欠確認を行う。
小テストの解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。

授業の方法

簿記の学習は、実際に自分で問題を解くことで、体得するという性質がある。したがって、講義内では、問題演習を積極的に行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

簿記は、学習の積み重ねが必要な科目であるため、講義には毎回出席すること。また、復習を欠かさず行うこと。
シラバス記載のテキストは、2024年4月時点の最新版を使用する。このテキストは、通常の書店では販売しておらず、また買い間違えを防ぐため、全学の教科書購入サイトを通じて購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。
「評価方法」にある平常点（30%）は、小テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	３０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
５つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）を理解し、正しい金額を算定できる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、即座に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間内に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間をかけつつも、資料から勘定の計算ができる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できなかった。
決算手続きを理解できる。	決算手続きを理解した上で、速やかに財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間内に財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間をかけつつも、財務諸表を作成することができる。	決算手続きを最低限理解している。	決算手続きを理解できなかった。
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容に基づき、基本的な経営分析ができる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴を説明できる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴に気づくことができる。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論	（科目ナンバリング：ACC411007，ACC511004　　）			
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2	（単位認定責任者：　川津　大樹　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日商簿記3級テキスト・問題集・解答集3冊セット』	片山覚 監修	カリアック	２０２２年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、簿記概論）	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
2	資産・負債・資本と貸借対照表	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
3	収益・費用と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
4	仕訳と総勘定元帳への転記	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
5	試算表の作成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
6	決算手続き	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
7	現金・預金	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
8	商品売買	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
9	売上債権・仕入債務	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
10	有形固定資産	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
11	株式会社の資本と税金	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
12	決算整理（1） 売上原価・貸倒れ・減価償却	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
13	決算整理（2） 収益・費用の前払・前受・未収・未払	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
14	財務諸表の作成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
15	総復習と問題演習 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
16	定期試験と解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	これまでの内容を復習する（９０分）	定期試験の解説内容を確認する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2022・2023年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。（2021年度）

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に着け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。
後半では、各自でマンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーカルチャーについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　自己紹介など	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	学内施設・システムの活用方法（１）文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	学内施設・システムの活用方法（２）図書館の活用方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	マンガの特徴について考える(1)メディア	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	マンガの特徴について考える(２）表現　ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
6	マンガの特徴について考える（３）アニメーションとの比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ（１）マンガ作品の分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ（２）プレゼンテーションの方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
9	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方を学ぶ（１）資料のまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
10	個人発表（１）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
11	個人発表（２）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（３）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（４）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	レポートの書き方について	レポート作成の準備をする（45分）	レポートを作成する（45分）
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック 授業改善アンケート実施	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告と討論（１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告と討論（２）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告と討論（３）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告と討論（４）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告と討論（５）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告と討論（６）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告と討論（７）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告と討論（８）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告と討論（９）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告と討論（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告と討論（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（２）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成（１）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート作成（２）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

本授業では、、学生生活において健康の保持増進を目指すために必要な食事（栄養）、睡眠、運動などについて理解を深める。また、人体の構造と機能について理解を深めることで、生活習慣との関係性についても学習する。
健康の保持増進に向けて運動習慣、食生活・睡眠の見直しなどを実践し健康的な学生生活を目指す。
また、生涯にわたって運動習慣（軽スポーツ）を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。

授業全体の内容と概要

各自自分自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。
各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。
各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。

授業の方法

DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。
グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。
Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	30%	30%	０%	40%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人体の骨格の構造や機能の理解	人体の骨格の構造や機能を良く理解している	人体の骨格の構造や機能をほぼ理解している	人体の骨格の構造や機能をある程度理解している	人体の骨格の構造や機能を理解している	人体の骨格の構造や機能を理解していない
人体の筋肉の構造や機能の理解	人体の筋肉の構造や機能を良く理解している	人体の筋肉の構造や機能をほぼ理解している	人体の筋肉の構造や機能をある程度理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解している	人体の筋肉の構造や機能を理解していない
人体の脳の構造や機能の理解	人体の脳の構造や機能を良く理解している	人体の脳の構造や機能をほぼ理解している	人体の脳の構造や機能をある程度理解している	人体の脳の構造や機能を理解している	人体の脳の構造や機能を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンス内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（履修方法・時間割・学生生活）	履修方法・時間割を確認しておく（４５分）	履修方法・時間割を把握しておく（４５分）
3	個人面談（履修方法・時間割・学生生活）	履修方法・時間割を確認しておく（４５分）	履修方法・時間割を把握しておく（４５分）
4	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅰ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の骨格の構造や機能を理解しておく（４５分）
5	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅱ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の骨格の構造や機能を理解しておく（４５分）
6	人体の骨格の構造や機能の理解Ⅲ	人体の骨格の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の骨格の構造や機能を理解しておく（４５分）
7	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅰ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
8	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅱ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
9	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅲ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
10	人体の筋肉の構造や機能の理解Ⅳ	人体の筋肉の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の筋肉の構造や機能を理解しておく（４５分）
11	人体の脳の構造や機能の理解Ⅰ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳の構造や機能を理解しておく（４５分）
12	人体の脳の構造や機能の理解Ⅱ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳のを理解してお構造や機能く（４５分）
13	人体の脳の構造や機能の理解Ⅲ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳の構造や機能を理解しておく（４５分）
14	人体の脳の構造や機能の理解Ⅳ	人体の脳の構造や機能を確認しておく（４５分）	人体の脳の構造や機能を理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成（スポーツと私）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	ニュースポーツを考える（屋外競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	ニュースポーツを考える（屋内競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	プレゼンテーションの準備　１（グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備　２（グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーション　（屋外競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーション　（屋外競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（屋外競技）　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（屋内競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（屋内競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（屋内競技）　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は自立学習シートのレポートを作成し発表する。発表に対してディスカッションを行う。　後半はグループでテーマを決めプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。　「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。　不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	自立学習シートの作成（自己紹介）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	自立学習シートの作成（大学生に必要な事は何か）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	自立学習シートの作成（どのような学生生活を送りたいか）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	自立学習シートの作成（自分の将来について）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備（グループ別）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	「健康とスポーツ」について考える（グループワーク）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	「生涯スポーツ」について考える（グループワーク）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	「生活と健康」について考える（グループワーク）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成（スポーツとの関わり）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	発表と意見交換　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	スポーツを考える（ゴール型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	スポーツを考える（ゴール型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	スポーツを考える（ネット型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	スポーツを考える（ネット型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	プレゼンテーションの準備　１ グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーションの準備　２ グループ別ディスカッション	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（ゴール型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（ゴール型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（ネット型競技）　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（ネット型競技）　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	エビデンスに基づいたトレーニング① 論文の読み方①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	エビデンスに基づいたトレーニング② 論文の読み方②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング③ 論文の読み方③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集と理解① データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	トレーニングデータの収集と理解② データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	トレーニングの実践①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	トレーニングデータの収集と理解③ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集と理解④ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	トレーニングの実践③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングデータの収集と理解⑤ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	エビデンスに基づいたトレーニング⑤ 論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	阿部　一也(経営学科・専任講師)	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 阿部　一也 ）	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

陸上競技（駅伝）を通じて、家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開につておおむね考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較的考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて多少考察できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことを比較的わかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）を通じて、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	阿部　一也(経営学科・専任講師)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 阿部　一也 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバスの説明」	事前にシラバスを読んで確認にする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	陸上競技（駅伝）を通じて、人間の生活と健康の調査（まとめ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会・討議⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	陸上（駅伝）と健康プログラムを素材にした発表会⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	陸上（駅伝）と健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	（まとめ）	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者：　篠原　諒介　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する．

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

「パフォーマンスを向上させたい」，「オーバーリーチングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために，科学的なエビデンスに基づいた情報，また，エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が，成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する．

授業全体の内容と概要

すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ，最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ．

授業の方法

・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施します．
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。
不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	リカバリーの実践① スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	リカバリーの実践② スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	リカバリーの実践③ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	リカバリーの実践④ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	リカバリーの実践⑤ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	リカバリーの実践⑥ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	リカバリーの実践⑦ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本基礎ゼミナールでは社会科学に関する専門書を全員で音読し、現代社会における処々の課題を歴史的・グローバルに鳥瞰し、現代社会の諸問題を解析するための基本的視座を獲得する。基礎ゼミナールⅠAでは「憲法」をテーマにし、その歴史的意義と現代日本における諸課題を検討する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１，２，３，４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

・社会科学に対する興味を喚起し、自発的に文献を読み込む技術を習得できる。
・現代社会が抱える諸課題について、各媒体を検索する技術を習得できる。
・社会科学全体に共通する諸課題を検討することによって、２年時以降の社会福祉学の学習の基盤となる視座を構築できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹著『日本人のための憲法原論』（集英社インターナショナル）を主要参考文献とし（各講義ごとに購読パートを教員がコピーする）、その他『ＮＥＷＳＷＥＥＫ』等の記事を適宜配布し、国際社会を視野に入れたグローバルな社会分析ができる。

授業の方法

・各講義ごとに教員が資料を配布し、個々に音読してもらい、内容を解説・議論する。
・講義プリントは講義の前の週に配布するので熟読しておくこと。
・学生からの要望には可能な限り答えるが、教育上不適切と思える要望には応じない。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

全学科の全コースが履修可能である。
ライン、チャット等に「欠席」の申告がない、あるいは公欠等の連絡がない場合は欠席とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席日数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	３０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「憲法」に関する参考文献・資料の内容を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について的確に説明でき、且つ、自分の意見を述べることができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの政治・憲法についての基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
中世の欧米社会史から近世日本社会史までの外観を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について的確に説明でき、且つ、自分の意見を述べることができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの「社会史」「近世日本史」の基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
憲法が効果的に機能するための要因を理解する。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について的確に説明でき、且つ、自分の意見を述べることができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	日本国憲法と大日本帝国憲法の違いと各々の課題を理解できた。	高校のテキスト「日本の政治」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできてなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	高校のテキストの読み直し（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
2	日本国憲法は生きているか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
3	誰のために憲法はあるか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
4	全ては議会から始まった	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
5	民主主義は神様が作った	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
6	かくして議会は誕生したーイギリス憲法小史	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
7	民主主義と資本主義は双子だった	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
8	初めに契約ありき	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
9	「民主主義のルール」とは	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
10	憲法の敵は何か	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
11	平和主義者が戦争を作る	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
12	２０世紀を変えたヒトラーとケインズ	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
13	天皇教の原理	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
14	田中角栄の遺産	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
15	憲法は甦るか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
16	総括	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が世界と日本の歴史と文化について、基礎的な知識と考え方を身につける。初歩的なプレゼンテーション、文章作成の技術を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

受講者において、初歩的なプレゼンテーションとコミュニケーションの技術が身についていること。基礎的な文章作成ができること。
受講者において、北海道を中心に世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、説明でぜｎきること。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が北海道を中心に日本内外の歴史と文化に関する事項の調査・学習を行い、その結果を発表する。合わせて、毎回、討論を実施し、教員よりのコメントとアドバイスを加える。レポートとプレゼンテーションの基礎の学習も折り込む。

授業の方法

１）毎回、発表者を決め、短いプレゼンテーションを行なう。
２）１）に対する質疑応答を行なう。
３）出席者全員で討論をする。
４）教員の講評によるフィードバック。
１）～４）を毎時間くり返す。合わせて、適宜、レポート作成の練習を行なう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻はしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査・情報収集能力	多様で正確な調査・情報収集ができ、的確に編集と整理ができた。	正確な情報収集ができ、的確な整理ができた。	情報収集と整理の基礎が身に付いていた。	指示によって情報収集と整理が遂行できた。	指示による情報収集と整理ができなかった。
コミュニケーション能力	積極的な議論と明確な主張・提案ができ、しっかりとした情報発信ができた。	的確な議論と提案ができ、情報発信がある程度できた。	議論と提案、情報発信の基礎が身に付いていた。	指示によって議論と情報ｊ発信が遂行できた。	指示による議論と情報発信ができなかった。
好奇心・態度	文化を理解し、知ろうとする意欲と好奇心に富み、発展的な学習が遂行できた。	文化に関する好奇心があり、自発的な学習ができた。	文化に関する知識を意欲的に学んでいた。	指示する内容の学習を遂行することができた。	指示する内容の学習を遂行できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス、諸注意。	シラバスを読む。（４５分）	歴史と文化の基礎事項の復習（４５分）
2	歴史と文化一般に関する講義	歴史と文化の基礎事項の予習（４５分）	歴史と文化の基礎事項の復習（４５分）
3	北海道の歴史と文化に関する講義	北海道史の基礎事項の予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
4	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（１）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
5	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（２）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
6	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（３）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
7	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（４）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
8	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（５）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
9	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（６）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
10	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（７）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
11	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（８）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
12	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（９）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
13	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（１０）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
14	北海道の歴史と文化に関する調査と発表（１１）	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習（４５分）	北海道史の基礎事項の復習（４５分）
15	レポート作成（１）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート作成（２）、授業改善アンケートの実施。	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉に対する視野を広げるとともに、福祉従事者としての基本的な態度を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。(2024年度)

到達目標

職業の一つとして社会福祉を捉えたうえで、チームワークについて理解できる。

授業全体の内容と概要

様々な福祉実戦の場を知るとともに、そこで求められる社会福祉の知識や技術の概要について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマの内容についてグループで議論をした内容をまとめ、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので答えること。
③２回以降は授業毎に記録を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業に関する資料を毎回配布する。
⑤不測の事態における授業や補講等でにオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①３０分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、欠席や遅刻をする際には事前に連絡をすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クラスのメンバーと協調できる。	リーダーシップを発揮し、他者へのサポートができた。	他者を尊重するとともに、自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
第三者が理解できる記録を作成できる。	記録をもとに考察ができた。	５Ｗ１Ｈに沿って記述できた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
社会福祉の視点を持つことができる。	他の職業と比較し、福祉の仕事の独自性を述べることができた。	福祉の仕事の独自性を述べることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 アイスブレーキング	自己紹介を行うので、内容を整理しておく(４５分)。	アイスブレーキングの効果を考察する。(４５分)
2	記録の書き方	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	記録のポイントを配布資料トノートで確認する。（４５分）
3	福祉の仕事のイメージ	次回の内容の発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
4	福祉の仕事を目指す理由①	次回の内容の発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
5	福祉の仕事を目指す理由②	次回の内容の発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
6	福祉の職場①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
7	福祉の職場②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
8	中間まとめ	１回から７回の内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
9	福祉に関する資格①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
10	福祉に関する資格②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	役割分担した内容について調べて整理する。（４５分）
11	福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。①	福祉従事者が著した書籍を図書館で借りる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
12	福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。②	福祉従事者が著した書籍を読む。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
13	福祉サービス利用者の手記から福祉の仕事を考える。①	福祉サービス利用者が著した書籍を図書館で借りる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
14	福祉サービス利用者の手記から福祉の仕事を考える。②	福祉サービス利用者が著した書籍を読む。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
15	福祉従事者に求められる資質を考える。	発表内容を整理する。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	１５回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。（４５分）	全体を振り返り、今後の課題を考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解する。提示されたテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力が高まり、また、「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の ＤＰ１、ＤＰ２、DP５に対応する。(2024年度)

到達目標

上記の授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。
「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（３分の２以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができなかった。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席１６回)	概ねゼミに出席できたる。(出席１５～１４回)	休みがちではあるが出席できた。(出席１３～１２回)	欠席が目立つが出席できた。(出席１１～１０回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席９～０回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙＩＡ （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える（４５分）
2	「食生活の重要性を考えるＩＡ」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるＩＡ」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるＩＡ」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるＩＡ」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるＩＡ」⑭	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	まとめ	まとめの準備を行う。（４５分）	まとめの振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西 則昭 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康観について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。不測の事態の際に授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開につておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較的考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開につて考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを比較的わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西 則昭 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバスの説明」	事前にシラバスを読んで確認にする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	人間の生活と健康の調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	人間の生活と健康の調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	人間の生活と健康の調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	人間の生活と健康の調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	人間の生活と健康の調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	人間の生活と健康の調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	人間の生活と健康の調査（まとめ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	健康プログラムを素材にした発表会・討議①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	健康プログラムを素材にした発表会・討議②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	健康プログラムを素材にした発表会・討議③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	健康プログラムを素材にした発表会・討議④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	健康プログラムを素材にした発表会・討議⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	健康プログラムを素材にした発表会⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	健康プログラム調査・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	（まとめ）	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能，思考力・判断力・表現力等及び主体的な学修態度を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

教育の現状（全国・全道・地域）や教育制度等を理解することができる。
教育の諸問題について，自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現することができる。
教員になるために必要な事項を理解することができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸問題についての探究的な学修
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申の学修
教員に求められる基本的資質の獲得（漢字，一般教養等）
学校体験活動等への参加
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」関連科目

授業の方法

各回のテーマに基づいて，探究的な学修（自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現する等）を行う。
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申を通読する。
教員に求められる基本的資質を獲得するための演習を行う。（漢字，一般教養等）
学校体験活動等の成果を発表・共有する。
毎時間，事前事後課題を課す。
課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換，質問対応，小テスト，教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○以下を履修条件とする。
・教職課程に登録し，大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意志を持つこと。
・サブメジャー・プログラムの「教員採用試験対策プログラム」を履修すること。
・担当教員が紹介する学校体験活動等に積極的に取り組むこと。
・事前事後学修に真剣に取り組むこと。
・漢字検定に真剣に取り組むこと。（受検級に合格するまで毎回確実に受検すること。）
・各自，B5版のノートを用意すること（ルーズリーフは不可）。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 自己紹介，決意表明	シラバスを熟読し，履修条件を確認すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	学力とは何か考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	学力とは何か調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	学力とは何か調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	学力とは何か発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	国際社会が育成を目指す学力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	我が国が育成を目指す学力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	国際社会と我が国が育成を目指す学力について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	国際的な学力調査及びその結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	国際的な学力調査及びその結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	我が国の学力調査及びその結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	我が国の学力調査及びその結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	北海道の学力調査の結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	北海道の学力調査の結果について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	北広島市の小中学校の学力調査の結果について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	北広島市の小中学校の学力調査の結果について発表する。（発表・質疑応答） 前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。

自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。

昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ピクトグラム制作、
企業へのＰＯＰ制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（１）（２）（３）（４）（５）に対応する。（２０２３・２２年度）
全学科学科のDP２、DP3、DP６、DP７、DP８、DP１１に対応する。（２０２１年度）

到達目標

(1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にすることができる。
(2) 適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつことができる。
(3) 活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の課題を設定することができる。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講定員15名
受講条件
本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取 り組み、高い コミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	Research activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	Research activities　2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	Research activities　3	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	Creative activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	Creative activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	Creative activities　3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	Creative activities　4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	Creative activities　5	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	presentation①	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	presentation②	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	前期活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が大学で必要となる数学の基礎知識及び２年のゼミナールで行うＳＰＩに必要な知識及び思考過程をしっかり身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ5に対応する。（2023・2022年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ8に対応する。（2021年度）

到達目標

大学で必要となる数学の基礎知識及び２年のゼミナールで行うＳＰＩに必要な知識及び思考過程を修得できる。

授業全体の内容と概要

数から始まり数の計算及び式の計算等を練習問題を計算することによって、数学の問題を解く実感及びＳＰＩに必要な数学の知識をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	３０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学及びＳＰＩに必要な基礎知識の修得	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が１００%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が９０%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が８０%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は計算過程を１００%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を９０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を８０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
2	数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
3	整数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
4	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
5	小数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
6	展開（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
7	展開（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
8	因数分解（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
9	因数分解（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
10	因数分解（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
11	平方根（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
12	平方根（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
13	複素数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
14	分数式（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
15	分数式（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習（45分）	総理解（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、より良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP８に対応する。（２０２１年度）

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前半では都市や建築が時代とともにどのように変化し今に至ったかを学ぶ。特に現代都市や建築の骨格とも言える機能主義に至るまでの過程を学び、都市や建築が抱える課題を理解する。適宜中間テスト又はレポートを実施し、理解度を確認する。後半では主に北広島市及び近隣都市を中心に都市や建築について調査分析を行い、都市空間をアップデートする提案を構想し、表現・発表を行う。
□SDGs３.すべての人に健康と福祉を　□SDGs１１.住み続けられるまちづくりを　□SDGs１２.つくる責任　つかう責任

授業の方法

前半ではパワーポイントを用いた講義を行う。資料として適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。後半では各自調査分析等を行う。各自のパソコンを使う場合がある。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。２０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	４０%	２０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独創且つ具体的手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独創的な手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義及び演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	さまざまな都市・建築空間	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
3	建築都市の歴史1（古代）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
4	建築都市の歴史2（古代・中世）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
5	建築都市の歴史3（近世）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
6	建築都市の歴史4（近代　パリ大改造）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
7	建築都市の歴史4（近代　田園都市）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
8	建築都市の歴史5（近代　モダニズム）	参考書籍等を用いて予習する（45分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
9	建築都市の歴史6（現代）	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
10	現代のまちを考える	参考書籍等を用いて予習する（４５分）	講義内容を復習。紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
11	グループワーク　説明	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
12	グループワーク　調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	グループワーク　作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	グループワーク　作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
15	グループワーク　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	まとめ及び振り返りテストの実施 授業改善アンケートの実施	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅠA		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国（日本）での生活、大学生活をより豊かなものにする。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅠA		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス、授業、評価の説明）、自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP2、DP5に対応する。（２０２４年度）

到達目標

教育制度や内容についてその概要を理解することができる。
教育の諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。
教員として必要な国語力を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
漢字検定等への参加練習を
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
並行して教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など、端的に文章にまとめる練習を行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの『教育採用試験対策プログラム』の履修を条件とする。
○漢字検定取得に真剣に取り組むこと。
○各自、ノートを用意すること。（ルースリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○不測の事態の際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 自己紹介（教員になるための抱負を含む）	教職志望の理由をまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教員になるために必要なことを考える①自分の出会った先生 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○教員になるために必要なことを考える②意見交流 ディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○教員という仕事について考える①体験から考える ディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教員という仕事について考える②意見交流 ディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○教員に求められる資質能力について考える①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○教員に求められる資質能力について考える②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○子供たちを取り巻く状況を知る①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○子供たちを取り巻く状況を知る②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える①各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える②意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える③意見の整理 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○学習指導要領について考える①学習指導要領とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○学習指導要領について考える②学習指導要領の歴史 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○学習指導要領について考える②現在の学習指導要領 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察し、ウィーンでの研修（希望者のみ）の準備を行う。また、このゼミナールでは就職活動時に必要になるスキルの修得を早い段階から始める。キャンパス・ライフを楽しみながら、自由な発想の展開、自己実現などをテーマに学びを広げる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

ドイツ語圏への旅行、留学の際に、困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ウィーンといえば、クラシック音楽である。毎回、クラシック音楽をBGMに、ゆったりとしたペースで授業を行う。ウィーンの文化・見どころについてプリントを配布し、説明を行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	［ウィーンの文化・生活について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	［シェーンブルン宮殿について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	［美術史美術館について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	［ベルヴェデーレ宮殿について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	［シュテファン寺院について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	［ウィーン大学について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	［楽友協会について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	［ウィーンの音楽について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	［モーツァルトについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	［ベートーヴェンについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	［シューベルトについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	［ウィーンの建築について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	［セセッションについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	［ユーゲントシュティールについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	［フンデルトバッサーについて］授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島　康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2004年度）

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「基礎テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
後期の「基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って章立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島　康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ 』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む）	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業15	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館８F		
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会での大学生生活の意義や「青年期」の意味、そして「自分が何者なのか」を考えていく「アイデンティティー形成」の重要性を、広い視点での「キャリア形成」としてとらえて、理解を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

学生生活や青年期問題、またアイデンティティー形成について、単に知識を習得するだけでなく、自らの問題としてそれらを考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者が何を目指して大学生活を送ろうとしているのか考えることを促し、学生生活が青年期の一時期、さらに、アイデンティティー形成を求められる中で営まれるものであることを考察する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針および規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められる水準を大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できる水準にとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準を大きく超えて考察できていた。	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準で考察できていた。	ゼミナール・テーマに取り組み、広く一般的な水準の考察に達していた。	ゼミナール・テーマに取り組んだが、考察が最低限の水準に留まっていた	ゼミナール・テーマへの取り組みが不充分で、内容が理解されていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナール・テーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的な分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項について分析が最低限の水準に留まっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナール・テーマが理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館８F		
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス ゼミナール内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認（45分）	ガイダンス内容および履修登録結果確認（45分）
2	Ⅰ．大学生活への導き １．大学での学びの留意点	学生便覧の確認（45分）	不明点などの確認（45分）
3	Ⅰ．（続き） ２．4年間で何を目指すのか？	自分の目的を明確にする（45分）	目的の再確認（45分）
4	Ⅱ．大学生活と青年期 １．青年期とは何だろう？	児童期・成人期とは異なる青年期のイメージ化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
5	Ⅱ．（続き） １．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
6	Ⅱ．（続き） １．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
7	Ⅱ．（続き） １．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
8	Ⅱ．（続き） ２．現代青年期の問題点	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
9	Ⅱ．（続き） ２．（続き）	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習（45分）
10	Ⅲ．青年期とアイデンティティー形成	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
11	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
12	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
13	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
14	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
15	Ⅳ．1年次前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期すべての学生生活の振り返り（45分）	振り返り内容の再確認（45分）
16	※総まとめ	15回分の内容の振り返り（45分）	総まとめの再確認（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 自己紹介 教育の諸課題について	教育の諸問題についてまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。 （４５分）
2	○教育の諸課題について考える① 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
3	○教育の諸課題について考える② 意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
4	○教育の諸課題について考える③ 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
5	○教育の諸課題の解決策を考える①１ ・教師の仕事について考える 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
6	○教育の諸問題の解決策を考える①２ ・教師の仕事について考える 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
7	○教育の諸課題の解決策を考える①３ ・教師の仕事について考える 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
8	○教育の諸課題の解決策を考える②１ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について （通常の学級・通級指導教室）	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
9	○教育の諸課題の解決策を考える②２ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について （通常の学級・通級指導教室）	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
10	○教育の諸課題の解決策を考える②３ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について （特別支援学校）	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
11	○教育の諸課題の解決策を考える②４ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について （特別支援学校）	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
12	○教育の諸課題の解決策を考える②５ ・特別な教育的支援を必要とする生徒について （通常の学級・通級指導教室、特別支援学校）	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
13	○教育の諸課題の解決策を考える③１ ・不登校について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
14	○教育の諸課題の解決策を考える③２ ・不登校について意見交流 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
15	○教育の諸課題の解決策を考える③３ ・不登校について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること （４５分）
16	前期の学修の総括及び反省 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。 （４５分）	前期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

・ただの趣味ではなく、学問の一つとしてeスポーツを捉えることが出来るようになる。
・適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。
・視野（選択肢）を広く持つことが出来るようになる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

・大学という環境に早く慣れる
・eスポーツとは何なのかを知る

授業全体の内容と概要

・履修登録や授業、Microsoft関係等新しく扱うものについて学ぶ。
・日本、全世界でプレイされているeスポーツタイトルについて学ぶ。
・eスポーツプレイヤーを取り囲む環境について知り、それを体感する。
・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。

授業の方法

・不測の事態が無い限り対面にて行う。
・Microsoft Teamsにて課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
・遊びではなく学習の場であることを理解する。
・自身のPC（できればデスクトップPC）を持っていることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	50%	50%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
eスポーツについての理解	eスポーツについて何を聞かれても説明をすることが出来る。	eスポーツとは何なのかを理解している。	自分の興味がある分野のeスポーツについて理解している。	eスポーツをプレイすることが出来る。	eスポーツについて理解していない。
自身のアウトプット	レポートやプレゼンテーションを作成し、自分の考えを相手に正しく伝えることが出来る。	誰かに手伝ってもらうことで、自分の考えを相手に伝えることが出来る。	資料の作成は出来ないが、自分の考えを相手に話せる。	自分の考えを相手に正しく伝えることが出来ない。	全く自分を表現することが出来ない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・オリエンテーション ・大学生活について知る	シラバスを読む（45分）	履修登録を行う（45分）
2	・レクリエーションを通してゼミ内で仲間、自分の居場所を作る	学生便覧を読み込む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
3	・勉強の仕方を知る ・課題の取り組み方について知る	学生便覧を読み込む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
4	・グループワークについて知る ・プレゼンテーションについて知る	学生便覧を読み込む（45分）	メモやノートを整理する（45分）
5	・eスポーツの基礎知識を学ぶ ・チームを作る	eスポーツについて調べる（45分）	メモやノートを整理する（45分）
6	・eスポーツの実践（VALORANT）	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
7	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
8	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
9	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
10	・中間発表	発表準備（45分）	批評を受けた部分を修正する（45分）
11	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成・修正	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
12	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成・修正	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
13	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成・発表練習	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
14	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成・発表練習	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
15	・eスポーツの実践（VALORANT） ・発表資料の作成・発表練習	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
16	・最終発表	発表準備（45分）	批評を受けた部分を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　雅一 ）		CAP制	全学科・３年	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観、教育観、教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
③現代社会が抱える問題点やその価値観をしっかりと把握する。
④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観を形成し、これからの時代に必要な教育とその方法論を模索する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベート、構成的グループエンカウンターなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものにしているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語ることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは１００％単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算５枚以上（２千字以上）。文字数を明記する。書式は問わない。
公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第１３回の講義当日。一日遅れるごとに１点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　雅一 ）		CAP制	全学科・３年	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［オリエンテーション］ シラバスの説明等	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	［ビギナーズセミナーⅠ①］ 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
3	［ビギナーズセミナーⅠ②］ 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	［コンセンサスゲーム・ディスカッション基礎］ グループディスカッションへの取り組み方について解説する。	グループディスカッションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
5	［コンセンサスゲーム・演習課題①］ グループディスカッションの練習を行う。	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	［コンセンサスゲーム・演習課題②］ グループディスカッションの練習を行う。	前回のグループディスカッションの反省点を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
7	［コンセンサスゲーム・プレゼンテーション基礎］ プレゼンテーションの目的や構成などについて解説する。	プレゼンテーションのコツについて調べる（４５分）	授業内容をまとめる（４５分）
8	［コンセンサスゲーム・事例研究①］ 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回の授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
9	［コンセンサスゲーム・事例研究②］ 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回のプレゼンテーションの反省点を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
10	［総合演習①］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	これまでの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
11	［総合演習②］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
12	［総合演習③］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
13	［総合演習④］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
14	［総合演習⑤］ 提示された内容について、グループごとに取り組む。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
15	［総合演習⑥（成果発表会）］ 提示された内容について、グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）
16	［まとめ・総評］	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容を整理する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA　（科目ナンバリング：BAS001003　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域調査を通して地域への理解を深め、その中で多面的・多角的な視点を養い、地域分析や地域課題解決のための基礎的な能力を養う。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

フィールドワークの基礎を習得する。
調査結果をレポートにまとめる能力の基礎を習得する。

授業全体の内容と概要

本授業は北広島市や北海道におけるフィールドワークを通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめ表現する能力を育成する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

基本的には徒歩または公共交通機関を利用した、フィールドワークを中心に行う。
フィールドワークで得た結果をまとめ、発表する。
資料やレポート等のやり取りはTeamsを活用する。
地理院地図などの地理情報システム（GIS）を活用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

■出席について
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

■フィールドワークについて
フィールドワークの性質上、土曜等に授業を実施する場合がある。
フィールドワーク中に発生する交通費等は自己負担とする。
フィールドワーク中は必ず教員の指示に従うこと。

■その他
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	50%	０％	０％	50%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法の基礎	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
フィールドワークの基礎	フィールドワークを通して、高いレベルで情報を収集し活用することができた	フィールドワークを通して、情報を収集し活用することができた。	フィールドワークを通して、情報を収集することができた。	フィールドワークをすることができた。	フィールドワークをすることができなかった。
空間的な見方	地域調査において、高いレベルで地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図やその他の空間情報を活用することができた。	地域調査において、地図を活用することができた。	地図を活用することができた。	地図を活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA （科目ナンバリング：BAS001003 ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地域調査法①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	地域調査法②	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
4	地域調査法③	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	フィールドワーク①	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	フィールドワーク②	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	フィールドワーク③	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	フィールドワーク④	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	フィールドワーク⑤	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	フィールドワーク⑥	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	調査結果まとめ①	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	調査結果まとめ②	フィールドワークのまとめをしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	調査結果発表①	発表準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	調査結果発表②	発表準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	レポート作成	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題　（科目ナンバリング：PSS122036　　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
②現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	３０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 （科目ナンバリング：PSS122036 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為と	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 （科目ナンバリング：MAN413012，MAN523037 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード当を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義の対象学年は１年生であることから、受講学生が中小企業論を理解するために、受講方法やノートの取り方等を含めて、専門科目の基礎を学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

本講義の達成目標は，①企業という組織を理解している。②中小企業の特徴について述べることができる。③中小企業の問題点を述べることができる。④中小企業における現状の問題解決法について自分の視点から述べることができる。⑤これからの中小企業について自分の視点から述べることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は，日本の中小企業における基礎的な考察を中心に講義を進める。具体的には，中小企業の経営，経営革新，下請け構造，労働，金融などにポイントを絞り，事例考察などを織り交ぜたカリキュラム構成にしている。但し，学生の理解度に応じて，カリキュラムは，適宜，変更する場合がある。

授業の方法

本講義は，パワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して，一連の解説が終了した後，一定の時間，学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は，スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして，講義レポートを実施し，レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義では、講義ノートの作成を義務付ける。講義の際、筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」１０%については、講義ノートの評価とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べることができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を３つ以上述べることができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低１つでも述べることができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。
中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べることができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を３つ以上述べることができた。	講義の内容から、中小企業の課題を３つ以上述べることができた。	最低限、中小企業の課題を１つでも述べることができた。	そもそも中小企業の課題を見つけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 （科目ナンバリング：MAN413012，MAN523037 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『現代中小企業論(増補版）』	高田亮爾/上野鉱/村社隆/前田啓一編著	同友館	2011年	9784496047589	
2	『21世紀中小企業論〔第4版〕：多様性と可能性を探る』	渡辺幸男/ 黒瀬直宏/向山 雅夫	有斐閣アルマ	2022年	9784641221956	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「中小企業論」ガイダンス、シラバスの説明（講義全体の概要，講義のやり方，評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	企業の基本　会社とは？企業活動とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
3	中小企業の定義　なぜ企業規模で分けるのか？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
4	中小企業の研究動向　学術研究とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
5	中小企業の経営問題①　経営とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
6	中小企業の経営問題②　事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
7	中小企業の経営革新①　経営革新とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し（９０分）準備すること。
8	中小企業の経営革新②　事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
9	中小企業と下請けの関係　下請けとは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
10	中小企業と労働者　賃金とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
11	中小企業と金融①　財務諸表とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
12	中小企業と金融②　事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
13	地域経済と地場産業	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
14	中小企業と産業連関構造　経済効果とは？	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
15	まとめ　試験対策、授業改善アンケートの実施	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	定期試験に向けて，これまでの講義レポートを見返し準備すること。（９０分）
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をする（９０分）	試験のフィードバックを受けて中小企業論を総括する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学 （科目ナンバリング：SPS422063，SPS522053 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

スポーツの実践や指導に関わる様々な問題を心理学の側面からとらえることを目的とする。また、競技者や指導者がスポーツを実践する上で必要となる心理学的諸理論を知り、各自の問題解決の一助として活用していくための視点を養う。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ4、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

スポーツを見つめる科学的な視点を養う。スポーツにおける心理学の基礎理論を理解する。スポーツにおける心理学の実践的応用について理解する。

授業全体の内容と概要

スポーツに対する科学としての心理学的視点（認知モデルの紹介）。スポーツにおける人間の行動特徴（モチベーション、行動の個人差）。スポーツにおける人間の行動マネジメント（メンタルトレーニング）スポーツにおける関係としての個人と集団（個人者集団と指導者集団との関係）。スポーツにおける心理学の活用事例（事例から自分自身への適用）。　　「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しスポーツ心理学の事例を紹介しメンタルトレーニングの実践などのＤＶＤも活用しながら講義形式で行う。また、授業の終わりに振り返りを行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ノートやプリントは毎回必ず持参すること。授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力がある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学 （科目ナンバリング：SPS422063，SPS522053 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（９０分）	ガイダンスの内容を理解しておく（９０分）
2	行動としてのスポーツ	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
3	スポーツにおける動機づけⅠ（動機づけを高める原理や方法）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
4	スポーツにおける動機づけⅡ（コーチングの心理、技能の練習と指導）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
5	メンタルマネジメント、リラクセーション	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
6	他者観察（技術指導における効果的指導法）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
7	個人差を考慮したコーチング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
8	日常生活における相談	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
9	運動感覚（筋感覚・内部知覚）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
10	運動学習	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
11	フィードバック、心理的サポート・集中力	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
12	イメージトレーニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
13	あがり、プレッシャー、スランプについて	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
14	性格、自己概念	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
15	心理的コンディショニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	ノート・プリントで講義内容を確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA221118　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。
イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、当たり前だと思っていた文化を捉えなおし、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP４に対応する。（2023年度）

到達目標

現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。
芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。
授業内で提示するマンガ作品について可能な限り事前に読むか、授業で取り上げた後に読むと理解度が高まる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	２０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221118 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究　欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケート結果反映の説明　授業のオリエンテーション 表現・メディア文化として捉えるイラスト・マンガ	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	文化としてのマンガ・イラスト（１）グローバル化する日本の「キャラ」文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	文化としてのマンガ・イラスト（２）複製芸術としてのイラスト・マンガ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	性別文化としてのマンガ（１）「少女」という言説　少女雑誌	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	日本の雑誌文化性別文化としてのマンガ（２）少女マンガの革新性　竹宮惠子『風と木の詩』（1976）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	イラスト表現の位置づけ（１）世界のポスター文化から見たイラスト文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	イラスト表現の位置づけ（２）日本のイラストレーション史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	AI時代のイラスト・マンガを考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	震災とマンガ（１）「少女マンガ」と現実の社会問題 ももち麗子『デイジー』(2012)、萩尾望都『なのは	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	震災とマンガ（２）他メディアとの比較　しりあがり寿『あの日からのマンガ』（2011）、竜田一人『いちえふ』（2014）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	新型コロナとマンガ／感染症とマンガ 朱戸アオ『リウーを待ちながら』（2017）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	マンガとミュージアム（１）マンガミュージアムとは何か？	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	マンガとミュージアム（２）マンガミュージアムの役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	マンガとミュージアム（３）　マンガ・アーカイブの意義　海外のマンガ展　北海道マンガミュージアム構想	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	期末レポートの解説 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	これまでの授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのｱﾌﾟﾛｰﾁ （科目ナンバリング：ARL021018 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２F	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

アート思考の特性を理解し、活用する素地を備えている

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

アート思考の特性を理解している

授業全体の内容と概要

芸術へのアプローチとして、「アート思考」と呼ばれる芸術家の創造的な思考法やものの見方・捉え方を、画像や映像を多く使いながら紹介していく。また、現代アートを中心とした芸術作品の鑑賞法も紹介する。様々な作品や思考法から新たな視点や感覚を感じ取る力を養うことを目指す。ビジネスイノベーションから、人生をより豊かにするためのヒントまで、芸術（特に現代アート）をキーワードに考える教養講座である。

授業の方法

パワーポイント等を用いて作品画像や映像を多く取り入れた講義形式で行う。学生は各自スケッチブックを１冊準備し、そこに講義で得た知識や感覚を『描く』事。また授業内ではディスカッションの場を設けるので、積極的な発言をする事が望ましい。最終的には、講義で紹介した「アート思考」に関する事や、作品に対する独自の批評をまとめ、レポートとして提出する事。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自スケッチブック（又は自由帳）を１冊（大きさは任意）必ず用意する事。
１１回以上出席をしないと評価の対象としない。
第１６回目の講義までにレポートを提出しない場合は評価の対象としない。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回提出するスケッチブックによる点数（課題点30点＋平常点３０点の計６０点）、最終課題であるレポート（４０点）の計１００点で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アート思考の特性を理解している（知識・理解）	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか、またデザイン思考や論理的思考との違いを説明する事ができる。	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか説明する事ができる	アート思考の特性を理解している	アート思考の特性を概ね理解している	アート思考の特性を理解していない
アート思考の活用（思考力・表現力・判断力等）	様々な視点からアート作品を批判的に考察し、作家の思考法を参考に自らも思考する事ができる	様々な視点からアート作品を考察し、作家の思考法を参考にする事ができる	自分なりにアート作品を楽しみ、それを伝える事が出来る	自分なりにアート作品を味わう事が出来る	アート作品を鑑賞する事が出来ない
アートへの関心と探求（主体的に学びに向かう力）	講義内で取り上げた作家だけでなく、様々な作品や作家に興味・関心を持ち、実際に展覧会等へ鑑賞しに行っている	講義内で取り上げたアート作品だけでなく、作品や作家に関心を持ち、書籍等でさらに探求をしている	講義内で取り上げたアート作品や作家に興味・関心を持ち、理解しようと努力している	講義内で取り上げたアート作品や作家を味わった。	アート作品や作家に関心がない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのｱﾌﾟﾛｰﾁ （科目ナンバリング：ARL021018 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２F	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　（講座の概要・シラバス説明） 授業改善アンケートの意義と目的について	シラバスをよく読んでおく事	レポート作成準備（９０分）
2	アートの分類と定義	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
3	現代アート　概観	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
4	アート思考	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
5	制作による研究	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
6	素材	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
7	概念	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
8	表現	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
9	物語	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
10	空間	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
11	社会への介入	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
12	実践紹介１　アート実践と国際協力	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
13	実践紹介２　アート実践と地域創生	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
14	アーティスト取り扱い説明書	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと（９０分）	レポート作成準備（９０分）
15	芸術産業創出へ向けて	レポート作成（９０分）	レポート作成（９０分）
16	レポートまとめ・講評 授業改善アンケートの結果を今後の授業に反映させる	レポート作成（９０分）	

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（M）	（科目ナンバリング：ENL042031 ）			
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を身に付けし、ビジネスでも使われるものを含め、理解できる語彙を増やす。音声変化に慣れることにより、リスニングの能力をつける。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身につける。

授業全体の内容と概要

各ユニットはリーディング、グラマー、リスニングの３つのセクションで構成されている。ビジネスに関する内容を取り上げているため、「ビジネス英語」への橋渡しにもなっている。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては、必ず予習で翻訳してくることを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意し、予習をしてくること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容（語彙・文法・音声変化等）の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすると訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文翻訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（M）	（科目ナンバリング：ENL042031 ）			
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Good Choice!新入社員ショウタと学ぶ大学基礎英語』	津村　修志　他	金星堂	２０１７	9784764740372	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 be 動詞の変化・役割	テキストp.9～12 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
2	つながる音	テキストp.13～14 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
3	be 動詞　否定・疑問文	テキストp.15～18 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
4	聞こえなくなる[t]の音	テキストp.19～20 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
5	一般動詞現在形	テキストp.21～24 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
6	聞こえなくなる[k]の音	テキストp.25～26 予習　（９０分）	授業内容復習 （９０分）
7	一般動詞　否定・疑問文	テキストp.27～30 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
8	聞こえなくなる[d]の音	テキストp.31～32 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
9	３人称単数現在	テキストp.33～36 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
10	つながる音	テキストp.37～38 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
11	３人称単数現在　否定・疑問文	テキストp39～４２ 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
12	[sh]や[s]の音	テキストp.43～44 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
13	代名詞	テキストp.45～48 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
14	主語＋be動詞の短縮形の音	テキストp.49～50 予習（９０分）	授業内容復習 （９０分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （９０分）	期末試験準備 （９０分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(６０分）・解説(３０分)	期末試験準備 （９０分）	期末試験内容復習 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（S）　（科目ナンバリング：ENL042031　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を身に付ける。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力を身に付ける。なお、この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２に対応する。（２０２３年度）

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができていること。
特に、基礎的な英文法の知識が身に付いていること、基礎的な英文の読解力が身に付いていること。

授業全体の内容と概要

毎回、基礎的な英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答（フィードバック）を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、１）その回の説明を行ない、、２）英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、３）その後に解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材（コピー）を配布、使用する。
解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。
授業の最後にまとめと質問の時間（フィードバック）を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席と遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎的事項の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほぼ完全に解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題がほぼ解けた。	テキストの説明の主要な部分が理解されており、テキストの問題が大体解けた。	英文法の初歩がほぼ理解されており、テキストの問題の基本的な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されておらず、テキストの問題が全く解けなかった。
英文読解・作文の理解	テキストの英文が完全に読解でき、基本的な英文がしっかり書けた。	テキストの英文がほぼ読解でき、基本的な英文が大体書けた。	テキストの英文が大体読解でき、簡単な英文が書けた。	テキストの英文の主要な部分が理解でき、単純な英文が書けた。	テキストの英文が全く理解できず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解でき、応用的な展開がしっかりできた。	テキストの英会話文がほぼ理解でき、応用ができた。	テキストの英会話文が大体理解でき、若干応用ができた。	テキストの英会話文の主要な部分が理解できた。	テキストの英会話文が全く理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（S） （科目ナンバリング：ENL042031 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Englishi Once More!』	Y.Aiko、他	朝日出版社	２０１８	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読む。（９０分）	Unit1の予習（９０分）
2	Unit1：be動詞の使い方（１）	Unit1の予習（90分）	Unit1の復習（９０分）
3	Unit1：be動詞の使い方（２）	Unit1の予習（９０分）	Unit1の復習（９０分）
4	Unit2: 一般動詞現在形の使い方（１）	Unit2の予習（９０分）	Unit2の復習（９０分）
5	Unit2: 一般動詞現在形の使い方（２）	Unit2の予習（９０分）	Unit2の復習（９０分）
6	Unit3：過去形の使い方（１）	Unit3の予習（９０分）	Unit3の復習（９０分）
7	Unit3：過去形の使い方（２）	Unit3の予習（９０分）	Unit3の復習（９０分）
8	Unit4：現在進行形の使い方（１）	Unit4の予習（９０分）	Unit4の復習（９０分）
9	Unit4：現在進行形の使い方（２）	Unit4の予習（９０分）	Unit4の復習（９０分）
10	Unit5:未来形の使い方（１）	Unit5の予習（９０分）	Unit5の復習（９０分）
11	Unit5:未来形の使い方（２）	Unit5の予習（９０分）	Unit5の復習（９０分）
12	Unit6:助動詞の使い方（１）	Unit6の予習（９０分）	Unit6の復習（９０分）
13	Unit6:助動詞の使い方（２）	Unit6の予習（９０分）	Unit6の復習（９０分）
14	Unit6:助動詞の使い方（３）	Unit6の予習（９０分）	Unit6の復習（９０分）
15	既習事項のまとめ	Unit1から６を通読する。（９０分）	Unit1から６を通読する。（９０分）
16	６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit1から６を通読する。（９０分）	Unit1から６を通読する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ｉ（D・A）　（科目ナンバリング：ENL042031　）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮嶋　達也　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（２）に対応する。（２０２３・２２年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP3、DP8に対応する。（２０２１年度）

到達目標

英会話の自信を裏付けるためのスピーキング，リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等，コミュニケーションの技法も修得する。
ペアワークを通して，パターンプラクティス等により定型表現を習得し，相手とのコミュニケーションを図れるようになる。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に　既存の英語知識を活用させ，スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し，表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	１0%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅰ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042031 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Project English』	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（９０分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（９０分）
2	Grammar 5sentence patterns Ⅰ(5文型)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
3	Pre-Unit　from A to D	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
4	Unit 1 Where are you from?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
5	Unit 2 How are you?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
6	Unit 3 How many classes do you have?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
7	Review Units 1-3	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
8	Unit4 How much food do you need for your party?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
9	Grammar Gerunds and Infinitive Ⅰ(動名詞＆不定詞①)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
10	Grammar Gerunds and InfinitiveⅡ(動名詞＆不定詞②)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
11	Mid-term Exam.	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
12	Unit 5 How many people are there in your family?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
13	Unit 6 When is your report due？	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
14	Review Units 4-6	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
16	Final Exam.　試験終了後，授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。（９０分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ　（科目ナンバリング：CHI051036　）				
授業担当者（所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るようになる。中検準4級程度のレベルに到達する。
（中国語検定試験（「中検」）は，主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。
「中検」は，中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。
「HSK」は，中国語による設問に中国語で答えることを求め，中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。
したがって，中検は日本の企業での活躍を目指す方，HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。）

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

中国語の発音・文法とあいさつ・簡単な会話をマスターする。中国語を通して、中国人の礼節・習慣なども理解できる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」・「挨拶」・「基本文」・「会話文」・「入れ替え練習と応用」・「新出単語」・「文法」・「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。
中国語の学習を通して、中国の文化や歴史なども理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックをする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーションの出席は必須です。
通算GPAが2.0未満の学生は履修できません。
発音が特に難しいので、できる限り授業に参加し、正確な発音と聴力を身につけるように努力し、ピンインと簡体字を覚え書けるようにしなければならない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は１０回以上
課題を期限内に提出すること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字語彙・文法・読解等）	期末テストで９割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで８割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで７割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで６割以上、語彙・文法の誤りが若干あって理解できていない部分があった。	期末テストで６割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（聴解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ポーッとしている・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ　（科目ナンバリング：CHI051036　）				
授業担当者（所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義ガイダンス：中国語のイメージの簡単紹介、授業方法、他の注意事項	シラバスの内容確認（９０分）	教科書の確認（９０分）
2	第１課 発声：「拼音字母とは」、「拼音字母の構成および数」、「４つの声調の特徴」	教科書P12～P23の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
3	第２課 発声：「基礎韻母（単母音）とそこ発音」「声母表（子音）とその発音」「声調変化」	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
4	第３課 発声：「声母表（子音）とその発音」「複韻母・鼻韻母とその発音」	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
5	第４課 数字の数え方	教科書P30の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
6	第５課 課外活動：中国語を通じて動きましょう	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
7	第６課 基本あいさつ文：初対面・別れ・再会	教科書P32～P39の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
8	第７課 基本文：返事のことば、お礼・お詫びのことば	教科書P40～P47の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
9	第７課 基本文：お祝いことば、感情を表すことば	教科書P48～P51の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
10	第８課 数字の復習、月日・曜日・時刻	教科書P30の復習・P52の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
11	第９課 文法：中国語の主要文型（肯定文・否定文）	教科書P24～P25の予習（９０分）	教科書P26～P27の練習問題（９０分）
12	第１０課 文法：自己紹介などで使う表現	教科書P54～P57の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
13	第１１課 中国語の自己紹介文を作ろう	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
14	総復習Ⅰ　発音の復習、数字の復習、基本あいさつことばの復習	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
15	総復習Ⅱ　フレーズの復習と実際応用練習	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
16	期末テスト	テスト勉強（９０分）	テストへの反省など（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211012 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る.。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方も学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（４０％）、ポートフォリオ点（30％）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０％）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を活用しようと試みている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品に加え、スケッチや文章等も取り入れたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211012 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「美の構成学　―バウハウスからフラクタルまで―」』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	オリエンテーションを振り返り内容を理解する事（４５分）
2	立体構成とは何か	立体構成という言葉について調べてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
3	立体構成基礎１　四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
4	立体構成基礎１　四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
5	立体構成基礎２　三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
6	立体構成基礎２　三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
7	立体構成基礎３　円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
8	立体構成基礎３　円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
9	立体構成基礎４　不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
10	立体構成基礎４　不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
11	紙の加工法１　切る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
12	紙の加工法１　切る・組み立てる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
13	紙の加工法２　折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
14	紙の加工法２　折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
15	構成原理より１　リピテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
16	構成原理より１　リピテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構成原理より２　シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
18	構成原理より２　シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
19	構成原理より３　アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
20	構成原理より３　アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
21	構成原理より４　アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
22	構成原理より４　アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
23	構成原理より５　ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
24	構成原理より７　ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
25	構成原理の活用１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
26	構成原理の活用１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
27	構成原理の活用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
28	構成原理の活用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
29	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
30	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評、授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221038 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　正人 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

イラスト制作に必要なさまざまな画材の使い方、表現方法などを基礎から学び習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP４に対応する。（2021年度）

到達目標

各画材の性質、多様な表現方法を習得して更なる独自のイラスト制作の技術向上に繋げることができる。

授業全体の内容と概要

透明水彩，アクリル絵の具を使用して各課題を製作しながら様々なイラスト表現を身につける。

授業の方法

各課題ごとに課題説明書記載の画材類を毎回持参して授業内で作業を行い，作品提出がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲及び授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題に取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現に於ける画材の知識及び理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めてた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解していなった。
イラスト表現への研究及び習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得への向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎Ⅰ （科目ナンバリング：AEA221038 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　正人 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マイワーク３１』	北海道イラストレーターズクラブアルファ		２０１９年		
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（イラストについての全般的な講義，イラストレーターの仕事，画材類について）。シラバスの説明。授業改善アンケート結果反	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	オリエンテーション（イラストについての全般的な講義，イラストレーターの仕事，画材類について）。シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。（４５分）	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。（４５分）
4	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。（４５分）	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。（４５分）
5	透明水彩絵具を使用して色の作製，画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
6	透明水彩絵具を使用して色の作製，画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
7	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業－１	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
8	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業－１	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
9	透明水彩で着色作業－２。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
10	透明水彩で着色作業－２。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
11	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色 作業－１。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色 作業－１。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－２。	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－２。	イラストラフ制作を進めておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－３。コン セプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
16	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業－３。コン セプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し，アクリル絵具について調べておくこと。（４５分）	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。
18	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し，アクリル絵具について調べておくこと。（４５分）	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。（４５分）
19	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―１	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと（４５分）
20	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―１	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと（４５分）
21	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―２	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を 調べておくこと（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
22	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習―２	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
23	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
24	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し，アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
25	アクリル画制作・１	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
26	アクリル画制作・１	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
27	アクリル画制作・２	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
28	アクリル画制作・２	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
29	アクリル画制作・３	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
30	アクリル画制作・３	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと。（４５分）	作品最終提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
31	アクリル画制作・４。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	アクリル画制作・４。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。授業アンケート実施。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数　（科目ナンバリング：MAT321044　）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横山　哲也　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が建築士受験に必要となる数学の基礎知識をしっかり身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

建築士試験に必要な数学の基礎知識である計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形を修得する。さらに、それらのことを通して、数学において重要なのは答えだけではなく、思考過程であることも理解し、習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、負の数・平方・立方・分数・小数・単位・方程式・連立方程式・比例式・三角関数・展開公式・因数分解・指数・図形の辺の長さ及び面積などを練習問題を計算する及び学生にプレゼンテーションさせることによって、数学の問題を解く実感をつかむ。「ＳＤＧ9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布物資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。課題及び演習の解答は時間内に行うようにし、学生にプレゼンテーションも行わせる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するための予習・復習を怠らず、講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	２０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が１００%理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が９０%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が８０%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	演習問題は計算過程を１００%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を９０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を８０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程能力の向上	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、一部筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数　（科目ナンバリング：MAT321044　）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横山　哲也　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	四則計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	負の数の計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	平方・立法	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	分数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	小数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	単位	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	連立方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	比例式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	三角関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	展開公式・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	指数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	図形の辺の長さと面積	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ行政学 （科目ナンバリング：SPS422062，SPS522052 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では，文化としてのスポーツの捉え方や位置づけを学ぶと共に，国及び地方公共団体の全体的枠組みや関係法令等スポーツ振興の係りについて学習する。また、地域スポーツクラブ等における指導者の必要性や役割等についても学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

国及び地方公共団体等における行政のスポーツ振興施策の現状と目指すべき方向性の概要を理解すると共に，スポーツ指導者のスポーツ振興への役割や心得等について理解することができる。

授業全体の内容と概要

日本スポーツ協会テキストReference Bookに準拠して授業を進める。授業に必要な資料等は，その都度配布する。

授業の方法

本授業は，テキストに準拠し，パワーポイントや配布資料を参照しながら進める。また，授業回によってグループワーク等で思考・考察，意見交換，討論，発表等一連の活動を行い学習する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①ノートを持参し板書する。
②携帯電話の電源を切る。イヤホン着用禁止。
③私語は慎む。
④脱帽、飲食禁止。
⑤授業中の体調不良等は申し出ること。
⑥無断での退出は認めない。
⑦20分以上の遅刻は欠席とする。
＊以上に反する場合は退出とし欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの概念における関心・意欲および授業態度	授業事前事後の学習はもとより，授業中積極的に質問，発言するなど模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしていた。また，理解を深めるため真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。また，理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や板書をこなしていた。	授業中着席するものの課題や板書をしていなかった。
スポーツ振興の知識・理解	授業内容を越える知識を積極的に勉強し理解度を深めていた。	授業内容をほぼ全て理解していた。	授業内容の概ね理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
スポーツ振興の分析・展開	授業内容に留まらず，問題点と課題を展開させ、より良い生涯スポーツ社会の実現に向けた実践的展開を提案できた。	授業内容をほぼ全て理解し，問題点を複合的に捉え分析していた。	授業内容を概ね理解し，複数の問題点を見つけることができた。	授業内容の一部から問題点を見つけていた。	授業内容が理解できないため，問題点を見つけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ行政学 （科目ナンバリング：SPS422062，SPS522052 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして，スポーツの捉え方や位置づけを学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく（９０分）	オリエンテーションの内容を理解しておく（９０分）
2	スポーツの概念と歴史	スポーツの歴史について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
3	わが国のスポーツの固有性と特性および制度	わが国のスポーツの固有性と特性および制度について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
4	わが国のスポーツ行政のしくみ	わが国のスポーツ行政のしくみについて調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
5	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策	わが国のスポーツ振興の根拠法とスポーツ振興施策について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
6	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブ	生涯スポーツの推進と総合型地域スポーツクラブについて調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
7	地方公共団体におけるスポーツ振興施策	地方公共団体におけるスポーツ振興施策について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
8	地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」	スポーツ少年団について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
9	スポーツ行政と地域スポーツ振興施策の課題	学修課題を整理しておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
10	スポーツ指導者とスポーツ行政	スポーツ指導者とスポーツ行政について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
11	スポーツ指導者の役割（指導者の倫理）	指導者の倫理について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
12	スポーツ指導者の役割（指導者の心構え，視点）	指導者の心構え，視点について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
13	スポーツ事故における指導者の法的責任（リスクマネジメント）	スポーツのリスクマネジメントについて調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
14	スポーツ事故における指導者の法的責任（スポーツ事故判例）	スポーツ事故判例について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
15	スポーツと人権（スポーツ倫理と基本的人権）	スポーツ倫理と基本的人権について調べておく（９０分）	板書したノートと教科書をまとめ授業内容の理解を深める（９０分）
16	定期試験及び解説 試験時間６０分，解説３０分 授業改善アンケートの実施	授業全体を振り返り試験準備をしておく（９０分）	試験および解説を踏まえ授業内容の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 （科目ナンバリング：BSM311016 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築材料の具体的な名称や機能を理解し、材料の使用方法を修得することで、今後の専門科目を学ぶために役立つ基礎知識を養う。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

建築学科の専門科目に向けての基礎的知識を修得し、専門用語の理解とその機能を理解できる。また、建築士試験科目を見据えた基礎的学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

構造材料では主に木材・金属・コンクリート等を中心に基本的な特性、品質、規格、形状等について修得し、仕上げ材料などについても理解できるように授業を実施する。

授業の方法

授業形式は板書中心に実施するが、その個々の材料についての特徴などを説明していく。また、状況によってはイラストや写真などの資料を提供し、各材料のイメージしやすくし、解説する。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定テキストと配布資料を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築材料」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 （科目ナンバリング：BSM311016 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『絵とき建築材料　改訂3版』	廣瀬幸男・赤石辰夫・遠藤真弘・廣瀬妙子（共著）	オーム社	2022	978-4-274-22890-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	木材①（木材の特徴・種類・性質）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	木材②（木材の強度・木取り・規格・等級）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	木材③（集成材・合板・木質ボード）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	コンクリート①（コンクリートの特徴・種類・性質）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	コンクリート②（コンクリートの施工と耐久性・セメント・骨材）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	コンクリート③（混和材料・コンクリート製品・セメント製品）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	鋼材①（鋼材の特徴・加工と腐食・種類）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	鋼材②（鋼材の接合・ステンレスとアルミニウム・構造用金物）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	仕上げ材①（石材・ガラス・タイル・レンガ）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	仕上げ材②（外装材・屋根・外壁）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	仕上げ材③（内装材・天井・壁・床）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	機能性材料（防水材料・防火材料・断熱材）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	設備機器等	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	高齢者対応とバリアフリー	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う） 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、１年時に実施したトレーニングの成果を体力・形態測定を実施することで確認し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニングを実践する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても体力の維持、健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

各自、1年時からの体力向上を参考に到達目標を設定し、様々なトレーニング方法を理解し実践できることを目標とする。
生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体力の変化や状態を知る。
様々な種類のトレーニングに関する１年時に学んだ基礎から応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。
遅刻は２回につき１回欠席とする。
運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を良く理解している	ウエイトトレーニングの基本をほぼ理解している	ウエイトトレーニングの基本をある程度理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解していない
体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を良く理解している	体幹トレーニングの基本をほぼ理解している	体幹トレーニングの基本をある程度理解している	体幹トレーニングの基本を理解している	体幹トレーニングの基本を理解していない
ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を良く理解している	ラダートレーニングの基本をほぼ理解している	ラダートレーニングの基本をある程度理解している	ラダートレーニングの基本を理解している	ラダートレーニングの基本を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（GPA・単位取得状況・学生生活など）	GPA・単位取得状況を確認しておく（４５分）	面談内容を理解しておく（４５分）
3	個人面談（GPA・単位取得状況・学生生活など）	GPA・単位取得状況を確認しておく（４５分）	面談内容を理解しておく（４５分）
4	ウエイトトレーニングの基本Ⅰ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネス・テストの実施を確認しておく分（４５分）	職業レディネス・テストの学習内容を復習し理解しておく（４５分）
6	ウエイトトレーニングの基本Ⅱ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
7	ウエイトトレーニングの基本Ⅲ	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
8	体幹トレーニングの基本Ⅰ	体幹トレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
9	体幹トレーニングの基本Ⅱ	体幹トレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
11	ラダートレーニングの基本Ⅰ	ラダートレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
12	ラダートレーニングの基本Ⅱ	ラダートレーニングの基本を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック	体力・形態測定結果を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （アダプテッドスポーツの創造）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
6	アダプテッドスポーツを考える（屋内競技）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	プレゼンテーションの準備　1 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	プレゼンテーションの準備　2 （グループに分かれて）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーション　（屋外競技）　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
11	プレゼンテーション　（屋外競技）　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション　（屋外競技）　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　（屋内競技）　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　（屋内競技）　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　（屋内競技）　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業に関しては、健康とスポーツについて調査し、発表と意見交換を行う。 「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	健康とスポーツについて考える（種目は各自で調査）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	（ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は、欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を確認する。（４５分）
2	レポートの作成 （スポーツと遊び）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	発表と意見交換　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	発表と意見交換　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
6	スポーツと遊びを考える	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	グループ別プレゼンテーションの準備　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	グループ別プレゼンテーションの準備　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	プレゼンテーション　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
11	プレゼンテーション　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	スポーツと健康を考える	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション　1	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション　2	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション　3	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。（４５分）	評価等の内容を確認を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	エビデンスに基づいたトレーニング① 論文の読み方①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	エビデンスに基づいたトレーニング② 論文の読み方②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング③ 論文の読み方③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集と理解① データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	トレーニングデータの収集と理解② データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	トレーニングの実践①	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践②	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	職業レディネス・テスト フィードバックの実施	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集と理解③ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	トレーニングデータの収集と理解④ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	トレーニングの実践③	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングの実践④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	トレーニングデータの収集と理解⑤ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。
・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施します.
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター） FMSとSFMAの理解と習得	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター） FMSとSFMAの実践	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化④	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（2023年度）

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告と討論（1）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告と討論（2）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告と討論（3）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	テスト実施要領の確認（４５分）	テストのふり返り（４５分）
6	テキストの内容報告と討論（4）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告と討論（5）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告と討論（6）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告と討論（7）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	テスト実施要領の確認（４５分）	テストのふり返り（４５分）
11	テキストの内容報告と討論（8）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告と討論（9）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（2）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成（1）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート作成（2）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは「天皇」を取り上げ、明治時代以降「天皇」が日本の近代化にいかに機能したか、を社会学的に考察する。イデオロギーに染まることなく、「天皇」という存在を社会学的・構造神学的に考察する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１，DP２，DP３，DP４に対応する（２０２３年度）

到達目標

・明治時代以降の近代日本社会において、天皇が果たした順機能、潜在機能を理解できる。
・仏教、キリスト教、儒教、イスラム教との比較から、天皇が持つ神性を考察し、理解できる。
・平安時代末期の保元の乱が示した根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミー（無連帯・無規範）の恐怖と、現代日本社会に共通する要因を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『天皇畏るべし－日本の夜明け、天皇は神であったー』（ビジネス社）を基本参考文献とし（ゼミごとに教員が購読パートをコピーし配布する）、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司の文献を参照し、ゼミを進める。

授業の方法

・購読パートを音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加え、併せてディスカッションを行う。
・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
・学生の要望には可能な限り応えるが、教育上問題のある要望には応えられない。
・不測の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	３０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代における天皇が果たした機能を理解する。	ディスカッションにおいて、」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	「明治維新」「明治時代」についての基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
仏教、キリスト教、イスラム教、儒教と比較した天皇の神性を理解する。	ディスカッションにおいて、」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	高校のテキスト「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
保元の乱における根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミーの恐怖を理解する。	ゼミで購読したパートを説明できる。ディスカッションにおいて、」自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	保元の乱以降の日本史の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	高校のテキストの読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
2	明治維新における天皇１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
3	明治維新における天皇２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
4	神の機能（正統性の付与）１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
5	職業レジネステスト	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
6	教育勅語に込められた革新	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
7	キリスト教の論理	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
8	儒教の論理	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
9	天皇の神性１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
10	職業レジネステストのフィードバック	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
11	天下大乱はなぜ起きたか	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
12	日本皇道の失墜	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
13	摩訶不思議なるもの	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
14	天皇が秘める深淵１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
15	天皇が秘める深淵２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
16	天皇が秘める深淵３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が世界と日本の歴史と文化について、資料と文献によって基礎的な知識を身につける。合わせて、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

受講者において、日本と世界の歴史・文化についての基本的な理解ができており、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力が身についている。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が日本と世界の歴史と文化に関する学習（文献調査）とプレゼンテーションを行い、合わせて、教員による説明を加える。適宜、文章作成の練習も取り入れる。

授業の方法

毎回、１）受講者による文献調査、２）プレゼンテーション・質疑応答、３）教員による補足・講評（フィードバック）を行う。合わせて、文章作成の練習も加える。　※プレゼンテーション、講評では板書、ボード、スライドを使用。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	２０%	６０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・分析能力	多様で正確な情報の収集と分析ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集と整理ができ、適切な発信ができた。	情報収集と整理の基本が身に付いており、発信の基本ができた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、指示によって発信ができた。	指示による情報収集と整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論と明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	適切な議論とプレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが遂行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化に関する理解・認識	ヨーロッパの歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によってヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができた。	指示によるヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、教員によるヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
2	受講者による調査とプレゼンテーション（１）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(４５分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション（２）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(４５分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
4	受講者による調査とプレゼンテーション（３）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(４５分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(４５分)
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(４５分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション（４）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
7	受講者による調査とプレゼンテーション（５）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
8	受講者による調査とプレゼンテーション（６）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
9	受講者による調査とプレゼンテーション（７）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
11	受講者による調査とプレゼンテーション（８）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
12	受講者による調査とプレゼンテーション（９）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
13	受講者による調査とプレゼンテーション（１０）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
14	受講者によるレポート作成（１）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
15	受講者によるレポート作成（２）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
16	受講者によるレポート作成（３）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い用語と意味を覚える。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

①福祉に関する専門用語を覚える。
②自分に適した暗記方法を身につける。
③協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で使われることが多い専門用語と、その意味を暗記する。
②暗記方法の工夫ができるようになる。
③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
④内容により、使用する資料を配布する。
⑤不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①30分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
③不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い用語と意味を理解できる。	用語の意味を自分の言葉で言い換えながら、解説ができた。	用語の意味を自分の言葉で言い換えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
暗記ができる。	自分に適した方法を用いて、暗記ができた。	指導方法に従って暗記ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部出来た。	助言があってもできなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い用語①	福祉の授業の中で知った「あ」行の単語を書き出す（４５分）。	単語カードを作る。（４５分）
2	福祉の現場で用いられることが多い用語②	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
3	福祉の現場で用いられることが多い用語③	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
4	福祉の現場で用いられることが多い用語④	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
6	福祉の現場で用いられることが多い用語⑤	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「た」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
7	中間まとめ	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「た」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。 クラスのメンバーの暗記方法を参考にし、暗記方法の工夫を試みる。
8	福祉の現場で用いられることが多い用語⑥	単語カードを見直す。福祉の中で知った「な」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
9	福祉の現場で用いられることが多い用語⑦	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「は」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	卒業後の進路について考える。（４５分）	卒業後の進路について考える。（４５分）
11	福祉の現場で用いられることが多い用語⑧	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「は」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
12	福祉の現場で用いられることが多い用語⑨	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
13	福祉の現場で用いられることが多い用語⑩	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
14	福祉の現場で用いられることが多い用語⑪	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「や」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
15	福祉の現場で用いられることが多い用語⑫	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ら」「わ」行の単語を書き出す。（４５分）	単語カードを作る。（４５分）
16	まとめ	単語カードを見直す。（４５分）	自分の暗記の方法を考察する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科の ＤＰ２、ＤＰ5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

基礎ゼミナールⅠから継続して考えていきながら、学生それぞれが１つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（３分の２以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持に食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席１６回)	概ねゼミに出席できた。(出席１５～１４回)	休みがちではあるが出席できた。(出席１３～１２回)	欠席が目立つが出席できた。(出席１１～１０回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席９～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	「食生活の重要性を考えるⅡA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるⅡA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるⅡA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネス・テストについて内容を予習する。（４５分）	職業レディネス・テストの実施について振り返りを行う。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるⅡA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	「職業レディネステスト」についてポイントを整理する。（４５分）	「職業レディネステストのフィードバック」について再度振り返りを行う。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	まとめ	まとめの準備を行う。（４５分）	まとめの振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持っことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。、
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とします。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１００%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認するする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	健康に関する調査についての説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	健康に関する研究調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	健康に関する研究調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	職業レディネス・テスト実施(キャリア支援センター)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	健康に関する研究調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	健康に関する調査④	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	健康に関する研究調査⑤	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	健康に関する調査⑥	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	健康に関する研究調査⑦	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	健康に関する研究調査⑧	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	健康に関する研究調査⑨	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	健康に関する研究調査のまとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	健康に関する研究調査のまとめ「	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	全体のまとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
学校視察やボランティア活動等への参加
漢字検定等への参加
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。
板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの『教育採用試験対策プログラム』の履修を条件とする。
○漢字検定の受検級合格まで毎回必ず検定を受けることを履修の条件とする。（目標準２級）
○紹介する体験活動に積極的に取り組むことを履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業内で別途指示する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 学修計画の作成	教職志望の理由をまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○中学校学習指導要領総則についての学修①教育課程の編成、実施、評価 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）
3	○中学校学習指導要領総則についての学修②生徒の発達の支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○中学校学習指導要領総則についての学修③学校運営上の留意事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○中学校学習指導要領道徳についての学修①目標・内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○中学校学習指導要領道徳についての学修②指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○中学校学習指導要領道徳についての学修③内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○中学校学習指導要領についての学修①専門教科の目標 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバックの実施（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
11	○中学校学習指導要領についての学修②専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○中学校学習指導要領についての学修③専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○中学校学習指導要領についての学修④専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○中学校学習指導要領ついての学修⑤専門教科の指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○中学校学習指導要領についての学修⑥専門教科の内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	小山　尋明（建築学科・准教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者： 小山　尋明 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを基礎ゼミナールＩＡ．Ｂより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。携っている競技の試合分析をする知識と理解力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
全学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５対応する。（２０２３・２２年度）
経営学科のＤＰ１、DP８に対応する。（２０２１年度）
社会福祉学科のＤＰ２、DP４、DP８、DP１０に対応する。（２０２１年度）
デザイン学科のＤＰ１、DP８に対応する。（２０２１年度）
建築学科のＤＰ１、DP２、DP3、DP４、DP８に対応する。（２０２１年度）

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできるようにする。また，試合の分析・考察(心理的)も出来る。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナールＩＡ．Ｂを基に個人に必要なフィジカルとメンタルトレーニングを実践し、自分の競技の試合をどのように分析・考察(心理的)すればよいのかを考える。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。また，コンディショニングの方法・心理的などについての分析を行い、次の大会などに活かせるようにする。なお、次回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細については、ガイダンスにて説明する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	６０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことが７割程度できた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが７割程度できた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察が７割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	小山　尋明（建築学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小山　尋明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(４５分)	ガイダンスの内容を理解しておく(４５分)
2	トレーニング実践　1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
3	トレーニング実践　2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
4	トレーニング実践　3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
5	トレーニング実践　4 (フィジカルとメンタル) 職業レディネス・テストの実施（キャリア支援セン	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
6	トレーニング実践　5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
7	トレーニング実践　6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
8	試合分析　1 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
9	試合分析　2 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
10	試合分析　3 (心理的・コンディショニングの方法) 職業レディネス・テストのフィードバック（キャリ	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
11	試合分析　4 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
12	試合分析　5 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
13	試合分析　6 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
14	試合分析　7 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
15	試合分析　8 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(４５分)	専門用語の意味を理解しておくこと(４５分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエーション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（１）（２）（３）（４）（５）に対応する。（２０２３・２２年度）
全学科学科のDP２、DP3、DP６、DP７、DP８、DP１１に対応する。（２０２１年度）

到達目標

（1）制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
（2）様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
（3）各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	40%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取 り組み、高い コミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	職業レディネス・テスト	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	Research activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	Research activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	Creative activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	Creative activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	職業レディネス・テスト フィードバック	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	Creative activities　3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	Creative activities　4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	presentation①	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	presentation②	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	前期活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が就職活動を行う時に必要なＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本をしっかり身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ5に対応する。（2023・2022年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ8に対応する。（2021年度）

到達目標

ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）と解き方（思考過程）の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	３０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＳＰＩに必要な基礎知識の修得	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が１００%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が９０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が８０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が７０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方（思考過程）を１００%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を９０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を８０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を７０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
2	濃度（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
3	濃度（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
4	濃度（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
6	速さ・距離・時間（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
7	速さ・距離・時間（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
8	速さ・距離・時間（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
9	ものの値段と個数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
11	定価・原価・利益	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
12	割合と値段（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
13	割合と値段（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
14	仕事算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
15	表の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習（45分）	総理解（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、一人ひとりがより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP８に対応する。（２０２１年度）

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

１年生での学びをさらに発展、空間的な提案力向上を目的とし、複数の課題を通して、各自の空間に対する興味や関心を掘り下げ、都市や建築空間の楽しみ方を学び、提案の幅を広げるトレーニングを行う。個人ワークを基本とし、調査・構想・表現を行う。 □SDGs３.すべての人に健康と福祉を □SDGs１１.住み続けられるまちづくりを □SDGs１２.つくる責任　つかう責任

授業の方法

課題の説明はパワーポイント等を用いる。 また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。 模型製作に必要なカッターマット（A３サイズ推奨）、カッター、ボンド、金尺（１５cm,３０cm）、スコヤを用意すること。 調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。２０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	８０%	0%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独創且つ具体的手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独創的な手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	課題１（空間を楽しむ）　説明・調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
3	課題１（空間を楽しむ）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
4	課題１（空間を楽しむ）　発表	課題の関連事項を調べる（４５分）	プレゼンをまとめる（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	プレゼンをまとめる（４５分）	発表を自己評価すること（４５分）
6	課題２（模型）　課題説明	対象を事前に調べる（４５分）	課題の関連事項を調べる。（４５分）
7	課題２（模型）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
8	課題２（模型）　作業	課題の関連事項を調べる（４５分）	作品を仕上げる（４５分））
9	課題２（模型）　発表	プレゼンをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストについて調べる（４５分）	職業レディネステストの感想を書く（４５分）
11	課題３（設計提案）　説明・調査	対象を事前に調べる（４５分）	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
12	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	課題３（設計提案）　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
15	課題３　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	課題３　発表・まとめ	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅡA		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

到達目標

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅡA		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス、授業、評価の説明）、自己紹介・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター） 異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター） 異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	前期学習範囲の総括および反省・最終課題の提出(担当：佐藤)	最終課題提出の準備（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年）

到達目標

①福祉に関する専門用語を覚える。
②自分に適した暗記方法を身につける。
③協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
②フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
④内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術①	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
2	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術②	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術③	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術④	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	職業レディネステストの準備を行う。（４５分）	職業レディネステストの振り返りを行う。（４５分）
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑤	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
7	中間まとめ	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
8	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験①	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験②	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	職業レディネステストの振り返りをする。（４５分）	フィードバックの振り返りを行う。（４５分）
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験③	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験④	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑤	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑥	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑦	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
16	まとめ	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関するさまざまな現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2022・2023年度）
デザイン学科のDP1、DP8に対応する。（2021年度）

到達目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか？』	吉岡洋、岡田暁生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション　自己紹介など	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	学内施設・システムの活用方法（１）文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	資料を読む（１）文献の読解・調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	資料を読む（２）文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
6	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（１）作品分析：近藤聡乃のマンガ作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（２）作品分析：近藤聡乃のアニメーション作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（３）プレゼンテーションの方法とレポートの書き方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
9	個人発表（１）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
11	個人発表（２）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（３）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（４）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	個人発表（５）	レポート作成の準備をする（45分）	レポートを作成する（45分）
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公務員という仕事の理解を深めるため、行政各種の取り組みを調べ、自らの向かうべき公務員の姿を明らかにして、そのために必要な学習を自ら行えるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（２０２３年度）

到達目標

行政の制度や服務について概要を理解することができる。
社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

公務員の種類と職務について調べ学習
行政の機構と今日的課題についてリサーチ
SPI３対策を通した一般教養の学修
漢字検定等への参加
「SDG11　住み続けられるまちづくりを」の関連内容

授業の方法

任意のテーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。
公務員として求められる一般教養、文章力、語彙力の向上のための演習を行う。
資料内容、発表内容等に対する振り返りや、自己評価を下にしたフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育または行政に強い関心がある者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、関連する事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を期待するレベルまで到達することができなかった。
テーマに基づく内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をすることがなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、常に自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ関心をもって取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもち、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（取組の概要、シラバスの説明等）一般的な発達論の考え方等について	シラバスを読む（４５分）	説明内容を整理する（４５分）
2	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 自己アピール文作成	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
3	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 自己アピール文作成	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
4	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
5	職業レディネステスト（キャリア支援センター）		
6	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
7	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
8	公務員の種類と服務について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
9	公務員の倫理について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
10	職業レディネステストフィードバック（キャリア支援センター）		結果を自己分析する（４５分）
11	公務員の倫理について 漢字小テスト 文章読解と要約	公務員について調べる。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
12	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
13	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
14	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
15	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）
16	自治体の行政について 漢字小テスト 英語読解	各自治体のHPを閲覧する。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールＩＡ・ＩBを土台とし、ライフコースが多様化した現代社会でのキャリア形成に向けて「働くこと」や「職業活動」の意義を考察し、理解を目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ライフコースの多様化、労働および職業について単に知識を習得するだけでなく、自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者がどのようなキャリア形成……働くこと、仕事、職業、活動分野……を目指すのか意識することを促し、現代社会の中での可能性を考察する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組んだが、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不充分で、内容が理解されていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナールテーマが理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰルⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認（45分）	ガイダンス内容および履修登録結果確認（45分）
2	Ⅰ．現代社会の「労働」 1.「労働」観の移り変わり	「働くこと」対する自分の価値観の意識化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
3	Ⅰ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
4	Ⅰ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
5	Ⅰ※職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	レディネス・テストの意義確認（45分）	レディネス・テストの振り返り（45分）
6	Ⅰ.2.　現代の「労働」の特質	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
7	Ⅰ.2.（続き）	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習（45分)）
8	Ⅱ．現代社会の「職業」 1.「職業」活動の意味	「職業」とはどのような活動であるかの意識化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
9	Ⅱ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
10	※職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	レディネステスト結果の自己予想（45分）	レディネステスト結果の自己確認（45分）
11	Ⅱ.1.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
12	Ⅱ.2.「職業」の選択に向けて	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
13	Ⅱ.2.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習」（45分）
14	Ⅱ.2.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
15	Ⅲ.前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期のすべての活動の振り返り（45分）	振り返り内容の再確認（45分）
16	※総括・振り返り	15回分の内容の振り返り（45分）	総括の再確認（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠに引き続き、建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察する。さらにドイツ語学修に重きを置き、ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。観光・留学などドイツ語圏で困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ドイツと言えば、クラシック音楽である。クラシックをBGMに用いたリラックスした学習環境の中で、ドイツ語の文法と会話を学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ウィーンを含めたヨーロッパの絵画、建築、音楽等に興味があり、ドイツ語を修得したい学生であればだれでも受講可能。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	［ドイツ語の発音について］　基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	［ドイツ語の動詞について］　動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	［不規則変化動詞について］　不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	［名詞と冠詞について］　名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	［名詞の複数形について］　ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	［特殊な動詞の変化について］　特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	［特殊な動詞の変化について］　特殊な動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	［前置詞について］　ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	［３・４格支配の前置詞について］　３・４格支配の前置詞について学び、３格と４格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	［接続詞について］　ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	［ヒアリング練習］　ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	［ドイツ語検定５級について］　問題の傾向と対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	［前期学修内容の復習］　前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡA （科目ナンバリング：BAS002005 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	○オリエンテーション（シラバスの説明含む） ・自己紹介 ・教育法規について	教育の諸問題についてまとめること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教育政策・教育行政と法 ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○日本国憲法の教育条項① ・関係資料の通読 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○日本国憲法の教育条項② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	職業レディネス・テストの実施（キャリア支援センター）	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	今後の進路について考え、整理すること。（４５分）
6	○教育基本法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○国・地方の教育行政の組織・機能と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○国・地方の教育行政の組織・機能と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○教育委員会制度と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	今後の進路について考え、整理すること。（４５分）
11	○教育財政と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○教育財政と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○学校制度・就学制度と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○学校制度・就学制度と法② 学修発表 ・ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○教育免許・養成制度と法① 関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	○教育免許・養成制度と法② 学修発表 前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：S0E011012 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・教授）　河野　善文（経営学科・教授）　青山　浩之	研究室等所在	２号館８階（山本）　１号館２階（河野）　１号館４階（青		
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

変化する現代社会の特質を知り、その中で働くとはどのようなことか、職業とは何か、またそれらをめぐる諸問題に目を向け、「学生」が「職業人」になっていくことの意味を理解し学ぶ。自分のキャリアを客観的に見つめ、自らの卒業後のビジョンを描き、それを実現するためには何をすべきかについて考察する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

各単元内容について単に知識を習得するだけでなく、「学生」から「社会人」に移行していく自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察する姿勢をもつことができる。

授業全体の内容と概要

まず、自ら生涯における「キャリア」とは何かを知り、続いて、「働くこと」はどのようにとらえられてきたか、現代社会の「労働」はどのような特質を持っているか、分業が発達した社会での「職業」活動の意味について理解する。そして、「学生」が「職業人」へ移行していく過程を受講者自らに問題として理解し、考察する。とくに、演習のなかで書きながら考えることによって自己理解を深める。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式（PBL含む）で行い、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の理解を知るための小文（課題・レポート）を提出してもらい、授業内でフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各単元のテーマについて自ら考える「主体性・能動的」な姿勢での授業参加を求める。本講座は定期試験を実施しないため、各回の演習課題の評価で単位認定を行う。欠席があると単位の取得は難しい。
・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３５%	３５%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	各担当者の実施する小文（課題・レポート）の結果が各単元で求められる知識修得レベルを大きく超えていた。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識を確実に修得できていた。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識をほぼ修得できていた。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識を最低限容認できるレベルにとどまった。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識を修得できなかった。
思考力・判断力	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が一般的な水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準にとどまっていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
実社会における労働生活・職業活動への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会問題について、充分に主体的分析ができいていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的な水準できていた。	分析や主体性が最低限の水準にとどまっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
課題における意見の提示と展開	自分の考えが根拠とともに論理的かつ明確に展開・提示されている。	自分の考えが根拠とともに、ある程度明確に展開できている。	自分の考えが明示されている。展開もしくは根拠のいずれかが不十分である。	自分の考えが示されているか、展開ならびに根拠のどちらも不十分である。	自分の考えが示されていない。
課題の構成・書式	各担当者が指示した構成と書式にそって過不足なく適切に課題が整えられている。	各担当者が指示した構成と書式にある程度そった形で課題が整えられている。	各担当者の指示に基づいて課題が整えられているが、構成ないし書式のいずれかに不備がみられる。	各担当者の指示に基づいて課題が整えられているが、構成と書式のどちらにも不備がみられる。	提出課題が、各担当者が指示した構成と書式にそっていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：S0E011012 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・教授）　河野　善文（経営学科・教授）　青山　浩之	研究室等所在	２号館８階（山本）　１号館２階（河野）　１号館４階（青		
単位数	2 （単位認定責任者：　青山　浩之　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 ～キャリアデザインとは何か～ 授業改善アンケート結果反映の説明	キャリアとは何かを調べ、考えておく（４５分）	ノートにキャリアとは何かについてまとめておく（４５分）
2	Ⅰ.ライフデザインとキャリア……現代社会のキャリア形成（担当：山本）	自らの将来展望のイメージ化・意識化（４５分）	「キャリア」とは何であるかの復習（４５分）
3	Ⅱ.「働くこと」をどうとらえるか？……現代の「労働」の特質（担当：山本）	自らが「働くこと」をどうみているかについての意識化（４５分）	さまざまな「労働」観と現代的「労働」についての復習・理解（４５分）
4	Ⅲ.現代産業社会と「職業」……社会と個人の結び目としての「職業」（担当：山本）	自らが「職業」活動をどう見ているかについての意識化（４５分）	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復習・理解（４５分）
5	Ⅳ.「学生」から「職業人」へ……ライフコースの変化と「職業人」に求められるエンプロイアビリティー（担当：山本）	現代人の人生経路についてのイメージ化（４５分）	何が「職業人」に求められるかについての復習・理解（４５分）
6	自分を知る（1）（担当：星野） 自己理解の重要性を理解する	これまでの自分を振り返り、私とは何かを考えておく（４５分）	自分の個性について気づいたことをノートにまとめておく（４５分）
7	自分を知る（2）（担当：星野） これまでの自分のストーリーを振り返り、将来について考える	自分が興味を持っていることをノートのまとめておく（４５分）	課題を作成することで気づいたことをノートにまとめておく（４５分）
8	自分を知る（3）（担当：星野） 職業に対する自分のイメージの偏りを知る	これまでの課題から気づいたことをノートにまとめる（４５分）	課題を作成することで気づいたことをノートにまとめておく（４５分）
9	自分を知る（4）（担当：星野） 複数の未来を想定して自分を見つめる	今までの課題で気づいた自分から、どのように働きたいかをイメージしておく（４５分）	自分のキャリア目標達成には、どのような学びが必要かをノートにまとめておく（４５分）
10	大学での学びをデザイン（１）（担当：河野） 就活で求められることを考える	就活で求められるものを考えてノートに書く（４５分）	今回の授業での学び・演習をノートに整理（４５分）
11	大学での学びをデザイン（２）（担当：河野） 就活で求められることを考える	就活で求められるものを考えてノートに書く（４５分）	今回の授業での学び・演習をノートに整理（４５分）
12	大学での学びをデザイン（３）（担当：河野） 就活で求められることを考える	就活で求められるものを考えてノートに書く（４５分）	今回の授業での学び・演習をノートに整理（４５分）
13	大学の学びとキャリア（１）（担当：青山） 大学で何を学び、身につけなければいけないか ～学生のキャリア３つの視点～	社会で求められる力とは何か、社会人基礎力について調べ学習（４５分）	プリントの空欄を記入し、目標について考える（４５分）
14	大学の学びとキャリア（２）（担当：青山） 大学１～２年生のキャリアデザイン ～課題「自己ＰＲ」～	就職活動における自己ＰＲについての調べ学習。「自己ＰＲ」課題１作成（４５分）	提出した「自己ＰＲ」課題1の添削。「学生時代に力を入れたこと」課題2作成（４５分）
15	大学の学びとキャリア（３）（担当：青山） 「働く」ということを考える ～新卒採用の選考を突破するために～	就職活動のスケジュールの調べ学習。就職活動のスケジュールの調べ学習。「学生時代に力を入れたこと」課題２作成（４５分）	「自己ＰＲ」の解説をもとに、課題１・２を添削作成（４５分）
16	講義のまとめ　講義を振り返り、自分のキャリアとこれからすべき行動を再確認 授業改善アンケートの実施	これまでの講義を振り返り、ノートで講義内容を確認（４５分）	授業をとおして行った振り返りの内容についてノートにまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策　（科目ナンバリング：SWS121017　　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。
②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。
③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。
④福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３、DP４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

①社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な知識を身につけることができる。
②社会変化と福祉制度の変遷（変わること）の関連を説明できるようになる。
③「公平な社会」を「共生社会」と関連づけることができる。

授業全体の内容と概要

①福祉を学ぶための基盤となる考え方や基礎知識を学ぶ。
②福祉サービスをソーシャル・サービス、福祉政策をソーシャル・ポリシー（社会政策）と福祉を幅広く捉えるようになった背景（要因・理由）とその内容（考え方・概念）を学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①授業のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。
②開始５～１０分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は，パワーポイントを使用し、レジュメの空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。　質問には随時対応する。
③復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考にノートにまとめることを推奨する。
④中間試験（論述）を採点後返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

社会保障や相談援助の基盤と専門職など，他の授業との関わりに注意する。
授業中の積極性（質問、質問への解答など）は、その場で確認することで成績に反映させる。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業をオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０／１５回以上（１６回目は定期試験）。
積極的な授業参加（発言する，質問する，回答する，メモを取る，など）を平常点とする。
論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉の歴史について	社会変化と福祉制度変遷の背景を知識として身に付け、今後の福祉制度の在り方を自己の考えとして表現できた。	社会変化と福祉制度変遷の背景を基礎知識として（質問への回答，試験の論述，など）に使用　することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関連付けて説明することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができなかった。
社会福祉の理論（哲学，思想を含む）について	社会福祉において公平性と効率性のバランスが重要であることを理解できた。	社会福祉の論点が何かを把握することができた。	理論の基盤となる用語の意味を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できなかった。
ソーシャル・ポリシー（福祉政策）について	幅広い概念のソーシャル・ポリシーを用いる理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの目的と公平な社会の実現の関連を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーにおいて公平性が重要な理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの概要を理解できた。	ソーシャルポリシーの概要を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策　（科目ナンバリング：SWS121017　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　４　社会福祉の原理と政策』	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（授業改善アンケート結果について，シラバスの説明を含む）と社会福祉の原理について（自助として市場の論理と所得再分配を含	シラバスの読み込みと市場原理を調べてくる（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	社会福祉の歴史について（社会変化と福祉制度変遷の関係性）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようる（９０分）（90分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
3	社会福祉の歴史について（欧米の社会福祉の歴史的展開）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
4	社会福祉の歴史について（日本の社会福祉の歴史的展開）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
5	社会福祉の思想・哲学について　（人間の尊厳、社会正義などを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
6	社会福祉の理論について（基本的な考え方について）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
7	社会福祉の論点について（効率と公平、リバタリアン・パターナリズムなどを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	今回のノートをまとめるとともに中間小試験のため見直しを行う（９０分）
8	前半のまとめと中間小試験	これまでのまとめから中間小試験の準備をする（９０分）	自身の解答を振り返る　（９０分）
9	社会福祉の対象とニーズについて（demandsとneedsの違いと変遷を含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
10	現代社会の課題について（人口減少、少子高齢化などを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
11	現代社会の課題背景について（社会構造・情勢の変化を含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
12	福祉政策の基本的視点について（福祉レジームを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
13	ソーシャル・ポリシーと福祉政策（1）－社会政策のなかの福祉政策	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	ソーシャル・ポリシーと福祉政策（2）－福祉政策の体系	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
15	まとめとして、現代社会の課題と福祉政策の変遷についての確認 授業改善アンケートの実施	これまでの授業を振り返り，福祉において公平がなぜ重要かを考えてくる　（９０分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする（９０分）	社会福祉の原理と政策Ⅱの授業に向けて、試験の振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅰ　（科目ナンバリング：EDP122066　）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に時間を調整し研究室にて対応。				

概要

履修目標

１．保育実践にかかわる，人の発達理論等の心理学的知識を理解する。
２．生涯発達の観点から，人の発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し，
　　保育における人との相互的関わりや環境の重要性について理解する。
３．人の発達に関わる心理学の基礎知識を学び，養護および教育の一体性や
　　発達に即した援助の基本となる人への理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP３，DP4，DP５に対応する（２０２４年度）

到達目標

人の発達過程における心理学の基礎知識を習得することができる。
習得した知識を子どもを理解する上で用いることができる。

授業全体の内容と概要

「発達」を人の誕生（受胎）から死に至るまでの心身の変化ととらえ，発達過程をいくつかの段階にわけ，特に誕生から児童期までを中心にその特徴を学ぶ。

「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，テキスト，パワーポイント，資料等を適宜活用した講義形式で行う。
授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をteams課題から提出する。
質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分で振り返ることができるようなノートやテキスト，資料づくりを心がける。
授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為（私語など）を慎む。
必ずテキストを購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程（必修）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。
小テスト（3回予定），授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート），授業態度を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	70%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容（発達心理学の基本的用語等）について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	発達心理学の基礎知識を利用して，こどもの状況理解ができ，資料等を見ずに説明することができた。	発達心理学の基礎知識を利用して，こどもの状況理解ができ、資料等を見ながら説明することができた。	こどもの状況を発達心理学の基礎知識の中から探すことができた。	こどもの状況を言葉で表すことができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅰ　（科目ナンバリング：EDP122066　）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『完全カラー図解よくわかる　発達心理学』	渡辺　弥生	ナツメ社	２０２１	978-4-8163-7057-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『発達心理学１５講』	高橋一公・中川佳子	北大路出版	２０１４	978-4-7628-3057-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明 発達心理学とは，生涯発達とはな	発達心理学で学ぶことについて調べる（９０分）	発達心理学で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	発達理論，発達研究等について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	胎児期・乳幼児期の発達① お腹の中にいる時の赤ちゃんは何をしているのだろうか？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	胎児期・乳幼児期の発達② 乳児の視知覚、運動	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	胎児期・乳幼児期の発達③ 愛着形成について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	胎児期・乳幼児期の発達④ コミュニケーションの発達について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	幼児期の発達① 言葉の発達、絵の発	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	幼児期の発達② 感情の発達	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	幼児期の発達③ 社会性の発達	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	幼児期の発達④ まとめ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	児童期の発達① ピアジェの発	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	児童期の発達② 動機づけ、自尊心	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	児童期の発達③ 友達づきあい	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	児童期の発達③ 道徳性	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	児童期の発達④ いじめ、不登校、発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	これまでのまとめ 授業改善アンケートの実施	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	試験の振り返りを行う（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CME412008，CME512005 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照 ②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業の位置づけ

経営学科のDP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業全体の内容と概要

マーケティングのプロセス、マーケティングミックス４P（製品、価格、チャネル、販売促進の各領域）の体系的理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的なマーケティングを理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクター投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視し、15分以上の遅刻・途中退出は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１1回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マーケティングの戦略プロセスの基本的な理解。	戦略プロセスの基本を完全に理解し、事例に対し自らの革新的な戦略プロセスを策定できる。	戦略プロセスの基本を十分に理解し、事例に対し自らの戦略プロセスを策定できる。	戦略プロセスの基本的を理解し、事例に対し戦略プロセスを当てはめることができる。	戦略プロセスの基本を理解できる。	戦略プロセスの基本を理解していない。
マーケティング環境分析及びS・T・Pの理解。	環境分析、STPの基本を完全に理解し、事例に対し自らの環境分析による革新的なSTP戦略を策定できる。	環境分析、STPの基本を十分に理解し、事例に対し自らの環境分析、STP戦略を策定できる。	環境分析、STPのの基本を理解し、事例に対し現状の環境分析、STPを当てはめることができる。	環境分析、STPの基本を理解できる。	環境分析、STPの基本を理解していない。
マーケティングのブランド戦略、ブルーオーシャン戦略等の理解。	ブランド等の戦略の基本を完全に理解し、事例に対し自らの革新的な戦略を策定できる。	ブランド等の戦略の基本を十分に理解し、事例に対し自らの戦略を策定できる。	ブラン等の戦略の基本を理解し、事例に対し戦略を当てはめることができる	ブランド等の戦略の基本を理解できる。	ブランド等の戦略の基本を理解していない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CME412008，CME512005 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	アフターコロナのマーケティング　ケース１　USJとディズニーリゾート 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
2	４つのコンセプト　　ケース２　アップル	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
3	マーケティング戦略　ケース３　スターバックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
4	SWOT分析　ケース４　JR北海道	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
5	市場需要　ケース５　藤丸	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
6	顧客ロイヤリティ　ケース６　スバル	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
7	消費者市場　ケース７　ナイキ	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
8	ビジネス市場　ケース８　SAP	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
9	市場セグメントとターゲティング　ケース９　セコマ	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
10	ブランド・エクイティ　ケース１０　グーグル	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
11	ポジショニング　ケース１１　P&G	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
12	ライフサイクル　ケース１２　スタインウェイ	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
13	サービス設計	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
14	価格戦略　ケース１４　プレイステーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
15	バリューネットワーク　ケース１５　ユニクロ	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学 （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要

スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法

授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。
またレポート提出も数回行う。
なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻（１５分）は２回につき１回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが必要のない場合の使用は禁ずる。レポートを期限に提出しない場合は不合格とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、１３回以上
小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集していた。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができた。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができた。	関心が薄く、ほとんど興味を示さなかった。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力していた。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さなかった。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にどのような影響をもたらすかについて、資料等を収集していた。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解していた。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めていた。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学 （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・	体協のテキスト「共通科目Ｉ」を見る（９０分）	シラバス全体を見る（９０分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目II」に目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊤	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊦（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
7	スポーツの４つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、ＬＧＢＴなど）前半の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
15	後半授業の振り返り 授業改善アンケートの実施	前回のノートに目を通す（９０分）	これまでのノートを読み返し振り返る（９０分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ	これまでのノートをじっくり読み返す（９０分）	これまでの授業のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SP）	（科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011　　）			
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要

スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法

授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。
またレポート提出も数回行う。
なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻（１５分）は２回につき１回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが必要のない場合の使用は禁ずる。。レポートを期限に提出しない場合は不合格とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと
修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、１３回以上
小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っている。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集している。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができる。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができる。	関心が薄く、ほとんど興味を示さない。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力している。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さない。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っている。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、資料等を収集している。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解している。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めている。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SP）	（科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011　　）			
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2	（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・	体協のテキスト「共通科目Ｉ」を見る（９０分）	シラバス全体を見る（９０分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目II」に目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊤	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊦（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
7	スポーツの４つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、ＬＧＢＴなど））前半 の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
15	後半授業の振り返り 授業改善アンケートの実施	前回のノートに目を通す（９０分）	これまでのノートを読み返し振り返る（９０分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ	これまでのノートをじっくり読み返す（９０分）	これまでの授業のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法　（科目ナンバリング：ESS143153　　）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の２つが具体化内容である。
①中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科における資質育成のねらい、教科内容を学修する。
②授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3、DP5に対応する。（2022年度）

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。
・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。
・授業つくりは、「ここは重要だから、アンダーラインを引いておこうではない。学んだことを活用して他の事例についておなじことがいえるかを見つける」学びである。（梅津正美　２０２２：７６）
・公民的資質の育成にもとづく分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。
下記ルーブリックの合格最低レベル（C）、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
公民科の教科目標と内容を把握し、学習指導理論をふまえ、デジタルコンテンツ、大学図書館等の資料を利用するうえで学術資料の信頼性と妥当性を確保し、現代社会における社会的事象等についての概念や理論を教材研究するため、公民科教科指導方法の基礎を学修する。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・前期1Q科目では、教材研究を主におこなう。講義形式と作業提出が学修の主になる。
・文献読解、教材の取捨選択作業をおこなう。（ＰＢＬ、問題基盤型学習、プレゼンテーション）
・教育機関HPを閲覧し実践資料を収集する。（ＡＬ；その他　情報機器利用）
・授業中の作業課題報告と文献読解レポートは評価対象になる。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：各課題フィードバックを次の授業にて模範回答例が紹介されるので、次回の課題提出の改善材料として利用してほしい。
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。
・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・教職課程科目（中学社会・高校公民）必修。教材研究は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」（松下佳代：２０１５）のアウトプットである。
・新聞記事時事ニュースを収集する。「試験に出るところや楽して点を取る方法を伝える」ことではない「勉強の面白さを伝える」ための学修準備をする。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」は、順序性のある段階的履修が基本である。単独科目履修希望の場合、教員に事前相談してほしい。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の指定テキストは共通のものである。
・教職課程学生は、教員の立場に立つ行動がもとめられる。中学、高校時の公民系教材（教科書、ノート）を準備する。
・授業関連情報コースバケットをマイクロソフト社Teams科目チャネル、過去の科目情報は、大学ＨＰ教員個人ページにあるので参照すること。
https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要になる。
・文献読解（読解；文献要旨報告、文部省（２０１８）、プレゼンテーション；口頭発表をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	６０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえている。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけている。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、改善の余地はあるが、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しい。新しく学ぶことについて、説明は難しく、知識・技能は修得できなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用している。新しく学ぶことは、自らの知見と既知の事項を整理して表現することができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用している。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しい。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生（教職課程の教生）としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度はみられなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法　（科目ナンバリング：ESS143153　）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学社会　公民　ともに生きる』	成田　ほか	教育出版	２０２０		１７教出公民９０２（中学検定済
2	『詳述公共』	中村　ほか	実教出版	２０２１		７実教公共７０３（高校検定済教科
3	『ズームアップ公共資料　２０２４』	実教出版編修部	実教出版	２０２４	9784407363128	
4	『中学校社会科教育の実践と方法』	小泉博明　ほか	清水書院	２０１５	9784389225735	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説社会編』	文部科学省	東京書籍	２０１８	9784491034713	https://www.mext.go.
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説公民編』	文部科学省	東洋館出版社	２０１９	9784487286331	https://www.mext.go.
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀/遠藤野ゆり	有斐閣	２０１７	9784641174320	
4	『詳説政治・経済研究　第３版』	藤井剛	山川出版社	２０１６	9784634050242	
5	『中学校社会　指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	２０２２	9784184522336	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス；シラバスの説明、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明 公民科の教育目標と教科内容の基礎理解	シラバスをあらかじめ確認する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
2	中学校社会科と公民的資質	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
3	高等学校公民科と公民的資質	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
4	問題解決学習と課題解決学習	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
5	概念的枠組み、事実的知識と汎用的理論	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業１-５回学習整理する。（９０分）
6	資料作成の概念	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	教育課程企画特別部会資料を確認する。（学習の浅さと深さ）（2015/03/24/1355105_07.pdf）（９０分）
7	時案作成の概念	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
8	教科書の理解、学習指導要領と教科書	テキスト（検定教科書）、学習指導要領を予習する。（９０分）	文科省ＨＰ現行学習指導要領（本文、解説、資料等）を確認する。（９０分）
9	教科書の理解、本文、図表、重要用語	テキスト（検定教科書）、学習指導要領を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。 図書情報館、専門辞典の確認（９０分）
10	教科書の理解、中学校公民的分野と高校公民の比較	テキスト（検定教科書）、学習指導要領を予習する。（９０分）	学習課題（中学校、高校の教科書比較）作成提出する。（９０分）
11	教科書の理解、高校公民同一教科各教科書の記述分析	テキスト（検定教科書）、学習指導要領を予習します。（９０分）	学習課題（高校同一教科の教科書比較）を作成提出します。（９０分）
12	教科書の理解、教科書と副教材資料集	テキスト（検定教科書）、学習指導要領を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。教職センター資料の確認する。（９０分）
13	教科書の理解、まとめ	テキスト（検定教科書）、学習指導要領を予習します。（９０分）	授業６－１３回の学習整理をします。（９０分）
14	教育実践支援ＩＣＴ、政府研究所ＨＰ、教育委員会ＨＰ	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	川嶋直KP法、YouTubeチャンネルKP法を学習する。（９０分）
15	公民科の教育目標と学習内容の基礎理解、総括	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業全体の学習整理する。（９０分）
16	本科目のまとめ（授業総括と学修の教員講評） 授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅰ （科目ナンバリング：JLN051038 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語Ⅰ		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日本語でのレポートやレジュメの書き方、ＰＰＴの作成、授業内発表など、学生が大学生活を送るうえで必要なスキルや語彙力を身につける。また、授業内容は日本に関することに限らず日本国外の文化・歴史も例にあげ、幅広いジャンルで学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

日本語の文章を読む・書くことで語彙力を広げ、レポート等の課題を通して文章作成の基礎を習得し、授業内の発表を通して説明や質疑応答といったプレゼンテーション能力を身につける。

授業全体の内容と概要

担当教員が様々なテーマのもと、各発表形式（レポート、レジュメ、ＰＰＴ）を使用して講義を行う。それを参考に、学生自身がテーマを選んで報収収集し、発表を行う。授業内容は時事問題やエンタメ、サブカル、日本や日本以外の国の文化比較など、様々なジャンルに渡る。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。３０分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業最終日（１６回目）に期末試験を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	３５％	３５％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅰ （科目ナンバリング：JLN051038 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語Ⅰ		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート論文作成法［第3版］』	井下千以子	慶應義塾大学出版会	2019年	9784766425772	購入の必要なし
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島 紗織・坂本 麻裕子・大野 真澄	大修館書店	2015年	9784469222449	購入の必要なし
3	『大学１年生の君が、はじめてレポートを書くまで。』	川崎昌平	ミネルヴァ書房	2020年	9784623088898	購入の必要なし
4	『「うまい文章」の共通ルールがゼロから身につく 伝わる文章術見るだけノート』	山口拓朗	宝島社	2021年	9784299018359	購入の必要なし
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	授業内容復習（４５分）
2	文章の書き方・構成①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
3	文章の書き方・構成②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
4	文章の書き方・構成③	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
5	小論文作成	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
6	小論文フィードバック	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	レジュメの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
8	レジュメの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
9	レジュメの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
10	レポートの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
11	レポートの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
12	レポートの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
13	パワーポイントの作り方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
14	パワーポイントの作成・発表①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
15	パワーポイントの作成・発表②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
16	まとめ・復習 授業改善アンケートの実施	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211003 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用が可能な造形力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5、DP7に対応する。（2021年度）

到達目標

デザインの要素（エレメント）である「色」「形」「線」「スペース」「バランス」「テクスチャ」「フォーム」「明暗」の存在を実感し、それらを「統一性」「調和」「多様性」「強弱」などの原則（プリンシプル）を理解した上で効果的に演出し、作品制作に応用できる造形力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

与えられたテーマやモチーフを基に平面を表現する課題の繰り返しを行う。
課題の内容については、段階を経て複雑かつ高度な内容へと進化するように設定する。

授業の方法

各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。
制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。
画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作に必要な画材（アクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック、ケントボードなど）を各自用意し、毎授業に持参すること。
課題によっては上記の他にも必要な画材が発生する場合があるが、その際は授業の中で指示する。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
画材の扱い方を習得しており、丁寧な作業ができる。	画材の扱い方に優れており、丁寧な仕上がりを意識しながら作品を完成させることができる。	画材の扱い方に問題はなく、丁寧な仕上がりを意識した作業ができる。	画材の扱い方に未熟な点はあるが、概ね正しい作業ができる。	画材の扱い方については作業が可能な最低限と言える。	画材を全く使いこなせていなかった。
テーマを理解し、その内容に沿った課題の制作が行える。	十分に理解し、制作が行えていた。	概ね理解し、作業に取り組んでいた。	不十分ではあるが、理解している部分があった。	あまり理解できていなかった。	全く理解できていなかった。
デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を理解しながら、効果的に演出した制作を行える。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅰ （科目ナンバリング：AEA211003 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～平面構成の作品鑑賞	シラバスの確認（90分）	情報の整理と画材のまとめ（９０分）
2	デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）	シラバスの確認（９０分）	情報の整理（９０分）
3	実験「画材について」	シラバスの確認（９０分）	実験の復習（９０分）
4	実験「画面の分割・作図・着彩」	シラバスの確認（９０分）	実験の復習（９０分）
5	基礎的な実験課題①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
6	基礎的な実験課題②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
7	基礎的な実験課題③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
8	基礎的な実験課題④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
9	講評	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
10	幾何形体を用いた課題①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
11	幾何形体を用いた課題②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
12	幾何形体を用いた課題③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
13	幾何形体を用いた課題④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
14	幾何形体を用いた課題⑤	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
15	プレゼンテーション ～ 講評	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
16	平面構成Ⅱの予告 授業改善アンケートの実施	講評内容の整理（９０分）	平面構成Ⅱの予習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論	（科目ナンバリング：DES211005,AEA321048 ）			
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安田　祐造 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たことと、当科目については、過去に10年ほど本学で担当した実績を有する。、		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術に携わる者にとり、色彩を抜きにしては語れない必須の要件である。色彩についての基本を体得し、作品の制作に活用させられるようにすること。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP３、DP4に対応する科目(2024年度)
デザイン学科のDP１、DP３に対応する科目(2022年度、2023年度)
デザイン学科のDP１、DP7に対応する科目(2021年度)

到達目標

無数にある色彩を識別し分類することができるようにすること。及びポスターカラーを用いて、正確な色彩を作り出せるようにすること。

授業全体の内容と概要

色彩の分類、配色の仕方、光と色との関係、色彩の心理的効果、色の名前等について、テキストに沿って講義し、適宜、それぞれの項目について、ポスターカラーを用いての実習を行ってもらう。

授業の方法

テキストの中身や補足的な資料をパソコンとプロジェクターとを利用し講義する。そして適宜重要な点について、色材を用いて色彩をより正確に再現したり、美しく描写したりできるように訓練を行う。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

テキストだけでなく、スケッチブックや絵の具などの用材をすべて揃えられることを前提に履修登録を行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
色彩の三属性について、それぞれを識別できているか。	色彩の三属性それぞれについて、十分に理解し、微妙な差異を感じ取り、十分正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ほぼ理解し、あらかたの差異を感じ取り、ほぼ正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、ある程度理解し、大まかな差異を感じ取り、ある程度正確に表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、不十分ながら理解し、少しは差異を感じ取り、不十分ながら表現できている。	色彩の三属性それぞれについて、理解できておらず、差異を感じ取れず、表現できていない。
効果的な配色を行えるか。	配色のルールについて、十分に理解し、十分効果的に表現できている。	配色のルールについて、ほぼ理解し、ほぼ的確に表現できている。	配色のルールについて、ある程度理解し、ある程度的確に表現できている。	配色のルールについて、不十分ながら理解し、不十分ながら表現できている。	配色のルールについて、理解できていなく、表現できていない。
絵の具や筆等の用材を的確に使用できているか。	絵の具の水分量の調整を微妙なところまで行えて、筆の扱いも巧みに的確に行えている。	絵の具の水分量の調整をほぼ十分に行えて、筆の扱いもほぼ的確に行えている。	絵の具の水分量の調整をある程度行えて、筆の扱いもある程度的確に行えている。	絵の具の水分量の調整を不十分ながら行えて、筆の扱いも不十分ながら的確に行えている。	絵の具の水分量の調整を行えず、筆の扱いも的確に行えていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 （科目ナンバリング：DES211005,AEA321048 ）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造(デザイン学科・特任教授)		研究室等所在	2号館1階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安田　祐造 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年以上にわたり画家として色彩に関わって来たことと、当科目については、過去に10年ほど本学で担当した実績を有する。、		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『色彩検定 出る順』	カラボ色大学	ナツメ社	2020年	9784816368707	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業計画について　テキスト、用材について 色の三属性についての概説	あらかじめ必要なテキストや用材を準備しておく。(９０分)	色の三属性について復習する。(９０分)
2	色相と色相環について	色相と色相環について予習しておく。(９０分)	色相と色相環について復習し、色相環図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
3	明度について	明度について予習しておく。(９０分)	明度について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
4	彩度について	明度について予習しておく。(９０分)	彩度について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
5	色立体について 純色、清色、中間色について	色立体の構造と純色等についてについて予習しておく。(９０分)	色立体の構造と純色等について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
6	トーンについて	トーンについて予習しておく。(９０分)	トーンについて復習し、分布図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
7	配色についての概説 色相差による配色	配色について予習しておく。(９０分)	配色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分
8	トーンから考える配色	トーンから考える配色について予習しておく。(９０分)	トーンから考える配色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
9	アクセントカラーとセパレーションについて	アクセントカラーとセパレーションについて予習しておく。(９０分)	アクセントカラーとセパレーションについて復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
10	光と色について	光と色について予習しておく。(９０分)	光と色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
11	混色について	混色について予習しておく。(９０分)	混色について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
12	色彩の心理について	色彩の心理について予習しておく。(９０分)	色彩の心理について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
13	色の視覚的効果について	色の視覚的効果について予習しておく。(９０分)	色の視覚的効果について復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
14	配色イメージについて	配色イメージについて予習しておく。(９０分)	配色イメージについて復習し、作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)
15	色の名前について	色の名前について予習しておく。(９０分)	色の名前について復習しておく。(９０分)
16	総括とまとめ	これまでの学習について総括しておく。(９０分)	これまでの学習について総括し、これまでのすべての作図に不備がある場合には修正しておく。(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅰ　（科目ナンバリング：FAH211010　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ルネサンス以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2022・2023年度）
デザイン学科のDP1、DP4、DP5、DP7に対応する。（2021年度）

到達目標

西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
個々の作品の特徴や社会的背景などについて自分の言葉で説明することができる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。教科書は西洋美術史Ⅱでも使用するため、必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修　高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	０％	３０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	他人が納得できるように、自分独自の視点を論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、自分独自の視点を、論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、論理的妥当性・整合性をもって自分の考えを述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	講義中や期末テストで自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅰ　（科目ナンバリング：FAH211010　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術でめぐる　西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明 なぜ美術史を学ぶのか　プロト・ルネサンス	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	初期ルネサンス（１）遠近法の発見　ルネサンスの背景　ブルネッレスキ、マザッチョ、ドナテッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	初期ルネサンス（２）古典復興と芸術革新、ボッティチェリ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	盛期ルネサンス（１）レオナルド・ダ・ヴィンチ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	盛期ルネサンス（２）ミケランジェロ、ラファエッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	盛期ルネサンス（３）ティツィアーノとヴェネツィア派	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	小テスト（１） 北方ルネサンス（１）ヤン・ファン・エイク、ボス、デューラー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	マニエリスム　古典的理想美からの逸脱	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	バロック美術（１）イタリアにおけるバロックの成立　カラッチ、カラヴァッジョ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	バロック美術（２）絶対王政を支えた画家たち　ルーベンス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	小テスト（２） バロック美術（３）スペイン・ベラスケス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	バロック美術（４）オランダ　風景画の成立　静物画とヴァニタス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	バロック美術（５）オランダ　フェルメール　レンブラント	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	ロココ美術	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	定期試験　フィードバック 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境Ⅰ　（科目ナンバリング：AEN313010　）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の目的はその発生の当初から，外界の厳しい自然環境から人間生活を護ることにあり，快適な室内環境の実現には建築技術の長い発展の不断の目標である。そのために空気，熱，光，音の基本性質を学習し，それらが建築環境にどのように関わるかを理解・修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１，ＤＰ３，ＤＰ４に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２，ＤＰ３に対応する。（２０２３・２２年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２，ＤＰ７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

空気，熱，光，音が建築物に与える影響を知り，建築物の配置計画，平面計画を実施する際の建築計画の基本となる知識として身に付け，応用できる。

授業全体の内容と概要

自然（外部）環境が室内環境に及ぼす要因と空気環境の基準を学ぶ。また，自然環境が建築物に与える功罪を知る手がかりとして日照と日射の基礎的取扱いからその建築計画上の方法の理解。採光計画における昼光率，設計用天空照度，照度の計算そして、換気と通風の理論，及びその応用など大別して講義展開をする。また「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業である。

授業の方法

テキストに加えて，プロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また，課題は各単元ごとに出題し，それはレポート，小テストの形式とする。課題返却後，解説をする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業成果の確認のため単元ごとに小テストを行うので，講義にはテキスト，過去分のノート，電卓は必ず持参すること。 ３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻３回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	１０%	１０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており，それを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており，それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
光環境に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
採光と照明に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
通風と換気に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境Ⅰ　（科目ナンバリング：AEN313010　）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐々木　哲之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新 建築環境工学』	田中俊六	井上書院	2022	978-4-7530-1757-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 建築環境の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること（90分）	授業内容を復習すること（90分）
2	快適環境-１　人体生理と室内環境	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
3	快適環境-２　空気環境の基準	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
4	快適環境-３　温熱環境　絶対湿度と相対湿度　有効温度	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
5	光環境－１　日照と住環境	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
6	光環境－２　日照と日射　昼光照度と日射量、日照と建築計画	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
7	光環境－３　日影曲線，日影図，日影時間，日影の検討方法	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
8	光環境－４　日射と日照調整	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
9	採光と照明-１　測光量とその単位　照度，光束，輝度	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
10	採光と照明-２　昼光光源　設計用天空照度　照度の計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
11	採光と照明-３　昼光率とその計算法	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
12	換気と通気－１　人体と必要換気量　用途に応じた必要換気量と換気方式	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
13	換気と通気－２　室内通風　通風の現象，通風による温熱効果	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
14	換気と通気－３　圧力差と換気量　温度差による換気，換気計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分
16	定期試験（60分）及び解説（30分）	これまでの授業範囲を見直し予習すること（90分）	試験内容を振り返り，特に専門用語を復習すること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策　（科目ナンバリング：SWS121018　　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①福祉政策を捉える基本的な視点として、生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。
②福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。
③福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。
④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３，DP４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

①社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な理論について理解することができる。
②ソーシャル・ポリシー（社会政策）が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策（所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など）を含む意義と目的を理解することができる。
③福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。
④主要国の福祉制度の外観を理解し、今後の我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。

授業全体の内容と概要

①「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえて、ソーシャル・サービスの構成要素と供給主体を学ぶ。
②福祉の市場化について、その内容と背景を学ぶ。
③福祉を直接の目的としない個々のソーシャル・ポリシー及びソーシャルワークとの関連を学ぶことから、福祉における「公平と効率」の意義を学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①授業のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので、自身でプリントアウトするかPC等を持参して授業に臨む。
②開始５～１０分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、レジュメに従い空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。
質問には随時対応する。
③復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考に授業内容をノートにまとめることを推奨する。
④中間試験（論述）を採点後返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえ、社会保障やソーシャルワークの基盤と専門職など、他の授業との関わりに注意する。
授業中の積極性（質問、質問への回答など）は、その場で確認することで平常点として反映する。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０／１５回以上（１６回目は定期試験）。
積極的な授業参加（発言する、質問する、回答する、メモを取る、など）を平常点とする。
論述の中間小試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
直接福祉を目的としないソーシャル・ポリシー	ソーシャル・ポリシーの概念とソーシャル・サービスの概念との範囲の違いに気付くことができた。	ソーシャル・ポリシーとソーシャル・サービスの関連を理解できた。	ソーシャル・ポリシーが直接福祉を目的としない政策を含む背景を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できなかった。
福祉の市場化	福祉における公平と効率の関係を説明することができた。	福祉における効率化の必要性を説明することができた。	福祉の市場化の背景と目的を理解することができた。	福祉の市場化の内容を理解できた。	福祉の市場化の内容を理解できなかった。
今後のソーシャル・ポリシーの方向性	公平と効率を念頭に自らの福祉観を表現することができた。	自らの福祉観を持つことができた。	社会変化の方向性とソーシャル・ポリシーの方向性を整合的に説明することができた。	論理的に今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができた。	今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策　（科目ナンバリング：SWS121018　　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　４　社会福祉の原理と政策』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（授業改善アンケート結果について，シラバスの説明を含む）とソーシャル・サービスにおけるニーズについて（把握方法、種類と内	シラバスの読み込みと市場原理を調べてくる（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	ソーシャル・サービスにおける社会資源について（種類とその特徴，新たな構築など）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
3	福祉政策の構成要素について（福祉の基礎構造，措置制度から契約方式へなど）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
4	福祉政策の過程について（福祉のPDCAサイクル、福祉計画、実施方法と手段など）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
5	福祉政策の動向と課題について（地域包括ケアシステムなど）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
6	直接福祉を目的としない政策（保健医療政策および防災・災害時避難政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
7	直接福祉を目的としない政策（権利擁護政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	今回のノートをまとめるとともに中間小試験のため見直しを行う（９０分）
8	前半のまとめと中間小試験	中間小試験の準備をする　（９０分）	自身の解答を振り返る　（９０分）
9	直接福祉を目的としない政策（所得政策および雇用政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
10	直接福祉を目的としない政策（住宅政策および教育政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
11	ソーシャル・サービスの供給部門について（福祉の多元化を含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
12	ソーシャル・サービスの供給過程について（福祉行財政、市場化などを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
13	ソーシャル・サービスの利用主体と援助方法について（対人援助とコミュニティを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	ソーシャル・サービス及びソーシャル・ポリシーの国際比較と時事および今後の課題について	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
15	まとめとして，ソーシャル・ポリシーにおける公平と効率およびソーシャル・ポリシーの全体像の確認授業改善アンケート実施	これまでの授業を振り返り，福祉において公平がなぜ重要かを考えてくる　（９０分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする（９０分）	今後の学修に向けて、試験を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222064 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

漫画の構成・特徴についての理解を深める。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ５に対応する。（2023，2022年度）
デザイン学科のDP２、ＤＰ３、ＤＰ５に対応する。（2021年度）

到達目標

漫画の構成・特徴について知る。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解する。
漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶ。

授業全体の内容と概要

漫画とはなにか、その本質について考え、漫画の定義を知り、実際に漫画を描く。また、漫画を描くための基本的な技法（アナログ表現）を学ぶ。漫画の形式に沿って課題に取り組み、制作し、発表する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。漫画を描くための道具（アナログ）を使用する。漫画を描くための基本的な技法の課題がある。課題は授業内で実践し、授業後に練習して提出する。漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は添削、講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必要な漫画道具を購入すること。
授業開始から３０分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数２２回以上。
完成した課題を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画の構成・特徴についての理解を深める。	漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。	漫画の構成・特徴について知ることができた。	漫画の構成・特徴について知ることができなかった。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術の習得に努めた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222064 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 漫画道具の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	必要な道具を準備する。（４５分）
2	自己紹介イラスト　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	自己紹介イラスト　完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	自己紹介イラスト　冊子作成・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	つけペンの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	顔を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	カケアミ技法	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	全身を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	効果線の描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	背景の描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	漫画の構成・特徴・形式について	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	１ページ漫画①　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	１ページ漫画①　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	１ページ漫画①　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	１ページ漫画①　スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	１ページ漫画①　仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	１ページ漫画②　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	１ページ漫画②　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	１ページ漫画②　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	１ページ漫画②　仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
21	２ページ漫画　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	２ページ漫画　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	２ページ漫画　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	２ページ漫画　仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	４ページ漫画　プロット①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	４ページ漫画　プロット②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	４ページ漫画　ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	４ページ漫画　下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	４ページ漫画　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	４ページ漫画　スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	製本・発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	講評・展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 （科目ナンバリング：AHD311005 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における歴史保存調査及び実施設計		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

学生が、主に日本および西洋の、古代から近代に至る建築史の流れを大まかに理解しながら、
主要な様式・特徴・専門用語などについて理解し、また、興味を持って深められる素養を育む。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP2、DP4　に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1　に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP7　に対応する。（2021年度）

到達目標

学生が、主に日本および西洋の、古代から近代に至る建築史の大まかな流れを理解し、
様式や各時代の特徴、主要な専門用語などについて理解できること、調べることができること。
また、調べたことに対し、自分の考えを深めて表現することができるようになり、
歴史の重要性や面白さに気づけるようにすることを目標とする。

授業全体の内容と概要

建築史は一般的に「西洋建築史」、「日本建築史」および「近代建築史」の三つに分かれることが多いが、本講義ではそれらを一つの
講義に凝縮している。近年ではイスラム世界など先述の範囲を超えた研究も進められており、建築史の範囲が膨大になっている。
しかし、本講義では、その概観に触れるとともに、まずは基本となる西洋・日本・近代の三つの範囲について、
大まかな流れを重要なポイントに絞り学ぶ。

授業の方法

自ら進んで学習することを促すため、事前学習、調査学習、グループワーク、プレゼンテーション（発表）などを通して、建築史の大枠を自ら掴めるようにする。
また、事前学習についての確認小テストを授業内で実施する。
必要に応じて、補足や解説などの講義を適宜行う。
講義の際には、教科書と補足資料となるパワーポイントを用いて行う。調査学習には、インターネットを用いることがあり、
パソコンやタブレットなどの端末を使用する。
質問やフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。
授業では、インターネットを用いた調査学習を行うため、手持ちの端末を持参すること。タブレット・スマートフォンでも良いが、ノートパソコンが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と、課題（調査学習や発表を含む）を行う場合、全課題の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）
レポートは、期末に行うテストに代わるものである。
講義中に行った調査学習と発表については、「課題・作品」に属するものとする。
講義中の課題については増減があるため、レポートと合わせて総合的に評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
分からないことについて調べることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
建築史の大まかな流れが理解できた。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築史 （科目ナンバリング：AHD311005 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所における歴史保存調査及び実施設計		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学びのポイント　建築史』	深水　浩	学芸出版社	２０２３	9784761528737	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋建築史（建築学入門シリーズ）』	吉田 鋼市	森北出版	2007	4627505612	
2	『日本建築史講義：木造建築がひもとく技術と社会』	海野聡	学芸出版社	2022	4761528168	
3	『日本建築史序説　第3版』	太田博太郎	彰国社	2009	4395012310	
4	『近代建築史（建築学入門シリーズ）』	藤岡洋保	森北出版	2011	462750571X	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、授業の進め方 西洋建築史１　はじめに　西洋芸術の美的価値	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義の復習（９０分）
2	西洋建築史２　古代ギリシア・ローマ	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
3	西洋建築史３　初期キリスト教・ビザンチン	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
4	西洋建築史４　ロマネスク・ゴシック	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
5	西洋建築史５　ルネサンス・バロック	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
6	近代建築史１　新古典主義から近代へ（アーツ・アンド・クラフツ）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
7	近代建築史２　アール・ヌーヴォーからアール・デコ	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
8	近代建築史３　バウハウスとモダニズムの潮流（１）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
9	近代建築史４　バウハウスとモダニズムの潮流（２）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
10	近代建築史５　日本の近代～ポスト・モダニズム概観	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
11	日本建築史１　神社建築	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
12	日本建築史２　寺院建築（１）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
13	日本建築史３　寺院建築（２）	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
14	日本建築史４　城郭建築	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
15	日本建築史５　　住宅建築	次回の単元の予習（９０分）	講義の復習（９０分）
16	試験レポート・授業評価アンケートの実施	総合復習（９０分）	総合復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学	（科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179 ENV261137 ENV461149）			
授業担当者（所属・職名）	西原　智昭（社会福祉学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　西原　智昭　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をして，昼休みあるいは講義後に、非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

環境学を学ぶに当たり、自然環境の破壊と生物多様性の喪失、その保全の問題は大きなテーマの一つである。自然環境および生物多様性の保全を目指すには資源開発の問題は避けて通れない。資源の開発・利用により危機的状況に直面している生物多様性、そうした自然環境に依拠してきた先住民族への権利侵害について、アフリカの熱帯林の事例を中心に話題提供しながら、特に資源の乏しい日本に住むわれわれが自然環境の保全に対して果たすべき役割を考察していく機会とする。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。（2024年度）

到達目標

われわれの現在の日常生活において生き物や資源を利用していることを、身近な事例や日本国内、そして国際的な視点から学ぶ。そうした生き物や資源の大規模な開発や過剰な利用が、現在に至るまで世界中の自然環境を破壊し、また本来なら自然環境に依拠してきた先住民族の人権侵害まで引き起こしていることを理解する。そのうえで、とりわけ資源の少ない日本に住むわれわれがどのように対処しサステイナブルなライフスタイルを目指していくか検討していく。

授業全体の内容と概要

文明・科学技術の進展とグローバル社会の拡大化に伴い、膨大な原材料や物資調達のための過剰な資源開発が全世界で進行中である。それは地球上に存在する自然環境や生物多様性に危機をもたらしている。この講義では、アフリカの熱帯林の事例を中心に、われわれ人類の祖先が生まれ出た本来の自然環境や生物多様性の機能や役割を学びつつ、資源開発に伴う地球規模の自然界への脅威だけでなく従来より自然界に依拠し長大な年月に渡り持続可能な自然環境保全を実践してきた先住民族への土地・人権侵害などについても話題提供する。とりわけ大量の資源を輸入依存に頼る日本の責任は重い点から、日本人として何ができるのかを考察する機会をも提供する。

授業の方法

パワーポイントを用いた講義資料及び映像によって，われわれを取り巻く種々の地球規模の自然環境の問題を、アフリカ現地の事例などを中心に説明する。講義内容について自らの知識として定着が図れるよう，文献調査，ミニレポート作成，グループ討論及びプレゼンテーションを手掛ける。グループディスカッション課題については，必要な調査を行い相互に意見交換して，グループとしての見解をまとめてプレゼンテーションすることにより受講者全員でディスカッションを行う。講義中に不明な点は自分でも書籍等で調査して予習・復習を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート課題（グループ討論の課題を含む）の進め方等については，その都度指示する。
・講義内容にとらわれることなく，自分が興味のある事項を見出し，積極的に調べること。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。講義二回ごとに付き講義内容に対する意見や質問を盛り込んだミニレポートを課す（その他３５％：７回x５％）。定期試験（期末試験）は行わないが，集中講義全般に渡るテーマに関する課題を１５回目の講義中に提供するので、それに対する自身の見解や提案などを記載した論理的な構成のレポートを最後１６回目の講義時間中に仕上げる（レポート：６５％）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６５％	0%	０％	０％	３５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然界（陸と海を含む）の生態系と生物多様性に関する理解	地球規模での自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	日本国内における自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	身近な自然環境における生態系や生物多様性に強い関心があり理解している	少なくても講義中で学んだ生態系や生物多様性に関して強い関心を抱いている	生態系や生物多様性への関心が希薄である
生き物を含めた資源の開発と利用がもたらす自然環境や生き物への影響に関する理解	人間は生き物や資源を利用しないと生きていけない中、どのような方途でサステイナブルな資源の利用をすべきか理解している	資源の少ない日本において、資源の調達先やその結果どのように海外の自然環境や生き物に影響を及ぼしているかを理解している	資源の開発と利用が、自然環境や生き物に多大な影響を及ぼしていることを理解している	日常生活における身近な生き物や物資は自然環境の利用の結果であるということを理解している	資源の開発や利用への関心が希薄である
自然環境に依拠してきた先住民族の存在と彼らが直面している問題に関する理解	先住民族が現在もなお直面している人権侵害や文化・言語消失などの実際を知り、先住民族との共生社会を目指していく重要性を理解している	先住民族がこれまで受けてきた差別や土地収奪など人権侵害の歴史について理解している	先住民族の社会の特徴や生活様式について理解している	先住民族とはなにか、日本国内や世界中にどのような先住民族が現存しているのか理解している	先住民族についての関心が希薄である、あるいは先住民族の存在を無視している

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学	（科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179 ENV261137 ENV461149 ）			
授業担当者（所属・職名）	西原　智昭（社会福祉学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　西原　智昭　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『コンゴ共和国～マルミミゾウとホタルの行き交う森から：増補改訂版』	西原智昭	現代書館	2020	978-47684-5877-8	
2	『サステナブル調達を成功させるための「国際認証」の教科書』	山口真奈美	生産性出版	2024	978-4-8201-2148-0	
3	『教養としての資源問題～今、日本人が直視すべき現実』	谷口正次	東洋経済新報社	2011	978-4-492-76197-7	すでにこの書籍は絶版なので電子書籍版
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『人類の起源 古代DNAが語るホモサピエンスの「大いなる旅」』	篠田謙一	中公新書	2023	978-4-12-102683-5	
2	『追いつめられる海～猶予はない ブルーエコノミーの実現を！』	井田徹治	岩波書店	2020	978-4-00-029694-6	
3	『アイヌ、日本人、その世界』	小坂洋右	藤田印刷エクセレントブックス	2019	9784865380965	
4	『再生可能エネルギーの問題点』	加藤やすこ	緑風出版	2022	978-4-8461-2207-2	
5	『音と文明～音の環境学ことはじめ』	大橋力	岩波書店	2003	4000223674	

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。人間はもともと自然界に依拠して進化してきた中で、どのように自然環境を利用してきたかを理解する手立ての一つとして、人類の近縁	人類の進化、類人猿の生態・社会について調べる（９０分）	人類の起源・もともとの生活様式について学ぶ（９０分）
2	野生の類人猿の生存に対して直面している問題の一つにエボラウイルスの蔓延がある。人間に対しても致死性の高いこのウイルスに対して対処すべき方途	エボラウイルスについて調べる（９０分）	エボラウイルスなどパンデミックへの根本的な対処について学ぶ（９０分）
3	森林を構成する生き物の中で昆虫の重要性と森林環境音がもたらすメカニズム、および、海洋生態系について学ぶ。	昆虫や森林環境音、海洋生態系について調べる（９０分）	昆虫や森林環境音、海洋生態系の重要性について学ぶ（９０分）
4	自然環境の中で昆虫の存在の重要性とわれわれがいかに昆虫と共存していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。	昆虫との共存の方途について調べる（９０分）	昆虫との共存がもたらす心身への重要性について学ぶ（９０分）
5	アフリカ熱帯林の生態学的礎石種でありながら絶滅危惧種であるマルミミゾウの生態や社会、絶滅に向かう要因について学ぶ。	マルミミゾウについて調べる（９０分）	マルミミゾウの生態や社会、危機的状況について学ぶ（９０分）
6	マルミミゾウのような生き物が絶滅に向かう要因の一つとして挙げられるわれわれの伝統文化の存在があるが、伝統文化の継承と生物多様性保全のバラン	生き物の利用による伝統文化の事例について調べる（９０分）	伝統文化の継承と生物多様性保全のバランスについて学ぶ（９０分）
7	飼育下の生き物への需要（ペットや家畜、動物園・水族館の生き物）が野生の生き物へ影響を及ぼす事例について学ぶ。	ペットとして人気のあるヨウムについて調べる（９０分）	飼育下動物が野生の生き物にもたらす影響について学ぶ（９０分）
8	飼育下の生き物の存在はわれわれ人間にとって不可欠なものではあるにしても、それが野生生物に影響を及ぼさないような方策、また動物園・水族館の役	飼育下の生き物と野生生物との関係について事例を調べる（９０分）	動物園や水族館の役割について学ぶ（９０分）
9	先住民族とその歴史や社会の特徴、伝統文化について、また現在も引き続き直面している彼らへの人権侵害について学ぶ。身近なアイヌ民族についても話	アイヌなど先住民族やその歴史について調べる（９０分）	アイヌなど先住民族への人権侵害について学ぶ（９０分）
10	先住民族による獣肉食や学校教育について、グループ討論・プレゼンを実施する。	獣肉食や学校教育の是非について調べる（９０分）	伝統文化や学校教育についてあらためて学ぶ（９０分）
11	木材や農畜産物（魚介類も含む）の需要に応じた森林など大規模な自然環境の開発の現状とその自然環境への影響について学ぶ。	身近な木材由来の製品や農畜産物とその由来について調べる（９０分）	日本はどれくらいの割合でどこから木材や農畜産物を輸入しているか学ぶ（９０分）
12	木材や農畜産物（魚介類も含む）をいかにサステイナブルな方途で利用していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。	サステイナブルな木材や農畜産物（魚介類も含む）の利用について調べる（９０分）	木材や農畜産物（魚介類も含む）についての国際認証制度について学ぶ（９０分）
13	鉱物資源開発やエネルギー開発がもたらす自然環境への影響について学ぶ。特に地球温暖化対策として有効と言われている再生可能エネルギーの設置、お	鉱物資源や現在のエネルギー構成について調べる（９０分）	再生可能エネルギーや電気自動車などの開発による自然環境への影響について学ぶ（９０分）
14	地球温暖化対策としての再生可能エネルギーや電気自動車の開発に問題があるとした場合、エネルギーや鉱物資源をいかにサステイナブルな方途で利用し	再エネ設置に伴う地域住民への影響や鉱物資源開発による先住民族への影響について調べる（９０分）	エネルギー問題をどのように見直すべきかあらためて学ぶ（９０分）
15	１回から１４回までの講義全体を振り返り、それと関わる課題を提供する。特に資源の少ない日本に住むわれわれが抱えている問題点も話題提供する。	１～１４回までの講義全体を振り返る（９０分）	講義全体に関わる課題について考察する（９０分）
16	レポート試験（６０分）。レポート試験終了後に解説を行う。授業改善アンケートの実施。	講義全体に関わる課題について考察する（９０分）	レポート試験とその講評を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 （科目ナンバリング：SWS111001，SWS421077，SWS521084 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ3、DP４、DP５に対応する。(2024年度)

到達目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。
「SDG 3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開をする。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解ができる。	法が設立した背景を含めて理解できる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの定義について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの形成過程について理解できる	当時の社会情勢も含めて理解ができる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの価値と倫理について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 （科目ナンバリング：SWS111001，SWS421077，SWS521084 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座１１　ソーシャルワークの基盤と専門職［共通	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１年	9784805882412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークとは何か	教科書の目次と関心のある部分に目を通す（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	現代社会におけるソーシャルワークの意義 ソーシャルワーク実践の領域	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワーカーと資格制度 ソーシャルワークの定義①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの定義②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ソーシャルワークの構成要素	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ソーシャルワークの形成過程①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
7	ソーシャルワークの形成過程②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	中間テスト	1回から7回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点（９０分）
9	ソーシャルワークの価値	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	ソーシャルワークの実践原理と原則	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	ソーシャルワークの倫理	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルワーク固有の視点と機能	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	社会福祉士・精神保健福祉士制度の現状と課題	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から14回までの授業内容の質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、解説による試験のフィードバック（３０分）を行う。授業改善アンケートの実施、	全体の復習。（９０分）	試験で間違えた部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 （科目ナンバリング：SWS111001，SWS421077，SWS521084 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４に対応する。(2024年度)

到達目標

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。
「SDG 3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開をする。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解ができる。	法が設立した背景を含めて理解できる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの定義について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの形成過程について理解できる	当時の社会情勢も含めて理解ができる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの価値と倫理について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 （科目ナンバリング：SWS111001，SWS421077，SWS521084 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座１１　ソーシャルワークの基盤と専門職［共通連盟	日本ソーシャルワーク教育学校	中央法規出版	２０２１年	9784805882412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークとは何か	教科書の目次と関心のある部分に目を通す（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	現代社会におけるソーシャルワークの意義 ソーシャルワーク実践の領域	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワーカーと資格制度 ソーシャルワークの定義①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの定義②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ソーシャルワークの構成要素	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ソーシャルワークの形成過程①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
7	ソーシャルワークの形成過程②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	中間テスト	1回から7回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点（９０分）
9	ソーシャルワークの価値	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	ソーシャルワークの実践原理と原則	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	ソーシャルワークの倫理	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルワーク固有の視点と機能	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	社会福祉士・精神保健福祉士制度の現状と課題	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から14回までの授業内容の質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、解説による試験のフィードバック（３０分）を行う。授業改善アンケートの実施、	全体の復習。（９０分）	試験で間違えた部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 （科目ナンバリング：CHS121068 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が，その経験をもとに保育の意義，目的，法令および制度，思想・歴史的変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

保育の意義，目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。
保育所保育指針における保育の基本について理解する。
保育の思想と歴史的変遷について学修し，現状と課題を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

保育の意義，制度，計画・実践（方法・内容），思想・歴史的変遷等を理解している。
保育所保育指針における保育の基本について理解している。

授業全体の内容と概要

保育の意義，目的，法令及び制度，保育の目標と方法等を体系的に学修する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義を中心とした授業を行っていく中で，実際の保育現場の事例をあげ，子どもや保護者，保育者の様子をイメージしながら，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問にはその都度対応し、レポートはコメントしてフィードバックする。Microsoft Teams及びForms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重要視するため、２０分以上の「遅刻」は、入室できるが「欠席」扱いとする。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の制度に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	歴史的変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	歴史的変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 （科目ナンバリング：CHS121068 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が，その経験をもとに保育の意義，目的，法令および制度，思想・歴史的変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	２０１８	9784577814482	
2	『保育所保育指針＜平成２９年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	２０１７	9784577814239	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育の理念と概念 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
2	子どもの最善の利益と保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
3	子ども家庭福祉と保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
4	保育の社会的役割と責任	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
5	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
6	子ども・子育て支援新制度	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
7	保育の実施体系	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
8	保育所保育指針	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
9	保育所保育に関する基本原則	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
10	保育における養護	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
11	保育の目標、保育の内容	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
12	保育の環境と方法	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
13	子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・ 評価・改善）と その循環	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
14	諸外国の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
15	日本の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
16	定期試験　　解説およびフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問などを整理しておく（９０分）	解説を受け、講義全体をふりかえること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画Ⅰ　（科目ナンバリング：APT312006　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会構造や価値観の多様化が顕著な今日の状況を的確に捉え，建築が社会に果たす役割や意味を再考すると共に，将来の建築のあり方を考える力を養う。また建築士試験科目の「建築計画」に対応すべく，建築計画全般（住宅地計画，都市計画等含む）にわたる基礎知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

建築の基本原理を知ることで建築に対する興味が広がり，建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また，建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

授業内容を網羅した資料を毎回配布し,その授業資料に沿って授業を進める。毎回の授業のポイントが演習問題として課せられ，さらに詳細な解説も行うので集中して聴くことが求められる。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

板書事項は授業内容を記した資料で賄う。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが，授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取りまとめた演習を毎回授業終了後提出してもらう。情報量は多く，見て，聴いて，理解できる授業である。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので，遅刻者は欠席扱いとなる。また，着席票をもとに意見発表を求め，授業中の態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，毎回の授業後に提出する演習の評価点（平常点）が単位認定（成績評価）の一部を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格または低評価に直結することになる。最終評価は定期試験と平常点，その他（授業態度等）による総合評価とする。なお，演習は当日の授業後提出のみ受理し，それ以外は受け付けない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築が社会にはたす役割や意味を理解すると共に，将来の建築のあり方を考える力を修得する。	建築が社会にはたす役割を理解でき，今後社会状況の変化に対して建築のあり方を考えることができた。	建築が社会にはたす役割を理解でき，今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解できた。	建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。	建築が社会にはたす役割を理解できなかった。
建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般（住宅地計画，都市計画等含む）にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し，さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し，さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。
建築の基本原理を知ることで各種建築の機能を理解するための基礎力を修得し，建築への興味を広られる。	建築の基本原理に興味を持ち，さまざまな建築のあり方に対しても理解することができた。	建築の基本原理に興味を持ち理解することができた。	建築に対する興味を持つことができた。	建築に対する興味をおおむね持つことができた。	建築に対する興味を持つことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画Ⅰ　（科目ナンバリング：APT312006　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，「建築計画」で学ぶこと	シラバス事前確認（90分）	配布資料の確認（90分）
2	建築のかたち(１)　建築のかたちを規定する自然的条件　温湿度，風，日照･日射，敷地形状，街路	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
3	建築のかたち(２)　建築のかたちを規定する人為的要素　起居方式，歴史･伝統，社会構造，機能	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
4	建築空間の性能(１)　快適性　熱環境，光環境，音環境，空気環境，心理環境	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
5	建築空間の性能(２)　利便性　面積･容積，高さ，ゾーニング，動線計画，空間の質と量	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
6	建築空間の性能(３)　安全性　災害と安全，避難計画，内装制限，排煙，防火	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
7	建築空間の性能(４)　耐久性と経済性　耐用年数，ライフサイクルコスト，ＳＩ方式，保存･再生	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
8	建築計画の基礎(１)　空間知覚の原理　五感と空間知覚，視認距離，囲み感，黄金分割	資料参照（90分）	演授業資料の振り返り（90分）
9	建築計画の基礎(２)　形態知覚と空間特性　ゲシュタルト心理学，空間感覚	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
10	建築計画の基礎(３)　色彩，色彩と心理，色彩と環境	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
11	建築計画の基礎(４)　寸法と規模と単位空間　人体寸法，動作寸法，規模算定，単位空間，階段･斜路	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
12	建築計画の基礎(５)　空間の仕切り方とディテール　仕切りの手法，収まりの手法	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
13	居住施設計画(１)　戸建住宅と住宅地計画　住居の種類，生活と間取り，住環境計画，日影規制	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
14	居住施設計画(２)　集合住宅の計画　近隣組織，地域福祉計画，家族と住居	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
15	居住施設計画(３)　住宅地計画　地域居住，近隣組織，地域福祉計画，家族と住居	資料参照（90分）	授業資料の振り返り（90分）
16	試験（試験結果・解説ならびに提出課題の総評）授業改善アンケートの実施	資料参照（90分）	最終振り返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造 （科目ナンバリング：BSM313015 ）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 長森　正 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボート等を参照				

概要

履修目標

鉄筋コンクリート構造は鉄とコンクリートからなる一種の複合構造物である。
鉄筋コンクリート構造の仕組みとそれを構成する部材断面の設計方法を修得する。
力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面設計方法を学習する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

鋼材とコンクリート材料をどのように活かしているかを把握した上で、鉄筋コンクリート構造の構造計画、許容応力度設計法などの基本的な設計原理を修得する。
鉄筋コンクリート構造の仕組み・名称・規準などが理解できる。
軸力や曲げを受ける部材の性状を理解し、各部材断面の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鉄筋コンクリート構造の概要・構造形式・規準などを学び、許容応力度設計法、梁・柱・スラブなどの各部材の断面設計を中心に講義・演習を行う。

授業の方法

授業は教科書を中心にパワーポイント及び配布資料で講義形式で行う。また構造設計例題を参考にして演習課題を実施して理解を深める。フィードバックとして課題の解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内容を要領よくまとめ、ノート整理を欠かさないこと。
講義には設計演習等を頻繁に実施するので必ず電卓を持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	３０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鉄筋コンクリート構造の概要	RC構造の特徴・構造形式・規準等にについて明確に説明でき、他の人に正確に説明できた。	RC構造の特徴・構造形式・規準等にについて明確に説明できた。	RC構造の特徴について説明でき、他の人に説明できた。	RC構造の特徴について説明できた。	RC構造の特徴について説明できなかった。
鉄筋コンクリート構造の構成と力学	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明でき、他の人に説明できた。	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明できた。	許容応力度設計法について説明でき、他の人に説明できた。	許容応力度設計法について説明できた。	許容応力度設計法について説明できなかった。
鉄筋コンクリート部材の設計演習	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の演習問題を正確に解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の演習問題を正確に解くことができた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができた。	RC構造各部材（梁・柱・スラブ）の基本的な演習問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造 （科目ナンバリング：BSM313015 ）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 長森　正 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい構造設計』	浅野　清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『RC規準による鉄筋コンクリートの構造設計』	佐藤立美・荒木秀夫・森村毅	鹿島出版会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明 鉄筋コンクリート構造の概論	シラバス資料を確認して，授業内容を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
2	鉄筋コンクリート構造の歴史・特徴	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
3	構造形式，規準等	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
4	鉄筋・コンクリートの機械的性質	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
5	コンクリートの調合設計	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
6	許容応力度設計法（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
7	許容応力度設計法（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
8	RC部材の複合材料力学	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
9	梁の設計（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
10	梁の設計（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
11	柱の設計（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
12	柱の設計（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
13	床(スラブ)の設計（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
14	床(スラブ)の設計（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
15	構造計画・地震と建物の構造（１）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
16	定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 （科目ナンバリング：MAN412004，MAN522015 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者：　薦田　勇智　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・企業経営における情報の役割と管理の重要性や方法、そして課題について理解を深める。
・ビッグデータ、IoT、プラットフォーマーの登場などに代表される、近年の情報技術の発達に関連する競争環境の変化を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・企業が扱う情報の種類や特徴、技術進歩による変化および近年の動向について説明できる。
・企業の情報管理活動に関連する経営学の理論を知り、企業活動を自ら分析することができる。
・上記を通じて、企業が情報を取得・活用・管理する際に注意すべき点や工夫すべき点を主体的に考え、課題解決に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題はMoodleで提出する。
また、授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求めることがある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。
・単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営情報論に関する知識・理解	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。さらに、今後の情報社会のあり方や企業の課題についても言及できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会について最低限理解できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができた。	経営情報論の基本的な用語と意味を覚え、説明することができなかった。
レポートを作成する能力	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、非常にわかりやすくまとめられており、講義内容以上の知識も自身で調べ、まとめることができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめられていた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめようとする工夫がみられた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができなかった。
自身の生活や進路と関連づけて学ぶ能力	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案・実行し、一定の成果をあげることができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案し、実行することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうと努力した。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうとしなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 （科目ナンバリング：MAN412004，MAN522015 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者：　薦田　勇智　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学基礎データサイエンス』	伊藤大河・川村和也・内田瑛・河合麗奈	実教出版	2023	9784407361223	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	イントロダクション:授業の概要と全体のプレビュー本イントロダクション 授業の概要と全体のプレビュー、本授業のシラバス	テキストのはしがきを読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
2	企業経営と情報 企業が扱う情報にはどのようなものがあるのか、情報社会とはどのようなものかを解説する。	テキストの第1章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	企業の情報管理と経営学の基礎理論 情報管理の活動を分析するための経営学の基本的な理論を振り返る。	テキストの第2章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
4	情報通信技術の発達 情報通信技術がどのような発展を遂げてきたのかを振り返る。	テキストの第4章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
5	経営情報システムとその変遷 経営情報システムにはどのようなものがあるのか、どのように変化してきたのかを解説する。	テキストの第3章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
6	経営情報システムの設計と開発 経営情報システム開発の方法論を解説する。	テキストの第5章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
7	顧客情報の収集と活用 企業が顧客情報をどのように収集し活用しているのかについて先進企業の事例を用いて解説する。	これまでの学習内容を振り返ること。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
8	情報通信技術とビジネス革新① 情報通信技術の発達に伴いビジネス全体がどのように変化しているのかを解説する。	テキストの第7章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
9	情報通信技術とビジネス革新② 前回に引き続き、近年のビジネスの変化を追う。特に，XaaSやAIといった 最近注目されるキーワード	ビジネス・経済の専門誌(日経ビジネスや東洋経済)の記事から情報管理に関連するものを見つけて読んでくること。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
10	情報管理と組織コミュニケーション 情報管理を行う主体の組織にはどのような能力が必要か、情報通信技術の発展によってどのような変化	テキストの第9章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
11	情報管理と知識創造 知識創造とイノベーションの観点から、今日の情報管理の課題について考える。	テキストの第10章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
12	経営情報システムの運用と保守 経営情報のシステム化と保守に関する問題を解説する。	テキストの第6章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
13	情報管理と対顧客コミュニケーション 情報通信技術の発達に伴う顧客とのコミュニケーションの多様化・複雑化を理解し、失敗事例などを	SNSで企業が失敗した例を見つけ、何が悪かったのか、どうするべきかについて考えておく。	小レポートの作成・提出（９０分）
14	まとめと期末レポート課題に関する案内 講義を振り返り、期末レポート課題の内容について案内する。	これまで授業の復習をし、わからない点を質問にまとめてくる（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
15	期末レポート課題の発表 希望者に期末レポートの内容をプレゼンテーションしてもらう。	これまでの授業内容の復習をしてくること。（９０分）	期末レポートを作成する。（９０分）
16	期末レポート課題の講評とガイダンス 提出された期末レポート課題を講評し、今後の自主学習のための案内をする。	これまでの授業内容の復習をしてくること。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論（SP）	（科目ナンバリング：MAN412004，MAN522015　　）			
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・企業経営における情報の役割と管理の重要性や方法、そして課題について理解を深める。
・ビッグデータ、IoT、プラットフォーマーの登場などに代表される、近年の情報技術の発達に関連する競争環境の変化を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・企業が扱う情報の種類や特徴、技術進歩による変化および近年の動向について説明できる。
・企業の情報管理活動に関連する経営学の理論を知り、企業活動を自ら分析することができる。
・上記を通じて、企業が情報を取得・活用・管理する際に注意すべき点や工夫すべき点を主体的に考え、課題解決に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題はMoodleで提出する。
また、授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求めることがある。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。
・単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営情報論に関する知識・理解	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。さらに、今後の情報社会のあり方や企業の課題についても言及できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができ、近年の情報社会について最低限理解できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができた。	経営情報論の基本的な用語と意味を覚え、説明することができなかった。
レポートを作成する能力	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、非常にわかりやすくまとめられており、講義内容以上の知識も自身で調べ、まとめることができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめられていた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめようとする工夫がみられた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができなかった。
自身の生活や進路と関連づけて学ぶ能力	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案・実行し、一定の成果をあげることができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案し、実行することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうと努力した。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうとしなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論（SP）	（科目ナンバリング：MAN412004，MAN522015　　）			
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学基礎データサイエンス』	伊藤大河・川村和也・内田瑛・河合麗奈	実教出版	2023	9784407361223	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	イントロダクション:授業の概要と全体のプレビュー本イントロダクション 授業の概要と全体のプレビュー、本授業のシラバス	テキストのはしがきを読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
2	企業経営と情報 企業が扱う情報にはどのようなものがあるのか、情報社会とはどのようなものかを解説する。	テキストの第1章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	企業の情報管理と経営学の基礎理論 情報管理の活動を分析するための経営学の基本的な理論を振り返る。	テキストの第2章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
4	情報通信技術の発達 情報通信技術がどのような発展を遂げてきたのかを振り返る。	テキストの第4章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
5	経営情報システムとその変遷 経営情報システムにはどのようなものがあるのか、どのように変化してきたのかを解説する。	テキストの第3章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
6	経営情報システムの設計と開発 経営情報システム開発の方法論を解説する。	テキストの第5章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
7	顧客情報の収集と活用 企業が顧客情報をどのように収集し活用しているのかについて先進企業の事例を用いて解説する。	これまでの学習内容を振り返ること。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
8	情報通信技術とビジネス革新① 情報通信技術の発達に伴いビジネス全体がどのように変化しているのかを解説する。	テキストの第7章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
9	情報通信技術とビジネス革新② 前回に引き続き、近年のビジネスの変化を追う。特に，XaaSやAIといった 最近注目されるキーワード	ビジネス・経済の専門誌(日経ビジネスや東洋経済)の記事から情報管理に関連するものを見つけて読んでくること。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
10	情報管理と組織コミュニケーション 情報管理を行う主体の組織にはどのような能力が必要か、情報通信技術の発展によってどのような変化	テキストの第9章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
11	情報管理と知識創造 知識創造とイノベーションの観点から、今日の情報管理の課題について考える。	テキストの第10章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
12	経営情報システムの運用と保守 経営情報のシステム化と保守に関する問題を解説する。	テキストの第6章を読んでおくこと。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
13	情報管理と対顧客コミュニケーション 情報通信技術の発達に伴う顧客とのコミュニケーションの多様化・複雑化を理解し、失敗事例などを	SNSで企業が失敗した例を見つけ、何が悪かったのか、どうするべきかについて考えておく。	小レポートの作成・提出（９０分）
14	まとめと期末レポート課題に関する案内 講義を振り返り、期末レポート課題の内容について案内する。	これまで授業の復習をし、わからない点を質問にまとめてくる（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
15	期末レポート課題の発表 希望者に期末レポートの内容をプレゼンテーションしてもらう。	これまでの授業内容の復習をしてくること。（９０分）	期末レポートを作成する。（９０分）
16	期末レポート課題の講評とガイダンス 提出された期末レポート課題を講評し、今後の自主学習のための案内をする。	これまでの授業内容の復習をしてくること。（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミクロ経済学 （科目ナンバリング：ECT422028，ECT522031 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ミクロ経済学の基礎的な用語や考え方を学ぶことで、ミクロ経済学の考え方や枠組みを理解し、身近な経済のさまざまな事象を分析するための思考力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

基礎的なミクロ経済学の用語を説明できる。
身近な経済事象をミクロ経済学の視点から考察できる。
市場で決まる価格のしくみと意味がわかる。

授業全体の内容と概要

トレード・オフや機会費用などの経済学の考え方について、身近な事例をもとにした演習も行いながら学ぶ。また、余剰の計算や限界概念にかんする演習をつうじて、市場で価格が決まるしくみやその社会的な意味について理解する。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説しする。演習では、ミクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげた用語の説明などの問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点は、この演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学の用語の理解	事例をあげてミクロ経済の用語を的確に説明できた。	事例をあげてミクロ経済の用語を説明できた。	ミクロ経済の用語を説明できた。	ミクロ経済の用語をある程度説明できた。	ミクロ経済の用語を説明できなかった。
ミクロ経済理論の理解	図や式を利用して、ミクロ経済の考え方を的確に説明できた。	図や式を利用して、ミクロ経済の考え方を説明できた。	ミクロ経済理論の基礎的な図や式を正確に書き・計算できた。	ミクロ経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	ミクロ経済学の図や式を書けなかった。
ミクロ経済事象の考察	ミクロ経済学の視点から身近な経済事象を的確に考察できた。	ミクロ経済学の視点から身近な経済事象をある程度考察できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象に適用できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象にある程度適用できた。	ミクロ経済学の視点を身近な経済事象に適用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミクロ経済学 （科目ナンバリング：ECT422028，ECT522031 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第３版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	２０１９	4492315217	
2	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』	ティモシー・テイラー	かんき出版	２０１３	9784761268947	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ミクロ経済学とは： ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明	ミクロ経済学という用語について調べる(90分)	ミクロ経済学とは何かについてノートにまとめる（９０分）
2	希少な資源とトレードオフ： ・トレードオフとは　・資源の希少性と経済学の目的	用語「トレード・オフ」・「資源の希少性」について調べる（９０分）	資源の希少性とトレード・オフの関係についてノートにまとめる（９０分）
3	経済学的費用とは ・ある行動の経済学的費用とは　・機会費用の考え方	「機会費用」について調べる（９０分）	経済学的費用の考え方についてノートにまとめる（９０分）
4	インセンティブと効用： ・意思決定と意志力	「インセンティブ」「効用」について調べる（９０分）	経済学におけるインセンティブの考え方についてノートにまとめる（９０分）
5	現在価値： ・現在価値と将来価値　・割引現在価値の演習	「割引現在価値」について調べる（９０分）	割引現在価値の考え方についてノートにまとめる（９０分）
6	買手の行動について： ・意思決定と機会費用、コミットメント	「コミットメント」について調べること（９０分）	買手の意思決定についてノートにまとめること（９０分）
7	需要曲線と消費者余剰： ・商品に対する買手の評価と需要　・消費者余剰とは	「消費者余剰」について調べること（９０分）	買手の評価と需要曲線、消費者余剰についてノートにまとめる（９０分）
8	需要の変化と需要曲線： ・需要曲線上の変化　・需要曲線のシフト	「需要曲線」について調べること（９０分）	需要の変化と需要曲線との関係についてノートにまとめること（９０分）
9	財と財との関係： ・代替財とは　・補完財とは	「代替財」「補完財」について調べる（９０分）	代替財と補完財について事例もまじえてノートにまとめる（９０分）
10	需要の価格弾力性： ・需要の価格弾力性とは　・価格弾力性と需要曲線	「需要の価格弾力性」について調べる（９０分）	需要の価格弾力性と需要曲線との関係についてノートにまとめる（９０分）
11	売手の費用と行動 ・価格と供給量	価格と供給量との関係について調べる（９０分）	供給曲線についてまとめる（９０分）
12	限界的な変化：経済学における限界概念 ・限界効用とは　・限界費用とは	「限界効用」と「限界費用」について調べること（９０分）	経済学の限界概念についてノートにまとめる（９０分）
13	市場機構（１）： 需要と供給 ・需要曲線と買手の限界的な評価　・供給曲線と売手の限界的な費用	「市場価格」について調べる（９０分）	需要曲線・供給曲線の高さの意味についてノートにまとめる（９０分）
14	市場機構（２）：市場の均衡 ・均衡価格と買手の評価・売手の費用	経済学における均衡について調べる（９０分）	市場均衡のしくみと市場価格の意味についてノートにまとめる（９０分）
15	市場の効率性と市場の失敗 全体のまとめ	市場の失敗について調べる（９０分）	不明な点を確認して授業ノートを完成させる（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験で間違えた問題に再度とりくむ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教　（科目ナンバリング：ESS143155,　　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、授業計画を作成・研究することができる能力を身に付け、教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP４、DP５に対応する。　（2023・2022年度）

到達目標

「社会科」・「地理歴史科」の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、実際に教壇に立って授業を行うことができるように、授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業（後期）等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。
「ＳＤＧ４、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態はスライドを用いた講義形式が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。なお、野外調査活動の一環として、地域のフィールドワークを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。
教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、模擬授業の方法等をマスターするので、教員の立場として物事を考えること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	５０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、詳細に観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を少ないが集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教　（科目ナンバリング：ESS143155,　　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041339	
4	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史』	文部科学省	東洋館出版社	2021	9784491047010	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価方法のガイダンス 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	社会科教育の歴史（１）戦後教育の歩みについて	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	社会科教育の歴史（２）学習指導要領改訂の経過について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	中学校社会科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	高校地理歴史科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
6	中学校社会科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	高校地理歴史科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	社会科・地理歴史科教育の方法①　グループワーク	ディスカッションの準備学習をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	社会科・地理歴史科教育の方法②　ブレインストーミング	ディスカッションの準備学習をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
10	社会科・地理歴史科教育の方法③　ディベート	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	中学校社会科地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	中学校社会科歴史分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
13	高校地理分野の指導と評価について	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	高校歴史分野の指導と評価について	フィールドワークの準備学習をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
15	フィールドワーク　郷土資料館	フィールドワークの準備学習をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備（９０分）	まとめの振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年、社会福祉学科・３年、デザイ		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 （科目ナンバリング：POL021022 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代日本政治を中心に、政治を考察するための基礎概念、制度、歴史に関する知識を正確に理解し、それらを用いて政治に対する自分の考えを説明する能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
経営学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

①政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。
②日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。
③概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明することができる。

授業全体の内容と概要

政治というものは日常生活を送るうえで避けて通ることができないものであるが、目に見えるものではない。政治学は、この目には見えない政治という現象を捉えようとする学問である。この講義では、現代日本政治を題材に政治学の成り立ち、基本的な概念について学ぶ。具体的には、日本の政治がどのような仕組みになっているのか、その制度を学ぶ。次に、日本の政治がこれまでどのように展開してきたのか、その歴史を学ぶ。そのうえで、現代日本政治の課題について学ぶ。
「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。	政治に関する基礎的な概念を発展的に理解し、説明することができた。	政治に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	政治に関する基礎的な概念をある程度理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を発展的に修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を正確に修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識をある程度修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができた。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができなかった。
概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明することができる。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを発展的に説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを十分に説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えをある程度説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明できた。	概念、歴史、制度に基づいて日本政治に関する自分なりの考えを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年、社会福祉学科・３年、デザイ		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 （科目ナンバリング：POL021022 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	2 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	政治学の基礎概念	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	政治の役割	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	日本の内閣	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	日本の国会	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	日本の政党	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	日本の政治家	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	日本の選挙制度	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	日本の選挙の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	日本の官僚制	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	日本の地方自治	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	地方自治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	日本の外交	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	日本政治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業テーマに関する新聞記事の熟読（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分＋解説３０分）	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語III （科目ナンバリング：JLN052040 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　佐藤　恵利・高橋　真弥 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語III		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自分の思いや考えを、相手が理解できるように伝えるにはどのような技法や作法が必要なのかを学ぶ。大学の各専門分野において、しっかりした文章が書けるようになる。日本の大学で通用するレポート、論文の書き方を段階的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年、２０２２年度度）
デザイン学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）
建築学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）
経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）

到達目標

文章の「型」を身に着け、自分の考えを整理することができる。文章表現のルールを理解し、スキルを身に着け、正しい形のレポートや論文を書くことができる。
わかりやすい文章で、相手に自分の思いや考えを伝えることができる。

授業全体の内容と概要

文章表現のルールや技法を段階的に学ぶ。課題発見力、情報整理力を身に着けるためのトレーニングを行い、提示される課題に取り組む。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

資料や参考図書を使用し、段階的にレポート、論文の書き方を学ぶ。文章表現のトレーニングが中心だが、グループでお互いの文章を評価したり、課題発見力、情報整理力をつけるためのグループワーク等も行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。文章表現時に単語等がわからない時など、教師が許可した時のみ携帯電話等の使用ができる。毎時授業内で課題を提示する。一日でも休むと課題評価が得られないので毎回出席すること。
平常点も評価に影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業内で提示する課題と、最終レポートで評価する。課題や最終レポートの評価は文章表現のルールを理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかどうかで行う。
15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。最低出席日数は10回である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	４０%	０%	２５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章を書くための知識と技術	文章を書くための知識と技術を完全に身につけ、知識と技術を活用してわかりやすい文章で表現することができた。	文章表現のルールを理解し、文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	分からないことを適切な方法で調べながら、相手に、より伝わる文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	適切な知識と技術で文章を書くことができた。文章表現のルールを完全には理解できなかった。	文章を書くための知識と技術を身につけることが全くできなかった。文章表現のルールを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。大学で通用するしっかりした文章表現ができた。	自身で考え、自分の言葉で表現でき、内容が分かりやすかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。	日本語での表現ができた。	日本語での表現ができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語III （科目ナンバリング：JLN052040 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語III		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	受講のためのオリエンテーションとシラバスの説明 文章を書くためのことばのドリル 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容の確認と受講準備（９０分）	授業内容の復習（９０分）
2	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
5	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
6	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
7	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
8	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
9	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
10	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
11	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
12	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
13	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
14	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク 最終レポート課題提示	前回の復習（９０分）	授業内容の復習、最終レポート作成（９０分）
15	最終レポート作成	前回の復習（９０分）	最終レポート作成（９０分）
16	最終レポートの提出と全体のまとめ 授業改善アンケートの実施	最終レポートのチェック（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論 （科目ナンバリング：BAM112008 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

社会福祉職に求められる人の成長・発達過程を理解し、人体の機能・構造と病的状態を関連させて説明できる。

授業全体の内容と概要

人体の構造と生理機能を臓器と関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また，ICFの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	２０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみの理解	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて非常に理解できた。	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて概ね理解できた。	人の成長・発達過程、人体について部分的に理解できた。	人の成長・発達、人体について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
各疾病、障がいの概要	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させ詳しく説明できた。	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させ概ね説明できた。	各疾病・障がいの概要、人体の機能・構造を部分的に説明できた。	各疾病、障がいの概要を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を詳細に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を概ね説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFについて部分的に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	医学概論 （科目ナンバリング：BAM112008 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8231-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 医学と福祉について	事前に教科書全体に目を通しておく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題①	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
3	ライフステージにおける心身の変化と健康課題②	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
4	ライフステージにおける心身の変化と健康課題③	教科書の第一章について事前に読んでおく（９０分）	配布資料と理解しておく（９０分）
5	身体構造と心身機能①	教科書の第三章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
6	身体構造と心身機能②	教科書の第四章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
7	身体構造と心身機能③	教科書の第五章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと（９０分）	問題を見直し自己採点しておく（９０分）
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	配布資料と理解しておく（９０分）
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
12	健康および疾病の捉え方①	教科書の第六章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
13	健康および疾病の捉え方②	教科書の第二章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
14	公衆衛生	教科書の第七章について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	医療と福祉の課題に今後も取り組んでいく（９０分）
16	定期試験６０分後終了後、残り３０分間で解説する。	講義を通して質問事項をまとめておくこと（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 （科目ナンバリング：BSM313017 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人命を預かる建築物を造りだす過程において、建築が社会に果たす意味や役割を考える力を養う。さらに、建築士試験の「建築施工」および建築施工管理技士試験に対応した基本事項の理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

設計図書には詳しく表現されていない建築施工の各工程を学び、施工管理者としての実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士試験を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０％	０％	０％	１０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築施工」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築施工 （科目ナンバリング：BSM313017 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	事前準備：地盤調査	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	仮設工事計画：仮設建物・工作物	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	地下工事：土工事・山留め工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	地下工事：基礎工事（直接基礎および各種杭基礎）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	鉄筋コンクリート工事：鉄筋工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	鉄筋コンクリート工事：型枠工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	鉄筋コンクリート工事：コンクリート工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	鉄筋コンクリート工事：プレキャスト・ブロック工事・ALC工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	鉄骨工事：鉄骨の種類と加工	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	鉄骨工事：鉄骨の接合方法・溶接接合	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	鉄骨工事：鉄骨の接合方法・高力ボルト接合	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	鉄骨工事：工事現場作業（工事現場作業工程等）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	木質系工事：木造の接合部・造作工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	木質系工事：小屋組と工法・枠組壁工法	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う） 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 （科目ナンバリング：CHS121072 ）				
授業担当者（所属・職名）	平山　拓也（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　平山　拓也　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

以下の４つを授業の目的とする。
１．保育者の役割と倫理について理解する。
２．保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。
３．保育者の連携・協働について理解する。
４．保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

１．保育者の役割・倫理，協働，専門職的成長について理解したことを説明する。
２．保育士の制度的な位置づけ，専門性について理解したことを説明する。

授業全体の内容と概要

保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とプレゼンテーションソフトを活用しながら講義形式で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換や教材配付等を行う。
レポートに関してもコメントしてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

レポートの内容・提出方法及び平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻した場合、授業へは参加できるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60％	0％	0％	0％	40％	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育者の役割に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育者の役割及び倫理性について深く理解できた。	保育者の役割及び倫理性についておおむね理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できた。	保育者の役割及び倫理性についてやや理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できなかった。
保育士の専門性に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育士の専門性について深く考察できた。	保育士の専門性についておおむね考察できた。	保育士の専門性について考察できた。	保育士の専門性についてやや考察できた。	保育士の専門性について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをわかりやすく説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをおおむね説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをやや説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 （科目ナンバリング：CHS121072 ）				
授業担当者（所属・職名）	平山　拓也（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 平山　拓也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・基本保育シリーズ7　保育者論』	公益財団法人児童育成協会	中央法規出版	２０１９	9784805857878	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育者の役割・職務内容・職務内容	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育士の倫理	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育士の資格・資質	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
4	欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育士の資質・能力	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	６回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
7	家庭との連携と保護者に対する支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
9	保育の質の向上	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	保育における職員間の連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１０回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
11	専門職間及び専門機関との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
12	地域における自治体や関係機関等との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
13	資質向上に関する組織的取組	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
15	組織とリーダーシップ　まとめ	これまでの授業で学んだ事を整理しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	定期試験６０分。試験終了後に解説を行う 提出されたレポートの総合評価をフィードバックと授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(９０分)。	験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ（1年） （科目ナンバリング：DES211014 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びながら論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ（1年） （科目ナンバリング：DES211014 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性	シラバスを読んでおくこと（９０分）	受講環境の整備（９０分）
2	雑学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」	シラバスの確認（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
6	現代に直結するデザイン史①～③のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
10	現代に直結するデザイン史④～⑥のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
11	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
12	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
13	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
14	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
15	ヒットするデザインを生み出すには？ 「デザインと社会・デザインと産業界」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
16	デザイン概論Ⅰのまとめ デザイン概論Ⅱへ繋がる流れ 授業改善アンケートの実施	情報と資料の整理（９０分）	情報と資料の整理（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ（2年） （科目ナンバリング：DES211014 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びながら論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅰ（2年） （科目ナンバリング：DES211014 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性	シラバスを読んでおくこと（９０分）	受講環境の整備（９０分）
2	雑学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」	シラバスの確認（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
6	現代に直結するデザイン史①～③のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
10	現代に直結するデザイン史④～⑥のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
11	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
12	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
13	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
14	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
15	ヒットするデザインを生み出すには？ 「デザインと社会・デザインと産業界」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
16	デザイン概論Ⅰのまとめ デザイン概論Ⅱへ繋がる流れ 授業改善アンケートの実施	情報と資料の整理（９０分）	情報と資料の整理（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 （科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

日本は東洋諸国の中でもいち早く封建的段階から抜け出し、さらに第２次世界大戦後は世界史的にもまれな経済成長を遂げた。近世から現代にかけての日本経済の歴史的発展を多角的に学び、日本がどのように「資本主義」の国家として経済発展を遂げてきたのかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。

授業全体の内容と概要

鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。

授業の方法

PDFを利用した講義形式で行う。教科書は使用せず、基本的には資料配布を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための最低出席回数は11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	0%	0%	0%	３０％	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ：封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治～昭和へ：日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、何が経済発展の要因になったのかを、具体的例示と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展について、理解が見られなかった。
敗戦から経済成長へ：経済的成功と挫折	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯について、理解が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 （科目ナンバリング：ECH122123,ECH422031 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本経済史』	沢井実	有斐閣	2016	9784641164888	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション、シラバス説明：日本の経済発展とその歴史的前提 授業改善アンケート結果反映の説明	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
2	「近世経済」の成立と展開１－農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
3	「近世経済」の成立と展開２－武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
4	移行期の日本経済１－維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
5	移行期の日本経済２－維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
6	移行期の日本経済３－資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
7	明治～大正時代の日本経済１－生産組織や技術導入による経済成長	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
8	明治～大正時代の日本経済２－資本と労働	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
9	明治～大正時代の日本経済３－戦間期の日本経済	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
10	明治～大正時代の日本経済４－変貌する都市と農村	明治～大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
11	昭和初期～第二次世界大戦期の日本経済	第２次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
12	敗戦と経済復興１－統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
13	敗戦と経済復興２－高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(９０分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(９０分)
16	定期試験（６０分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施	これまで授業で学んだ事の総復習をして置くこと（９０分）	講義の全体を良く振り返っておくこと(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 （科目ナンバリング：S0C423044，S0C523043 ）				
授業担当者（所属・職名）	松本　懿（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 松本　懿 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（２３年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：３５年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

「まちづくり」という言葉は広く使われているが、その意味・内容や成果についての受け止め方は一様ではない。本講では、住民自治をベースに地域経営をいかに展開・確立するかという観点から、改めてまちづくりの概念、今日的意義と課題、成功要因等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「まちづくり」への知識や興味・関心が高まり、周りにある様々なまちづくり活動の特徴や成否に関する分析的視点・評価尺度が身につくとともに、今後、一住民として、あるいは自治体職員等として、自ら積極的姿勢をもって企画、参画することができる。

授業全体の内容と概要

「まちづくり」とは、誰が、何を、どうすることなのか。また、成功とはどんな状態を指し、到達するための条件・ポイントは何か。さらに、リーダーやメンバーに求められる心構えや行動とは･･･。こうした疑問や問題意識を念頭に、道内外の実際例をていねいに分析・検討する中から、その答えを見出してゆく。
「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG11.住み続けられるまちづくりを」「SDG12.つくる責任　つかう責任」の関連授業。

授業の方法

講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、まちづくりの理論的側面を概説した上で、個別のまちづくりに関する経過資料やビデオを活用するなど事例を中心に進める。グループワークでは、まちづくり文献・資料等から、成功要因や学ぶべき事柄等を討議、発表し合う（4回程度）。レポート・課題提出を数多く求めるが（７回程度）、グループワークやレポート等へのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	１０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
まちづくりの意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めている。	授業内容をほぼ全て理解している。	授業内容を概ね理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
まちづくりへの関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問、発言するなど模範的な授業態度である。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。	授業中、着席するものの課題や板書に取り組んでいない。
具体的な市町村等を対象に、地域特性や課題を踏まえたまちづくりプランを構想・提言	問題意識が鮮明で、内容も具体性に富み、魅力に溢れている。	問題意識が鮮明で、内容も具体的、魅力的である。	問題意識が鮮明で、内容も具体的でわかりやすい。	内容に一定の具体性がある。	問題意識が不鮮明で、内容も具体性や魅力に欠けている。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 （科目ナンバリング：S0C423044，S0C523043 ）				
授業担当者（所属・職名）	松本　懿（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 松本　懿 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（２３年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：３５年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスを中心に説明（本講の目的・内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点、授業改善アンケート結果の	シラバスによく目を通しておく(９０分)	授業内容に関連した「作文」を作成(９０分)
2	まちづくりへのアプローチ(１)　基礎理解（その概念、今日的意義・課題、担い手、新しい公共、参加・協働など）	事前配布「米百俵」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
3	まちづくりへのアプローチ(２)　構想・計画（まちの構成要素、その点検、計画・ルールなど）、　まちづくりの事例研究①＜旭川市＞	事前配布「旭川買物公園「を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
4	まちづくりへのアプローチ(３)　実践に向けて（その準備、基本手順、留意点など）、　まちづくりの事例研究②＜山形県長井市＞	事前配布「長井市レインボープラン」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
5	まちづくりの事例研究③　過疎を逆手にとる＜鹿児島県鹿屋市やねだん集落＞	過疎地域の今日的状況、課題を考察しておく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
6	まちづくりの事例研究④　まちの美化・環境改善への挑戦＜長野県飯田市＞	事前配布「飯田市リンゴ並木」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
7	まちづくりの事例研究⑤　まちの歴史、町並みを活かす＜愛媛県内子町＞	事前配布「内子町の町並み保存」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
8	まちづくりの事例研究⑥　美しい水環境を再生する＜福岡県柳川市＞	事前配布「柳川の堀割」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
9	ゲスト講話「自治体職員とまちづくり」＜北広島市の職員を予定＞	北広島市についての資料・データ・情報にアクセスする（９０分）	ゲスト講話の内容に関するレポート作成（９０分）
10	まちづくりの事例研究⑦　障がい者が働く・輝く＜スワンベーカリー＞	事前配布「スワンベーカリー」を読んでおく（９０分）	障がい者が働きやすい地域社会や職場を考えてみる（９０分）
11	まちづくりの事例研究⑧　安心・安全な子育て環境を創る＜東京都NPOフローレンス＞	事前配布「病児保育のフローレンス」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
12	まちづくりの事例研究⑨　商店街の再生・活性化＜東京都足立区東和銀座商店街＆香川県高松市丸亀町商店街＞	事前配布「東和銀座商店街」を読んでおく（９０分）	出身地の商店街の現状、課題を検討・整理してみる（９０分）
13	まちづくりの事例研究⑩　高齢者の生きがい・働きがい創造＜徳島県上勝町＞	事前配布「上勝町の葉っぱビジネス」を読んでおく（９０分）	身近な高齢者に生きがいやまちのあり方を聞く（９０分）
14	まちづくりの事例研究⑪　若者によるまちづくりイベント・活性化＜札幌市YOSAKOIソーラン祭り＞	配付資料からレポート「YOSAKOIの特徴・成功要因」を作成（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
15	まとめ　①課題「北広島市のまちづくりへの提言」発表・提出　②総括講義「まちづくりの要諦」　③「授業改善アンケート」	課題「北広島市への提言」をまとめておく（９０分）	「まちづくり論」のノート、資料の整理（９０分）
16	「定期試験」(６０分)及び解説(３０分)	定期試験の準備（９０分）	定期試験及び解説を受けて、本講全体の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 （科目ナンバリング：AEA223119 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡　恵子（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 岡　恵子 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

１．身近な自然物、静物、人物、風景をよく観察し、日本画の表現に欠かせない基礎的な描写力を身に着けることができる。
２．写生から下絵、本画の制作と進め、日本画制作の基本的な手順を知ることができる。
３．水干絵の具・膠・箔・筆・絵絹などの日本画画材と用具を知り、基本的な扱い方を知ることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

１． 写生を通して対象を的確に描写することができる。
２． 写生から下絵の制作そして本画へと、日本画制作の手順を知り制作を進めることができる。
３． 日本画画材と用具についての基礎的な知識と扱い方を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

季節の自然物、身の回りの静物、人物、風景など、興味を抱いた対象を観察し写生をする。色鉛筆で彩色する。
木枠に絵絹を貼り込む。礬水を引く。写生した対象を直接または編集アプリ等を利用して画面上に構成する。先人の作品を鑑賞し、筆と墨を使った運筆演習をする。下図の輪郭線を具墨で骨描きする。膠・胡粉・水干絵の具の特徴を知り、これらを使った日本画の表現技法の基礎を学ぶ。希望に応じて箔表現も扱う。絵絹という基底材の特性を生かして塗りを重ねる。絹の透け感を生かした装丁を考える。作品の制作を通して自己を見つめ表現することを目標とする。

授業の方法

授業は、TEAMSのパワーポイント資料、または授業担当者作成のテキストによる日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材の扱いや表現についての実技指導によって構成される。日本画の基礎知識を問う筆記テストを授業内初期段階で行う。作品の制作過程で、毎時間「創作レポート」を記入することを通して、作品制作の構想と日本画の知識の定着をはかる。作品の構想段階と制作の終盤で、作品についての個人発表(プレゼンテーション）と相互講評を行う。作品完成時に提出する作者のコメントには講評を添え、作品と共に学内に掲示する。実技では写生を重視する。希望者は戸外(大学構内）での写生を行う(フィールドワーク）。制作途中、墨を擦る、模写運筆演習、胡粉を溶く、カラ刷毛を使ったグラデーション技法などはグループで協力して行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

使用する絹枠・絵絹は各自で購入するものとする。時価（1,500円程度）
制作スペースと用具の関係から履修人数を２４名程度に制限する。
毎授業前にTEAMSに当該授業の内容の紹介と連絡などを提示するので、目を通しておくこと。
日本画の画材に早く慣れるために、授業当番を設ける。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上とする。
◯以下の３点が期日までに提出されていること
①写生(TEAMS課題欄に提出）②絹本に着彩した日本画作品１点　③創作レポート
◯日本画についての基礎知識を持っていること（基礎知識を問うテストを授業内で実施する）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	７０%	１０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
写生力	対象の色と形をよく観察した上で的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆勢と筆圧を意識した描線での表現を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。
構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。	取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面上に構成することができなかった。
表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を意識して、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗りの技法を知り、表現することができなかった。
知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得できた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識の習得を目指すことができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 （科目ナンバリング：AEA223119 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡　恵子（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 岡　恵子 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・「日本画とは」概説 ・シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の	シラバスを読む（４５分）	シラバスを確認し、日本画の概説と授業の流れを確認する。（４５分）
2	掲示された先輩の作品鑑賞し、作品の構想のヒントとする ・創作レポートに感想を書く	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。木枠の組み方の解説を確認する。（４５分）	掲示してある先輩の作品を鑑賞し興味を抱いた点を記録する。捨て糊の意味確認。感想を創作レポートに記入する。（４５分）
3	日本画の画材と用具の紹介	テキストの用具と画材の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備（４５分）	泥・筆・刷毛など形状、名称、用途、特徴などテキストを見て復習する。（４５分）
4	モチーフを写生する① 絹枠に捨て糊を施す	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。（４５分）	テキストとパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
5	基底材としての絵絹の特性を知る ・絹本作品の掛け軸の鑑賞	テキストの絵絹の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備（４５分）	絹の性質と貼り方、表現の可能性を復習する。描きたいものを選択する。（４５分）
6	モチーフを写生する② ・絹の文化と特性を知る ・絹枠に絵絹を貼る	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
7	膠、明礬、ドウサを知る ・絵絹に湯引きをする ・ドウサをひく	テキストの膠と礬水の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備（４５分）	湯引きの目的、礬水と礬水刷毛の役割を復習すること。描きたい対象を絞り意欲を深める。（４５分）
8	モチーフを写生する③ ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
9	日本画基礎知識ドリルテスト	日本画基礎知識ドリルを学習しておくこと、写生に必要な筆記具の準備（４５分）	基礎ドリルの復習を通して知識の定着を確認する。（４５分）
10	モチーフを写生する④ ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。モチーフを選択する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
11	墨を知る、墨を摺る ・墨による線描模写演習	墨の濃淡・線質について資料等を閲覧しイメージする。（４５分）	墨の擦り方、保管、日本画の線描、骨描きについて演習を通して確認する。（４５分）
12	①～④の写生を使って画面を構成する ・骨描きをする	墨の種類、摺り方、粉本を用いた運筆演習を通して線描の多彩さを知る。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
13	胡粉を知る ・胡粉を溶いてみる	授業テキストの胡粉団子の作り方を事前学習する。（４５分）	日本画の色材の基本である胡粉の伝統的な扱い方と美しい発色を知る。（４５分）
14	絹に胡粉を塗る	胡粉の原料、溶き方、塗り方と目的を復習する。資料を確認して具引きの方法を知る。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
15	水干絵の具を知る ・水干絵の具を美しく溶く	授業テキストの水干絵具の欄を事前学習する。（４５分）	水干絵具の美しい溶き方を確認する。（４５分）
16	日本画の塗りの技法演習 ・絵具の処理と筆の手入れ方法	水干絵具の美しい溶き方、表現技法を繰り返し確認する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	相互鑑賞	作品の背景色と塗りの方法を決定する。（４５分）	作品の相互鑑賞を通して表現の多彩さに気付き互いに技法を学び合う。（４５分）
18	絵絹作品の彩色① ・表彩色と裏彩色の違い	TEAMS資料やテキストを確認する。背景色を想定する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
19	絵絹作品の彩色②	絹の透ける性質を利用した裏箔表現を取り入れるか想定する。（４５分）	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。（４５分）
20	絵絹作品の彩色③ ・箔を使った表現、裏箔と砂子	テキストやTEAMSの箔の資料を確認する。	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
21	絵絹作品の彩色④	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。（４５分）
22	絵絹作品の彩色⑤	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
23	絵絹作品の彩色⑥	学習内容に必要な事前準備を行う。裏装丁を工夫した表現を考える（４５分）	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。（４５分）
24	絵絹作品の彩色⑦ ・絹の透け感を生かし表現を考える	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	次週までの課題として復習テスト問題を考える。テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入す
25	絵絹作品の彩色⑧	作品の裏装丁を施す。（４５分）	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。（４５分）
26	絵絹作品の彩色⑨	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
27	画印を考える ・画印を描く	"画印のデザインを考える 相互鑑賞で自作を語る準備（４５分）	復習テスト問題を集約する（４５分）
28	相互鑑賞	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。作品についての乾燥を考える。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
29	創作ノートの記入完成 ・画印を描く	創作ノートの記入（一部復習テストあり）	創作ノートの完成
30	作品完成と鑑賞 作品を額装する	作品の装丁に必要な素材や額を選択する。（４５分）	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。（４５分）
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく。（４５分）	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。（４５分）
32	課題課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。（４５分）	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 （科目ナンバリング：AEN312113 ）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 君　興治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

建築にはどのような設備があり、その設備をどう計画し、どう作図するのか。
本講義では、快適な住空間を構成するために必要な給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備の知識、ならびに設備計画技術の基本を習得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。

授業全体の内容と概要

給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、各種設備の役割を学ぶ。
「SDG７　エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」
「SDG１２　つくる責任　つかう責任
これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業ごとに行われる課題をすべて提出することが単位履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 （科目ナンバリング：AEN312113 ）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 君　興治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉　孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい　建築設備』	山田浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	給水設備・給湯設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
3	給水設備・給湯設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
4	給水設備・給湯設備の概要と計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
5	衛生設備・排水設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
6	衛生設備・排水設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
7	衛生設備・排水設備の概要と計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
8	空気調和設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
9	空気調和設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
10	空気調和設備の概要と計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
11	電気設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
12	電気設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
13	電気設備の概要と計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
14	照明設備の概要と計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
15	照明設備の概要と計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
16	照明設備の概要と計画（3） 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 （科目ナンバリング：SWS112009 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

高齢者の生活に対する理解を深め、相談援助活動において必要となる諸制度やサービスの知識と活用方法について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３、DP５に対応する。(2023年度)

到達目標

高齢者の福祉ニーズの理解と、関する制度やサービスの知識を会得できる。

授業全体の内容と概要

高齢者福祉サービスの利用者の理解と、支援の基盤となる理念及び、高齢者福祉に関する諸制度やネットワークについて学ぶ。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から６０点分、定期試験に出題する。
②不測の事態における授業や補講等でにオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は、欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
高齢者の特性について理解できる。	高齢者が生活してきた時代背景を含めて、説明できる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	身体的、精神的、社会的特徴の理解ができる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者を取り巻く環境と、生活実態の理解ができる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者に関する問題と、今後の課題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者に関する問題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齢者について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者支援に対する関連制度の理解ができる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要と、各々の課題について説明できる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要について説明できる。	高齢者福祉に対する諸制度の概要について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
高齢者と家族の支援におけるソーシャルワーカーの役割を理解できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を事例を用いて説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 （科目ナンバリング：SWS112009 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座高齢者福祉』	荘村明彦	中央法規	2021年	978-4-8058-8245-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 高齢者の定義と、少子高齢社会 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の目次に目を通す。新聞の高齢者にかんする記事をスクラップする。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
2	高齢者の特性	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
3	高齢者の生活実態と、高齢者を取り巻く社会環境	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
4	高齢者福祉の歴史	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
5	高齢者福祉の法体系① 老人福祉法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
6	高齢者福祉の法体系② 高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
7	高齢者福祉の法体系③ バリアフリー法、高齢者住まい法等	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
8	小試験	1回から7回の内容を復習する。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	高齢者福祉の法体系④ 介護保険法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
10	高齢者福祉の法体系⑤ 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
11	高齢者福祉の法体系⑥ 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
12	高齢者支援における関連機関と専門職	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
13	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
14	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
15	定期試験	1回から14回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
16	試験解説とまとめ 授業改善アンケートの実施	1回から１５回を振り返り、質問事項があればまとめる。（９０分）	試験の不正解部分について復誓する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝIII （科目ナンバリング：AEA222008 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして，アーティストとして，美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを充分に認識させ，単に技能や知識の向上にとどまらず，美術を愛好し積極的に，学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

モティーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。
卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

知性と感性を充分に発揮し，根気強くたゆまなく努力すること。
作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現しているた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝIII （科目ナンバリング：AEA222008 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションー　シラバスの説明 デッサンのための用具野説明，授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
2	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
3	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
4	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
5	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
6	石膏像（胸像）のデッサン　⑤作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
7	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
8	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
9	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
10	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
11	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
12	石膏像（胸像）のデッサン　⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
13	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
14	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
15	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
16	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
18	石膏像（胸像）のデッサン　⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
19	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
20	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
21	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
22	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
23	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
24	石膏像（胸像）のデッサン　⑥作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
25	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
26	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
27	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
28	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
29	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
30	石膏像（胸像）のデッサン　⑥	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
31	石膏像（胸像）のデッサン　⑦作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
32	採点及び講評会　（解説・フィードバック） 授業改善アンケート実施	講評会の準備を行うこと（45分）	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学Ⅰ　（科目ナンバリング：BSM312012　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築技術者に必要な建築構造力学のうち，力と構造物の関係・力の釣り合い・静定構造物の特徴や解法を学習する．
物理学や数学をベースとして，構造計算の基礎知識を修得し，それらを応用する能力を身につける．

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１、DP３、DP４に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。力の釣り合いを理解し、静定ばり・静定ラーメンなどの支点反力・応力を計算して断面力図を描くことができる。建築施工管理技士・建築士の構造力学分野の問題を解くことができる。

授業全体の内容と概要

取扱う内容は静力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形等である。
力の表示･合成･分解･釣り合い等から構造物の荷重･反力，応力などの事項を講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し，授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習が自力で解けるように講義する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので，休まず出席して知識を集積することが重要。
講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり，知識の定着には復習（反復演習）が必要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
力に関する基礎知識	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができ、他の人に説明できた。	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができた。	複数の力のベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができなかった。
静定構造物に生じる力学的諸現象	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、他の人に説明できた。	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、説明できた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	２級建築士問題（構造部門）を解答でき、他の人に説明できた。	２級建築士問題（構造部門）を解答できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答できた。	施工管理技士試験問題（構造部門）を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学Ⅰ　（科目ナンバリング：BSM312012　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野　清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 構造力学に必要な算術計算	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（９０分）	授業内容を整理して、演習問題を復習する（９０分）
2	力に関する基礎知識 （1）力・力のモーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
3	力に関する基礎知識 （2）合力・分布荷重	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
4	力の釣り合い	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
5	構造物（荷重）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
6	構造物（反力）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分））
7	部材の生じる力 （1）（基礎）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
8	部材の生じる力 （2）（単純梁）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
9	部材の生じる力 （3）（片持梁）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
10	部材の生じる力 （4）（せん断力図・曲げモーメント図）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
11	荷重の重ね合わせ	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
12	静定ラーメン（1）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
13	静定ラーメン（2）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
14	静定ラーメン（3）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
16	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います。	授業内容全体について資料を整理して，定期試験に備える（９０分）	授業内容全体について資料を整理する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助　（科目ナンバリング：CHS122073　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の３つを授業の目的とする。
１．保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。
２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。
３．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

１．子どもを理解する視点について説明する。
２．子どもを理解する上での基本的な考え方について説明する。

授業全体の内容と概要

子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用し、授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れる。特に各回でテーマを設定し、思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。
提出されたレポート及び質問等は、コメントを記入してフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合は、入室可能だが２０分以上の遅刻は欠席扱いとみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程（必修科目）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子ども理解の視点に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	子ども理解の視点についての知識を深く理解できた。	子ども理解の視点についての知識をおおむね理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解できた。	子ども理解の視点についての知識を多少理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解することができなかった。
思発達課題に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	発達課題に応じた援助について十分に考察できた。	発達課題に応じた援助についておおむね考察できた。	発達課題に応じた援助について考察できた。	発達課題に応じた援助について多少考察できた。	発達課題に応じた援助について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子ども理解の方法について理解したことをわかりやすく説明できた。	子ども理解の方法について理解したことをおおむね説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを多少説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 （科目ナンバリング：CHS122073 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育における子どもの理解の意義 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	子どもを理解する視点①子どもの生活や遊び	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	子どもを理解する視点②保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	保育計画の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	子どもを理解する視点③子ども相互のかかわりと関係づくり	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す１回目の課題を作成する（９０分）。
7	子どもを理解する視点④集団における経験と育ち、葛藤、つまずき	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	子どもを理解する視点⑤保育の環境の理解と構成、環境の変化・移行	発達心理等発達過程を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す２回目の課題を作成する（９０分）。
9	子どもを理解する方法①観察・記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	子どもを理解する方法②省察・評価	計画作成の方法をよく読んでおく（９０分）。	授業終了時に示す３回目の課題を作成する（９０分）。
11	子どもを理解する方法③職員間の対話、保護者との情報の共有	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
12	発達の課題に応じた援助と関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書の評価頁を事前に読んでおく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	発達の連続性と就学への支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す４回目の課題を作成する（９０分）。
15	子どもの理解に基づく発達援助・まとめ	保育の計画で学んだ事を整理しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	提出されたレポートの総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	１５回の講義内容を振り返り復習する(９０分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 II （科目ナンバリング：APT322035 ）				
授業担当者（所属・職名）	君 興治（建築学科・特任准教授）、向井 正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井 正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にてARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「ＣＡＤ演習Ｉ」を受けて本講ではJW_CADより高機能なBIM（Building Information Modeling）であるARCHICAD・Vector Works の作図操作について学ぶ。設計演習科目に関連する課題を通して，図面表現が単なる「お絵かき」ではなく，「建築製図」として仕上がる段階までＣＡＤが設計ツールとして扱えるように修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のDP２、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

３次元ＣＡＤを使い，自分で計画した建築物が手描き図面のように作図できる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて，ARCHICAD・Vector Works を用いたモデリング・作図操作の演習を行う。設計演習科目に関連する課題を実施し，ARCHICAD・Vector Works を用いて自由にモデリング・作図できるスキルを習得する。

授業の方法

コンピュータ室にて，ARCHICAD・Vector Works の作図操作画面を大型ディスプレイに表示しながら説明し，学生に操作方法を修得してもらう。作図操作に慣れたら，木造またはＲＣ造の設計課題を提示し，まずはエスキスを作成させる。個別にプレゼンしてもらい，それに対して確認と修正指導を行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業ではコンピューター室にて授業を行うことから、使用するパソコンを指定するが、ノートパソコンを持っている場合は持参することを推奨する。ＵＳＢメモリーは持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ARCHICAD・Vector Works を用いて正しいモデルが表現ができる。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しいモデル表現が 完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しいモデル表現が８割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しいモデル表現がほぼ６割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、モデル表現ができた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、モデル表現ができなかった。
ARCHICAD・Vector Works を用いて正しい作図表現ができる。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しい作図表現が 完璧にできた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しい作図表現が８割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、的確で美しい作図表現がほぼ６割方できた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、作図表現ができた。	ARCHICAD・Vector Works を用い て、作図表現ができなかった。
相手に伝わるプレゼンテーション（レイアウト）ができる。	CADを用いて相手に正確に意図を伝え るプレゼンテーションが 完璧にできた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝え るプレゼンテーションが ８割方できた。	CADを用いて相手に正確に意図を伝え るプレゼンテーションが ほぼ６割方できた。	CADを用いて相手に意図を伝え るプレゼンテーションができた。	CADを用いて相手に意図を伝え るプレゼンテーションができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 II （科目ナンバリング：APT322035 ）				
授業担当者（所属・職名）	君 興治（建築学科・特任准教授）、向井 正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 向井 正伸 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にてARCHICAD・Vector Works を用いた設計監理業務を行なった経験を基に授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「10日間でマスター！VectorWorks(ver.2018/2017対応）」』	山川佳伸	エクスナレッジ	2018	9784767825199	
2	『Archicad 26ではじめるBIM設計入門［企画設計編］』	BIM LABO	エクスナレッジ	2022	9784767830803	
3	『ARCHICAD21ではじめるBIM設計入門［基本・実施設計編］』	BIM LABO	エクスナレッジ	2019	9784767825946	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　作品紹介　授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
2	ARCHICAD・Vector Works　基本操作	配布資料・テキスト熟読（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
3	ARCHICAD・Vector Works　基本操作	配布資料・テキスト熟読（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
4	ARCHICAD・Vector Works　基本操作	配布資料・テキスト熟読（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
5	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
6	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
7	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	授業の作図の継続（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
8	作図演習課題１（3階建てビル・モデリング）	授業の作図の継続（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する（４５分）
9	作図演習課題１（3階建てビル・作図）	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
10	作図演習課題１（3階建てビル・レイアウト出力）	授業の作図の継続（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
11	作図演習課題２（住宅課題・モデリング）	配布資料・テキスト熟読（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
12	作図演習課題２（住宅課題・モデリング）	授業の作図の継続（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
13	作図演習課題２（住宅課題・モデリング）	授業の作図の継続（４５分）	授業の作図の継続（４５分）
14	作図演習課題２（住宅課題・作図）	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
15	作図演習課題２（住宅課題・レイアウト出力）	レイアウト準備（45分）	レイアウト提出（４５分）
16	講評会　授業改善アンケートの実施	講評会準備（４５分）	振返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北国の建築と住まい　（科目ナンバリング：APT311009　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

北国の建築と住まいは，積雪寒冷という気候条件から多くの制約を受けるため，それに対応すべく工夫と技術を生み出してきた。その一方で，美しい四季の変化と恵みを取り入れることも忘れることはなかった。この授業では，先達の恩恵をどのように受け継ぎ発展させてきたのか，これからの住まいと住宅地に求められるものは何かを理解し，北国の住宅設計の基本と応用に係る知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

北国の住宅の多様さを知り，設計・デザインする手法と技術を学び，これからの住まいのあり方と設計手法を修得できる。また，北国の建築や住宅の見学と観察から現状と問題点を探ることができる。

授業全体の内容と概要

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが，授業のポイントが演習問題として課せられので，集中して聴くことが求められる。板書すべき事項は授業資料に記載され，プロジェクターで事例の画像や図表を投影して解説する。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが，授業のポイントが演習問題として課せられので，集中して聴くこと、メモを取ることが求められる。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので，遅刻者は欠席扱いとなる。また，着席票をもとに意見発表を求め，受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回の授業内容を記録した課題を演習（平常点），建築見学参加（その他），レポート（レポート），スケッチ（課題・作品）の評価によって単位認定を行う。したがって，これらの課題未提出の場合は単位取得ができないので注意すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北国の建築と住まいが積雪寒冷という気候条件からどのような制約を受けているのかを理解する。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいや建築への制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいへの制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約をおおむね理解できた。	気候条件の制約を理解することができなかった。
北国の住宅が自然環境に対し，どのように対処をしているかを設計・デザインの手法と技術の面から理解する。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画され，その過程に多くの技術改良がなされてきたことを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対し計画されていることを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインをおおむね理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解することができなかった。
北国の建築や住宅を見学し観察することから環境に対する工夫や対処方法を理解し，問題点を見つけ出す。	北国の建築に対するさまざまな工夫を理解することができ，実物の観察かに再確認し問題点を指摘することができた。	北国の建築の工夫や対処方法を理解し，実物の建築の観察から再確認することができた。	実物の建築から，北国の建築の工夫していることを理解できた。	建築や住宅の見学に参加するることができた。	建築や住宅の見学に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北国の建築と住まい　（科目ナンバリング：APT311009　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，「北国の建築と住まい」で学ぶこと，北国の定義，北海道の歴史のあらまし	シラバスの事前確認（90分）	配布資料の見直し（90分）
2	北国の住まい１　縄文から屯田兵屋	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
3	北国の住まい２　住宅建築を拓いた建築家マックス･ヒンデルと田上義也	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
4	北国の住まい３　気候環境が生み出した住様式	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
5	北国の住まい４　暖かく住む　寒冷地の居住環境北国の建築の見学　北国の建築の名作をみる	見学資料の予習（90分）	
6	見学会＃１　旧島松駅逓	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
7	北国の住まい５　商品化住宅	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
8	北国の住まい６　間取り	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
9	北国の建築１　開拓使の建築-1　札幌農学校第２農場，時計台他	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
10	見学会＃２　札幌農学校第2農場（北海道大学）	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
11	北国の住まい７　各室の設計１　公室	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
12	北国の住まい８　各室の設計２　私室	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
13	北国の建築２　開拓使の建築-2　北海道庁旧本庁舎，豊平館，永山武四郎邸他	資料確認　（90分）	演習2作成（90分）
14	見学会３　永山武四郎邸，北3条通り（開拓使通り）	見学資料の予習（90分）	見学レポート作成（90分）
15	北国の建築３　現代の建築　サッポロファクトリー，札幌ドーム，モエレ沼公園，エスコンフィールド北海道他	見学資料の確認（90分）	演習2作成（90分）
16	総評（課題提出・発表の講評と解説） 授業改善アンケートの実施	提出課題再確認（90分）	最終振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 （科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。
とりわけ以下の２点に着目する。
①資本主義（資本制）の成立と展開。農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。
②市場経済化。需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

①資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。
②市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。

授業全体の内容と概要

Intro. 古代から中世へ
1. 近世（初期近代）
2. 近代
3. 現代

授業の方法

ＰＤＦ資料を中心として行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解する。	教科書を超える内容について詳しく理解している	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後処理からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 （科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始 授業改善アンケート結果反映の説明	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
2	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（オランダ＆イギリス）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
3	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（フランス＆中・東欧）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
14	ＥＵへの道	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
15	まとめ	該当箇所の教科書の読解（90分）	期末試験勉強（90分）
16	定期試験（６０分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施	授業の総まとめ（90分）	これまで学んだ事を見返す（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 （科目ナンバリング：AEA222120 ）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安田　祐造 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

洋画の技法は、今日の我が国では油彩が一般的だが、欧州における長い洋画の歴史を顧みるなら、油彩技法が確立される以前のエッグテンペラの技法は欠かせない。この授業では油彩とエッグテンペラによる絵画制作に用いる用材についての基本を学び、それぞれの技法の良さを活かすことにより、各々の履修生の表現の幅を広げるための道を拓くことを目的とするものである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などの基本を理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩のみならず、エッグテンペラなどに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々の用具の使用法や管理の仕方などについての基本を学修し表現の幅を広げるための科目である。

授業の方法

油彩とエッグテンペラとによる「混合技法」で作品を制作する実技形式の授業である。履修者各自が設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機器を充分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックに寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素晴らしさを追求するばかりか、自然環境やものを大切にする態度なども身につける意欲を持ち合わせた人を対象とした授業であることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について十分に身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてほぼ身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてある程度身についた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身につかなかった。
彩色材料について	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が十分に身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについてついての基本が身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについてついての基本がほぼ身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについてついての基本がある程度身についた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身につかなかった。
描写について	モティーフの面やバルールなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モティーフの面やバルールなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 （科目ナンバリング：AEA222120 ）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安田　祐造 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスについて 古今の作品について　（構図を主に） 授業改善アンケート結果反映の説明	予めシラバスに目を通す。(45分)	これから制作する作品の構想を練る。(45分)
2	洋画作品の構造と用材 木材の性質について	基底材として使用する木材の性質について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と自らの作品に相応しい支持体について検討する。(45分)
3	支持体製作 木材の裁断について 木工具の取り扱い方について	基本的な木工具の取り扱い方について予習する。(45分)	作品のテーマとモティーフを検討する。(45分)
4	支持体製作 木材の組み立てについて 木材の接着について	接着剤の種類や用法について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と地塗り材についての予習を行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方について	地塗り材による作品に対する効果について予習する。(45分)	様々な地塗り材の特徴と取り扱いとを復習する。(45分)
6	支持体製作 地塗りの仕方について	地塗り材の塗りの方法について予習する。(45分)	新作として構想したものを下絵として用意する。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨について 下絵の転写作業について	ヤスリなどの研磨材や用具について予習しておく。(45分)	様々な転写方法について復習する。(45分)
8	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方について	面や陰影の把握の重要性について予習する。(45分)	エッグテンペラ用展色剤の処方について復習する。(45分)
9	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について　Ⅰ	エッグテンペラメディウムの特徴について予習する。(45分)	作品創りに不足している用材等を補充しておく。(45分)
10	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について　Ⅱ	エッグテンペラ絵具での描法について練習を行う。(45分)	本時の内容を復習し、古今のエッグテンペラを用いた作品を分析する。(45分)
11	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作　A エッグテンペラでの描法について　Ⅱ	制作が遅れている場合、自ら制作を進め、遅れを取り戻す。(45分)	エッグテンペラの特徴を踏まえた描法について復習する。(45分)
12	混合技法による本制作　B エッグテンペラでの描法について　Ⅲ	前回の制作を振り返り、自らの課題を明確化しておく。(45分)	描写に不足がある場合は、自らそれを補っておく。(45分)
13	混合技法による本制作　C 油彩の特徴について	油彩の特徴を活かした描法について予習する。(45分)	古今の油彩や混合技法による作品の良さを画集やインターネットを活用して味わう。(45分)
14	混合技法による本制作　D エッグテンペラでの下層を活かす油彩描法について	油彩絵の具の透明性について予習する。(45分)	進捗状況を点検し、足りない部分を補う。(45分)
15	混合技法による本制作　E 質感の表現法について	質感表現について予習する。(45分)	本時の内容に照らし、遅れている点や不足している点がないか検討する。(45分)
16	混合技法による本制作F 陰影のコントラストについて	陰影のコントラストの重要性について予習する。(45分)	より良いものを求め不足している部分を補い、過ぎた部分については修正する。(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	混合技法による本制作　G 色彩の調和と色の三属性について　Ⅰ	表現の意図に相応しい配色の仕方について予習する。(45分)	本時の内容を復習し理解する。(45分)
18	混合技法による本制作　H 色彩の調和と色の三属性について　Ⅱ	前回の内容で理解できていない点を明らかにする。(45分)	色彩について着目し、制作の進め方について検討する。(45分)
19	混合技法による本制作　I 色彩の調和と色の三属性について　Ⅲ	色彩に着目し、自らの作品の進捗を確認する。(45分)	色彩について、これまでに学んだことを復習する。(45分)
20	混合技法による本制作　J エッグテンペラでの上描きについて　Ⅰ	油彩絵の具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せたことによる効果について予習する。(45分)	油彩絵の具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せて表現した古今の作品を参照する。(45分)
21	混合技法による本制作　K エッグテンペラでの上描きについて　Ⅱ	油彩絵の具層の乾き具合とエッグテンペラ絵具の乗り具合の関係について予習する。(45分)	本時の制作体験から、油彩絵の具だけでは得られないものが何か検討する。(45分)
22	混合技法による本制作　L エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	油彩絵の具での光の表現と混合技法でのそれとの効果の差異について予習する。(45分)	本時の制作体験により得られたものを、これからの制作にどのように活かすべきかを検討する。(45分)
23	混合技法による本制作　M 個別的な課題について　Ⅰ	これまでの制作を振り返り、自らの課題が何かを明らかにする。(45分)	自らが抱く作品についての構想を再確認する。(45分)
24	混合技法による本制作　N 個別的な課題について　Ⅱ	本時の制作で解決すべき点についてまとめる。(45分)	本時の制作で解決した点とそうではなかった点について検討する。(45分)
25	混合技法による本制作　O 個別的な課題について　Ⅲ	前回の制作で行き詰った点があれば、それを明らかにし、他者からの助言を受ける用意を行う。(45分)	作品仕上げの期限も近いことから、空き時間を利用して完成度を高められるように制作に取り組む。(45分)
26	混合技法による本制作　P 個別的な課題について　Ⅳ	制作当初の表現の意図が具現化されつつあるかを確認する。(45分)	表現の意図を確かにするために必要な点が何かを明らかにする。(45分)
27	混合技法による本制作　Q 個別的な課題について　Ⅴ	作品の細部と全体とに目をやり、改めるべき点や補うべき点などを明らかにする。(45分)	他者から意見や感想を寄せてもらい、制作の糧とする。(45分)
28	混合技法による本制作　R 個別的な課題について　Ⅵ	これまでの授業で取りあげられたそれぞれのテーマにつて、自らの作品を客観的に検討する。(45分)	足りない点や過ぎた点などを加筆したり修正したりして完成度を高める。(45分)
29	混合技法による本制作　S 個別的な課題について　Ⅶ	作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	冷静に客観的にできるだけ広い視野で自らの作品を検討する。(45分)
30	混合技法による本制作　T 個別的な課題について　Ⅷ	完成に向けて、様々な点について検討を行う。(45分)	これまでの制作で果たせたことや果たしきれなかったことについて検討する。(45分)
31	合評　A	自らの作品について自己評価を行う。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)
32	合評　B 授業改善アンケートの実施	感性や価値観の相違、多様性などについての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に、これからの制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 （科目ナンバリング：SWS112010 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。
②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。
③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。
④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３に対応する（２０２３年度）。

到達目標

①障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。
②障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。
③障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。

授業全体の内容と概要

障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、障害者と家族に等に対する支援の実際
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」、「SDG8．働きがいも経済成長も」、「SDG16．平和と公正をすべての人に」、「SDG17．パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 （科目ナンバリング：SWS112010 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座　８　障害者福祉』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１年	978-4-8058-8238-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、障害者福祉の概説、障害概念と特性	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史①障害者福祉の理念・障害観の変遷	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	障害者福祉の歴史②障害者処遇の変遷、障害者の権利条約と障害者基本法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	障害者に対する法制度①障害者総合支援法（障害者総合支援法の概要・障害福祉サービス及び相談支援・障害支援区分及び支給決定）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	障害者に対する法制度②障害者総合支援法（自立支援医療・補装具・地域生活支援事業・障害福祉計画）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	障害者に対する法制度③身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	障害者に対する法制度④児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	障害者に対する法制度⑤障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度の振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復
11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①関係機関と専門職等の役割	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	障害者と家族等に対する支援の実際①障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割・障害者と家族等に対する支援の実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	障害者と家族等に対する支援の実際②事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論 （科目ナンバリング：SPS422066，SPS512010 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え，指導者（リーダー）として，体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し，体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し，各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について，知識や理論として学ぶだけでなく，実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事，運動部活動，職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など，具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論 （科目ナンバリング：SPS422066，SPS512010 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代　勉・中村　平	大修館書店	２００２	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学　＜スポ	専用のノートを準備する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化を行うこと（９０分）
2	体育・スポーツ経営とは①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	体育・スポーツ経営とは②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	体育・スポーツ事業と経営資源①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	体育・スポーツ事業と経営資源②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	体育・スポーツ事業の進め方①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	体育・スポーツ事業の進め方②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
8	よい体育・スポーツ経営の条件①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
9	よい体育・スポーツ経営の条件②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
12	『みるスポーツ』の経営①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
13	『みるスポーツ』の経営②	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
14	ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業改善アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験および総括	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論（SP） （科目ナンバリング：SPS422066，SPS512010 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え，指導者（リーダー）として，体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し，体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し，各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について，知識や理論として学ぶだけでなく，実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事，運動部活動，職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など，具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目　保健体育教員養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１３回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理論（SP） （科目ナンバリング：SPS422066，SPS512010 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代　勉・中村　平	大修館書店	２００２	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学　＜スポ	専用のノートを準備する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化を行うこと（９０分）
2	体育・スポーツ経営とは①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	体育・スポーツ経営とは②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	体育・スポーツ事業と経営資源①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	体育・スポーツ事業と経営資源②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	体育・スポーツ事業の進め方①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	体育・スポーツ事業の進め方②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
8	よい体育・スポーツ経営の条件①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
9	よい体育・スポーツ経営の条件②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
12	『みるスポーツ』の経営①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
13	『みるスポーツ』の経営②	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
14	ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業改善アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験および総括	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学(建築図学を含む)　（科目ナンバリング：APT321033　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。 これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。 本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2、に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く。
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学び、自分なりの表現技術の基礎を作る。

授業の方法

教科書、補足資料、パワーポイント、板書などに内容に応じて用いる。
授業形態は講義および、講義に対応した課題をその場で実施する。
アクティブラーニングとしては、自身で課題を製作するため、それ自体がアクティブそのものである。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm，できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができている。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学(建築図学を含む)　（科目ナンバリング：APT321033　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築図法　立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、授業の進め方「線と分割」	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の復習（９０分）
2	「つなげる」	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
3	「平面・立面・断面」（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
4	「平面・立面・断面」（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
5	アイソメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
6	アクソノメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
7	ヴォリュームの組み合わせと陰影図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
8	透視図（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
9	透視図（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
10	透視図（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
11	作品制作（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
12	作品制作（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
13	作品制作（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
14	作品制作（４）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
15	作品制作（５）講評	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
16	総評・授業評価アンケート	未提出課題等の仕上（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（M） （科目ナンバリング：LAW021020 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

憲法は，国家権力の濫用を抑制し，国民の権利・自由を守るための基本法である。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう，条文を理解し，適用・解釈する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

憲法を学ぶことにより，法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き，法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし，法律の条文を理解し，個々の事例に対して適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには，法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。憲法は，国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三つを基本原理とする日本の基本となる法律である。憲法の基本となる知識を修得し，実例に即し講義を行う。具体的には，憲法総論，人権分野，統治分野に関し条文をベースに解説する。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う（調査実習含む）。
①確認テストは，講義の理解を深めるために２回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために２回（オンライン授業の場合は実施しない）実施する。③課題は，講義の理解を深めるために１回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講は原則２回を限度として実施する（公欠などの学生に対しては，補講を出席することによって単位認定基準を満たす場合のみ実施する。）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	１０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べることができた	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り，理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べることができた	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できた	事例を理解し，法律の条文を適用できた	事例を理解し，法律の条文を理解できた	事例を読み取れず，法律の条文を理解できなかった
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えていた	一部に解答と関係ないことを答えているが，解答は答えていた	改善すべき点があるが，解答が一通り答えていた	的確ではないが，解答を部分的には答えていた	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（M）　（科目ナンバリング：LAW021020　）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　青山　浩之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『一歩先への憲法入門』	片桐直人・井上武史・大林啓吾	有斐閣	２０２１年	9784641131965	
2	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009240	
3	『憲法（ファーストトラックシリーズ 1）』	伊藤真	弘文堂	２０１４年	9784335314513	
4	『 大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・粟谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	２０２２年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 憲法とは何かー憲法の特徴と基本原理	シラバスの確認 憲法の特徴と基本原理の調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	憲法とは何かー憲法の基本原理と構造	憲法の基本原理と構造についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
4	基本的人権　総論・幸福追求権	総論・幸福追求権の調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	基本的人権　各論　ー法の下の平等・精神的自由権	法の下の平等・精神的自由権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	基本的人権　各論　ー精神的自由権 確認テスト１（前年実績）	精神的自由についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
7	基本的人権　各論　ー経済的自由権・社会権	経済的自由権・社会権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
8	基本的人権　各論　ー人身自由権・国務請求権・参政権	人身自由権・国務請求権・参政権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	基本的人権のまとめ	基本的人権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
10	統治機構　総論	統治機構について考える（９０分）	配布資料の復習（９０分）
11	統治機構　各論　ー国会	国会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
12	統治機構　各論　ー内閣 確認テスト２（前年実績）	内閣についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
13	統治機構　各論　ー裁判所	裁判所についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
14	統治機構　各論　ー財政・地方自治・統治機構のまとめ 課題１（前年実績）	財政・地方自治についての調べ学習。統治機構のまとめ（９０分）	配布資料の復習（９０分），課題を作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第３回から第１４回まで復習（９０分）	試験範囲の確認により，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A）（科目ナンバリング：LAW021020 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

憲法の由来と立憲主義、権力分立などの基本原理を把握し、日本国憲法における人権保障の内容を、現在の社会問題を踏まえて、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

①憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。
②日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。
③憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。

授業全体の内容と概要

憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類される。本講義では人権論を中心に具体的な事例を取り上げながら解説し、市民・労働者・教育者として必要な人権の内容について学ぶ。
「SDG ５．ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG １０．人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）の必修科目、教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	30％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を発展的に理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念をある程度理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができた。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができなかった。
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を発展的に理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を正確に理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念をある程度理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができた。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができなかった。
憲法の基本原理と日本国憲法の人権規定に基づいて現代の社会問題を考察できる。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、現代の社会問題を発展的に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、現代の社会問題を十分に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題をある程度考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、デザイン学科・３年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A） （科目ナンバリング：LAW021020 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	憲法と生活	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	憲法とは何か	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	人権の享有主体・公共の福祉・私人間効力	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	象徴天皇制	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	平和主義	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	平等権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	幸福追求権・自己決定権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	自由権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	信教の自由・表現の自由	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	経済的自由権・身体的自由権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	社会権・生存権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	教育を受ける権利・労働基本権	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	三権分立（国会・内閣・裁判所）	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分＋解説３０分）	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅠ （科目ナンバリング：AEA211006 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．質感・量感の描き方を理解する。
２．陰影と固有色の描き分けを理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

１．基本形体の描法を身につけることができる。
２．細部表現を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

立方体・円柱・円錐・球体などの基本形体を基に正確な描写を行った後、石膏像頭像を描く。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

知性と感性を充分に発揮し，根気強くたゆまなく努力すること。
作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの区分が出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしようとして言えた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅠ （科目ナンバリング：AEA211006 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション デッサンのための用具の説明や目的について授業の流れについての説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
2	立方体（幾何形体）を描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
3	立方体（幾何形体）を描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
4	立方体の箱を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
5	レンガとブロックを描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
6	レンガとブロックを描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
7	円柱（幾何形体）を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
8	焼き丸太を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
9	バケツとタオルを描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
10	バケツとタオルを描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
11	ビール瓶とグラスを描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
12	ビール瓶とグラスを描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
13	球体（幾何形体）を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
14	紙風船を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
15	サッカーボール（白と黒）を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
16	サッカーボール（赤と黒）を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	石膏像（白い布で覆う）を描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
18	石膏像（白い布で覆う）を描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
19	石膏像（白い布で覆う）を描く③作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
20	石膏像（頭像）を描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
21	石膏像（頭像）を描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
22	石膏像（頭像）を描く③作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
23	石膏像（頭像）を描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
24	石膏像（頭像）を描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
25	石膏像（頭像）を描く③作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
26	石膏像（頭像）を描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
27	石膏像（頭像）を描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
28	石膏像（頭像）を描く③作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
29	石膏像（頭像）を描く①	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
30	石膏像（頭像）を描く②	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
31	石膏像（頭像）を描く③作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと（45分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと（45分）
32	採点及び講評会を行う （解説・フィードバック）授業改善アンケートの記入	講評会の準備を行うこと（45分）	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 （科目ナンバリング：CHS122083 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自身のダンスの技術の分析をし、自身で課題の克服をする。
ダンスの振り付けを分析し、評価する。
ダンス特有の面白さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

ダンスの特性について理解することができる。
ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。
主体かつ積極的に課題に取り組むことができる。
仲間と協力して課題に取り組むことができる。
リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。

授業全体の内容と概要

表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、創作ダンスの現代的なリズムのダンスフォークダンスから構成され幼稚園・保育園において発達段階に対応した内容で構成されている。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワーク発表(全２回)実施

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
学習にはグループワークもあるので、お互い声を掛け合い、協力して実施すること。
自分の健康は自分で管理すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
表現活動の基礎技能	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮でき、パートナーとできた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックをおおむね発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にパートナーと多少できた。	基本ステップを行わない。意欲もなくパートナーとできなかった。
創作ダンスの技術の向上	各種ダンスの技術向上への姿勢は優れ、充分できた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は７割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は5割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は3割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢はできなかった。
作品創作の発表	創作ダンスの発表でしっかりと踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることがおおむねできた。	創作ダンスの発表で踊ることができた。	創作ダンスの発表で多少踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 （科目ナンバリング：CHS122083 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身体表現を楽しむあそび作品集』	新リズム表現研究科会	かもがわ出版	2018年	978478030948-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバス説明」 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認をする。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	身体表現基本説明①　（ダンスの導入）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	身体表現基本②　（ダンスの映像鑑賞）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	身体表現基本③　（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	身体表現基本④(リズム運動)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	創作ダンス①　（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
7	創作ダンス②(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	創作ダンス③(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
9	創作ダンス④(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
10	創作ダンス⑤　（グループでのの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
11	創作ダンス⑥(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
12	創作ダンス⑦（グループでのの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	創作ダンス⑧(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	創作ダンス⑨(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	創作ダンスリハーサル（まとめ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	創作ダンス発表会(定期試験) 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現III （科目ナンバリング：AHD322041 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前半は，建築の正面（ファサード）に限定したデザイン能力を養う課題と各種建築図面を用いて彩色・配色する能力を養う課題に取り組む。後半は，この前半の内容を統合させた課題に取り組むことで，建築のトータルデザイン能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

建築用途・建築形態に対し，建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを考慮し，どのように表現するかが求められる。各シリーズとも３課題ごとに講評会を実施するが，作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも３課題ごとに講評会をおこなう。課題製作は，原則として授業時間内におこない即日提出とするが，やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８５%	０%	０%	１５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築用途・建築形態に対し，建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた表現力を身につけることができた。	おおむね表現できる力を身につけることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身につけることができなかった。
講評会をとおし，作品に対するさまざまな評価から自己，他者の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ，他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため，プレゼンをすることができなかった。
建築の重要な要素である正面（ファサード）に対し，形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身につけることができた。	配色・彩色できる優れた力を身につけることができた。	配色できる優れた力を身につけることができた。	おおむね配色表現できる力を身につけることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現III （科目ナンバリング：AHD322041 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	ファサードデザイン１（商業建築）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
3	ファサードデザイン２（住宅）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	講評会（ファサードデザイン）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
5	色彩表現のための道具と材料の説明	配布資料の確認（45分）	追加作業（45分）
6	色彩１（街区・配置図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	色彩２（立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	彩色によるファサードデザインのねらい	配布資料の確認（45分）	授業の振返り（45分）
10	ファサードデザイン＋色彩１	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	ファサードデザイン＋色彩２	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
12	講評会（ファサードデザイン＋色彩）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
13	建築構造模型の解説	配布資料の確認（45分）	授業の振返り（45分）
14	建築構造模型の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（建築構造模型）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評） 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論 （科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012 ）				
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 細川　光法 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。
「SDG　5.　ジェンダー平等を実現しよう」の関連科目。
「SDG　17.　パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。
毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業（定期試験を含む）のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を充分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで充分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論 （科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012 ）				
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 細川　光法 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明（編）	世界思想社	１９９９	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	２０１２	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識（９０分）	ガイダンスの復習（９０分）
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
5	1964年の東京オリンピック	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
9	スポーツと政治・権力①	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
10	スポーツと政治・権力②	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
12	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
14	スポーツとファン	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
15	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認（９０分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論（SP）	（科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012　　）			
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。
「SDG　5.　ジェンダー平等を実現しよう」の関連科目。
「SDG　17.　パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。
毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業(定期試験を含む）)のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を充分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで充分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論（SP）	（科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012 ）			
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　細川　光法　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明（編）	世界思想社	１９９９	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	２０１２	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識（９０分）	ガイダンスの復習（９０分）
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
5	1964年の東京オリンピック	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
9	スポーツと政治・権力①	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
10	スポーツと政治・権力②	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
12	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
14	スポーツとファン	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
15	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認（９０分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 （科目ナンバリング：CUA021026 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	本部棟３階国際交流センター	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本事情		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応				

概要

履修目標

留学生が日本文化・日本社会の諸々の面から理解を深め、大学生活、日本での生活を円滑に送ることができることを目的とする。異文化理解や他者の意見を尊重することで、大学生活をより豊かにすること。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。(2024年度)

到達目標

日本文化・日本社会の諸々の側面について留学生の知識を深めることができる。日本について深めた知識を勉学や生活、専門分野の研究などに生かし、日本人との討議やコミュニケートに積極的に参加することができる。

授業全体の内容と概要

毎時限トピックを提示し、視覚的な教材の使用、来日後の留学生の体験談などを積極的に取り入れ、留学生の日本事情理解を促進する授業展開を図る。日本文化や日本事情、多文化交流を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

毎時限提示されるトピックに対しディスカッションやグループワークを通して異文化理解を深める。また、トピックをテーマにプレゼンテーションやレポート作成を行い、自分の意見やグループの考えを表現する。日本文化と母国との比較のみならず、クラスメイトの出身地や他地域との比較を通じ、相互理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題は授業内で決定し、指定期日に発表・提出する。また、それ以外でも自主的にレポートを作成し、提出した者は評価の対象とする。定期試験は行わない。学期末に課題を課すが、自分の言葉で書いていない（コピーん＆ペースト）、自分の言葉で表現できていないものは不可とする。授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話も全て日本語で行うこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み「日本語で表現できない」と思わず、なんでもチャレンジすること。15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回である。
出席、授業態度、レポート、プレゼンテーションで評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	４５％	５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語、日本文化、時事問題の知識・技能	知識や技能を習得した。授業外でも日本のニュースなどに関心を持つことができた。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしていたが、授業内の関心だけで終わってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っているが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心をあまり持たない。授業内の活動には参加するが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味、関心を持たず、知識、技能を習得しようという姿勢が見られなかった。授業内の活動にもあまり参加できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立った。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくい個所があった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができなかった。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られなかった。文法、発音に問題があった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。発言も多い。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいた。積極性は弱い。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的だった。	最低出席日数分授業に参加せず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 （科目ナンバリング：CUA021026 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	本部棟３階国際交流センター	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本事情		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(シラバス・授業説明) アンケート 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを熟読し、本講義について理解する。専用のノートを準備する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
2	日本について：地理、気候、地域による特色など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
3	暮らし：日本での暮らしの中のマナー、都市と地方の暮らしの違いなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
4	旅行・観光：交通機関、観光地など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
5	食文化：食生活の変化、マナーなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
6	四季：季節行事、祝祭日、気候など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
7	歴史：知っておきたい日本の歴史と文化の観点から見た日本の歴史	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
8	伝統文化：茶道、華道、演芸など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
9	現代文化とポップカルチャー：マンガ、アニメ、キャラクターなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
10	スポーツ：伝統的スポーツ、東京オリンピックなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
11	クリエイティブジャパン：日本の科学技術の進歩について	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
12	環境問題：日本の環境問題に対する取り組み、ゴミの分別やリサイクルについて	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
13	課題作成① 課題発表	課題への準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
14	課題作成②	課題への準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
15	課題作成③	課題発表の準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(９０分)
16	課題発表 総括 授業改善アンケートの実施	課題発表の準備をする。課題作成に取り組む(９０分)	講義全体を振り返り理解を深める(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122019，SWS422078，SWS522085　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のＤ２に対応する。(2022・2023年度)

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークに関連する理論を理解する。	ソーシャルワークの独自性を加えながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ソーシャルワークのモデルと主なアプローチの理解ができる。	ソーシャルワークの歴史を踏まえながら各々を比較し、説明することができる。	各々を比較しながら説明できる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの援助のプロセスを理解できる。	理念に基づいた援助の展開について事例等を用い説明ができる。	援助の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 （科目ナンバリング：SWS122019，SWS422078，SWS522085 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークに理論が必要な理由	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	人と環境の交互作用に関する理論①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	人と環境の交互作用に関する理論②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークのプロセス：ケース発見、インテーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
7	ソーシャルワークのプロセス：プランニング	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	ソーシャルワークのプロセス：インターベンション、モニタリング	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
9	ソーシャルワークのプロセス：効果測定、評価、アフターケア	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	小試験	試験該当部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
11	中間まとめ	小試験の自己採点をもとに質問事項をまとめる。（９０分）	小試験の不正解部分を復習する。（９０分）
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	全体を通し、理解が不十分な所を整理する。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分解説をする）。 受業改善アンケートの実施	全体の復習をする。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122019，SWS422078，SWS522085　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践に
おけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は、欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークに関連する理論を理解する。	ソーシャルワークの独自性を加えながら説明できる。	概要について要点を押さえ述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ソーシャルワークのモデルと主なアプローチの理解ができる。	ソーシャルワークの歴史を踏まえながら各々を比較し、説明することができる。	各々を比較しながら説明ができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの課程が理解できる。	援助の展開について、事例等を用い説明ができる。	援助の流れと、ソーシャルワーカーが担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122019，SWS422078，SWS522085　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークに理論が必要な理由	教科書の目次と、次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	人と環境の交互作用に関する理論①	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	人と環境の交互作用に関する理論理論②	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークのプロセス：ケース発見、インテーク	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント①	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ソーシャルワークのプロセス：アセスメント②	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
7	ソーシャルワークのプロセス：プランニング	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	ソーシャルワークのプロセス：インターベンション、モニタリング	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	（９０分）
9	ソーシャルワークのプロセス：効果測定、評価、アフターケア	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	小試験	試験該当部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
11	まとめ	小試験の自己採点をもとに質問事項ををまとめる。（９０分）	小試験の不正解部分を復習する。（９０分）
12	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	次回の授業に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	全体を通し、理解が不十分な所や質問事項を整理する。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、３０分解説をする。） 受業改善アンケートの実施	全体の復習をする。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本の歴史 （科目ナンバリング：HIS021024 ）				
授業担当者（所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 及川　琢英 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人文学的教養の一環として、歴史学について学び、文献を批判的に考察し、表現する能力を培う。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

１．テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
２．文献を批判的に考察することができる。
３．考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

１．満蒙政策、関東軍、戦争という３つの観点から日本近現代史を概観する。
２．日本近現代史研究で蓄積されてきた研究成果について理解する。
３．日本近現代史に関する史料や文献を読んで考察する。

授業の方法

毎回資料を配布し、講義形式で行う。受講者には小課題、毎回講義に対する意見、質問などリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。私語厳禁。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、 自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていなかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本の歴史 （科目ナンバリング：HIS021024 ）				
授業担当者（所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 及川　琢英 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明,、歴史学・植民地とは	シラバスを読んでおく（９０分）	基礎的事項の復習（９０分）
2	日清・日露戦争と満蒙権益	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
3	張作霖と満洲駐屯部隊	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
4	関東軍の誕生	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
5	シベリア出兵と張作霖支援	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
6	第二次奉直戦争と郭松齢事件	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
7	北伐と張作霖爆殺事件	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
8	国際連盟	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
9	不戦条約と石原莞爾	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
10	満洲事変	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
11	満洲国と在満機関統一問題	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
12	熱河・長城作戦	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
13	華北・内モンゴル工作と日中戦争	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
14	日ソ国境紛争とノモンハン事件	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
15	関特演とアジア・太平洋戦争、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
16	日ソ戦争、フィードバック	資料などで講義内容を整理する（９０分）	講義内容を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅰ （科目ナンバリング：APT312018 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く，生活環境・社会構造の変化と共に，より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のう ち基幹である建築基準法・建築基準法施行令をメインとして，建築に関する法律の仕組みと体系について学習し，建築法規を手がかりに建築への理解を実務的視 点から深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP7に対応する。（2021年度）

到達目標

建築関係法令の全体像を把握して，建築基準法の概要及び使用される重要な用語の意義・定義を理解できる。基準法の中でも，人々の生活に密接な係わりを持 つ・敷地・構造・建築設備・建築環境に関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について，図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に，条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細や かに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，必ず答え合わせ・質疑応答の時間を設ける。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこ と。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１1回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の位置づけ、建築用語の定義及び確認申請業務の理解	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけをすべて理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを8割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを6割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できなかった。
建築物の敷地に関連する規定（道路、用途地域、建蔽率、容積率、高さ等）の理解	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を８割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を6割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅰ （科目ナンバリング：APT312018 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『建築基準法関係法令集 2024年』 』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。建築関係法令とその背景（歴史的経緯と位置づけ・施行令・規則・人間・居住・都市・環境）	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築基準法の概要（法令構成・文脈・総則）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	建築基準法各論－１　実例から読み取る身近な建築基準法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	建築基準法各論－２　敷地・居室・主要構造部・構造体力上主要な部分	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	建築基準法各論－３　工作物，特殊建築物，建築行為	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築基準法各論－４　面積および階数の算定・建物の高さの算定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築基準法各論－５　許可申請等の手続規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建築基準法各論－６　耐火・準耐火・防火構造	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建築基準法各論－７　特殊建築物の役割とその定義・別表第１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	建築基準法各論－８　防火関係条文の構造とその理解	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	建築基準法各論－９　居室の採光と生活空間	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	建築基準法各論－10　床高・軒高・天井高	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	建築基準法各論－11　階段	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	建築基準法各論－12　居住環境と換気	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法各論－13　建築基準法と倫理 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本授業の振返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践に
おけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２に対応する。(2022・2023年度)

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながらながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニティワークの意義目的について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解できる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 （科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰのふりかえり	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	ソーシャルワークの面接①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワークの面接②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ケアマネジメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ケアマネジメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
7	中間まとめ	1回から６回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から１４回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（60分の試験の後30分解説を行う）。 受業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。（９０分）	試験で間違えた部分の復習をする。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践におけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながらながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニティワークの意義目的について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解できる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ　』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰのふりかえり	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	ソーシャルワークの面接①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワークの面接②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ケアマネジメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ケアマネジメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
7	中間まとめ	1回から６回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から１４回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験の後３０分解説を行う）。 受業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。（９０分）	試験で間違えた部分の復習をする。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論（1年） （科目ナンバリング：DES322053 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

古代から現代にいたるまでのデザイン史を軸として、特に第一次産業革命以降の急速な社会変化に伴うデザインの変遷に重点を置いて学ぶ。著名な人物や運動などに焦点を当てながら、デザインを学ぶ者にとっての基礎知識を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに重要な影響を与えた事項は近現代史に集中しているので、第一次産業革命以降の約200年間に起こった様々な出来事を把握していくことにより、現代に通じるデザインの役割や多様性、さらには表現技法なども知識として得ることができる。よって、本講義では近現代のデザイン史を時系列に沿って学びながら論じていくこととする。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論（1年）	（科目ナンバリング：DES322053 ）			
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～デザインの知識を深める必要性	シラバスを読んでおくこと（９０分）	受講環境の整備（９０分）
2	雑学のススメ 「デザインにおける世界最古とは？」 「好きなデザイン・好きなデザイナー」	シラバスの確認（９０分）	小レポートの作成・提出（９０分）
3	現代に直結するデザイン史① 「第一次産業革命とウィリアム・モリス」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
4	現代に直結するデザイン史② 「アールヌーヴォーの大流行」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
5	現代に直結するデザイン史③ 「バウハウスによる総合芸術運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
6	現代に直結するデザイン史①～③のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
7	現代に直結するデザイン史④ 「アール・デコ～デザインの大衆化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
8	現代に直結するデザイン史⑤ 「ロシア・アヴァンギャルド」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
9	現代に直結するデザイン史⑥ 「政治的・思想的プロパガンダとデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
10	現代に直結するデザイン史④～⑥のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
11	現代に直結するデザイン史⑦ 「第二次大戦以降の世界の潮流」 「1964東京オリンピックと日本のデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
12	現代に直結するデザイン史⑧ 「デジタルデザインの急速な台頭」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
13	現代に直結するデザイン史⑨ 「生成AIによるデザインの進化」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
14	現代に直結するデザイン史⑦～⑨のまとめ 小テスト又はレポート	情報と資料の整理（９０分）	自己採点（９０分）
15	ヒットするデザインを生み出すには？ 「デザインと社会・デザインと産業界」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料の整理（９０分）
16	デザイン概論Ｉのまとめ デザイン概論ＩＩへ繋がる流れ 授業改善アンケートの実施	情報と資料の整理（９０分）	情報と資料の整理（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論（2年） （科目ナンバリング：DES322053 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザイン概論Ｉで学んだデザイン史の流れの中にあって、特に重要な役割を果たした著名な人物や出来事などを取り上げ、深く掘り下げながら、デザインを学び、デザインを志す者にとっては常識とされる専門知識を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに於いて重要な役割を果たした人物や出来事を学びながら、様々なデザイン分野の存在意義や社会性・公共性、さらには著名なデザイナーが残した作家性についても知識を深めさせる。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	２０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できている。	概ね理解できている。	不十分ではあるが、理解できている部分がある。	最低限の理解しかできていない。	全く理解できていない。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分できている。	概ね、できている。	不十分ではあるが部分的にはできている。	最低限のことしかできていない。	全くできていない。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分深められている。	概ね、深められている。	不十分ではあるが部分的に深められている。	ほとんど深められていない。	全く深められていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論（2年）	（科目ナンバリング：DES322053 ）			
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～デザイン概論Ｉのまとめ	シラバスの確認（９０分）	デザイン概論Ｉの情報と資料整理（９０分）
2	発想力・設計力・実現力 「レオナルド・ダ・ヴィンチのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
3	なぜ、デザインするのか？ 「アーツアンドクラフツ運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
4	1900パリ万国博覧会がデザインに及ぼした影響 調査レポートの作成	情報と資料整理（９０分）	調査レポートの作成（９０分）
5	デザインの近現代① 「近代建築の三大巨匠」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
6	デザインの近現代② 「イラストレーションの概念」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
7	デザインの近現代③ 「丹下健三・亀倉勇作」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
8	デザインの近現代①～③ 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
9	デザインの近現代④ 「ルイジ・コラーニ、ジオ・ポンティ、 ロバート・ブルーナー、ジェームズ・ダイソン	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
10	デザインの近現代⑤ 「モーリス・ビンダー、ソウル・バス、福田繁雄 、	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
11	デザインの近現代⑥ 「シャネル、ディオール、ヴィトン、ランバン、 クロエ、エルメス、ギ・ラロッシュ　他」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
12	デザインの近現代④～⑥ 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
13	サブカルチャーとデザイン① 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
14	サブカルチャーとデザイン② 「コミックマーケットの拡大と未来展望」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
15	デザインの近現代①～② 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
16	デザイン概論で学んだ知識を実践に於いてどう生かすのか？ 授業改善アンケートの実施	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論 （科目ナンバリング：MOF422022，MOF523024 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・経営指導を行った経験も踏まえて、資金調達と資金運用にまつわる中小企業の実務についても取り上げていく。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

経営環境が大きく変化する中、資金調達を行い、その資金を効率的に投資・運用することは、企業にとって重要な経営課題である。
本講義では、企業価値に関わる財務的意思決定の論点を取り上げ、経営者として必要な意思決定能力を身につけることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

・コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できるようになる。
・資本コストの考え方について理解し、計算できるようになる。
・サステナブルファイナンスなど、資金調達にまつわる新たな論点について理解する。

授業全体の内容と概要

本講義では、コーポレートファイナンスに関するテーマを取り上げる。
授業では、テキストと配布資料の解説を行った後、練習問題を解く実習の時間を設ける。
また、必要に応じて、日経新聞の記事を題材とした時事問題についても解説を行う。
本授業科目は、「SDG12 つくる責任　つかう責任」と「SDGs１３ 気候変動に具体的な対策を」の関連授業であり、SDGｓと関わりのあるサステナブルファイナンスやサステナビリティ報告についても取り上げる。

授業の方法

本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。
日経新聞の記事や資金調達と運用にまつわる中小企業の実務も紹介し、実社会との関わりを意識して講義を進める。
授業では、小テストを毎回実施する。その解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席確認は、授業で毎回実施する小テストの提出をもって行う。
計算が必要となる場面が多く予定されているので、電卓の持参を推奨する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。
「評価方法」にある平常点（30%）は、小テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	３０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について詳細に説明できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について十分に理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を理解するとともに、それに関する理論についてもある程度理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を最低限理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語を理解できなかった。
資本コストの考え方について理解し、計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、ＷＡＣＣ（資本コスト）を正確かつ素早く計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、ＷＡＣＣ（資本コスト）を正確に計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、時間をかけつつも、計算できる。	資本コストの意味について最低限理解している。	資本コストの意味について理解できなかった。
資金調達の重要性について理解できる。	資金調達に関する理論と実務について総合的に説明できる。	サステナブルファイナンスなどの新しい論点を含め、自分なりの問題意識を持って、資金調達に関して考察している。	資金調達の重要性を理解した上で、サステナブルファイナンスなどの新しい論点について関心を抱き始めた。	資金調達の重要性について最低限理解している。	資金調達の重要性について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾌｧｲﾅﾝｽ論 （科目ナンバリング：MOF422022，MOF523024 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・経営指導を行った経験も踏まえて、資金調達と資金運用にまつわる中小企業の実務についても取り上げていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『［新解釈］コーポレートファイナンス理論』	宮川壽夫	ダイヤモンド社	２０２２年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『コーポレートファイナンス入門　第2版』	砂川伸幸	日本経済新聞社出版社	２０１７年		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（講義の進め方、コーポレートファイナンスを学ぶ意義）	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
2	企業の目的とコーポレートガバナンス	事前配布資料を予習する（９０分）	配布資料の内容を復習する（９０分）
3	投資のリスクとリターン	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
4	資本コスト	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
5	CAPM	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
6	正味現在価値	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
7	WACC	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
8	効率的市場仮説	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
9	キャッシュフロー	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
10	M&A	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
11	財務分析	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
12	資金調達と資本構成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
13	ペイアウト政策	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
14	株主主義とステークホルダー主義	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
15	資金調達の新たな潮流～サステナブルファイナンス～授業改善アンケートの実施	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
16	定期試験と解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	これまでの内容を復習する（９０分）	定期試験の解説内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123021　）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３に対応する科目。（2023年度）

到達目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術の基本について理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および、連携や協働をする人や機関との間で構築する関係について学ぶ。

「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から６０点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目（選択）である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	０％	０％	３０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
総合的、包括的なソーシャルワークの意義について理解できる	事例を用いながら説明できた。	基本的な考えかたを説明できた。	基本的な考えかたを理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワーカーとクライエントの援助関係について理解できる。	援助対象の特性に留意した知識と技術を説明できた。	原則的な考え方と技術について説明できた。	原則的な考え方と技術について理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワークにおけるネットワークについて理解できる。	ミクロ、メゾ、マクロ各々の特性に留意しながら事例を用いて説明できた。	基本的な意義、方法を説明できた。	基本的な意義、方法を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123021　）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法　社会専門』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-80588249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 今日的なソーシャルワークの対象	新聞やインターネットでソーシャルワークの対象と考えられる記事をスクラップする。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
2	複雑化、多様化した生活問題への対応	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
3	家族支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
4	地域支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
5	非常時、災害時のソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
6	地域包括ケアシステムとソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
7	中間試験	１回から６回の内容を復習する。（９０分）	授業（９０分）
8	中間試験解説 ソーシャルワークにおける援助関係形成の意義	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
9	援助関係形成方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
10	ネットワーキングの意義	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
11	ネットワーキングの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
12	コーディネーションの意義	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
13	コーディネーションの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
14	まとめ	１回から１４回の復習し、理解が不十分な点をあげる。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
15	定期試験	１回から１４回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
16	定期試験解説 授業改善アンケートの実施	全体を振り返り、質問事項を整理する。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 （科目ナンバリング：SNE122103 ）				
授業担当者（所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 堀川厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

障がいのある児童生徒の教育の変遷、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換とその背景、特別支援教育の理念や意義、現状、今後の在り方について総合的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

障がいのある児童生徒の教育の変遷、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換とその背景、特別支援教育の理念や意義を理解し、概要について説明することができる。
特別支援教育の推進及び今後の在り方について、少人数で協議し考えを整理することができる。

授業全体の内容と概要

内容は、特殊教育から特別支援教育への制度上の転換及びその背景、特別支援教育の理念や意義、障害のある児童生徒の教育の歴史的変遷と教育制度、教育課程、個別の教育支援計画と個別の指導計画、学習指導要領の概要、小・中学校等を含めた特別支援教育コーディネーターの役割等について、現状の特別支援教育を踏まえて説明する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

授業は、パワーポイントのスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
前半には前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。
後半には内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。
Microsoft Forms等を活用し、小テスト等を実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配布や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、就学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	３０％	０％	０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基本的な内容や現状等に関する総合的な理解	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、一定程度、理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、部分的に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、理解できなかった。
特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等に関する思考力、判断力、表現力の向上	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 （科目ナンバリング：SNE122103 ）				
授業担当者（所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 堀川厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （シラバス、授業改善アンケート結果反映の説明、特別支援教育の概要）	シラバスを読む （９０分）	内容を振り返る （９０分）
2	特別支援教育への転換とその背景の理解	特別支援教育への転換を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
3	特別支援教育の制度の理解	特別支援教育の制度を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
4	障害児教育の歴史的変遷の理解	障害児教育の歴史を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
5	特別支援教育の対象と就学（教育支援）についての理解	対象児童生徒と就学を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
6	個別の教育支援計画についての理解	個別の教育支援計画を調べる (90分)	重要事項を整理する （９０分）
7	学習指導要領と教育課程の理解	学習指導要領と教育課程を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
8	個別の指導計画の作成と活用についての理解	個別の指導計画を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
9	各障害の状態等と特別支援学校の教育についての理解	障害の状態と特別支援学校を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
10	教育課程の編成と指導の実際についての理解	教育課程の編成を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
11	自立活動の指導の理解	自立活動の指導を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
12	特別支援教育コーディネーターの理解	特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
13	小・中学校等の特別支援教育についての理解	小・中学校の指導を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
14	実態把握とアセスメントの重要性の理解	指導とアセスメントを調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
15	心理検査の活用についての理解 授業改善アンケートの実施	心理検査を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
16	定期試験 （５０分間の筆記テスト、終了後１５分間の解答の解説を実施）	全内容を整理する （９０分）	全内容を振り返る （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅰ　（科目ナンバリング：HUG122125，　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業は地理学の基礎を学ぶことによって人と土地との関係を考えるという地理学的なモノの見方を身につける。また地域と災害の関係を地理学的に学ぶことで、地域や教育に活用できるスキルを身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ４、５に対応する。　（2023・2022年度）

到達目標

１．人文地理学の基礎を理解し、基本的な知識を説明できること。
２．災害関連情報を収集し、活用するスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要

地理学とは土地と人との関係を議論する学問である。高等学校教育までの地理教育は「どこ」に「なに」があるのかを知識として学んできた。この授業ではそこから一歩先に進み「なぜ」そこにあるのかを考える力を養うことを目的とする。
本講義は地理学の中でも人文地理学の基礎を解説する。地理学は学際的な分野と言われ、その研究対象は幅広い。そこでまず地理学の中でも農業、工業、商業、都市、開発という各分野の概説を日本の事例を中心に解説し、これまでの地理学の成果を学んでいく。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」および「ＳＤＧｓ１１．住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。また授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。その過程で国土地理院地理院地図や地域分析ソフトRESASといった、WebGISの活用方法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなっかた。
多面的多角的な視点	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を深く理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）をやや理解することができた。	人文地理的要因（工業・商業・都市・観光・開発等）を理解することができなかった。
災害情報の活用	災害情報を地理的に理解し、高いレベルで活用することができた。	災害情報を地理的に理解し、活用することができた。	災害情報を地理的に理解することができた。	災害情報を地理的にやや理解することができた。	災害情報を地理的に理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅰ　（科目ナンバリング：HUG122125，　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地理学概説①　地理学の成り立ち	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	地理学概説②　系統地理学と地誌学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	立地論	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	工業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	都市地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	商業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	観光地理学	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	開発地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	地図の歴史	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
11	地理学とフィールドワーク	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	地理学と災害	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	北海道における災害リスク	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	地域防災とハザードマップ	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
15	これからの地理学	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222018 ）				
授業担当者（所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 田中　靖之 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

１.グラフィックレイアウトの基本ルールを理解する。
２.アートディレクションの位置づけを理解する。
３.グラフィックデザイン実務の概念を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

レイアウトパターンを分類し、試行を重ねてグラフィックデザインとして実施制作ができる。

授業全体の内容と概要

デザイン業界の仕組みを、概説を含め、広告・出版に関するコミュニケーションを意識した基本レイアウト（サムネール主体）とプレゼンテーションシステムを理解する。「SDG12．つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、プレゼンテーションに耐えうる内容かを吟味し、デザイン要素のフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	６０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グラフィックレイアウトの基本ルール	レイアウトパターンの分類ができ、その２つ以上で、基本ルールにのっとったオリジナリティを発揮できた。	レイアウトパターンの分類ができ、その２つ以上でデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができ、その１つでデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができた。	レイアウトパターンの分類ができなかった。
アートディレクションの位置づけ	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアルとコピーを駆使して応用・展開できるデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を１つ以上とコピーライトを含めたデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を１つ以上含んだデザインができた。	アートディレクションの意味が理解できた。	アートディレクションの意味が理解できなかった。
グラフィックデザイン実務の概念	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルかつトレンドを吟味したデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を２つ以上（異種）提示することができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を１つ提示することができた。	グラフィックデザインの実務の現状が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	（科目ナンバリング：DES222018 ）			
授業担当者（所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　田中　靖之　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスについての説明 アートデザインについて	「ビジュアルデザイン」語句の認識（45分）	「アート・デザイン」の位置づけ確認(45分)
2	”ことばと物”コミュニケーションのためのゲーム演習	「ことばと物」語句の認識(45分)	「ことば」の自己復習（45分）
3	ビジュアルデザインの歴史（ＤＴＰまで）	「ＤＴＰ」語句の認識（45分）	「DTP」の歴史的理解(45分)
4	ＪＩＳ用紙、テキストポイントについて	A4・A3用紙サイズの認識(45分)	「用紙サイズの使用実例について」（45分）
5	レタリングとフォントの現状について	「フォントバリエーション」の認識（45分）	「明朝体・ゴシック体」及び「セリフ・サンセリフ」の理解(45分)
6	レタリング演習と基本形態	基本となる書体の認識(45分)	レタリング演習　下書き（45分）
7	レイアウトの基本パターンについて	「レイアウト例の資料収集」（45分）	レイアウトパターンのサムネール作成(45分)
8	フォーマット用紙のレンダリング演習	演習用具の確認と役割チェック(45分)	レンダリング演習　仕上げ（45分）
9	素材（イラスト、写真）とテキストの役割	「レイアウトのサムネール体験」（45分）	「レイアウトサムネール」の修正及び変更(45分)
10	基本レイアウト演習（サムネール）	素材(イラスト・収集)とテキストのボリューム確認(45分)	「レイアウトのサムネール演習」（45分）
11	広告デザインと編集デザイン	「広告・編集」語句の認識（45分）	「広告・編集デザイン」の実例を収集(45分)
12	メディアに対応した企画デザイン	「マスメディア・ソーシャルメディア」の位置づけと認識(45分)	アイデアフラッシュ（メディアに対応）（４５分）
13	ＲＧＢ＆ＣＭＹＫ及び印刷技術	「RGB＆CMYK」語句の認識（４５分）	「CMYK・オフセット印刷機」の資料収集(45分)
14	広告デザイン演習① ”意見広告”	「意見広告」語句の認識(45分)	サムネール演習（45分）
15	ＳＮＳと企業戦略	「GAFA」戦略の認識（45分）	「メタバース」に対する最新情報収集(45分)
16	広告デザイン演習② ”企業広告”	「企業広告」語句の認識(45分)	サムネール演習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	広告・出版・印刷業界の現状	業界大手企業群の情報収集(45分)	大手企業群の活動資料収集(45分)
18	編集デザイン演習① ”フライヤー編”	「フライヤーの資料収集」(45分)	サムネール演習（45分）
19	コミュニケーションツールとしての役割と現状	「ツールの種類」の資料収集（45分）	ツール毎の比較・検討(45分)
20	編集デザイン演習② ”雑誌編”	「雑誌類資料収集」(45分)	サムネール演習（45分）
21	最終課題のためのオリエンテーション	アイデアフラッシュ準備（45分）	具体的アイデアを記述(45分)
22	アイデアフラッシュと方向性の決定	アイデアの精査と方向性をイメージング(45分)	「方向性の決定」（45分）
23	課題演習①-１ ・サムネール制作	素材・コピー類のボリュームチェック（45分）	素材・コピーのおおまかなレイアウト作業(45分)
24	課題演習①-２ ・レイアウトの決定	複数のラフサムネールを準備(45分)	サムネール制作～完成（45分）
25	課題演習②-１ ・レンダリング制作	レイアウト及びレンダリング準備（45分）	レイアウト及びレンダリングの微調整(45分)
26	課題演習②-１ ・レイアウト修正	レイアウトアイテム(素材・コピー)の最終チェック(45分)	レンダリング完成（45分）
27	課題演習③-１ ・カラーリング制作	カラーリング準備（45分）	カラーリング用具(PC及び色エンピツ）での練習(45分)
28	課題演習③-２ ・カラーリング修正	PCはモニターでのチェック、アナログでは着色でのチェック(45分)	カラーリング完成（４５分）
29	課題演習④ ・仕上げ	仕上げに向けて準備（４５分）	仕上げ作業(45分以上)
30	課題提出	仕上げの最終チェック(45分以上)	講義全体の振り返りを行う（45分）
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく（45分）	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：SWS123222，HLS322050 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	インテリアデザイン事務所での実務経験 インテリアコーディネーター資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

インテリアデザインの実務に必要な最低限の基本や図面の描き方などを習得することを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

インテリアデザイン特有の図面の表現方法を理解し、美しく正確に描くこと、
また、与えられた課題の内容を顧客（相手）の立場になって考え、理解し、それを美しく的確に表現できることを目標とする。

授業全体の内容と概要

課題を通して、大まかな実務的な仕事の流れや必要な知識を学ぶ。
図面の書き方については、インテリアコーディネーター試験における実技試験（製図）のレベルでの
表現方法を基本とする。
なお、講義の部分については、インテリアコーディネーター試験の範囲は網羅していない。
課題については、理解度やクラスの雰囲気を鑑みて、グループワークを行う場合がある。
授業の中では、プレゼンテーションの場面も想定している。

授業の方法

講義や説明は、教科書及び、パワーポイントや補足資料などを用いて行う。
図面の実技演習は、インテリアコーディネーター２時試験用のテキストを用いて
実際の過去問なども参照しながら図面表現を学ぶ。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】は各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm、できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）、色鉛筆、製図用ブラシ、インテリアコーディネーター試験対応テンプレート
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。
課題の進行に関しては、クラス内の進捗を見て、予定を変更することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インテリアデザイン特有の図面の表現方法を理解し、美しく正確に描くことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
与えられた課題の内容を顧客（相手）の立場になって考え、理解することができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
与えられた課題に対し、美しく的確な提案をすることができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　（科目ナンバリング：SWS123222，HLS322050　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	インテリアデザイン事務所での実務経験 インテリアコーディネーター資格保有		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初めてのインテリア製図合格する図面の描き方（第4版）』	星野智子	ハウジングエージェンシー	2023	978-4-89990-246-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 イントロダクション：インテリアデザインの仕事と現状	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の制作（９０分）
2	課題（１）コンセプトメイキング	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
3	課題（１）図面制作１	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
4	課題（１）図面制作２	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
5	課題（１）図面制作３	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
6	課題（１）図面制作４	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
7	課題（１）仕上げ・提出	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
8	課題（１）発表・講評	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
9	課題（２）の提示と説明　エスキス	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
10	課題（２）コンセプトメイキング	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
11	課題（２）図面制作１	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
12	課題（２）図面制作２	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
13	課題（２）図面制作３	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
14	課題（２）図面制作４	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
15	課題（２）仕上げ・提出	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
16	課題（２）発表・講評・総評・授業改善アンケート	課題の制作（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（1年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基本的な建築材料であるのコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２、DP４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５、、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。

授業全体の内容と概要

主に鉄筋コンクリート構造の構成材料である鋼材とコンクリート材料に関してのJIS規格試験を実施する。
コンクリートと鋼材の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。

授業の方法

授業は配布物資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い実験報告書の提出を行う。
実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。
不足時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実験作業に適した汚れても良い服装とし、安全第１をこころがけて実施する。
電卓、筆記用具を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	50%	０%	０%	０%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予習ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（1年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 実験実習ガイダンス	シラバス資料を確認して，実験内容を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
3	コンクリートの調合設計	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
5	コンクリート調合（試験練り・本練り）	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
6	JIS A １１０１スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
7	JIS A １１２８空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
8	JIS A １１０８圧縮強度試験	次次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
9	JIS A １１１３割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実実験内容を理解し復習する（４５分）
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
13	JIS Z２２０１鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容全体について資料を整理して，レポート作成に備える（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（2年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基本的な建築材料であるのコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２、DP４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５、、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。

授業全体の内容と概要

主に鉄筋コンクリート構造の構成材料である鋼材とコンクリート材料に関してのJIS規格試験を実施する。
コンクリートと鋼材の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。

授業の方法

授業は配布物資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い実験報告書の提出を行う。
実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。
不足時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実験作業に適した汚れても良い服装とし、安全第１をこころがけて実施する。
電卓、筆記用具を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	50%	０%	０%	０%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予習ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（2年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 実験実習ガイダンス	シラバス資料を確認して、実験内容を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
3	コンクリートの調合設計	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
5	コンクリート調合（試験練り・本練り）	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
6	JIS A １１０１スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
7	JIS A １１２８空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
8	JIS A １１０８圧縮強度試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
9	JIS A １１１３割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
13	JIS Z２２０１鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容全体について資料を整理して、レポート作成に備える（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語 （科目ナンバリング：CME423020，CME523022 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

ビジネスの様々な場面で、それぞれ適切なコミュニケーションがとれるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP２に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ビジネスでよく使われる語彙や表現を理解する。

授業全体の内容と概要

読むことでビジネスで使われる英語に触れる。語彙や表現に触れた後、リスニングと記述式の練習問題を解きながら復習と応用を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項を板書して注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。各レッスンの前半部分に導入される英文は予習で翻訳してくる必要がある。授業で訳の正確さを確認し、最後にまとめたものを課題として提出する。教員が最終チェックをして返却する。これも評価の対象となる。また、各レッスンの後半に練習問題があるので、可能な範囲で予習し、疑問点を授業で解決し、応用できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意すること。授業内容は、英語の基礎力があることを前提としている。「基礎英語Ⅰ」・「基礎英語Ⅱ」の履修・修得を履修の前提とする。「英語入門Ⅰ」・「英語入門Ⅱ」を履修・修得していることが望ましい。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネス英語の習熟度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	ビジネス用語と表現に慣れることができた。	ビジネス用語の理解は認められるが、文のレベルではやや不安が残る。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題への参加	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、ビジネスにふさわしい英文の訳ができた。また、疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽ英語 （科目ナンバリング：CME423020，CME523022 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『English for Business Communication』	新田　亜紀子	南雲堂	２０１７	9784523178705	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 Stating a Purpose of a Contact	テキストp.6～7 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
2	Meeting for the First Time	テキストp.8～9 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
3	Presenting a Business Card	テキストp.10～11 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
4	Transferring a Call	テキストp.12～13 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
5	Phone Troubles	テキストp.14～15 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
6	At the Airport Abroad	テキストp.16～17予習（９０分）	授業内容復習 (９０分)
7	Making Polite Requests	テキストp.18～19 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
8	Taking and Leaving Telephone Messages	テキストp.20～21　予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
9	Making Inquiries	テキストp.22～23 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
10	Making Appointments 1	テキストp.24～25 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
11	Stating Requests Clearly	テキストp.26～27 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
12	Making Apologies	テキストp.28～29 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
13	Making Appointments 2	テキストp.30～31 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
14	Notification of Absence	テキストp.32～33 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (９０分)	期末試験準備 (９０分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(６０分）・解説(３０分)	期末試験準備 (９０分)	期末試験内容復習 (９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 （科目ナンバリング：SWS123022 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 大島 康雄 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

包括的、総合的なソーシャルワーク実践を効果的かつ効率的に行うために必要な知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３に対応する科目。（2023年度）

到達目標

実践的なソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を具体的に理解できる。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および関連する技法について学ぶ。

「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験（中間試験）を行い、その中から６０点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の欠席は遅刻とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士課程科目（選択）である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会資源の活用、調整、開発について実践方法を理解できる。	実践モデルを提示しながら説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
事例研究を行い、会議形式でプレゼンテーションできる。	ソーシャルワークの視点に則った発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言ができた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。
ソーシャルワークの関連技法について理解できる。	各技法について、ソーシャルワーク実践に活用する場合の特徴を加えて説明できた。	各技法の説明ができた。	各技法の理解ができた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123022　）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法　社会専門』	日本ソーシャルワーカー教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワーク実践と社会資源	ソーシャルワークの理論と方法（専門）１のノートを読み返す。	授業内容をノートに整理する。（９０分）
2	社会資源の種類と活用の方法 社会資源の調整方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
3	社会資源の開発 ソーシャルアクションの意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
4	ソーシャルアクションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
5	カンファレンスの種類と意義、目的 カンファレンスの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
6	ミクロ、メゾ、マクロの会議	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
7	中間試験	１回から６回の内容を復習する。（９０分）	試験を自己採点する。（９０分）
8	中間試験解説 事例分析の意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。授業内容をノートに整理する。（９０分）
9	事例分析	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
10	事例分析 プレゼンテーション	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
11	交渉の種類と原則 ネゴシエーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
12	コンフリクトのとらえ方と対処方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
13	ファシリテーションの意義、目的 ファシリテーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
14	ソーシャルマーケティング 今後の課題	授業該当部分の教科書を読む。（９０分）	授業内容をノートに整理する。（９０分）
15	試験	１回から１４回の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
16	試験解説 授業改善アンケートの実施	全体を振り返り、質問事項を整理する。（９０分）	試験の不正解部分を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 （科目ナンバリング：APT314020 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「ひとと建築を取り巻く環境」を都市空間と捉え，都市の発展を計画する上で必要な知識を修得する。また，都市計画の基礎とともに，人口増加を前提とした都市化の時代は終焉を迎え，人口減少,少子高齢社会となったわが国における新たな時代に必要となる都市計画・まちづくりを計画できる知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

めまぐるしく変化する社会や都市の将来を見据え，働く機会と生活する場所が確保され，平和で安全に，そして安心して暮らすことの出来る都市がどのように形成され，今後どのような方向を目指すのかを理解し，これからの都市を計画立案できるための基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

指定テキストのほかに毎回資料を配布し，援用しながら講義を進める。授業内容の記録を演習として作成し，毎回授業終了後提出する。都市計画に係る研究課題を課し，その研究成果を発表する。演習と研究課題により評価する。
[SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

板書事項は授業資料として記したものを配布する。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが，授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取り，毎回授業終了後提出してもらう。情報量は多く，見て，聴いて，理解できる授業である。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に着席票を回すので，遅刻し記載できない場合は欠席とみなし，配布資料を入手することができなくなるため注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)。毎回の授業内で行う演習の評価点（平常点）と研究課題提出（課題・作品）と発表（その他）が単位認定の過半を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。なお演習は当日の授業終了後提出とし，それ以外は受理しない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	３０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界の中から抽出した都市が，古代から現代までを時間軸に則し，どのように成り立ち，展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し，発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。
都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わり知り，地方自治体の都市計画と都市のあり方の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的の統制されていること，地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的の統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理化することができなかった。
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と，都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い，まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 （科目ナンバリング：APT314020 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	２０１８	9784395320936	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，課題説明，授業の進め方	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	「都市計画」で学ぶこと	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市の遺産①　都市の防御性と効率性	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の遺産②　社会改良思想の都市	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市計画制度①　日本の都市計画史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市計画制度②　日本の都市計画の枠組み	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市計画制度③　現代都市計画の思潮	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市計画制度④　まちづくりの担い手と進め方	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市計画制度⑤　人口減少社会のまちづくり	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市計画制度⑥　都市交通計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市計画制度⑦　都市の防災計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画制度⑧　都市の緑地・景観計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	研究発表①　「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
14	研究発表②　「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
15	研究発表③　「都市マス」からみたわたしの都市の姿と将来像	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
16	総評（演習課題の提出状況と評価・解説） 授業改善アンケートの実施	演習課題提出確認(90分)	最終振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（A）	（科目ナンバリング：ESS323056，S0E423051 ）			
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校において職業教育を指導する立場の時，職業についての基礎知識・技能を重んじ，個性に応じた進路を選択させる能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

職業についての基礎知識・技能を重んじ，個性に応じた進路を選択させる能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

職業の考え方，職業と社会，個人と職業，職業の選択，職業を生きる，進路指導，職業適性及び検査等について理解し，その指導法を学ぶ。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。また、課題の提出後講義中に解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
個性に応じた進路指導方法の修得	個性に応じた進路指導方法について完璧に理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解した。	個性に応じた進路指導方法についてほぼ理解した。	個性に応じた進路指導方法について大体理解した。	個性に応じた進路指導方法について理解しなかった。
職業の考え方や選び方についての理解	講義の内容から職業の考え方や選び方について完璧に理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方についてほぼ理解した。	講義の内容から職業の考え方や選び方について大体理解した。	職業の考え方や選び方について理解しなかった。
職業適性や検査法の理解	講義の内容から職業適性や検査法について完璧に理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について理解した。	講義の内容から職業適性や検査法についてほぼ理解した。	講義の内容から職業適性や検査法について大体理解した。	職業適性や検査法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（A）	（科目ナンバリング：ESS323056，S0E423051 ）			
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	職業の意味１（労働分担の原理）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	職業の意味２（欲求の層構造）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	職業と社会	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	個人と職業	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	職業選択１（自己と職業のかかわり）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	職業選択２（レディネス）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	自己理解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	職業適性の概念	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	職業適性検査について	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	職業適性検査の実施１（筆記）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	職業適性検査の実施２（器具）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	職業適性検査の採点・評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	進路指導に関する活動１（位置づけ）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	進路指導に関する活動２（組織）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習（90分）	総理解（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業全体の内容と概要

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業の方法

ケースを中心に講義を進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問い対する積極的な発言を歓迎する。
履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける、国別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的に理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークの課題を抽出し高度な事業計画を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決案を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	Ｅ－ＳｐｏｒｔｓやＢＰ（ボールパーク）について基本的に理解していた。	Ｅ－ＳｐｏｒｔｓやＢＰ（ボールパーク）について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明）スポーツビジネスの概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	レポート作成（９０分）
2	スポーツビジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
3	日本のスポーツビジネスモデル（体育からスポーツへ）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
4	日本のスポーツビジネスモデル（鹿島アントラーズ）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
5	日本のスポーツビジネスモデル（プロ野球　楽天・ロッテ・日本ハム）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
6	米国のスポーツビジネスモデル（MLB）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
7	米国のスポーツビジネスモデル（NFL）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
8	米国のスポーツビジネスモデル（中国に進出するバスケットボールビジネス）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
9	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
10	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
11	FIFAのビジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
12	オリンピックビジネス	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
13	eスポーツ	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
14	ボールパーク	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
15	ボールパーク 授業改善アンケートの実施	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
16	レポート講評	解説フィードバック（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論（SP） （科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業全体の内容と概要

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業の方法

ケースを中心に講義を進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問い対する積極的な発言を歓迎する。
履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける、国別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的に理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークの課題を抽出し高度な事業計画を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決案を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	Ｅ－ＳｐｏｒｔｓやＢＰ（ボールパーク）について基本的に理解していた。	Ｅ－ＳｐｏｒｔｓやＢＰ（ボールパーク）について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽ論（SP）	（科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013　　）			
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　鈴木　重政　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） スポーツビジネスの概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	レポート作成（９０分）
2	スポーツビジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
3	日本のスポーツビジネスモデル（体育からスポーツへ）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
4	日本のスポーツビジネスモデル（鹿島アントラーズ）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
5	日本のスポーツビジネスモデル（プロ野球　楽天・ロッテ・日本ハム）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
6	米国のスポーツビジネスモデル（MLB）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
7	米国のスポーツビジネスモデル（NFL）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
8	米国のスポーツビジネスモデル（中国に進出するバスケットボールビジネス）	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
9	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
10	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
11	FIFAのビジネスモデル	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
12	オリンピックビジネス	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
13	eスポーツ	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
14	ボールパーク	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
15	ボールパーク 授業改善アンケートの実施	ケースを読んでおく（９０分）	レポート作成（９０分）
16	レポート講評	解説フィードバック（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論Ⅰ　（科目ナンバリング：EDU011014　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（生涯学習）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯学習についての基礎的・基本的事項を理解し、生涯学習の学習者・支援者としての知識・態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
デザイン学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

生涯学習に関連する基礎的知識を身に付け、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育等の役割やリカレント教育など生涯学習の取組について理解できる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問などには、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
全学科が同一クラスで授業を行うため、無断でのスマホ使用、私語の禁止、座席の指定など、受講に当たっての注意事項を必ず厳守すること。また、グループワークなど主体的な学修態度が求められる。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	１０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基盤に、さらに知識等を深めようとすることができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考･判断･表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとすることができた。	生涯学習について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論Ⅰ　（科目ナンバリング：EDU011014　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（生涯学習）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版）』	香川正弘　ほか	ミネルヴァ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『テキスト生涯学習　「新訂2版」』	田中雅文　ほか	学文社	2020	978-4-7620-2966-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習とは何か～	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること（９０分）
2	「生涯学習とは？」 １―生涯学習の概念と生涯学習社会の形成	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	「生涯学習とは？」 ２―「生涯教育」と「生涯学習」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	「生涯学習とは？」 ３―ライフサイクル論と生涯発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	生涯学習社会における各機能の役割 ―学校教育の役割　「生涯学習と学校教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	生涯学習社会における各機能の役割 ―社会教育の役割　「生涯学習と社会教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	生涯学習社会における各機能の役割 ―家庭教育の役割　「生涯学習と家庭教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
8	生涯学習社会における各機能の役割 ―行政機関の役割　「行政機関による生涯学習の振興」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	生涯学習社会における各機能の役割 ―民間団体・機関の役割　「民間団体等による生涯学習支援」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	生涯学習社会における各機能の役割 ―大学の役割　「生涯学習支援としての大学開放」 （中間テスト）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	生涯学習の多様な学習方法１ ―学習方法の類型と具体的な方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	生涯学習の多様な学習方法２ ―メディア活用やワークショップなどによる学習方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	生涯学習とリカレント教育１ ―リカレント教育の意義	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	生涯学習とリカレント教育２ ―リカレント教育の方策、職業能力開発の生涯学習	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	生涯学習と生涯学習社会の今後の課題について 授業改善アンケートの実施	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する（９０分）	レポートを作成する（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222022 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

広告、出版、WEB、映像、各種アプリケーションなど、現代の視覚伝達メディアにおけるデザイン制作業務に携わるために必要な知識と技術を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

特定の情報を市場に提供する手段として適切なメディアを選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視した課題制作を行う。但し、制作内容は単体のメディアコンテンツが中心となる。
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

始めにグラフィックデザインを正しく認識させるためのワークを行う。
その際には、ChatGPT及びCANVAを始めとする生成AIも積極的に活用する。
次に単体のメディアによる用途に合わせたバリエーションを制作する実技課題に続く。
後半ではオリジナルメディア広告企画をプレゼンテーションするためのツール（フリップ又はPowerPoint）を制作し発表する。
各種メディアや情報形態に関しての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。
中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。
課題の制作はAdobe IllustratorとPhotoshopを用いるので、その基本的な操作を身につけていなければならない。
授業内でアプリケーションの操作講習などは一切しないということにも留意しなければならない。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は26回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「グラフィックデザインを分野として正しく認識できている」	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下の重要性を認識し、それが可能な知識と技能を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要であることを認識した。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分であった。	グラフィックデザインに対する認識が曖昧で、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインを認識できていない。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うため技能を基に、完成度の高い作品制作が行えた。	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を作品制作に反映させることができた。	グラフィックデザインの特性を理解したが、メディアの選択や表現について、適切に反映させられていない。	グラフィックデザインの特性を理解しきれておらず、適切なメディアの選択や表現が不十分であった。	グラフィックデザインの特性が理解できず、メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「グラフィックデザインの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、メディアの特性に準じた完成度の高いプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	（科目ナンバリング：DES222022 ）			
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく（４５分）	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく（４５分）
2	「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」 現行分野と制作工程について	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
3	「生成AIによる情報の視覚化」 企画文書作成のシミュレーション	使用するアプリと機材の準備・整理（４５分）	課題の継続作業（４５分）
4	「生成AIによる情報の視覚化」 企画文書作成のシミュレーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
5	「生成AIによる情報の視覚化」 デザインの実装シミュレーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
6	「生成AIによる情報の視覚化」 デザインの実装シミュレーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
7	「生成AIによる情報の視覚化」 講評と展開の可能性について	課題の継続作業（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
8	様々な情報メディアの特性について	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
9	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 企画・立案	シラバスの確認と情報整理（４５分）	課題の継続作業（４５分）
10	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 生成AIによるシミュレーション	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
11	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 デザインラフ作成①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
12	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 デザインラフ作成②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
13	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 プレゼンテーション①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
14	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 プレゼンテーション②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
15	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 プレゼンテーション③	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
16	情報メディアデザイン　“小” 「バナー広告デザイン」 完成～講評	課題の継続作業（４５分）	内容修正（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 企画立案	UIとは何か？（４５分）	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）
18	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 生成AIによるシミュレーション	分野への理解を深めるためのノート整理（４５分）	課題の継続作業（４５分）
19	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 ラフデザイン①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
20	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 ラフデザイン②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
21	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 ラフデザイン③	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
22	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 ラフデザイン④	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
23	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 プレゼンテーション①	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
24	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 プレゼンテーション②	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
25	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 プレゼンテーション③	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
26	情報メディアデザイン　“中” 「UIデザイン」 完成～講評	課題の継続作業（４５分）	内容修正（４５分）
27	レイアウトとフィニッシュワーク① デザインツールの習得度確認課題	シラバスの確認と情報整理（４５分）	課題の継続作業（４５分）
28	レイアウトとフィニッシュワーク② デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
29	レイアウトとフィニッシュワーク③ デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
30	レイアウトとフィニッシュワーク④ デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
31	レイアウトとフィニッシュワーク⑤ デザインツールの習得度確認課題	課題の継続作業（４５分）	課題の継続作業（４５分）
32	授業改善アンケートの実施	全授業内容のまとめ（４５分）	完成シミュレーション（４５分）

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑIII　（科目ナンバリング：IRE322074　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑIII　（科目ナンバリング：IRE322074　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援　（科目ナンバリング：SWS123023　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。
２．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。
３．地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
４．地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。
５．包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
６．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する(2022年)。

到達目標

１．地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。
２．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解することができる。
３．地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。
４．地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。
５．包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。
６．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。
２．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。
３．地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。
４．包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。
５．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。
６．テキストを中心に関連文献を適宜紹介し、参考文献として、その他文献資料も活用して学ぶ。
７．授業内容は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験と関連付けて学ぶ。
５．「ＳＤＧs３．すべての人に健康と福祉を」、「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜、質疑応答を交える。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
６．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は必ず持参すること。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．ⅠとⅡは同じ教科書を使用する。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．出席回数は最低１０回なければ試験を受験することはできない。
２．その他については、出席状況３０％の評価となる。
３．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０％以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０％以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】地域福祉の基本的な考え方について理解する。	地域福祉の基本的な考え方について非常に理解できた。	地域福祉の基本的な考え方についておおむね理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解が一部できなかった。	地域福祉の基本的な考え方について全体的に理解ができなかった。
【知識】地域福祉の組織や役割について理解する。	地域福祉の組織や役割について非常に理解できた。	地域福祉の組織や役割についておおむね理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解が一部できなかった。	地域福祉の組織や役割について全体的に理解ができなかった。
【知識】コミュニティソーシャルワークについて理解する。	コミュニティソーシャルワークについて非常に理解できた。	コミュニティソーシャルワークについておおむね理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解が一部できなかった。	コミュニティソーシャルワークについて全体的に理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援　（科目ナンバリング：SWS123023　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2022年	9784335612152	価格　/ 2,750（本体 / 2,500）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明）、地域福祉とは	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	地域福祉の発展過程について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	地域福祉の発展過程 ー行政と住民の協働・新しい生活課題	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	地域福祉の発展過程 ー新しいサービスシステム・地域福祉の主体	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	地域福祉の基本的考え方 ー地域福祉理論の発展・理念	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	地域福祉の基本的考え方 ー地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	地域福祉の主体と福祉教育について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	行政組織と民間組織の役割と実際 ー地域福祉計画	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	行政組織と民間組織の役割と実際 ー社会福祉協議会・社会福祉法人	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	行政組織と民間組織の役割と実際 ーNPO・民生委員児童委員など	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	コミュニティーソーシャルワークについて ー考え方	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	コミュニティーソーシャルワークについて ー展開とシステム	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	コミュニティーソーシャルワークについて ー方法	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	コミュニティーソーシャルワークについて ーチームアプローチ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	コミュニティーソーシャルワークについて ー専門職と住民 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	【定期試験】６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習III （科目ナンバリング：APT323021 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

小中規模の建築の計画与条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨ををわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

公共建築を成立させるためには、思い付きのアイディアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通じて、学生自身がより多くのPDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を回す過程でアイディアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」

授業の方法

授業では，板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を自主的に行うこと。　授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
計画の強さ　：　自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。
計画の正確性　：　与条件や建築基準法に則った計画ができ、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
表現力：　考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型を用い表現できたか。人に伝わるプレゼンテーションができたか。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができた。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習III （科目ナンバリング：APT323021 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	課題１　小さな公共建築　課題説明	プリントを読んで理解しておくこと（90分）	課題のプリントを読み、デザイン検討する（90分）
3	課題１　エスキスチェック①	デザインしたものを表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	課題１　エスキスチェック②	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	課題１　発表・質疑応答・課題2　発表	デザインを改善し、表現する（90分）	講評会の内容をまとめる（90分）
6	課題２　　課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	現地見学のポイントをピックアップする（90分）
7	課題２　　敷地　見学会	取り組みスケジュールを作成する（90分）	敷地調査結果をまとめデザインアイディアを作成する（90分）
8	課題２　中間指導①　（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	アイディアをカタチにし、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
9	課題２　中間指導②　（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
10	課題２　中間指導③　（エスキスチェック：ランドスケープと平面計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
11	課題２　中間指導④　（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
12	課題２　中間指導⑤　（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
13	課題２　中間指導⑥　（エスキスチェック：作図　ダイアグラム　プレゼンテーション）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
14	課題２　中間指導⑦　（エスキスチェック：作図　ダイアグラム　プレゼンテーション）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる（90分）	改善点をまとめる（90分）
16	合同発表会	プレゼンテーションにまとめる（90分）	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 （科目ナンバリング：LAW412009，LAW512006 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要

商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。商法は、法律の全体像をつかむことに主眼に、企業法といわれる商法・会社法の基本的な説明を行い、具体的には、商法総則・商行為、手形法・小切手法などの分野を解説する。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料（第３回から第１５回の計１３回）を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは、講義の理解を深めるために５回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は、課題解決力を養うために２回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③課題は、講義の理解を深めるために１回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので、１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	１０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べれた	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り、理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べれた	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた	事例を理解し、法律の条文を適用できた	事例を理解し、法律の条文を理解できた	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えれた	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えれた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 （科目ナンバリング：LAW412009，LAW512006 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『商法 第2版（ファーストトラックシリーズ 4）』	伊藤真	弘文堂	２０１８年	9784335314599	
2	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009233	
3	『法学入門』	宍戸常寿・石川博康	有斐閣	２０２１年	9784641126183	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・粟谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	２０２２年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 商法の意義・目的・全体像	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	ガイダンス　シラバスの説明 商法総則・商行為の概要	シラバスの確認。 商法総則・商行為についての調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	商人と商行為 商取引と一般取引	商人と商行為、商取引と商行為についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
4	知的財産権と商号・商標	知的財産権と商号・商標についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）、確認テストの復習
5	商号－類似商号事例研究、名板貸し 確認テスト１（前年実績）	類似商号・名板貸しについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	営業譲渡、商業帳簿	営業譲渡と商業帳簿についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）、確認テストの復習
7	代理商、商業使用人	代理商、商業使用人についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）、確認テストの復習
8	商業使用人、表見支配人 課題１（前年実績）	商業使用人、表見支配人についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）、確認テストの復習
9	商業登記	商業登記についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
10	商行為法、商行為の代理	商行為法・商行為の代理についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
11	契約の成立、債務の履行・債券担保 確認テスト２（前年実績）	契約の成立・債務の履行・債券担保についての調べ学習（９０分）	課題の作成 配布資料の復習（９０分）
12	商人間の留置権 手形小切手法－有価証券（手形，小切手） 確認テスト３（前年実績）	課題の作成 商人間の留置権、手形小切手法－有価証券（手形，小切手）についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
13	手形小切手法－有価証券（手形，小切手） 手形の要件、白地手形、債権譲渡 確認テスト４（前年実績）	手形小切手法－有価証券（手形・小切手）・手形の要件・白地手形・債権譲渡についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
14	裏書、手形の抗弁－物的抗弁・人的抗弁 善意取得、人的抗弁の切断 確認テスト５（前年実績）	裏書・手形の抗弁－物的抗弁・人的抗弁・善意取得・人的抗弁の切断についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
15	支払免責、満期前の支払い、手形行為独立の原則 まとめ、定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	支払免責・満期前の支払い・手形行為独立の原則 第３回から第１４回まで復習（９０分）	配布資料の復習（９０分） 試験範囲の確認により、第３回から第１５回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説、採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認、第３回から第１５回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂとﾍﾙｽｹｱ （科目ナンバリング：SPS422073，SPS522058 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）、三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

身体運動に異常が出ればスポーツ選手個人がもつパフォーマンスの発揮ができないばかりか、障害をまねく危険性がある。そこで外傷・障害の予防とコンディショニングの手法に関して学習する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

スポーツを見つめる科学的な視点。スポーツにおける基礎理論の理解と実践的応用について理解することができる。

授業全体の内容と概要

アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画（実施上の留意点，進め方）。予防・治療・再発防止のテーピングの解説と演習。スポーツマッサージの解説。アイシング・ストレッチングなどの解説。特殊環境下での対応。アンチトーピング（ドーピング防止とドーピングコントロール）。トップアスリートの育成・強化の方法とその評価。競技力向上のためのチームマネジメント。について分かりやすく講義する。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しコンディショニングの事例を紹介しコンディショニングのＤＶＤも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。また、授業の終わりに振り返りを行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ノートやプリントは毎回必ず持参すること、授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅い領域について基礎的な知識を持ち、、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂとﾍﾙｽｹｱ （科目ナンバリング：SPS422073，SPS522058 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）、三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明（佐藤和裕）	事前にシラバスを読んで確認しておく（９０分）	ガイダンスの内容を理解しておく（９０分）
2	指導者の心構え・視点（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
3	スポーツと健康・アスリートの件超え管理（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
4	アスリートの内科的障害と対策（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
5	女性アスリートの障害と対策（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
6	スポーツによる精神障害と対策（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
7	外傷・障害の予防（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
8	コンディショニングの手法、ストレッチング・アイシング（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
9	コンディショニングの手法、テーピング基本（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
10	救急処置、救急蘇生法（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
11	救急処置、外科的応急処置（佐藤和裕）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
12	アンチドーピング（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
13	コーチング環境の特徴（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
14	スポーツ組織のマネジメント（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
15	障がい者とスポーツ（三嶋康嗣）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
16	まとめ・授業改善アンケートの実施（三嶋康嗣）	ノート、プリントで講義内容を確認しておく（９０分）	専門用語の意味や授業内容を理解しておく（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	山本一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本 一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域ガバナンスの意味を知り、公共性を担うさまざまなマネジメント主体の特質と地域社会のよりよい発展について考え、現代のサードセクターの意義について理解することを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

地域ガバナンスの理論とサードセクターについて単に知識を習得するだけでなく、地域のさまざまなマネジメント主体の特質や問題点とわれわれのかかわりを理解し、地域社会のよりよいあり方について自ら考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

地域ガバナンスの営みとその担い手としての生活者に目を向け、さまざまなマネジメント主体の特質と生活者とのかかわりをとり上げる。さらに、地域社会の持続可能性を支えるサードセクターと多様なマネジメント主体の共生的関係を探り、北海道の内発的発展について考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らか考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留であった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はＣとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０％	０％	０％	０％	０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で9割以上の正答があった。	同8割以上9割未満の正答であった。	同7割以上8割未満の正答であった。	同6割以上7割未満の正答であった。	同部分の正答が6割に届かなかった。
思考力・判断力等	地域ガバナンス概念を軸にして、さまざまなセクターのマネジメント活動の特質と意義を充分に考察できていた。	左記の事項についておおむね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
地域問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマであるサードセクターを中心に、現実の地域問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	山本一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス・・・・全体概要、目的とねらい、 履修上の注意、評価方法説	シラバス内容事前確認　（９０分）	目的とねらいについての復習・確認 （９０分）
2	Ⅰ.地域ガバナンスの視点 1.高度産業化と地域社会の変貌 ・・・・生活者と社会関係資本	産業活動の高度化が地域社会をどのように変えたかについての事前考察（９０分）	値域社会の持続と生活者の社会関係資本の重要性についての復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.地域ガバナンスの視点 2.地域ガバナンスとは何か？	地域がガバナンスされるとはどのようなことかの事前考察　（９０分）	地域ガバナンス概念の源流、その意味についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 1.多様なマネジメント主体と公共性の担い手	地域社会におけるマネジメント主体のタイプについての事前考察（９０分）	多様なマネジメント主体の特質と領域についての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 2.地方政府	地方公共団体はどのような役割を果たすべきかについての事前考察（９０分）	地域ガバナンスでの地方政府の役割の意義と限界についての復習・理解（９０分）
6	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 3.民間営利組織	営利事業が地域社会で果たすべき役割についての事前考察（９０分）	地域ガバナンスでの企業の企業の役割の意義と限界についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.現代のサードセクター 1.社会的経済の領域	民間領域に営利企業以外のどのような組織・団体があるかの事前考察（９０分）	社会的経済組織の現代的意義と地域における可能性についての復習・理解（９０分）
8	Ⅲ.現代のサードセクター 2.ボランタリー・エコノミーとNPO法人	経営組織としてのNPO法人の登場についての事前確認（９０分）	自発的市民セクターの重要性とNPO法人の意義についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ.現代のサードセクター 3.ワーカーズ・コレクティブ ・・・・生産者・労働者の「協同」	協同組合の歴史的意義についての事前考察（９０分）	ワーカーズコレクティブの事業組織としての特質についての復習・理解(９０分)
10	Ⅲ.現代のサードセクター 3.ワーカーズ・コレクティブ ・・・・生産者・労働者の「協同」	地域におけるワーカーズコレクティブの役割についての事前考察（９０分）	出資・経営・労働一体の事業組織と市民が「働くこと」についての復習・理解（９０分）
11	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 1.社会問題と地域社会の持続可能性	現代の地域社会で何が社会問題となっているかについての事前考察（９０分）	地域社会の持続可能性にとって重要な施策についての復習・理解（９０分）
12	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	異なるマネジメント主体間の協働かんけいのあり方についての事前考察（９０分）	地域におけるマネジメント主体間の協働の重要性についての復習・理解（９０分）
13	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	社会的企業とはどのような事業組織かについての事前考察（９０分）	地域マネジメントにおける社会的企業の意義についての復習・理解（９０分）
14	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 3.北海道の内発的発展へ内発的地域主義と北海道	北海道の地域社会にとって何が必要とされているかについての事前考察（９０分）	内発的地域主義の意義と北海道にとっての重要性についての復習・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 60分の試験終了、残りの30分で解説	試験対応準備（９０）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122113 ）				
授業担当者（所属・職名）	室岡　弘明（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	Ｉ号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 室岡　弘明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元道立聾学校・高等聾学校の校長としての学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

聴覚障害者の心理・生理・病理面からの考察を基盤として、我が国の聴覚障害教育の全体像を把握するとともに、聴覚障害児の発達と各段階における教育内容・方法について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

聴覚障害の特性と発達及び教育内容の特徴を理解し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

聴覚障害の特性をおさえた上で、聴覚障害の種類・程度による発達的特性及びコミュニケーション能力と環境との関係性について具体的な事例を取り入れて構成する。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目

授業の方法

授業は、パワーポイントや実際の授業映像（DVD）および配布資料で実施し、資料にて説明した後、ディスカッションし、レポート提出を行う。なお、 レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職科目（特別支援教育）であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
試験結果やレポートの提出状況、講義での取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	10%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
聴覚障害の特性と教育内容の習得	聴覚障害教育に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	聴覚障害教育に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能の習得や、その内容説明ができなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122113 ）				
授業担当者（所属・職名）	室岡　弘明（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	Ｉ号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 室岡　弘明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元道立聾学校・高等聾学校の校長としての学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『聴覚障害教育の基本と実際』	中野善達	田研出版	2008	978-4860890186	
2	『聴覚障害教育の手引』	文部科学省	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-562-2	
3	『聴覚障害教育のこれまでとこれから』	脇中起余子	北大路書房	2009	978-4762826900	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 耳の役割（聴覚障害とは）	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	特別支援学校（聾学校）の教育の実際	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	聴覚障害児が受ける教育の場	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	聞こえのしくみと聴覚障害の分類	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	聞こえと聴力検査の実際	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	オージオグラムと聴力型	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	補聴器と人工内耳	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	聴覚障害児の発達的特性（発達と心理）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	聴覚障害幼児の言語発達	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	聴覚障害教育の歴史的経過（１）～欧米について	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	聴覚障害教育の歴史的経過（２）～日本について	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	聴覚障害教育における教育課程	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	聴覚障害者のコミュニケーション手段	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	保護者への支援	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	聴覚障害教育の実際、まとめ 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。）	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 （科目ナンバリング：HIS122122 ）				
授業担当者（所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 及川　琢英 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人と猫との関わり合いという切り口を通して、日本の文化、人間社会のあり様を考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、DP９に対応する。（2021年度）

到達目標

１．テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
２．文献を批判的に考察することができる。
３．考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

１．人と動物との関わり合いについて考察する。
２．日本独特の文化とは何かを考える。

授業の方法

受講者にはテキスト読解を担当してもらい、質疑応答を行う。またリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、 自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていなかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 （科目ナンバリング：HIS122122 ）				
授業担当者（所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 及川　琢英 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『猫が歩いた近現代』	真辺将之	吉川弘文館	2021		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく（９０分）	基礎的事項の確認（９０分）
2	猫の世界史	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
3	猫の世界史2	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
4	江戸時代の猫	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
5	明治初期の認識	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
6	文筆家と猫	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
7	猫絵	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
8	猫の需要	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
9	猫獲り	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
10	虐待と愛護	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
11	震災と戦争	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
12	猫食い	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
13	猫文化	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
14	生活の変化	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
15	猫ブーム	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
16	猫の現代、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	（科目ナンバリング：DES222026 ）			
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験４０年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事				

概要

履修目標

モノ、コト、商品等をデザインするプロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、プロセスを習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、可視化しプレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループで行い、現状とモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積み重ねの授業ですので、欠席するとついていけなくなる。欠席しないように。
履修者は鉛筆（ハイユニA3～B4）、PM-PAD　A3(マーカー用紙）,コピックマーカー（クールグレイC1～C8,黒）、パステル用意の事。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２0回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、新しい価値を創造出来た。	モノの本質を上手く捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、価値を創造出来た。	モノの本質を捉えられず、価値を創造出来なかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出し、従来の価値以上のものを創造することに繋げられた。	問題解決のアイデアを上手く出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを辛うじて出し、従来価値以上のものを発想できた。	問題解決のアイデアが出せない、従来の価値以上のものを作ることが出来なかった。
新デザインを提案することが出来る。	自分のアイデアを完璧に可視化出来て、造形力やアプローチも完璧である。周りを巻き込む力があった。	自分のアイデアを上手に可視化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを可視化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて可視化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを可視化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222026 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験４０年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ 多様な方向でスケッチする	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２ 改良し新しい価値を入れ込む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ 第三者に伝わるように	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業、　最終デザインの検討	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 アイデアスケッチから起こす	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 アイデアの中から気づきを探す	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 コンセプトを決める	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査 自分で評価を下だす。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン再考 自分で否定して もう一度、再考する。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正 完成度を上げる。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン完成。 確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング 特徴が出ているか？	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング 構図は良いか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング 使用する色味の吟味	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング 適した手法か？	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング 完成度をあげる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリング 細かい調整	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリングを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最後のチェック	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション 第三者の意見をしっかりと聞く。	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学III （科目ナンバリング：BSM323026 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会で建築されている建築物のほとんどは不静定構造物であり、これらの実構造物の基本となるのが、力学である。
「建築構造力学III」では、静定構造物の知識を基礎に不静定構造物の解法の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

簡単な不静定構造物の合理的かつ経済的な設計ができる。
梁の変形、応力法、変位法について説明できる。

授業全体の内容と概要

「建築構造力学Ｉ・II」の知識を基礎に、一級建築士レベルの不静定構造物の解法について修得する。

授業の方法

授業は配布物と板書を中心に講義形式で行う。授業では、講義と問題・解説を交えた内容とする。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前に配布した資料は必ず持参のこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
梁の変形について修得する。	変形について簡単に説明できた。	曲げについて簡単に説明できた。	曲げについてほぼ簡単に説明できた。	曲げについて説明できた。	曲げについて簡単に説明できなかった。
応力法について修得する。	応力法をトラスやラーメンに応用することができた。	静定梁および不静定梁について簡単に説明できた。	静定梁および不静定梁についてほぼ簡単に説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁については説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁について簡単に説明できなかった。
変位法について修得する。	変位法を理解し、不静定梁を解くことができた。	変位法を簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学III （科目ナンバリング：BSM323026 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築構造テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、構造力学Ⅰ・Ⅱの復習を行う。（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
2	静定構造物と不静定構造物との違いの説明①	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
3	静定構造物と不静定構造物との違いの説明②	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
4	不静定構造物の判別式	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
5	応力度と許容応力度	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
6	部材の変形（ひずみ・座屈・たわみ・たわみ角）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
7	モールの定理	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
8	マックスウェルの相反定理・ラーメンの変形	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
9	不静定構造物の応力（重ね合わせの原理）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
10	不静定ラーメン（分割・到達モーメント）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
11	固定モーメント法	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
12	ラーメンの水平変位と水平剛性	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
13	固有周期（振動）のメカニズム	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
14	加速度応答スペクトル	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
15	崩壊メカニズム（仮想仕事の原理）	配布資料の指定箇所の予習（90分）	授業内容を整理して復習（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説） 授業改善アンケートの実施	全体内容の再確認及び理解（90分）	試験内容の復習（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：DMB543119 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　髙井　雅一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅰに関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育科教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態に応じた効果的な授業設計をする。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。
・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。「ＳＤＧ４」質の高い教育を目指す。
。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリンと等を使用して説明を行う。
・各テーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。
・各自がパソコンを使用し、計画案の作成を協力し合い実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類や課題プリントはファイル等に整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等の中に入れておくこと。但し、指示のある場合は可。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０％	２０％	２０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の目的・目標についての認識・理解できる	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（９割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項・実務的事項を理解できた。（８割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本児童・実務的事項を理解できた。（７割）	保健体育科教育の目的・目標を認識し独特の役割を理解できた。	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できなかった。
保健体育科教育の意義や基本的構造に基づく授業設計ができる	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（９割）	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（８割）	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考え授業設計を身につけた。（７割）	保健体育科教育の意義や基本的構造について考え授業設計を身につけた。	保健体育科教育の意義や基本的構造について考えて授業設計ができなかった。
意見交換における主体性・協働性を身につける	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（９割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（８割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。（７割）	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換できた。	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べルことができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法Ⅰ　（科目ナンバリング：DMB543119　）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　髙井　雅一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅰに関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１９	9784827815689	
3	『新しい保健体育』	戸田芳雄　他	東京書籍	２０２４	9784487123711	中学校の教科書
4	『現代高等保健体育　』	衛藤　隆　他	大修館	２０２４	9784469663198	高等学校の教科書
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１８		
2	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１９		
3	『中学校・高等学校体育科教育法』	白旗和也・岡出美則・今関豊一	建帛社	２０２２		
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健体育科改定の要点について	改訂の要点ついて簡単に説明できるようにしておく。（９０分）	改訂の要点を理解する。（９０分）
2	保健体育科の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	中学「体育分野」、高等学校の科目「体育」の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	体育教育の今日的課題について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	中学校の「体育分野」の領域と内容について (1)A～Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	中学校の「体育分野」の領域と内容について (2)E～Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	高等学校の科目「体育」の領域と内容について (1)A～Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	高等学校の科目「体育」の領域と内容について (2)E～Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	選択授業・男女共習授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	効果的な指導を実践するための情報機器の活用及び教材の選び方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	年間指導計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	各種目の単元計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	体育授業の指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	体育授業の評価と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容の復習（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 （科目ナンバリング：SOC122121 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者：　後藤　啓倫　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ヨーロッパ社会に登場した思想の特徴と歴史的展開に関する基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP２、DP８に対応する。（2021年度）

到達目標

①ヨーロッパの社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。
②ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を説明することができる。
③社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。

授業全体の内容と概要

社会とはどのようなもので、どうあるべきなのか。私たちは人生のどこかでこの問いに直面するだろう。この授業では、これからの社会を考えていくための思考の基礎体力を養うことを目標に、主にヨーロッパの社会思想家たちの考えを歴史的に学ぶ。思想家たちがどのような歴史的文脈のなかで、なぜ社会のことを考えたのかを振り返ることは、自分自身のあり方を振り返るきっかけとなるはずである。
「SDGs1.貧困をなくそう」、「SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席1回とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地歴公民）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。	社会思想に関する基礎的な概念を発展的に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念をある程度理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を説明することができる。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を発展的に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開をある程度理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。	社会思想の概念を用いて現代社会を発展的に考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会を十分に考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会をある程度考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができた。	社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 （科目ナンバリング：S0C122121 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	社会思想史とは何か	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	民主主義とは何か	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	ソクラテス・プラトン	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	アリストテレス・ヘレニズム	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	ユダヤ教とキリスト	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	キリスト教の発展	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	中世ヨーロッパの社会思想	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	ルネサンスと宗教改革	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	ベーコン・デカルト	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	カント	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	ホッブズ・ロック・ルソー	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	アダム・スミス・マルクス	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	現代の社会思想	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験60分＋解説30分）	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅰ　（科目ナンバリング：APT323111　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイヤグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」
狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭においた設計を指導する。

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅰ　（科目ナンバリング：APT323111　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「コンパクト建築設計資料集成　第３版」　日本建築学会編』	村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山　繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	即日課題１　住宅とは	即日課題　住宅とはについて考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
3	即日課題２　敷地と家の関係	即日課題　敷地と家の関係について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	即日課題３　これからの家族について	即日課題　これからの家族についてについて考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	即日課題４　地域と家族	即日課題　地域と家族について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
6	設計課題　住宅計画　木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
7	設計課題　住宅計画　木構造・RC造 （課題説明、集合住宅の解説）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
8	中間指導②　コンセプトと全体計画 （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導③　全体計画とランドスケープ （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導④　ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導⑤　平面計画と断面構成 （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑥　平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑦　模型とプレゼンテーション （模型の造り方　レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑧　プレゼンテーション （レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導　プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	刑事司法と福祉 （科目ナンバリング：SWS112016 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日求められている社会福祉と刑事司法の連携強化を視野に，ソーシャルワーカーに必要とされる刑事司法制度に関する知識・役割について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ6、ＤＰ7、ＤＰ9に対応する。（2021年度）

到達目標

①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。
②刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。
③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

刑事司法の仕組みを学ぶとともに，犯罪をした者や非行のある少年に対する社会のなかでの処遇に関するソーシャルワーカーの関わりを考える。
「SDG1．貧困をなくそう」、「SDG10．人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に関しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後説明を行う。
⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程・精神保健福祉士国家試験受験資格過程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて広く刑事司法と福祉に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を視野にソーシャルワーカーに必要な刑事司法に関する知識を理解できた。	社会福祉と刑事司法の連携の必要性を知ることができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができた。	刑事司法の意義と仕組みを説明することができなかった。
思考・判断	刑事司法と司法福祉のあり方について考えることができた。	保護観察官，社会復帰調整官の具体的業務について考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示した。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割を考える姿勢を示せなかった。
関心・意欲	社会福祉と刑事司法との連携について課題を提示することができた。	刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割について意見を示すことができた。	刑事司法度の現状を踏まえその課題について考える姿勢を示した。	刑事司法の現状について自分の意見を示すことができた。	刑事司法の現状について考える姿勢を示せなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	刑事司法と福祉 （科目ナンバリング：SWS112016 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座１０　刑事司法と福祉』	一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8240-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 近年の犯罪の特徴と社会内処遇の重要性－高齢者、軽度の知的障害や発達障害をもつ犯罪者の増加など	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
2	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境（１）－近年の動向・社会環境	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
3	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境（２）－社会福祉士・精神保健福祉士の役割	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
4	刑事司法－刑法・刑事事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
5	少年法－少年法・少年事件の手続き、処遇	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
6	更生保護制度（１）－制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
7	更生保護制度（２）－生活環境の調整	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
8	更生保護制度（３）－仮釈放等	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	更生保護制度（４）－保護観察	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
10	更生保護制度（５）－更生緊急保護・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
11	医療観察制度（１）－制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
12	医療観察制度（２）－審判、処遇の流れと内容・関係機関、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
13	犯罪被害者支援（１）－犯罪被害者の法的地位	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
14	犯罪被害者支援（２）－犯罪被害者支援に関する法	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
15	犯罪被害者支援（３）－犯罪被害者支援に関する制度・団体、専門職等の役割と連携	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	教科書を読み授業範囲の復習をする（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、３０分で解説をする） 授業評価アンケートの実施	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ　（科目ナンバリング：SWS122026　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・ 櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーカーとしての姿勢（自己理解、他者理解、倫理綱領）と相談業務の基本的技法（コミュニケーション、面接技法、記録技法、ケースカンファレンス、実践評価）をディスカッション、ロールプレイ、ＤＶＤ鑑賞等を通して体得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１，DP２，DP３，DP４，に対応する（２０２３年度）

到達目標

様々な援助技術（スキル）を習得することや技法の統合のための理解を深めることができるようになる。また、次年度の相談援助実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要

個人・家族、グループ、地域社会への支援をイメージし、ロールプレイ等の学習を通じて、面接や記録などの技法の実際を学ぶ。

授業の方法

３～４つのグループ（１グループ２０名以内）に分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。
また、不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等での講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この科目の単位を取得できなかった場合、次年度の相談援助実習及び保育実習を履修できないので注意すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数２０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の矢ｊ区割りをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ　（科目ナンバリング：SWS122026　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）・ 櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習ワークブック』	相澤譲治　植戸貴子	（株）みらい	２０１３年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（グループ分け　自己紹介）シラバスの説明	１年時の関連科目の復習（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
2	演習に向けての準備（自己紹介　アイスブレーキング）	１年時の関連科目の復習（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
3	自己理解１「自己概念を学ぶ」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
4	自己理解２「自身のルーツ　家族関係を知る」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
5	自己開示と他者理解１「自己開示」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
6	自己開示と他者理解２「共感について」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
7	自己開示と他者理解３「価値観の違い」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
8	コミュニケーション１「コミュニケーションの基本」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
9	コミュニケーション２「言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
10	コミュニケーション３「非言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
11	ソーシャルワークの価値と倫理１「価値とは何か」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
12	ソーシャルワークの価値と倫理２「倫理とは何か」	テキストの読み込み（９０分）	自己の言動の振り返り（９０分）
13	面世技法１「面接の意義」	テキストの読み込み（９０分）	ＤＶＤ鑑賞による面接技法ポイントのまとめ（９０分）
14	面接技法２「面接の基本」	テキストの読み込み（９０分）	ＤＶＤ鑑賞による面接技法ポイントのまとめ（９０分）
15	記録技法１「面接場面での記録」	テキストの読み込み（９０分）	記録技法のまとめ（９０分）
16	記録技法２「ケース記録」	テキストの読み込み（９０分）	記録技法のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アセスメント１「アセスメントの意義」	テキストの読み込み（９０分）	アセスメントのまとめ（９０分）
18	アセスメント２「利用者の背景を知る」	テキストの読み込み（９０分）	アセスメントのまとめ（９０分）
19	アセスメント３「事例によるロールプレイ」	テキストの読み込み（９０分）	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り（９０分）
20	プランニング「アセスメントからの支援計画作成」	テキストの読み込み（９０分）	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り（９０分）
21	ケースカンファレンスの方法	テキストの読み込み（９０分）	ケースカンファレンスのポイントのまとめ（９０分）
22	模擬ケースカンファレンス	テキストの読み込み（９０分）	ケースカンファレンスのポイントのまとめ（９０分）
23	評価と効果測定１「利用者の満足度」	テキストの読み込み（９０分）	効果測定技法のまとめ（９０分）
24	評価と効果測定２「支援内容の評価」	テキストの読み込み（９０分）	効果測定技法のまとめ（９０分）
25	コミュニティワーク１「地域ニーズの把握」	テキストの読み込み（９０分）	地域診断のまとめ（９０分）
26	コミュニティワーク２「北広島市の福祉課題明確化」	テキストの読み込み（９０分）	地域診断のまとめ（90分）
27	コミュニティワーク３「課題解決への方法」	テキストの読み込み（90分）	地域支援方法のまとめ（９０分）
28	コミュニティワーク４「広報誌の作成」	テキストの読み込み（９０分）	地域支援方法のまとめ（９０分）
29	支援事例を用いたロールプレイング１	テキストの読み込み（９０分）	演習を通しての自己覚知について文章化（９０分）
30	支援事例を用いたロールプレイング２	テキストの読み込み（９０分）	演習を通しての自己覚知について文章化（９０分）
31	事例研究へのイントロダクション	テキストの読み込み（９０分）	自己総括（９０分）
32	相談援助演習Ⅰ総括	テキストの読み込み（９０分）	自己総括（９０分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 （科目ナンバリング：ACC422023，ACC522025 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

製造業を対象として発展した原価計算は、現在サービス業も含めすべての企業を対象としている。伝統的な原価計算を学んだうえで、最新の原価計算の展開を学び、経営の意思決定力を養う。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

企業経営における適正なコスト把握を行う能力を有する。短期的な経営の意思決定能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリントを配布し、講義内容の原価計算における位置づけを説明し、本題に入る。毎回の課題について、学生によるプレゼンテーションを実施する。講義の最後にミニテストを毎回実施する。ミニテス、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。
毎回講義の最後に小テスト（２点満点×１５回＝３０点）を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、 １１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
伝統的な原価計算を理解し活用できる	伝統的な原価計算とABC（活動基準原価計算）との相違を指摘できた。	個別原価計算と総合原価計算が適正に行えた。	間接費の配賦を理解し、正しい費用を算出できた。	直接費と間接費、そして原材料費、労務費、経費を正しく計算できた。	直接費と間接費を算定できなかった。
新しい原価計算を理解し活用できる	ABC（活動基準原価計算）を用いて事業変革を提案できた。	ABCを用いて業務改善提案ができた。	ABCを用いて無駄なコストを発見することができた。	ABCを用いたコスト計算ができた。	ABCを用いたコスト計算ができなかった。
原価計算を用いた短期的な経営意思決定能力を有する	埋没原価、ライフサイクルコストおよび失敗原価の概念を駆使して、短期的な経営の意思決定力を有していた。	CVP分析を用いて経営戦略を策定できた。	CVP分析を用いた損益分岐点、利益目標を算出できた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 （科目ナンバリング：ACC422023，ACC522025 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明など）、 企業経営と原価計算の目的 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
2	材料費（先入先出法・移動平均法）・労務費・経費の計算	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
3	個別原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
4	総合原価計算（先入先出法）	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
5	標準原価計算と原価差異	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
6	伝統的な原価計算とＡＢＣ（活動基準原価計算）	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
7	ＡＢＣの適用事例	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
8	ＣＶＰ分析の基本（固定費と変動費、損益分岐点）	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
9	ＣＶＰ分析と利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
10	意思決定のための原価計算①　機会原価の概念、販売先の選別	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
11	意思決定のための原価計算②　特別注文受諾の可否、資産売却	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
12	投資の意思決定①　キャッシュフロー	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
13	投資の意思決定②　資本コスト	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
14	ライフサイクルコスト、バリューチェーン（予防原価失敗原価）、試験の説明	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
15	定期試験および解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説） 授業改善アンケートの実施	総復習（９０分）	管理会計への取り組み（９０分）
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222122 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。
カメラ機材、ストロボ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
個人用のSDメモリーカードを用意の事。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222122 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、写真とは？ 写真の歴史	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	写真機材の特性、使い方	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	自分の取りたい写真イメージを作成、コンテ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	作品を撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	次作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	作品中間審査１	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	作品中間審査２	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	最終作品プレゼンテーション 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CLP123062，CLP423081，CLP523088 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

「カウンセリング」とは何についてを基礎理論，技法などを中心に解説を行う。その上で，ロールプレイを通して日常行われている「友人同士の相談」と「カウンセリング」の違いについて体験し，理解を深めていく。この授業を通して，各個人が自己理解を深めるきっかけとなることを期待する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP５，DP７，DP９に対応する科目（２０２１年度）。

到達目標

カウンセリングのなりたち，基礎理論，技法について理解する。　ロールプレイを通して，人の話を聴くことの難しさについて体験する。

授業全体の内容と概要

カウンセリングとは何かについて，これまでの歴史，基本的な原理や理論，技法について解説する。講義の後半では，ロールプレイを通して学びを深める。

「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，教科書や配布資料等を使いながら、カウンセリングの技法を学んでいく（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む）。授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
座席を指定します。ロールプレイに積極的に参加することを望みます。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
テキストを必ず購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回とします。
レポート，授業態度等，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法をスムーズに使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を概ね使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を一定程度使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を部分的に使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し，カウンセリングの応答技法を部分的にも使うことができなかった。
知識の応用・実践	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることについて気づき，言葉にすることができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることの意味について気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることに気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることに部分的に気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて，やり取りの中で起こっていることに全く気がつくことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：CLP123062，CLP423081，CLP523088 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『やさしく学ぶカウンセリング２６のレッスン』	長尾　博	金子書房	２００８	978-4-7608-3609-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・カウンセリングの話』	平木典子	朝日新聞出版	２０２０	978-4-02-263099-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 カウンセリングとは？カウン	カウンセリングについて調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	カウンセリングの諸理論①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
3	カウンセリングの諸理論②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
4	カウンセリングを始まる前に、セッティング、守秘義務など	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
5	カウンセリングの中での話を「きく」とは？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
6	カウンセリングの中での「話す」とは？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
7	信頼関係（ラポール）形成について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
8	応答技法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
9	ロールプレイ①共感	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
10	ロールプレイ②開かれた質問，閉ざされた質問	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
11	ロールプレイ③繰り返し，明確化	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
12	ロールプレイ④直面化	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
13	ロールプレイ⑤支持	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
14	ロールプレイ⑥お互いの話を聴いてみよう	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
15	エンカウンターグループを体験する	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
16	カウンセリングの限界について。これまでの振り返り。レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理（９０分）	レポート作成（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	経営学科・１年、デザイン学科・１年、建築学		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（1年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし（２０２４年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	経営学科・１年、デザイン学科・１年、建築学		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（1年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新教育原理　改訂２版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	教育の内容と教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	70分の試験終了後，残りの20分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	経営学科・２年、デザイン学科・２年、建築学		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（2年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営・デザイン・建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に渋々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	経営学科・２年、デザイン学科・２年、建築学		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（2年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2	（単位認定責任者：　西崎　毅　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新教育原理　改訂２版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	教育の内容と教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	70分の試験終了後，残りの20分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経　（科目ナンバリング：SWS112015，SWS422080，SWS522087　）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を経営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３、DP４、DP８に対応する。（2021年度）

到達目標

リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。
福祉組織の課題を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し，組織のマネジメントに関する基礎理論，多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方，適切なサービス提供体制などを取り上げる。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます（プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む）。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ＩＣＴ活用（双方向型授業・自主学習支援など。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	１５回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１４回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１３回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１２～１０回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	９回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできかかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が６０点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が１００～９０点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が８９～８０点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が７９～７０点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が６９～６０点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が５９点以下しか取れなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に５回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に４回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に３回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に２回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経 （科目ナンバリング：SWS112015，SWS422080，SWS522087 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 大島　康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を経営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『福祉サービスの組織と経営』』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規	2021年	978-4-8058-8244-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(１) 法人とは	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(２) 社会福祉法人	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(３) 医療法人	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(４) NPO法人その他	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(１) マネジメントの本質	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(２) 組織のあり方	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(３) 意思決定論	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(４) リーダーシップ論	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
10	経営戦略の構築(１) サービスマネジメント	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
11	経営戦略の構築(２) リスクマネジメント	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
12	経営戦略の構築(３) ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
13	経営戦略の構築(４) ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
14	経営戦略の構築(５) ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
15	経営戦略の構築(６) 会計・財務マネジメント【会計基準】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの実施。	確認テストの学習（９０分）	テストの復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経　（科目ナンバリング：SWS112015，SWS422080，SWS522087　）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を経営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３、DP４、DP８に対応する。（2021年度）

到達目標

リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。
福祉組織の課題を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し，組織のマネジメントに関する基礎理論，多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方，適切なサービス提供体制などを取り上げる。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます（プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む）。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ＩＣＴ活用（双方向型授業・自主学習支援など。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	１５回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１４回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１３回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	１２～１０回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	９回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできかかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が６０点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が１００～９０点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が８９～８０点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が７９～７０点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が６９～６０点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が５９点以下しか取れなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に５回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に４回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に３回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に２回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経 （科目ナンバリング：SWS112015，SWS422080，SWS522087 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 大島　康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を経営している教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『福祉サービスの組織と経営』』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規	2021年	978-4-8058-8244-	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(１）法人とは	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(２）社会福祉法人	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(３）医療法人	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(４）NPO法人その他	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(１）マネジメントの本質	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(２）組織のあり方	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(３）意思決定論	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(４）リーダーシップ論	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
10	経営戦略の構築(１）サービスマネジメント	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
11	経営戦略の構築(２）リスクマネジメント	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
12	経営戦略の構築(３）ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
13	経営戦略の構築(４） ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
14	経営戦略の構築(５）ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
15	経営戦略の構築(６）会計・財務マネジメント【会計基準】	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える(９０分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの実施。	確認テストの学習（９０分）	テストの復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 （科目ナンバリング：CLP122060 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前に連絡後に調整し，研究室にて対応。				

概要

履修目標

対人援助に必要な臨床心理学の知識を習得する。臨床心理学の発想を自分の日常の生活に結びつけて考えることができる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP２，DP４，DP５に対応する科目（２０２２年度）

到達目標

臨床心理学の成り立ちについて概説できる。
乳幼児から青年期・成人期にかけての心身の問題について理解できる。
心理臨床の諸理論の特徴や方法を理解し、臨床実践の基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

臨床心理学の成り立ち，臨床心理学の代表的な基礎理論とアプローチの方法について解説する。また，臨床心理学実践を各領域事に紹介する。他の科目との重複があるかもしれないが，身近な問題の具体例を挙げ，理解を深められるよう解説する。

「SDG.３すべての人に健康と福祉を」，「SDG.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，テキスト，パワーポイント，配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。
内容によってはグループワークをすることがある。
授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
テキストを必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。
授業の終わりに提出する感想（リアクションシート）等も評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	７０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し，臨床心理学に関する用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し，臨床心理学に関する用語の説明を資料等を見て説明することができた。	授業で扱った臨床心理学に関する用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った臨床心理学の用語について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考え，そのメカニズムについて，資料も見ずに説明することができた。	臨床心理学の知識を活用して，人の心のあり方について考え，そのメカニズムについて，資料も見ながら説明することができた。	臨床心理学の知識を活用して，人の心のあり方について考えることができた。	臨床心理学の知識を活用して，人の心のあり方について多少考えることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 （科目ナンバリング：CLP122060 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『完全カラー図解よくわかる臨床心理学』	岩壁　茂	ナツメ社	２０２０	978-4-8163-6854-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる心理臨床』	皆藤章	ミネルヴァ書房	2007	9784623048557	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 臨床心理学とはどのような学問なのだろうか？	臨床心理学について調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	不適応をどのように捉えるか？	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
3	主な理論と歴史	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
4	臨床心理学の活用	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
5	心理学的支援の流れ：面接の流れ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
6	心理検査①：パーソナリティ検査、知能検査	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
7	心理検査②：発達認知機能の検査、精神疾患の診断基準	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
8	代表的な心理療法①：精神分析的アプローチ、認知行動的アプローチ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
9	代表的な心理療法②：ヒューマニスティックアプローチ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
10	代表的な心理療法③：心理療法の新たな流れ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
11	主な心理的障害について①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
12	主な心理的障害について②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
13	主な心理的障害について③	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
14	各領域での活動	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
15	職業倫理と職業的成長	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り，疑問点等を整理する（９０分）
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理（９０分）	レポート作成（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規III （科目ナンバリング：APT323031 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日本の都市は遥か昔より火災との戦いであった。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが，これは今も同様で，都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を理解でき，都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規III （科目ナンバリング：APT323031 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基準法関係法令集　2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。建築設備等１ 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規IIの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
2	建築設備等２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
4	構造計算１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
5	構造計算２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
7	防火区画・防火構造１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
8	防火区画・防火構造２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
9	防火区画・防火構造３	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
10	避難施設等１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
11	避難施設等２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
12	内装制限１	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
13	内装制限２	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
15	雑則・その他２ 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り (90分)
16	理解度診断試験（60分）・試験解説（30分）	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外) ・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング：T0S422040 ）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館１階　非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 五ノ井　壽一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標
観光産業の中核を担うホテル産業の基本理念とホテルビジネスの仕組みやあり方を理解することを目的とする。

授業の位置づけ
経営学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標
ホテル産業の基礎知識と日常行われている実務を体系的に理解する。

授業全体の内容と概要
日本国内外におけるホテル産業の基礎知識とホテルの発生から近代産業に至る発展過程を紹介し理解を深めていく。

授業の方法
授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
平常点（出席率・授業態度）およびレポートの成果を総合的に判断する。特に平常点を重視します。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ホテル産業についての認識・理解	ホテル産業の基本理念を十分認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を体系的に理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を概ね理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を部分的にではあるが理解できた。	ホテル産業について理解するには至っていないが、ある程度認識することはできた。	ホテル産業について認識することができなかった。
レポートについて	極めて優れたレポートと到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥協を認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を達成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限を満たした。	合格を認められる最低限のレポートに達しておらず到達目標を充足しなかった。
受講態度・その他	質疑応答など的確であり、極めて真面目に受講した。	ノート試験など、真面目に受講した。	妥当と思われる受講態度をしめした。	妥当と思われる最低限の受講態度を満たした。	妥当な受講態度が見受けられず、遅刻・欠席も多かった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外) ・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾎﾃﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (科目ナンバリング：T0S422040)				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館１階　非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者： 五ノ井　壽一)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ホテル・ビジネス・ブック』	仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信	中央経済社	２０１６	9784502181412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基本 ホテル経営教本』	鈴木博・大庭 祺一郎	柴田書店	2012	9784388152872	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
2	ホテルの語源及び特色	ホテルについて情報を収集しておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
3	ホテルの誕生と発展	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
4	ヨーロッパ・アメリカにおけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
5	日本におけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
6	ホテルの分類（ヨーロッパ・アメリカ・日本）	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
7	ホテルの経営形態	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
8	ホテルの収益構造	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
9	ホテルの情報システム	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
10	ホテルの組織と総支配人の役割	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
11	宿泊部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
12	料飲部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
13	セールス＆マーケティング部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
14	管理部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
15	人事システムとキャリアデザイン 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事項について調べておくこと(９０分)	講義内容の振り返りを行うこと(９０分)
16	まとめ（レポート総評と解説）	講義を振り返り執事応答があれば整理しておくこと（９０分）	総評・解説を受けて講義全体を振り返ること(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ　（科目ナンバリング：SWS122039　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し,ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	１０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122039 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	精神障害者福祉について シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	精神科医療の特異性について①（強制入院・治療、精神科特例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	精神科医療の特異性について②（隔離・身体的拘束、多剤併用）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神障害者の家族について（保護義務者の歴史、家族の多様性）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について（精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	原理・価値について(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	観点・視点について（人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	関係性について（加害者性、援助関係、協働関係）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	精神保健福祉士の職業倫理について①（倫理綱領）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	精神保健福祉士の職業倫理について②（倫理的ジレンマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①（業務指針、業務分類）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②（指針に基づく業務の展開例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ　（科目ナンバリング：SWS122039　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し,ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	１０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122039 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	精神障害者福祉について シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	精神科医療の特異性について①（強制入院・治療、精神科特例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	精神科医療の特異性について②（隔離・身体的拘束、多剤併用）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神障害者の家族について（保護義務者の歴史、家族の多様性）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について（精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	原理・価値について(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	観点・視点について（人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	関係性について（加害者性、援助関係、協働関係）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	精神保健福祉士の職業倫理について①（倫理綱領）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	精神保健福祉士の職業倫理について②（倫理的ジレンマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①（業務指針、業務分類）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②（指針に基づく業務の展開例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222040 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 浩而魅諭 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が，その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個性的な表現について実習を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本の技術や社会人としての素養を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける事ができる。
学生が、仕事をしていく上での社会人としての最低限の素養を身に付けることができる。
学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすればいいかを考えることが出来る。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるための基本を身に付けられるよう、教師は経験を生かし実践的な教授を行う。

授業の方法

授業は、各課題の説明の後，実技制作にあたる。板書や実際の作品を用いた講義形式の一斉授業と、こまめな机間巡視による個々の学生への個別の指導とを組み合わせて行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定した用具、用品、各自が必要に応じて用意する材料、道具などは毎回必ず持ってくること。
課題の締め切りを遵守すること。
実際の仕事の納期を意識すること。
家庭学習（持参して見せてください）は評価の対象となる。
授業は第一回目からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。
受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。
（その都度説明しますのでご理解ください。）
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をある程度的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行雨ことができなかった。
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がある程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。
依頼作品（課題）	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222040 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 浩而魅諭 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（パレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が，その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個性的な表現について実習を通して指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション　授業概要について。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	概要について見直す。（４５分）
2	自分を見つめる 課題１自己紹介カード　制作	概要について見直す。（４５分）	イラストレーションについて考えておくこと。（４５分）
3	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える（４５分）
4	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える（４５分）
5	イラストレーションの大前提 物を見る力をつける 課題２デッサン　よく見てものの形を理解しよう	指定したモチーフを用意する（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
6	課題２デッサン　360度色々な角度から見てみよう	指定したモチーフを用意する（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
7	課題２デッサン　触ってみよう・触感を描き表そう	指定したモチーフを用意する(４５分)	自宅でも課題を進める。（４５分）
8	課題２デッサン　内部構造を理解しよう	指定したモチーフを用意する(４５分)	自宅でも課題を進める。（４５分）
9	講評会　自分の表現を理解する 他人の表現の良いところをに気付き吸収する	自分の作品を見つめ直す(４５分)	他人の作品の良さを考える(４５分)
10	講評会　自分の表現を理解する 他人の表現の良いところに気付き吸収する	自分の作品を見つめ直す(４５分)	他人の作品の良さを考える(４５分)
11	線画の基礎 点描、ハッチング、タッチなど	中学校の教科書を読み直す。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
12	線画の基礎 点描、ハッチング、タッチなど	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
13	課題３線画 課題２を通して物の形を深く理解できたモチーフを用い線画で表現してみよう	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
14	課題３線画 線画の基礎で学んだ中から自分らしさを表現できる技法を用い制作しよう	各自資料を用意。（４５分）	授業内容を復習する。（４５分）
15	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える（４５分）
16	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	線の整理 課題２の作品を基に線の整理をしていこう	課題２の作品を見つめ直しておく（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
18	線の整理 課題２の作品を基に簡潔な線でそのものの本質を捉えられるようなエスキースを幾パターンも描いてい	課題２の作品を見つめ直しておく（４５分）	自宅でも課題を進める（４５分）
19	線の整理・色の基本 前回の幾パターンかの中から一つを選出し、配色計画を立てる	中学校や高校の美術の教科書や資料集に目をとしておく（４５分）	中学校や高校の美術の教科書や資料集に目をとしておく（４５分）
20	色の基本 着彩の基本を学ぼう	中学校や高校の美術の教科書や資料集に目をとしておく（４５分）	中学校や高校の美術の教科書や資料集に目をとしておく（４５分）
21	課題４制作 すでに授業で線を整理し、配色計画を立ててある作品に着彩しよう	中学校や高校の美術の教科書や資料集に目をとしておく（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
22	課題４制作 制作していた作品を仕上げよう	中学校や高校の美術の教科書や資料集に目をとしておく（４５分）	授業内容を復習する。（４５分）
23	課題５イラストレーションの依頼を受ける 社会人としての基礎知識、素養 今までの授業で学んだことを生かし自分らしい作品	今までの授業を振り返る（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
24	課題５イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
25	課題５イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
26	課題５イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
27	課題５イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
28	課題５イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作 完成	今までの授業を振り返る（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
29	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える分（４５分）
30	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える（４５分）
31	講評会	自分の作品を見つめ直す（４５分）	他人の作品の良さを考える（４５分）
32	授業改善アンケートの実施	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える（４５分）	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理　（科目ナンバリング：APT324038　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、金曜日　teamsで、事前に予約すること。				

概要

履修目標

ケーススタディや、グループディスカッションを通して、建築業に携わる者としてや、建築士としての人格や考え方、社会的な役割と重要性、責任性を養い、職業倫理の大切さや判断力を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

建築士、建築技術者、建築施工者として社会的役割を担うにあたり、責任や倫理において必要とされる、人間性や考え方、判断力の重要性を習得する。

授業全体の内容と概要

建築は、職能的に幅広い分野が含まれるため、社会と広く深く関わりを持った分野である。そのため、施主・建築士・建設技術者・販売業者などいろいろな立場それぞれの責任性や考え方がある。
「SDGs12　つくる責任　つかう責任」
その倫理は何かを学び、自覚できるよう、教科書と内容に沿った事例を用いて学習する。

授業の方法

実際の事例を基にケーススタディをグループディスカッションで行い、またそれをプレゼンテーションして発表を行い、グループ同士で意見交換することでいろいろな考えを知り、それをいくつかのケースを行うことで倫理的な考え方や人間性を養う。欠席者の理由によっては、または不測の事態にはオンライン授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学生の状態をみて、学生に寄り添ったを指導に改善しながら行う。欠席者・遅刻者に対しては、その旨、理由を連絡すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則的に毎回の出席を重要視し、必要な課題の提出も判断基準とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	６０％	０％	０％	４０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技術者が遭遇する事例の検証をおこなうことから，将来建築技術者として同様な場面に遭遇した際に求められる倫理的な判断力となる基礎的知識を修得する。	事例検証から，最善の判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から，より良い判断を倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から，倫理的視点から判断する力を修得することができた。	事例検証から，倫理的視点にほぼ近い判断する力を修得することができた。	倫理的視点から判断する力を修得することができなかった。
人間としてのモラルを醸成させ，グループディスカッションを通じ技術者としてのモラルまで発展さる能力を修得する。	積極的にディスカッションに参加し，自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し，自己の意思を伝えることができた。	ディスカッションに参加し，自己の意思をおおむね伝えることができた。	ディスカッションに参加し，自己の意思をほぼ伝えることができる た。	ディスカッションに参加しても自己の意思を伝えることができなかった。
建築技術者の判断・行動が社会や環境に与える影響について，紹介事例（ケーススタディ）をもとに理解する。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解し想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解しおおむね想像することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響を理解することができた。	判断・行動が社会や環境に与える影響をおおむね理解することができた。	紹介事例（ケーススタディ）をもとに理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築の職能と倫理 （科目ナンバリング：APT324038 ）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 君　興治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計業務・施工業務の経験あり。建築業務における人間性と判断力、責任について、実務経験から講義をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築倫理用教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2010年2月1日	978-4-8189-2211-2C3052	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本建築学会の技術者倫理教材』	社団法人日本建築学会	丸善株式会社	2009年6月10日	978-4-8189-2221-1C3052	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明、授業の進め方と到達度目標について	シラバスの事前確認	授業内容の確認（９０分）
2	建築職能論とは　　ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
3	建築の職能の歴史　ケーススタディ	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
4	建築士の活動事例による社会的役割　ケーススタディとグループディスカッション＃１	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
5	＃１のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
6	建築計画の立場から見た職能論　ケーススタディとグループディスカッション＃２	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
7	＃２のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
8	都市計画の立場から見た職能論　ケーススタディとグループディスカッション＃３	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
9	＃３のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
10	景観・環境・歴史まちづくり法における建築士の役割　ケーススタディとグループディスカッション＃４	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
11	＃４のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
12	防災における建築士の責任　ケーススタディとグループディスカッション＃５	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
13	＃５のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
14	環境保全、修復に関わる活動や建築士の責任　ケーススタディとグループディスカッション＃６	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
15	＃６のプレゼンテーション、発表	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	講義で学んだことを復習して考え、日々の生活でも倫理の考えを活用すること（90分）
16	総括（レポート提出状況と解説，評価） 授業改善アンケートの実施	関連書籍や資料を読み、建築に携わる者としての使命や責任について考えておく（９０分）	全体の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論（M・D・A）	（科目ナンバリング：EDU122118，EDU242105，EDU342099，EDU442101，EDU542110）			
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　藤根　収　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
デザイン・建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるＩＣＴ活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は３回で欠席１回とみなす。
全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を守ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法理論の理解	教育方法理論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	教育方法理論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法理論についての知識・技能を理解できた。	教育方法理論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法理論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論（M・D・A）	（科目ナンバリング：EDU122118，EDU242105，EDU342099，EDU442101，EDU542110）			
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　藤根　収　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育の方法と技術　第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要～	シラバスを確認しておくこと。（９０分）	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。（９０分）
2	教育方法学の歴史① ・ソクラテス法，コメニウスの教授法の特質、ルソーの教育方法史上の位置ほか	指定した教科書の「問題１～５」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
3	教育方法学の歴史② ・２０世紀初頭の新教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題６～９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題１０～１２」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「１３～１４」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題１５～１６」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
7	カリキュラム① ・児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題１７～１８」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
8	カリキュラム② ・子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題１９～２３」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
9	カリキュラム③ ・「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題２４～２９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
10	授業論（授業の構造、学習指導案、発問等）	指定した教科書の「問題３０～３５」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
11	授業改善と情報機器（ICT等）の活用	指定した教科書の「問題３６～３９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題４０～４８」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
13	模擬授業（学習指導案、板書とノート指導、机間巡視）	指定した教科書の「問題４９～５４」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
14	学力と教育評価① ・相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方向目標」	指定した教科書の「問題５５～６０」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
15	学力と教育評価② ・指導要録、障害のある児童生徒（発達障害など）の教育ほか	指定した教科書の「問題６１」と配布資料を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教
科目名称	教育方法論（S）	（科目ナンバリング：EDU122118，EDU242105，EDU342099，EDU442101，EDU542110）			
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるＩＣＴ活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は３回で欠席１回とみなす。
全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を厳守すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法理論の理解	教育方法理論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	教育方法理論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法理論についての知識・技能を理解できた。	教育方法理論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法理論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教
科目名称	教育方法論（S）	（科目ナンバリング：EDU122118，EDU242105，EDU342099，EDU442101，EDU542110）			
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2	（単位認定責任者：　藤根　収　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（教育方法）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育の方法と技術　第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要～	シラバスを確認しておくこと。（９０分）	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。（９０分）
2	教育方法学の歴史① ・ソクラテス法，コメニウスの教授法の特質、ルソーの教育方法史上の位置ほか	指定した教科書の「問題１～５」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
3	教育方法学の歴史② ・２０世紀初頭の新教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題６～９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題１０～１２」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「１３～１４」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題１５～１６」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
7	カリキュラム① ・児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題１７～１８」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
8	カリキュラム② ・子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題１９～２３」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
9	カリキュラム③ ・「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題２４～２９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
10	授業論（授業の構造、学習指導案、発問等）	指定した教科書の「問題３０～３５」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
11	授業改善と情報機器（ＩＣＴ等）の活用	指定した教科書の「問題３６～３９」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題４０～４８」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
13	模擬授業（学習指導案、板書とノート指導、机間巡視）	指定した教科書の「問題４９～５４」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
14	学力と教育評価① ・相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方向目標」	指定した教科書の「問題５５～６０」を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
15	学力と教育評価② ・指導要録、障害のある児童生徒（発達障害など）の教育ほか	指定した教科書の「問題６１」と配布資料を事前に読んでおくこと。（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	（科目ナンバリング：AEA222044 ）			
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

キャラクターデザインについての理解を深める。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ。
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023，2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５に対応する（2021年度）

到達目標

キャラクターデザインについて知る。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で体験する。
オリジナルキャラクターを生み出す。

授業全体の内容と概要

２つのテーマ別課題に沿ったキャラクターをデザインし、発表する。制作はアナログ・デジタルどちらでも可。課題は授業内で説明、ラフデザインから完成まで段階を踏みながら制作する。完成したビジュアルはプレゼンボードにして展示する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。段階ごとにグループワークでのディスカッションを行い、また個別にも対応する。完成作品は発表し学生同士で評価しあう。また、添削、講評にてフィードバックする。発表後、パネルにして展示する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デジタルで課題制作を行う場合は教室で制作できるように機材を持参すること。
アナログで課題制作を行う場合は画材を持参すること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数１１回以上。
課題は期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャラクターデザインについての知識	キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。	キャラクターデザインについての理解を深めることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることに努めた。	キャラクターデザインについて知ることができた。	キャラクターデザインについて知ることができなかった。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことに努めた。	キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	（科目ナンバリング：AEA222044 ）			
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 キャラクターデザインとは	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	フォルムについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	ポーズについて	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	構図について	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	キャラクターデザイン制作①ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	キャラクターデザイン制作①ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	キャラクターデザイン制作①発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	キャラクターデザイン制作①ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	キャラクターデザイン制作②ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	キャラクターデザイン制作②ブラッシュアップ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	キャラクターデザイン制作②発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	キャラクターデザイン制作②ディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	プレゼンボードの作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	プレゼンボードの作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	展示の準備	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA223060　）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

洋画の技法として、油彩やエッグテンペラのみにとどまらず、この授業では他のテンペラや水彩などについても学修する。さらに支持体についてもより高度なものの製作方法を身につける。それぞれの技法や材料及び支持体製作についての知識や技術を身につけることにより、各々の履修生の感性や個性をより一層的確に表現することを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などに習熟すること。また、新たな支持体づくりについても関心を高めること。そして各々の履修生が絵画制作をとおして自らを見つめる態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩やエッグテンペラとそれ以外の様々な技法や材料、新たな支持体について学修し、個々の履修者の判断で、表現の意図に照らし最も相応しい技法や絵具や展色剤などを用意し、それらの特徴を活かした制作を行えるようにする。また、客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展にも挑む。

授業の方法

自らが選択した技法で自己表現する実技形式の授業で、自らが主体的に設定したテーマに則り表現した作品を創り上げることを課題とする。実習や視聴覚機器を活用するだけでなく、美術館や公募展の作品鑑賞等にも積極的に取り組む。授業担当者や他の履修生のみならず外部の人々からも批評や助言を得られるように環境を整え、より確かな自己実現に寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術をとおして何ができるかを模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなく十分なものを製作することができなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ理解し、制作にそれをほぼ活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度理解し、制作にそれをある程度活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを活かすことができなかった。
描写について	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究Ⅰ （科目ナンバリング：AEA223060 ）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安田　祐造 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスについて、授業改善アンケートについて、公募展について　Ⅰ	予めシラバスに目をとおし、出品予定の公募展についても下調べをしておく。（４５分）	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。（４５分）
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について　Ⅱ	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。（４５分）	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモティーフについて検討する。（４５分）
3	支持体製作　（支持体をどの様にどれだけの大きさのものにするかは任意選択） 様々の基底材の特徴について	自らの新作の構想をまとめるに当たり、十分に教師や他の学生の意見や助言を取り入れる。（４５分）	構想を取りまとめ下絵を作成する。（４５分）
4	支持体製作 布や紙の貼り方、基底材の組み立てと接合について	自らの作品の描法に相応しい支持体を検討する。（４５分）	ことに紙や布を使用する場合、満足のいかない状態にある場合は、手直しを行う。（４５分）
5	支持体製作 地塗り材の処方と地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材を予め決める。（４５分）	支持体製作の進捗を確かめる。（４５分）
6	支持体製作 地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材の塗り方を決める。（４５分）	構想を下絵としてまとめ上げる。（４５分）
7	支持体製作 地塗り面の研磨と仕上げについて	描法に相応しい地塗り面の仕上げ方について決める。（４５分）	下絵の転写の仕方について検討する。（４５分）
8	下絵の支持体への転写 その方法と転写作業について	下絵の転写の仕方について決める。（４５分）	次回からの彩色の仕方について計画を立てる。（４５分）
9	下描き(下描きの有無、その材料は任意選択) 描法に応じた様々な方法について　Ⅰ	各々の描法に応じた材料や用具を、各々自らが準備する。(４５分)	本時での制作を振り返り、進捗を確かめる。(４５分)
10	下描き 描法に応じた様々な方法について　Ⅱ	これまでの制作で、修正すべき点などを明らかにする。（４５分）	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。（４５分）
11	本制作　A　(制作のための描法－技法－は任意選択) 大まかな色面把握について　Ⅰ	大まかな色面把握ということについて予習する。（４５分）	細部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを検討する。（４５分）
12	本制作　B 大まかな色面把握について　Ⅱ	足りない点や過ぎた点について検討する。（４５分）	他の学生の制作を参考として、自らの制作の進め方について検討する。（４５分）
13	本制作　C 大まかな色面把握　Ⅲ	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目をやり、自らの制作の進捗を検討する。（４５分）	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。（４５分）
14	本制作　D 大まかな色面把握　Ⅳ	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に、初期段階から細部に捉われすぎないように注意する（４５分）	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について大まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修正を行う。（４５分）
15	本制作　E 上描きによる細部の表現について　Ⅰ	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に、次第に細部に目をやるように注意する。（４５分）	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に描き込みが行われているかを確認する。（４５分）
16	本制作　F 上描きによる細部の表現について　Ⅱ	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係から変化して見えることを再確認する。（４５分）	ことに、写実的な描写を行う場合には、まず明度について、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本制作　G 上描きによる細部の表現について　Ⅲ	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がないかを確認する。（４５分）	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響も考慮し、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）
18	本制作　H 上描きによる細部の表現について　Ⅳ	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭ったりして後戻りすることを検討する。（４５分）	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、溶剤や用具について慎重に検討する。（４５分）
19	中間発表	これまでの自らの制作を振り返る。（４５分）	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想について取りまとめる。（４５分）
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。（４５分）	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作の仕方について計画を立てる。（４５分）
21	本制作　I さらなる描き込みについて(質感表現を主に)　Ⅰ	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する。（４５分）	明度差－コントラスト－やタッチにより質感が変化することに着目して検討する。（４５分）
22	本制作　J さらなる描き込みについて(質感表現を主に)　Ⅱ	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表現されつつあるかを検討する。（４５分）	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作品などを参照する。（４５分）
23	本制作　K さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)　Ⅲ	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められるように努める。（４５分）	次第に作品の構成要素が増加し複雑化するが、部分と部分だけでなく部分と全体との関係についても、隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）
24	本制作　L さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)　Ⅳ	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように努める。（４５分）	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでなく、彩度や色相についても検討する。（４５分）
25	本制作　M さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)　Ⅳ	かたちや立体感などを追い求めるのと同時に、表現の意図に合った色彩調和について目をやる。（４５分）	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことかについて検討する。（４５分）
26	本制作　N さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)　Ⅳ	かたちを損なうことのないように色彩調和を求める。（４５分）	立体感や奥行き感を損なうことなく、色彩調和をはかるための要点は何かについて検討する。（４５分）
27	本制作　O 仕上げに向けて　Ⅰ	さらに全体を見渡して、部分どうしや全体とのバランスや調和について検討する。（４５分）	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質感の表現についても検討する。（４５分）
28	本制作　P 仕上げに向けて　Ⅱ	立体感や空気感が表現できているかを検討する。（４５分）	明部と暗部について、かたちや色彩調和を損なうことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行う。（４５分）
29	本制作　Q 仕上げに向けて　Ⅲ	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討を行う。（４５分）	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行えているかを検討する。（４５分）
30	本制作　R 仕上げに向けて　Ⅳ	色彩調和について、全体調整を行う。（４５分）	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想に照らし調整を行う。（４５分）
31	合評　A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点などについて検討する。(４５分)	他者の意見や助言や感想を参考とし、自らの作品についての自己評価を行う。（４５分）
32	合評　B、授業改善アンケートについて	他者との感性や価値観の相違、多様性などを認め、社会生活のあり方についての考えをまとめる。（４５分）	合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(４５分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画III （科目ナンバリング：AEA223066 ）				
授業担当者（所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 鴨　修平 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

漫画を表現していく上で必要とされる基礎的な知識とそのテクニックを学習し、
独自の個性と可能性を発掘し、自らが創作したものを他者に伝える表現技術や理論を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

漫画制作の基礎的な技術を身につけ、自分の漫画作品の方向性を決めて制作することができる。

授業全体の内容と概要

各自で漫画作品の制作を行いながら、漫画道具の使い方、ストーリー構成、ネーム作成、コマ割りや画面構成などの基礎的な知識を身につける。個人の実力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作の際は適宜講師との打ち合わせを行う。
制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。
提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談。)
３回の遅刻で１回の欠席とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上。
授業内で示した作業スケジュールを遵守し，期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現（知識と理論の理解）	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。 作品を提出できなかった。
漫画制作（ストーリー創作技術）	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割等のテクニックを理解できず、作品を創作できなかった。
漫画制作（作画技術）	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画III （科目ナンバリング：AEA223066 ）				
授業担当者（所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　鴨　修平　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
2	好きな作品のプレゼンイラスト	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
3	クロッキーとディフォルメ１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
4	クロッキーとディフォルメ２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
5	アオリと俯瞰　各アングルの説明と実技１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
6	アオリと俯瞰　各アングルの説明と実技２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
7	背景表現　パースの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
8	背景表現　パースの説明と実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
9	１ページ漫画　起承転結とプロット1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
10	１ページ漫画　起承転結とプロット2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
11	１ページ漫画　ネーム・下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
12	１ページ漫画　ネーム・下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
13	１ページ・４コマ漫画　ペン入れ・仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
14	１ページ・４コマ漫画　ペン入れ・仕上げ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
15	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
16	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	ストーリー漫画制作　プロット１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
18	ストーリー漫画制作　プロット２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
19	ストーリー漫画制作　ネーム１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
20	ストーリー漫画制作　ネーム２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
21	ストーリー漫画制作　下書き１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
22	ストーリー漫画制作　下書き２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
23	ストーリー漫画制作　ペン入れ１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
24	ストーリー漫画制作　ペン入れ２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
25	ストーリー漫画制作　ベタ塗り・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
26	ストーリー漫画制作　背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
27	ストーリー漫画制作　スクリーントーン１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
28	ストーリー漫画制作　スクリーントーン２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
29	ストーリー漫画制作　仕上げ１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
30	ストーリー漫画制作　仕上げ２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
31	授業改善アンケートの実施 講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	宿題の作品を作成すること。（４５分）
32	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義全体の内容を振り返ること。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報ｼｽﾃﾑ論 （科目ナンバリング：COS423053，COS522048 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 由水　伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可（会議等で不在時を除く） 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

情報システムの構築を行うには、コンピューター、ネットワーク、ＯＳなど総合的な仕組みを理解していることが必要である。本講義では、ＰＣほか情報機器を駆使して企業内で活躍できる人材の育成を目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

①コンピューターシステムのハードウェアを理解し、オフィス内の情報システムの提案ができる。
②各種ＯＳやアプリケーションソフトの特徴や用途を理解する。
③組織や企業などの情報インフラを保守するための知識を獲得し、適切な対応ができる。

授業全体の内容と概要

コンピューター本体や周辺機器などのハードウェアについての知識を得る。同時に、ＯＳとアプリケーションソフトの役割を理解する。また、ネットワークと企業内業務についても学習し、コンピューターシステムの総合的な利用法を身につける。「SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

授業はスライドとプリントを利用した講義形式で進行する。
授業中、スマートフォンを利用したオンライン小テストまたはアンケートを行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・毎回の授業のでオンライン小テストを行う。ＰＣ、タブレットまたはスマートフォンを持ってくること。（充電量確認）
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は１１回以上。
３０分以上の遅刻は欠席とみなす。
講義で毎回行われるオンライン小テストの結果は成績に参入するので、出席は評価に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	５０%	0%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コンピュータ技術の基本を踏まえて、ハードウェアとソフトウェア、ネットワークを活用できる。	コンピュータや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについてICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適なな設定と運用・保守ができる。また、それらを組み合わせて業務に最適なシステムを提案することができるようになった。	ICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適なな設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が進みハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの一応の設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には他者の助けがあればできるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には無理がある。
代表的なOSやソフトウェアについて知識を持ち、使用目的に応じて使い分けることができる。	Windows、MacOS、Unix、Linux)など　の代表的なOSの特性を熟知し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも最適なものを選択でき、業務に適したシステム構築ができるようになった。	Windows、MacOS、Unix、Linux)など　の代表的なOSの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適切なものを選択できるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適切なものを選択できるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた操作ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	コンピュータとソフトウェアのの理解が　不十分で、操作し目的を達することが難しい。
長期間にわたって、安定した性能で稼働するよう保守を行い、システムを維持できる。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できる。また、必要に応じて機能や性能を拡張することができるようになった。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できるようになった。	情報機器の特性を理解し、一定期間、ハードウェアの保守を行うことができるようになった。	情報機器の特性を理解し、消耗品等の補充で、一定期間、動作を維持できるようになった。	情報機器の特性が理解できず、保守を行うことは困難である。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報ｼｽﾃﾑ論 （科目ナンバリング：COS423053，COS522048 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 由水　伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果について コンピューターの歴史、２進数・１６進数	２進数、１６進数の復習（９０分）	コンピューターの歴史をノートにまとめる（９０分）
2	PCの基本構成とパーツの役割（概要） PCの基本構成とは何か	「コンピューターの５大装置」について調る（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
3	中央処理装置（ＣＰＵ） コンピューターの五大装置 制御装置・演算装置	「ｉｎｔｅｌ　４００４から８０４８６までの歴史」を調べる（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
4	主記憶装置（メモリー） キャッシュメモリー	「RAM」「ROM」について調べておく（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
5	補助記憶装置とデーターの保存	「電気と磁石」「レーザー光線」について調べる（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
6	グラフィックスカードとディスプレイ	「液晶ディスプレイと有機ＥＬディスプレイ」について調べる（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
7	入出力デバイス	「USB 3.2規格」について調べる（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
8	接続コネクターとケーブル	「HDMIとケーブル規格」について調べる（９０分）	授業で紹介された新しい用語をノートに整理（９０分）
9	プリンター	「DTP」について調べる（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
10	OS（オペレーティングシステム） ・Windowsとシステムツール	Winndows10の「設定」の設定項目を確認しておく（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
11	OS（オペレーティングシステム） ・Windows以外のOS ・UNIX、Linux、MacOS、iOS、Android 他	UNIXとその歴史について調べておく（９０分）	授業で紹介された新しい用語をノートに整理（９０分）
12	ネットワーク入門 LANの構築要素 インターネットとTCP/IP	「LAN」「WAN」を調べておく（９０分）	授業で紹介された新しい用語をノートに整理（９０分）
13	インターネットとWebサービス	Webブラウザーの種類について調べておく（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
14	セキュリティと知的財産権	「マルウェア」について調べる（９０分）	授業で説明された新しい用語をノートに整理（９０分）
15	コンピューターのメンテナンスと運用 トラブルシューティング	コンピューター部品の平均寿命について調べる（９０分）	課題の修正・完成（９０分）
16	定期試験（６０分） 解答解説 （授業アンケート実施回）	定期試験に備えて全講義内容を復習（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222068 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP2、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

彫刻Ⅰでは、具象表現（塑像）制作を通じて、彫刻の基礎的な表現力を身につける。また最終回では講評会を行い、プレゼンテーション能力を養う。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自でモチーフ「動物」を選んで作品制作を行っていく。必要な資料は各自で用意する。作品完成後、講評会でプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

立体構成１及び２を履修している事が望ましい。未履修者は、事前に講義担当者に相談する事。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用してた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ。文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を全て収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222068 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーション振り返り（45分）
2	彫刻とは何か	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
3	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
4	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
5	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
6	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
7	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
8	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
9	動物彫刻（塑像） 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
10	動物彫刻（塑像） 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
11	動物彫刻（塑像） 芯作り　修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
12	動物彫刻（塑像） 芯作り　修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
13	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
14	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
15	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
16	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
18	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
19	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
20	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
21	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
22	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
23	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
24	動物彫刻（塑像）	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
25	動物彫刻（塑像） 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
26	動物彫刻（塑像） 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
27	動物彫刻（塑像） 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）
28	動物彫刻（塑像） 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事（45分）	プレゼンテーション準備（45分）） （
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（45分）	プレゼンテーション振り返り（45分）
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（45分）	プレゼンテーション振り返り（45分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 （科目ナンバリング：SWS122053 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

１．なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解する。
２．スクールソーシャルワークとはなにかについて理解する。
３．スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解する。
４．学校教育の特徴について理解する。
５．教育（学校）が連携する機関とその機能について理解する。
６．スクールソーシャルワークの基礎理論について理解する。
７．スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解する。
８．スクールソーシャルワークの課題と展望について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP5に対応する（2023年度）

到達目標

１．なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて理解できる。
２．スクールソーシャルワークとはなにかについて理解できる。
３．スクールソーシャルワークの歴史と動向について理解できる。
４．学校教育の特徴について理解できる。
５．教育（学校）が連携する機関とその機能について理解できる。
６．スクールソーシャルワークの基礎理論について理解できる。
７．スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について理解できる。
８．スクールソーシャルワークの課題と展望について理解できる。

授業全体の内容と概要

１．なぜスクールソーシャルワークが必要なのかについて学ぶ。
２．スクールソーシャルワークとはなにかについて学ぶ。
３．スクールソーシャルワークの歴史と動向について学ぶ。
４．学校教育の特徴について学ぶ。
５．教育（学校）が連携する機関とその機能について学ぶ。
６．スクールソーシャルワークの基礎理論について学ぶ。
７．スクールソーシャルワークの展開過程およびスクールソーシャルワーク実践について学ぶ。
８．スクールソーシャルワークの課題と展望について学ぶ。
９．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」、「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は「講義」形式である。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明・板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教科書は必ず持参すること。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
４．適宜質問に対応する、
５．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
６．スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
７．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況１５％・ノート確認１５％の評価である。
５．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０％以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０％以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフイック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフイック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフイック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフイック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフイック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフイック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 （科目ナンバリング：SWS122053 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野則子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格 ／3,080（本体／2,800）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田　宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 ／3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明） 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について①－	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について②－子どもの貧困・発達・マノリティ	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について③－教員の実態、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について①－スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について②－人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について－日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について－個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について－個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について－学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について－学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について－制度・政策(マクロレベル)の実践より①	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について－制度・政策(マクロレベル)の実践より②	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
15	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
16	【定期試験】６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	テストの勉強をしておくこと(９０分)	テストの振り返りを行うこと(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 （科目ナンバリング：PHY322055 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

物理現象の本質を理解するため、物体の運動状態を的確に表現するために必要となる知識と記述方法を学び、静力学や運動状態に対して物理学的にアプローチする方法を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

ベクトル量の基本演算を理解しており、外力の影響がある場合の物体の運動状態について説明できる。また、固体にかかる力のつり合いの式を立てることができる。

授業全体の内容と概要

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
主に物体の運動と固体のつり合いについて扱う。物体の状態を表現するため、さまざまな物理量やベクトルの演算を学習する。また、ニュートンの運動３法則を理解し、物体の運動状態を把握するのに３法則がどのように関わっているのかを学習する。個体のつり合い問題については、力のモーメントを理解し、つり合いの式を立てられるように学習する。さらに演習問題を随時出題し、応用力を身につける。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントおよび配付資料で実施する。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業の最後には「ふりかえり」レポートを提出し、レポートにはコメントにてフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの総和ベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の２方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	２つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	２つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。
ニュートンの運動３法則についての理解	演習問題において、３法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。
固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 （科目ナンバリング：PHY322055 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明／授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
2	ベクトルの大きさや表記について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
3	ベクトルの合成・分解と作図法	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
4	ニュートンの運動第１法則	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
5	慣性系について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
6	ニュートンの運動第２法則と第３法則	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
7	ケプラーの法則について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
8	加速度運動問題についての討論	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
9	地球スケールの運動についての討論	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
10	質点の力のつり合い問題	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
11	力のモーメントと固体のつり合い	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
12	力のモーメントの計算	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
13	重心まわりのつり合い	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
14	固体のつり合い問題について	次回の授業範囲を予習する（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
15	まとめと演習	これまでの授業内容についての質問をまとめる（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
16	授業改善アンケートの実施／定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う）	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 （科目ナンバリング：DES222121 ）				
授業担当者（所属・職名）	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松岡　龍介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術，デザインの専門家に必要な基本的素養としての表現である製図の作図の基となる線，文字，数字の描き方，スケール等を練習問題とともに，実測した椅子の図面の作図を通して各自が理解しながら製図表現の基礎を身につけることを目標とする。
さらに展開図をもとに紙模型を制作することで表現される物体と図の関係性の感覚を身に付けることも目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

学生が、製図機を使い基本的な製図表現が（ある程度）正確にできる。

授業全体の内容と概要

美術，デザインにおける基本的素養としての製図表現について各自が理解しながら製図表現の基礎を身につけるために，最初に製図機を用いた手書きの作図の基となる「線の練習問題」，「文字や数字の練習問題」，「スケールについての練習問題」などの要素毎の練習問題を描き方の手順とともに学習する。
つぎに各自が椅子を実測してそれを，手書きの製図やCADを用いた製図を制作することを通して主要な製図の表現である三面図や断面図を学習する。また、表現する対象（椅子）の展開図の制作しそれを組み立てることによって表現される物体と図の関係性の感覚も身につける。
進度に応じて漸次，課題を更新しながら進める。

授業の方法

授業のプレゼンテーションの方法として板書と各課題に関連する資料を配布し授業を実施する。
講義形式で授業をすすめると共に製図機やパソコンを用いて制作手順および要点等を示す。
各回の授業の要点を学生各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに，アクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に毎回の手書き，または，アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。
学生が図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。
実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。
また、毎回の提出する課題に対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
但し、高等学校教諭一種免許状（工芸）の科目として履修している学生は除く。
自筆ノートやスケッチ，データ、各自が制作した課題，および用具等を持ってくる。
使用する用具等については、1回目、2回目の授業で解説する。
出席を取り終わったあとは欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	６０%	0%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本となる図表現の方法について理解し表現できる。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、十分に目標に達成していた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、概ね出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、不十分ではあるが出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、最低限出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、全く出来ていなかった。
テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について理解し表現できる。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、十分に目標に達成していた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、概ね出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、不十分ではあるが出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、最低限出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、全く出来ていなかった。
各自が意図したものを製図表現できる。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが十分に目標に達成していた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが概ね出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが不十分ではあるが出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが最低限出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 （科目ナンバリング：DES222121 ）				
授業担当者（所属・職名）	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松岡　龍介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス，デザイン製図の概要，授業の進め方，使用する用具等の解説 シラバスの説明　授業改善アンケート結果反映の説	シラバスの確認(90分)	ガイダンス，デザイン製図の概要　(90分)
2	製図機の使い方と横線の描き方の練習 使用する用具等の解説	ガイダンス，デザイン製図の概要の確認(90分)	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)
3	製図機の使い方と縦線の描き方の練習	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)
4	100分の1,200分の1,300分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)	100分の1,200分の1,300分の1の寸法記入の練習(90分)
5	400分の1,500分の1,600分の1の寸法記入の練習	100分の1,200分の1,300分の1の寸法記入の練習(90分)	400分の1,500分の1,600分の1の寸法記入の練習(90分)
6	製図機の使い方と格子線の描き方の練習	400分の1,500分の1,600分の1の寸法記入の練習(90分)	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)
7	40分の1,50分の1,60分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)	４０分の１，５０分の１，６０分の１の寸法記入の練習(90分)
8	椅子の上面図，断面図，正面図のスケッチ	４０分の１，５０分の１，６０分の１の寸法記入の練習(90分)	椅子の上面図，断面図，正面図のスケッチ(90分)
9	椅子の上面図，断面図，正面図の実測	椅子の上面図，断面図，正面図のスケッチ(90分)	椅子の上面図，断面図，正面図の確認(90分)
10	椅子の上面図	椅子の上面図，断面図，正面図の確認(90分)	椅子の上面図(90分)
11	椅子の断面図	椅子の上面図(90分)	椅子の断面図(90分)
12	椅子の正面図	椅子の断面図(90分)	椅子の正面図(90分)
13	ＣＡＤを用いた椅子の正面図	椅子の正面図(90分)	ＣＡＤを用いた椅子の正面図(90分)
14	椅子の展開図	ＣＡＤを用いた椅子の正面図(90分)	椅子の展開図(90分)
15	椅子の紙模型	椅子の紙模型(90分)	椅子の紙模型(90分)
16	講評　課題返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅲ（楠本）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	楠本　祐弘(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階クラフト教室		
単位数	2　（単位認定責任者：　楠本　祐弘　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力･デザインの指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

課題に対し、適正な発想展開しデザインする事、安全で効率良い制作作業,作品の説明までを一つの作品制作として行う。それぞれのプロセスの質を高めるよう努める。また素材知識を身につける事と段取りをして効率の良い進め方をする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

ガラスの素材知識を得る事とガラス工芸の手法を理解する。作品を具現化する為の発想展開が出来る。安全確保し、効率よく作業が行える。作品を明確に説明できる。

授業全体の内容と概要

コールドガラス（ステンドグラス・キルンワーク）のテクニック、素材等の理解と作品の製作。ホットガラス（バーナーワーク）による作品製作

授業の方法

講師による技術指導での製作実習

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。
成績を主に作品で評価するため、必ず作品提出する事。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席数２０回以上及び作品提出にて評価する。発想・作業・完成度・作品説明を考慮して評価。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	９０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインを決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。
作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し,効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し,効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。
技術の習得	ガラスの切断が出来る	ガラスを削る事が出来る	デザインに合わせてガラスを切断、切削する事が出来る	工具の使い方を理解する	ガラスを扱うことが出来ない
作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使いでできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（楠本） （科目ナンバリング：AEA223074 ）				
授業担当者（所属・職名）	楠本　祐弘(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階クラフト教室	
単位数	2 （単位認定責任者： 楠本　祐弘 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力･デザインの指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明･技法説明を行う。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	アイデアの素材収集する。（４５分）
2	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
3	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-2	アイデア、素材の収集（45分）	作業の準備（45分）
4	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-3	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
5	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-4	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
6	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-5	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
7	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-6	アイデアの素材収集する。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
8	コールドガラス（ステンドグラス技法によるサンキャッチャー等の製作）-7	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
9	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
10	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-2	作業の段取りをする。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
11	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-3 ホットガラス（バーナーワーク等）-1	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
12	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-4 ホットガラス（バーナーワーク等）-2	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
13	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-5 ホットガラス（バーナーワーク等）-3	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
14	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-6 ホットガラス（バーナーワーク等）-4	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
15	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-7 ホットガラス（バーナーワーク等）-5	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
16	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-8 ホットガラス（バーナーワーク等）-6	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-9 ホットガラス（バーナーワーク等）-7	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
18	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-10ホットガラス（バーナーワーク等）-8	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
19	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-11ホットガラス（バーナーワーク等）-9	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
20	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-12ホットガラス（バーナーワーク等）-10	作業の段取りをする。（４５分）	作業の準備（45分）
21	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-1	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
22	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-2	アイデアの素材収集する。（４５分）	作業の準備（45分）
23	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-3	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
24	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-4	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
25	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-5	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
26	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-6	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
27	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-7	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
28	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-8	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
29	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-9	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
30	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-10	作業の段取りをする。（４５分）	製作手順の確認
31	[コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-11	作業の段取りをする。（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）
32	講評会 「授業改善アンケートの実施」	プレゼンテーション案（４５分）	メモを取り要点整理。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅲ（中島知） （科目ナンバリング：AEA223074 ）				
授業担当者（所属・職名）	中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリエ棟	
単位数	2 （単位認定責任者： 中島　知之 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

２年次での工芸実習の内容をふまえ，これまでの実習の応用と新しい技術の習得を目指し，電動ろくろでの成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「絵付け」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども，作品の制作過程に沿ってより深く学ぶ。それと同時に全国の焼き物，各窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題提出期限は厳守。遅刻，欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明，提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

課題提出期限は厳守。遅刻，欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明，提出の方法は授業時間に指示する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	０％	５０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
陶芸における関心、意欲及び授業態度	授業事前事後の学習は、授業中に積極的な質問を行い、作業など模範的な授業態度が出来た。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなした。	授業中の課題、作業をしていない。
陶芸の知識	授業内容を超える陶芸の知識を積極的に学び理解を深めた。	授業内容における陶芸の知識をほぼ理解した。	授業内容における陶芸の知識をおおむね理解した。	授業内容における陶芸の知識を最低限理解した。	授業内容における陶芸の知識を理解できていない。
陶芸技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組りくんだ。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させた。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（中島知） （科目ナンバリング：AEA223074 ）				
授業担当者（所属・職名）	中島　知之（デザイン学科・非常勤講師 ）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリエ棟	
単位数	2 （単位認定責任者： 中島　知之 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり，菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分））
7	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	電動ろくろによる作品制作　皿（装飾，仕上げ） 釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
21	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型，装飾，仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾，釉がけ，焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾，釉がけ，焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	釉がけ，窯詰め，電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自で制作作業について振り返る（４５分）
31	課題作品の批評会	人の作品を観て自分の作品との違い等についてイメージしておく（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	課題作品の批評会・まとめ・解説・授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり，まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（森迫）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	森迫　暁夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリエ棟	
単位数	2　（単位認定責任者：　森迫　暁夫　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が，その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標

各課題について考える事を大事に扱う。技術を学ぶ事と版の可能性について考える事、自分の個性を知り、それを磨いていく事。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP3 、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

版という制約を知り，制約による美を発見して自己の制作につなげる。

授業全体の内容と概要

間接的な表現や直接的表現など，様々な版を体験する。

授業の方法

授業においては，各課題の説明の後に，実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い，課題ごとにプレゼンテーションをしてもらう。
授業の始めに必ず、主に札幌市で行われている展覧会やイベントの告知をしています。自分にとっての制作の立ち位置や、可能性について考えるためのフィールドワークとして、定期的に展示を見に行くことを目標としたい。そこから自ら調査、個人の制作につなげられるようにしていけると望ましい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮もしますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。授業時間以外では，原画，版下などの制作が必要となる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

なし

評価方法・基準

評価前提条件

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮もしますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。課題は多くありませんので全て提出が単位認定の条件となります。
単位に必要となる最低出席回数は、２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対して率先し、きちんと考えて制作している。	課題は全部出していて、十分考えている。	課題を全部出している。そこそこ考えて制作している。	課題を全部出している。	課題を出していない。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できている。	自分のオリジナリティーをそこそこ追求できている。	自分のオリジナリティーが何かを考えられる。	自分のオリジナリティーが最低限考えられている。	何も考えていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（森迫）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	森迫　暁夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室・アトリエ棟	
単位数	2　（単位認定責任者：　森迫　暁夫　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が，その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について。授業改善アンケート結果反映の	シラバスを見ておく（４５分）	四版式について復習する（４５分）
2	オリエンテーションと４版式についての講義。	シラバスを見ておく（４５分）	四版式について復習する（４５分）
3	消しゴムスタンプで遊ぶ。　簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	デザインカッター用意。四半式について復習。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
4	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
5	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
6	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
7	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
8	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
9	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
10	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
11	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
12	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
13	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
14	消しゴムスタンプで名刺を作る。名刺交換の基本を学ぶ。プレゼンテーション。	各自資料を用意。（４５分）	ケシ版について考える（４５分）
15	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
16	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（４５分）	楽しかったことを思い出す。四版式について復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	手形	自分の手について考える。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
18	手形	自分の手について考える。（４５分）	押されたものについて考える。（４５分）
19	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
20	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（４５分）	課題の意図について考える。（４５分）
21	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
22	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
23	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
24	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
25	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
26	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
27	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
28	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
29	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
30	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
31	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	自宅でも課題を進める。（４５分）
32	木版　アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。プレゼンテーション。授業改善アンケートの実	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（４５分）	課題から。版画について考える。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（島田）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	島田　晶夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟		
単位数	2　（単位認定責任者：　島田　晶夫　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標

クラフトを課題として、実際にデザインを制作する過程で、木材を主とした素材を体験し、作る楽しさと、それを生活の中で利用する喜びを知る。同時に美と用途を兼備する器物「工芸」に対する理解度を深めることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。

授業全体の内容と概要

木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを知る。あわせて、刃物の危険性を学ぶ。

授業の方法

実際に作業を見せて説明し、実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品の制作が長期にわたるため、制作途中に欠席すると次の作業が不可能になる。途中で欠席すると、作品が完成しないので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に取り組んでいた。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いていた。	授業中の課題や作業をこなしていた。	授業中着席するものの課題や作業をしていなかった。
木材への知識、理解	授業内容を越える学習を積極的におこない理解度を深めていた。	授業内容をほぼすべて理解していた。	授業内容の概ねを理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
木工作業への展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができ、安全な作業を展開できた。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけていた。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（島田）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	島田　晶夫（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟	
単位数	2　（単位認定責任者：　島田　晶夫　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 授業説明　第一課題「象嵌」	シラバスを読んでおくこと、象嵌作業とは何かを理解しておく。（45分）	説明を受けたことの確認（４５分）
2	第一課題　制作①　デザインする	前回までの確認を済ませておく（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
3	第一課題　制作②　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
4	第一課題　制作③　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
5	第一課題　制作④　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	説明を受けたことの確認（４５分）
6	第一課題　制作⑤　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
7	第一課題　制作⑥　デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
8	第一課題　制作⑦　象嵌作業を終わらせる	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況の確認。（４５分）
9	第一課題　塗装　完成させる	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作したものについての自分なりの感想を考えておく（４５分）
10	第一課題　品評会	制作したものについての自分なりの感想を考えておく（４５分）	指摘事項を確認すること。（４５分）
11	授業説明　第二課題「三本脚スツール」	「三本脚」とは何かを調べておく。（４５分）	説明を受けたことの確認（４５分）
12	第二課題　授業説明続き、計画を立てる	前回の説明の確認をしておくこと（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
13	第二課題　加工①　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
14	第二課題　加工②　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
15	第二課題　加工③　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
16	第二課題　加工④　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	第二課題　加工⑤　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
18	第二課題　加工⑥　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
19	第二課題　加工①　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
20	第二課題　加工⑦　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
21	第二課題　加工⑧　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
22	第二課題　加工⑨　各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（４５分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（４５分）
23	第二課題　加工⑩　大まかな加工をすべて終わらせる	加工作業の終了の見通しを立てる。（４５分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）
24	第二課題　加工を終了させ、細部の確認をしておく	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	作業の遅れがないようにする。（４５分）
25	第二課題　細部手直し、組み立て①	作業の準備をしておく。（４５分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）
26	第二課題　細部手直し、組み立て②	前回の説明の確認をしておく（４５分）	組み立て技術を理解しておく。（４５分）
27	第二課題　細部手直し、組み立て③	作業の準備をしておく。（４５分）	作業の遅れがないようにする。（４５分）
28	第二課題　細部手直し、組み立て④	作業の準備をしておく。（４５分）	組み立て技術を理解しておく。（４５分）
29	第二課題　細部手直し、組み立て⑤	作業の準備をしておく。（４５分）	作業の遅れがないようにする。（４５分）
30	第二課題　塗装、完成	作業の準備をしておく。（４５分）	完成へ向けた準備を行っておく。（４５分）
31	第二課題　解説 授業改善アンケートの実施	全体を通しての質問事項を整理する。（４５分）	質問と感想を自分で確認しておくこと（45分）
32	第二課題　フィードバック	自分の質問と感想を整理しておくこと（45分）	指摘事項を確認すること。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（中島義）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　中島　義博　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

天平の三纈（夾纈，纐纈，蝋纈）から夾纈と蝋纈の実技体験をする。
正倉院御物から伝わる防染技法を体験することによって日本の古代文化に想いを馳せる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

染色の歴史の中での防染の位置付けとバリエーションを知る。
二つの技法を習得し制作ができる。
染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。

授業全体の内容と概要

天平の三纈を知り古代の技法に挑戦する。
夾纈は板締め絞り染めとして、蝋纈はろうけつ染めとしてそれぞれ現代に伝わるが古式に近い作業方法をとる。

授業の方法

視聴覚メディアと板書，作例によって歴史と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとに三纈の作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

工具類、染料の使用に対応した服装の用意。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席と課題作品の完成，提出を求める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
防染とは何かを知る。	防染とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	防染とは何かを詳しく知っていた。	防染とは何かを知っていた。	防染とは何か、最低限のことを知っていた。	防染とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
染料と道具を正しく使用できる。	２種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	２種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できた。	染料と道具をある程度正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習III（中島義）　（科目ナンバリング：AEA223074　）				
授業担当者（所属・職名）	中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　中島　義博　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
2	夾纈課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
3	実作業による作例（大玉を例として）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
4	各自方眼紙にデザイン	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
5	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
6	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
7	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
8	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
9	染色作業（植物染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
10	染色作業（植物染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
11	染色作業（重ね）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
12	染色作業（重ね）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
13	洗い、定着、乾燥	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
14	作品発表作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
15	蝋纈課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
16	実作業による作例（ブロック、筆）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
18	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
19	原画着彩	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
20	原画着彩	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
21	染色作業一層め（直接染料）	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
22	染色作業一層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
23	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
24	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
25	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
26	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
27	修正、加筆	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
28	アイロン脱蝋	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
29	蒸し、脱蝋	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
30	洗い、定着	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
31	作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備Ⅱ　（科目ナンバリング：AEN323025　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

建築設備Ⅰで学んだことを応用し、公共施設や店舗などの規模の設備の計画・作図を学ぶ。
利用者や、施工する立場になって、動線を考えた計画、その作図を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

大規模建築で必要とされる設備の計画ができ、それを正確に図面で表すことができる。

授業全体の内容と概要

給水給湯設備・衛生排水設備・空気調和設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、その設計手法を学ぶ。
「SDG７　　エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」
「SDG１２　つくる責任　つかう責任
これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく。

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業ごとに行われる課題をすべて提出することが単位履修の条件とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅よりも設備の種類や数が増す大規模建築において、設備の計画ができ、正確に図 面表現ができるようになっていたか	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
管理者が管理しやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
利用者が使いやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がないか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備Ⅱ （科目ナンバリング：AEN323025 ）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 君　興治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉　孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい建築設備』	山田　浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	給水設備・給湯設備とボイラー計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
3	給水設備・給湯設備とボイラー計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
4	給水設備・給湯設備とボイラー計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
5	衛生設備・排水設備と配管計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
6	衛生設備・排水設備と配管計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
7	衛生設備・排水設備と配管計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
8	空気調和・排煙設備とダクト計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
9	空気調和・排煙設備とダクト計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
10	空気調和・排煙設備とダクト計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
11	電気設備と冷暖房計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
12	電気設備と冷暖房計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
13	電気設備と冷暖房計画（3）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
14	照明設備と消火・防災設備計画（1）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
15	照明設備と消火・防災設備計画（2）	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）
16	照明設備と消火・防災設備計画（3） 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する（90分）	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 （科目ナンバリング：PSG111008 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学は、心とは何かという問いに対して科学的な手法を用いて明らかにすることを試みる学問領域である。研究例を手がかりとしながら、どのようなことが明らかになっているのかを知り、自他の心の理解を深めることを目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。（２０２４年度）

到達目標

人の心の解釈の多様性を理解し、その中から自分なりの解を示すことができる。さらに、そうした解を学術レポートの様式に準じた形で文章表現できる。

授業全体の内容と概要

心理学が成立した過程を学び、その中でどのような研究がなされてきたのかを理解する。さらに、研究の結果としてどのようなことがわかっているのか、あるいはわかっていないのかを、自分の経験や体験と照らし合わせながら考えていく。これらの学びを通して、こころの多様性や自他への理解を深めることを目指す。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

スライド資料、板書、 映像等を使用しながら講義形式で行う。毎回の最後に、Microsoft Formsを活用した質疑応答を求める。受け取った質問やコメント、要望については、次回に全体へフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「読む、考える、書く」ことを重視する。関連図書を読み、理解を深めること。特に、学術レポートの執筆が不慣れな者は、レポート執筆前に「レポートの書き方」などの文献を一読することを強く勧める。
提出物の締め切りは厳守すること。締め切りを超過したレポートも受理するが、それへの評価は相当低くなることを覚悟すること。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１００％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の理解	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
解とその根拠の提示	問いに対して、自分なりの解とその根拠を非常に示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をかなり示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をやや示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールを非常に理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをよく理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをやや理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールを理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールに沿って、レポートが執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 （科目ナンバリング：PSG111008 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『心理学　第5版補訂版』	鹿取廣人　他	東京大学出版会	2020	9784130121170	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明：オリエンテーション（心とは何か）	関連図書を事前に読んでおくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
2	心理学の誕生に至るまでの歴史	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
3	行動主義	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
4	条件づけ・学習	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
5	記憶の仕組み	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
6	記憶に関わる諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
7	感覚・知覚の基礎	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
8	見えの仕組みと諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
9	聞こえの仕組みと諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
10	問題解決と認知的発達	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
11	推論と発見	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
12	コミュニケーション（言語と非言語）	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
13	動機づけ	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
14	情動（情動とは何か）	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
15	フラストレーションとコンフリクト	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
16	これまでの振り返りと授業改善アンケートの実施	今までの授業内容を復習しておくこと。（９０分）	振り返りを行うこと（９０分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 （科目ナンバリング：CHS122076 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照すること				

概要

履修目標

現代家族が抱える諸課題、個々の機能、家族と社会の関係性の形成、家族政策を理解したうえで、効果的な子育て支援方法とは何か、を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２３年度）

到達目標

家族支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭への支援体制、家族形態の多様化と、それに対応した支援方法を学習し、学生各自の身近な地域社会における家庭支援の方法を模索し、現状に即した支援方法を考察し、構築する。

授業全体の内容と概要

家族についての概念、家族変動、現代家族の課題など、家族社会学の基本的概念を学習したうえで、子育て支援ネットワークの事例及び家族システム理論について講義を行う。

授業の方法

各時間ごとに、教員が講義プリントを配布し、それに基づいて講義を行う。配布プリントの内容を教員が説明し、重要事項は黒板に板書する。課題等は特に設定しないが、乳児保育の復習をしておくことが望ましい。学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくないと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的な参加を望む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席回数１０回をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代以降の、家族の構造・機能変動について理解する。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例と家族社会学の諸理論を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、概略を説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造変動についての概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
現代日本における子育て家族が抱える課題について理解する。	子育て家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規と家族社会学理論及びシステム理論を用いて説明できた。	子育て家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規を交えて説明できた。	子育て家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係について説明できた。	子育て家族が抱える諸課題の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
子育ての課題を抱えた家族の支援方法について理解する。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ事例を用いて説明でき、さらに事例に用いられた支援方法の課題を説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ、事例を用いて解説できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論　（科目ナンバリング：CHS122076　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（授業改善アンケート結果反映の説明）	乳児保育復習（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
2	家族支援の意義と役割１家族の意義と機能	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
3	家族支援の意義と役割２家族支援の必要性	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
4	家族支援の意義と役割３保育士が行う家族支援の原理	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
5	家族生活を取り巻く社会的状況１現代社会における人間関係の変化	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
6	家族生活を取り巻く社会的状況２地域社会の変容と家族支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
7	家族生活を取り巻く社会的状況３男女共同参画社会とワークライフバランス	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
8	子育て家族への支援体制１子育て家族の福祉を図るための社会資源	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
9	子育て家族への支援体制２子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
10	多様な支援の展開と関係機関との連携１子育て支援サービスの概要	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
11	多様な支援の展開と関係機関との連携２保育所入所児童の家庭への支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
12	多様な支援の展開と関係機関との連携３地域の子育て家族への支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
13	多様な支援の展開と関係機関との連携４要保護児童及びその家族に関する支援	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
14	多様な支援の展開と関係機関との連携５子育て支援における関係機関との連携	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
15	多様な支援の展開と関係機関との連携６子育て支援サービスの課題（授業改善アンケートの実施）	前回プリントの読み込み（９０分）	講義全体の総復習（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います）	講義全体の総復習（９０分）	自己総括（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：SWS123223，HLS322051 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

インテリアデザインは，建築の専門科目のなかでも，自分の生活からみて身近な対象である。自分の部屋の設えはその基本であるからだ。しかし，その見聞には限界がある。学生はインテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること，また人間の生活行動やそれぞれの機能，人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解することを習得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

一にセンスアップ，二にセンスアップ，三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要

実務と現物に触れることによって，インテリアデザインの現状を把握する。また，内部空間，野外家具（ストリートファニチャー），店舗ファサードなどについて解説する。それらの空間計画と思想を学ぶと共に，実際の製作を通して発想とプレゼンテーションのトレーニングを行う。

授業の方法

前半は，講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート（演習1）をとり授業終了後提出，演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出し，コメントを記したものを後日返却する。後半は，インテリア関係メーカーのショールームの見学（フィールドワーク）を行い，商品や実作に触れインテリアデザインの実態を経験し，そこから得た知見をレポートとしてまとめる。レポート提出後，講評を記述して返却する。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席して，講義を聴かなければ意味がない。旅行，外出の際は，スケール・カメラまたはクロッキーブックを所持し，参考になるものを記録する。ショールームなどの視察と調査後は，各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，授業内で行う演習の評価点（平常点）と見学会レポート（レポート）が単位認定（成績評価）の過半を占めるので，授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることから優れたデザインからセンスを磨く。	レポートがすべて提出され見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおかた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に不参加またはレポートが提出できなかった。
インテリアデザインに関する知識を豊富に修得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため，知識を修得したことが確認することができなかった。
人間の生活行動やそれぞれの機能，人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：SWS123223，HLS322051 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認（90分）	授業内容の確認（90分）
2	人間工学　家具への応用	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
3	人間工学　行動・動作	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
4	光と色	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
5	内装材・塗装	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
6	構法と納まり	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
7	家具デザイン	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
8	建具・金物	予習（教科書確認）（90分）	演習2作成（90分）
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習（教科書確認）（90分）	模型作成（90分）
10	見学会１　家具メーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
11	見学会２　テキスタイルメーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
12	見学会３　住宅総合メーカー　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
13	見学会４　家具卸会社　ショールーム	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
14	見学会５　住宅設備メーカー　工場	見学場所と道具の確認（90分）	レポート作成（90分）
15	模型課題　提出・発表	発表準備（90分）	発表内容の振返り（90分）
16	総評（提出課題・レポートの確認と講評）授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222082 ）				
授業担当者（所属・職名）	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松岡　龍介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術，デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解することが目的である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

学生が造形論に関わる内容に関して(最低限の)口頭での発表またはレポート形式で記述することを学ぶことができる。

授業全体の内容と概要

学生が美術，デザインにおける基本的素養としての造形解釈について理解するために，
授業計画に記載されている「形態と表皮」や「遍在する形態と空間」などの直裁的で造形の本質に関するテーマに触れ，理解した内容やコンセプト，自らの思考を口頭での発表やレポート形式で記述する。

授業の方法

授業のプレゼンテーションの方法としてパワーポイントを用いて授業を実施し，講義形式で授業をすすめ，毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。
これらをもとに，各自が毎回のテーマについてアクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に口頭での発表や，レポート形式で記述（レポート制作）する。
学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表やレポート形式で記述を行う。
実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート（１３課題）の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。
また、毎回の口頭での発表や、レポートに対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
但し、高等学校教諭一種免許状（工芸）の科目として履修している学生は除く。
自筆ノートを制作すること。
レポートの作成について、特に、ウエブを参考にした場合、その記述について注意すること。
出席を取り終わったあとは欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の最低出席回数。および，レポート課題１０課題以上の提出の双方。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	６０%	0%	0%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が，人間に関わる文化的な表徴であることを理解し表現している。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、十分に目標に達成していた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、概ね出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、不十分ではあるが出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、最低限出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、さらに自らが対象としたものについての考察の内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成，内容、および，基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA222082　）				
授業担当者（所属・職名）	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松岡　龍介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス，授業の進め方，単位認定について シラバスの説明 レポートの書き方についての解説	シラバスの確認(90分)	ガイダンス，授業の進め方についての確認　(90分)
2	形態と表皮 レポートの書き方についての解説	形態と表皮(90分)	形態と表皮(90分)
3	遍在する形態と空間 レポートの書き方についての解説	遍在する形態と空間(90分)	遍在する形態と空間(90分)
4	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)
5	透明な造形	透明な造形(90分)	透明な造形(90分)
6	象られた“かたち”	象られた“かたち”(90分)	象られた“かたち”(90分)
7	パターン考	パターン考(90分)	パターン考(90分)
8	白黒のもの	白黒のもの(90分)	白黒のもの(90分)
9	「作品じゃないけど作品に見えるもの」	「作品じゃないけど作品に見えるもの」	「作品じゃないけど作品に見えるもの」
10	プリミティブ志向	プリミティブ志向(90分)	プリミティブ志向(90分)
11	形態の変容	形態の変容(90分)	形態の変容(90分)
12	対の造形	対の造形(90分)	対の造形(90分)
13	埋め尽くそうとする	埋め尽くそうとする(90分)	埋め尽くそうとする(90分)
14	コレクション	コレクション(90分)	コレクション(90分)
15	まとめ　レポート提出	コレクション(90分)	まとめ　レポート提出(90分)
16	講評　レポート返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻III （科目ナンバリング：AEA223070 ）				
授業担当者（所属・職名）	國松　明日香（デザイン学科･客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　国松　明日香　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目の（課題Ⅰ）では｢私の肖像｣をテーマに作品を制作する。｢私｣とは何かという問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもりの｢私｣をもう一度見つめ直すことを目標とする。（課題Ⅱ）ではJR札幌駅東コンコースにある｢アートボックス｣内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートの役割について考察する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

（課題Ⅰ）では制作をとおして自分自身をよく見つめ､その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。
（課題Ⅱ）では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要

（課題Ⅰ）は作品制作をとおして｢私｣を理解するために、｢私の肖像｣をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。｢私とは?｣という問いをもちながら、理解の手がかりになるものを探して調べる。調査したものから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。
（課題Ⅱ）はJR札幌駅東コンコースにある｢アートボックス｣内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている｢アートボックス｣を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法

（課題Ⅰ）はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す｢気になる風景や物｣、｢魅力を感じた人や物｣などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で｢私の肖像｣を立体作品として制作する。
（課題Ⅱ）はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる｢アートボックス｣の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってからは、作業に適した服装で受講すること。
また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関して的確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品にある程度反映させることができており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻III （科目ナンバリング：AEA223070 ）				
授業担当者（所属・職名）	國松　明日香（デザイン学科･客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 國松　明日香 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 (課題Ⅰ)に関するオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	自分の周辺にある資料の収集（４５分）
2	(課題Ⅰ)に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと（４５分）	自分の周辺にある資料の収集（４５分）
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
4	持参した資料を基に発表	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
5	集めた資料などを基にアイディアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
6	集めた資料などを基にアイディアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（４５分）
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと（４５分）
14	作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと（４５分）
15	(課題Ⅱ)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
16	(課題Ⅱ)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
19	世界のパブリックアートについて､パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
20	世界のパブリックアートについて､パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（４５分）
21	アイディアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	アイディアスケッチの制作	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	模型の完成・講評及び採点	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと（４５分）
32	模型の完成・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟⅠ	（科目ナンバリング：　　）			
授業担当者（所属・職名）	阿部　裕樹（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　阿部 裕樹　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，起業・創業において，ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本講義では社会にとっての起業・創業の意義,並びにアントレプレナーシップ（起業家精神）について理解する。起業して成功することは簡単ではないが、アイディアとビジネスモデルがあり、それを適切にマネジメントすることで、飛躍的に成長できる可能性があることを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

授業を通して「起業・創業の面白さ」を感じ取るとともに，アントレプレナーシップとはどのようなことかをイメージし,合わせて実際の事業化にあたって必要な経営スキル等の要素について理解する。

授業全体の内容と概要

アントレプレナーシップ（起業家精神）とは何かということを起業・創業で成功した事例を紹介することで理解する。また，スタートアップから企業が成長する段階で超えなければいけないハードル，資金調達，チームづくり，リスクマネジメント，知的財産の管理等の理論を学ぶことで起業・創業に必要な知識を習得する。また，起業時のビジネスプランのつくり方にも触れていきたい。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し，資料にて説明をして基礎理論を習得したあと，事例を動画で視聴することで，より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと，考えたことを改めて認識する機会とし，気づきを得てもらいたい。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは，ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し，試験と合わせて最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アントレプレナーシップの意義についての理解	アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。	アントレプレナーシップとは何か、そして成功するために必要な要素について説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを理解していた。	アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。
事業化に必要な経営スキルの理解	事業化に必要な経営スキルについてのあるべき姿をイメージできた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。
事業計画策定に必要な知識の習得	事業計画策定の様々な局面においての有効性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。	事業計画策定について全く理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ Ⅰ	（科目ナンバリング：　　）			
授業担当者（所属・職名）	阿部　裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　阿部 裕樹　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，起業・創業において，ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	アントレプレナーシップとは	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	新しいビジネスの創造	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	企業の役割と社会的責任	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	マーケティングと販路開拓	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	組織づくりと人材育成	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	資金の調達について	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	お金の流れを管理する	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	スタートアップから企業成長段階へ	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	ソーシャルビジネスの起業	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	知的財産とベンチャー	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	起業のリスクマネジメント	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	ビジネスプランのつくり方	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	ビジネスモデルについて	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（９０分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 （科目ナンバリング：SOM122074 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもに多い疾病とその予防法及び適切な対応について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

子どもの健康と保健の意義を理解し、子どもの発育・発達及び子どもの疾病と保育について説明できる。

授業全体の内容と概要

子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達と保健及び子どもに多い疾病と予防について学習する。

授業の方法

講義形式。板書やテキストを活用し、子どもを取り巻く社会問題や背景と関連付けて解説を行う。また、まとめや確認のために小試験やレポートを課題とし、検索後返却し、解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	１０％	０％	２０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの保健の意義	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ非常によく理解できた。	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ概ね理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全や心身の健やかな育ちについて部分的に理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全、心身の健やかな育ちについて助言により理解できた。	助言しても理解できなかった。
子どもの発育・発達	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を詳しく説明できた。	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を概ね説明できた。	子どもの発育・発達の原則、心身機能、生理・運動機能、社会性について部分的に説明できた。	子どもの発育・発達の原則、心身機能、生理・運動機能、社会性について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
子どもに多い疾病	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙、その病気の特徴や症状・対応について詳しく説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙、その病気の特徴や症状・対応について概ね説明できた。	子どもの健康状態の把握方法、子どもに多い病気とその対応について部分的に説明できた。	子どもの健康、子どもに多い病気について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 （科目ナンバリング：SOM122074 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・基本保育シリーズ　子どもの健康と安全』	児童育成協会/松田博雄	中央法規	2019	9784805857915	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『子どもの健康と安全　改訂第2版』	大西文子	中山書店	2022	9784521749778	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもの健康と保健の意義（1）	事前に教科書全体に目をとおしておく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
2	子どもの健康と保健の意義（2） 健康の概念と健康指標	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
3	子どもの健康と保健の意義（3） 子どもの健康に関する現状と課題	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
4	子どもの健康と保健の意義（4） 地域における保健活動と児童虐待防止	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと（９０分）	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること（９０分）
5	子どもの発育・発達と保健（1） ヒトの成り立ちと身体発育	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと（９０分）	返却レポートを見直し子どもの保健の意義を再確認する（９０分）
6	子どもの発育・発達と保健（2） 生理機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことを復習しておくこと（９０分）
7	子どもの発育・発達と保健（3） 子どもの運動機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと（９０分）	小テストを行うので前半の授業の復習を欠かさぬこと（９０分）
8	前半の総括と学習到達度の確認テスト	前半の授業・ノートを見直しテストに臨むこと（９０分）	確認テスト問題を見直し自己採点しておく（９０分）
9	子どもの精神機能の発達と保健	教科書の「子どもの精神機能の発達」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことを復習しておくこと（９０分）
10	子どもの健康状態の把握（1） 健康観察と健康状態把握	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことを復習しておくこと（９０分）
11	子どもの健康状態の把握（2） 発育・発達の把握と保護者	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことを復習しておくこと（９０分）
12	子どもの疾病と保育（1） 子どもの疾病の特徴	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと（９０分）	当日の授業で行ったことを復習しておくこと（９０分）
13	子どもの疾病と保育（2） 子どもの発達と疾病	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと（９０分）	授業終了時に出す課題について復習すること（９０分）
14	子どもの疾病と保育（3） 子どもの疾病の予防と適切な対応	教科書の「子どもの疾病の予防と対応」について事前に読んでおくこと（９０分）	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること（９０分）
15	総括と子どもの保健の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくること（９０分）	返却レポート結果を見直し子どもの保健の課題に今後も取り組んでいくこと（９０分）
16	定期試験６０分の終了後残りの時間で解説	定期試験の準備をすること（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅰ(健康)　（科目ナンバリング：CHS122078　）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

養護と教育にかかわる保育内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を養う。また、子どもの発達を保育内容の領域を通して捉え、子ども理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

健康な子どもを捉える視点を学び子どもの観察を行い、健康を考えた生活・生活習慣について説明できる。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動（健康につながる遊び）を提案できる。

授業全体の内容と概要

保育内容の各領域を関連させて学ぶことにより、子どもの発達促進、健康生活・活動、安全な生活のための支援方法など健康について具体的に学ぶ。また、子どもの健康と健康を守る力を育むことの必要性を総合的に検討し理解を深める。

授業の方法

講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。
テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（２回）を行う。その都度、コメントを返す。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	４０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康な子どもを捉える視点	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を非常によくまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を概ねまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点から子どもの観察を行い部分的にまとめることができた。	子どもの健康把握の視点で子どもの観察を行い助言によりまとめることができた。	助言してもまとめることができなかった。
子どもの健康を考えた生活・生活習慣	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し詳しく説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し概ね説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について部分的に整理し説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について、部分的に説明することができた。	助言しても説明できなかった。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、非情に良い提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、一部を提案・発表できた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を助言により提案できた。	助言しても提案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅰ(健康)　（科目ナンバリング：CHS122078　）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『指定はしないが授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育内容「健康」、「子どもの保健Ⅱ」など』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明、授業改善アンケート結果反映の説明。 健康の概念と健やかな子ども、子どもの成長・発達	履修を終えている「保育内容」の概要を理解しておく（９０分）	授業で行った課題について調べておく（９０分）
2	健康の概念と健やかな子ども 子どもの成長・発達・特徴②（子どもの観察）	調べた課題の討議・発表の準備をしておく９０分）	授業で出された課題について要領に沿い調べ、レポート作成する（９０分）
3	子どもの健康生活と習慣①（生理的欲求と習慣）	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む（９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（９０分）
4	子どもの健康生活と習慣②（基本的生活習慣の形成）	指定した参考図書と配布資料を読んでおく（９０分）	当日の授業で行った課題について調べ、ノートにまとめておく（９０分）
5	健康的な活動と環境構成①（健康的な遊びの計画）	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	授業で出された課題について要領に沿い調べ、レポート作成する（９０分）
6	健康的な活動と環境構成②（健康的な遊びの指導）	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（９０分）
7	事故防止と安全指導	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	授業で行った課題について調べておく（９０分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括 授業改善アンケートの実施	これまで授業で行ったことを振り返り、準備してくる（９０分）	子どもの健康問題や保育課題に今後も取り組んでいく（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅰ　（科目ナンバリング：APT323060　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館４階		
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士二次試験（製図試験）」における技量の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを向上させていく。

授業の方法

実際に一級建築士二次試験（製図試験）で使用するA２サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題は、与えられた期限内に提出すること。平行定規盤は各履修者が用意して毎回持参すること。
配布したテキストおよびプリントは毎回持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１1回以上。課題はすべて提出のこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	100%	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験（製図試験）の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅰ　（科目ナンバリング：APT323060　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。　授業の進め方について説明。 テキスト・課題１の配布。	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1　製図トレース 課題2　エスキスの方法	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題3　製図トレース 課題4　エスキスの方法	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題5　製図トレース 課題6　エスキスの方法	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
18	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
19	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
20	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
21	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
22	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
23	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
24	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
25	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
26	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
27	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
28	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
29	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
30	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
31	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
32	添削指導 エスキス	作図準備をする(90分)	授業の復習(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅰ　（科目ナンバリング：FAH221080　）				
授業担当者（所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日本美術史の大きな流れを概観するとともに、代表的な作品を深く考察することにより、日本美術を見る力を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

１．技法や表現、様式など日本美術に関する基礎的な知識を習得する。
２．日本美術の展開を俯瞰的な視点で把握する。
３．初めて目にする作品に対しても美術史上の位置付けを行うことができる。

授業全体の内容と概要

縄文時代から昭和戦後までの日本美術の流れを代表的な作品を通してたどる。

授業の方法

受講生は各回の授業で扱う時代の代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各時代の美術について講義する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の感想発表と受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。
授業の冒頭で各自発表してもらうので遅刻しないこと。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程　高・美術　必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	８０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしてこないことが何度かあった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	不十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅰ　（科目ナンバリング：FAH221080　）				
授業担当者（所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本美術史』	山下裕二・高岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『教養の日本美術史』	吉田亮	ミネルヴァ書房	2019	978-4623085156	
4	『日本美術史ハンドブック』	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 縄文・弥生時代の美術	シラバスを読む。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
2	古墳・飛鳥・白鳳時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
3	奈良時代の美術（天平美術）	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
4	平安時代前期の美術（貞観美術）	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
5	平安時代中期の美術（藤原美術）	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
6	平安時代後期の美術（院政期美術）	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
7	鎌倉時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
8	南北朝・室町時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
9	桃山時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
10	江戸時代前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
11	江戸時代中期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
12	江戸時代後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
13	明治・大正・昭和戦前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
14	昭和戦後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
15	レポートの発表とフィードバック	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）
16	レポートの発表とフィードバック 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅱ　（科目ナンバリング：CHS123085　）				
授業担当者（所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小黒　万里子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

保育士として弾き歌い，伴奏付，ピアノ奏法等「音楽表現Ⅰ」の学習を更に深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術を実践的に習得することができる。

授業全体の内容と概要

個人のレベルを重視して，現場で役立つ力を身につけられるようピアノ、歌、弾き歌い、手遊び等の実技をレッスンする。「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

ピアノ，歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い，実技課題の学習確認と合わせてレッスンする。教科書や板書を用いて説明し、実技を通した実践形式で行う。質問や相談等は随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ピアノ，歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い，実技課題の学習確認と合わせて採点する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	３０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することができた。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することができた。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅱ　（科目ナンバリング：CHS123085　）				
授業担当者（所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　小黒　万里子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 長音階の構成と運指	シラバスを確認すること（４５分）	教科書を読んでおくこと（４５分）
2	メジャーコード	メジャーコードを調べる（４５分）	視唱力を充実させる（４５分）
3	初見視唱力をより充実させる	メジャーコードを調べる（４５分）	視唱力を充実させる（４５分）
4	短音階の構成と運指	表現方法をイメージする（４５分）	曲と表現を研究する（４５分）
5	個々に応じた曲を与え、よい表現をめざす	表現方法をイメージする（４５分）	曲と表現を研究する（４５分）
6	マイナーコード	マイナーコードを調べる（４５分）	視唱力を高めること（４５分）
7	マイナーコードとマイナーセブンスコード	マイナーセブンスコードを理解すること（４５分）	アンサンブルの練習（４５分）
8	前時の学習を深める	和音を調べること（４５分）	和音アレンジについて調べること（４５分）
9	片手練習からアレンジ	民謡や子守歌を調べておく（４５分）	民謡や子守歌を調べておく（４５分）
10	各国の民謡、子守歌を歌う	民謡や子守歌を調べておく（４５分）	民謡や子守歌を調べておく（４５分）
11	両手練習（メロディーと伴奏）	伊独の歌曲を聞いておく（４５分）	伊独の歌曲を聞いておく（４５分）
12	伴奏付けと簡単なアレンジの基本	アレンジの基本を理解しておくこと（４５分）	日本の歌曲の詩を理解する（４５分）
13	各拍子の理解と実践	各拍子を調べておくこと（４５分）	初見視唱ができるように工夫すること（４５分）
14	初見視唱で、いろいろな子供の歌	各拍子を調べておくこと（４５分）	初見視唱ができるように工夫すること（４５分）
15	弾き歌いのレパートリーを増やす	弾き歌いできる曲を練習しておくこと（４５分）	弾き歌いによる表現力を高めること（４５分）
16	定期試験（実技）を実施後、解説を行う。 授業改善アンケートの実施	実技試験の準備をしておくこと（４５分）	解説・フィードバックを受けて講義全体をふりかえること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：BSM323062 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）、君　興治（建築学科・特任准教授）、佐々木	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	君　興治（実務経験あり）、佐々木　哲之（実務経験あ	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	君　興治（一級建築士）、佐々木　哲之（一級建築士）		
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である一級建築士試験の学科Ⅱ（環境・設備分野）に合格できる学力の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された一級建築士試験の学科Ⅱ各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3．すべての人に健康と福祉を」と「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業。
一級建築士試験の学科Ⅱ（環境・設備分野）に出題される内容について、小テストを実施し、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

建築プロフェッショナル専攻の一級建築士特別養成コース学生のみ履修可能。
毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則、全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	０％	７０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。
環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題を半分程度解くことができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができた。	環境・設備融合分野の用語の定義と各項目の理解に関する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅰ　（科目ナンバリング：BSM323062　）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）、君　興治（建築学科・特任准教授）、佐々木	研究室等所在	各教員研究室		
単位数	1　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	君　興治（実務経験あり）、佐々木　哲之（実務経験あ	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	君　興治（一級建築士）、佐々木　哲之（一級建築士）		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『１級建築士学科テキスト　学科Ⅱ　環境・設備』		日建学院	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明／問題（環境・換気・伝熱・結露）（伊藤・佐々木）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
2	問題（環境・換気・伝熱・結露）の解説（伊藤・佐々木）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
3	問題（日照・日影・日射・採光・色彩）（佐々木）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
4	問題（日照・日影・日射・採光・色彩）の解説（佐々木）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
5	問題（音響・環境工学融合）（伊藤）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
6	問題（音響・環境工学融合）の解説（伊藤）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
7	問題（空気調和設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
8	問題（空気調和設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
9	問題（給排水衛生設備・電気・輸送設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
10	問題（給排水衛生設備・電気・輸送設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
11	問題（照明設備・消火防火設備）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
12	問題（照明設備・消火防火設備）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
13	問題（環境・設備融合）（君）	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
14	問題（環境・設備融合）の解説（君）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）
15	定期試験／授業改善アンケートの実施（伊藤・君・佐々木）	試験範囲全体の復習（45分）	試験内容の確認（45分）
16	定期試験の解説（伊藤・君・佐々木）	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ原理 （科目ナンバリング：DMB522054 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 髙井　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理原則を学ぶための科目であり、体育の定義、目的、内容、方法などに関する代表的な見解を学習しながら、私たちの生活の中におけるスポーツの意味や価値を知り、生涯にわたるスポーツ実践者としての基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

・スポーツを取り巻く現状や問題点、そして今後生涯スポーツが個人や社会に果たす役割と意義について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

・人とスポーツとの多様な関わり方について知るとともに、スポーツの歴史と我が国のスポーツ振興方策の歴史を理解し、これからのスポーツの方向性を把握する。
・我が国のスポーツの実情と問題点、スポーツが人々にもたらすさまざまな便益や効果について、意見交換しながら自分の意見をまとめ発表する活動を行う。
・SDG4,質の高い教育をみんなに

授業の方法

・各回のテーマに関してのプリント等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、テーマの関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のあった場合のみ可。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの実情と問題点を理解する	現状や問題点を理解し、自分の意見を述べた。	現状や問題点を自分なりに説明できた。	現状や問題点を自分なりに理解できた。	現状や問題点を理解できた。	現状や問題点を理解できなかった。
スポーツのかかわり方について思考・判断できる	多様なかかわり方について思考・判断し、運用できた。	多様なかかわり方について思考・判断し、自分なりに意見を述べた。	多様なかかわり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断し、理解できた。	多様なかかわり方について思考・判断できた。	多様な関わり方について考えることができなかった。
ススポーツの果たす役割・意義について回答できる	様々な便益や効果について自分の意見を述べた。	様々な便益や効果について自分なりに説明できた。	様々な便益や効果について理解できた。	様々な便益や効果について多少理解できた。	様々な便益や効果について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ原理 （科目ナンバリング：DMB522054 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 髙井　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教養としての体育理論』	岡出美則、友添秀則、	大修館	2016		
2	『「初めて学ぶ体育・スポーツ哲学」』	髙橋徹	みらい	2018		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 なぜ、体育原理を学ぶのか、体育原理はどのような	体育やスポーツであなたが考えることはどんなことか、具体的に考えておく	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
2	体育の理念はどのように変わってきたか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	体育とスポーツは何が違いか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	運動の持つ可能性について 体育における人間形成について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	体育とフェアプレイについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	体育と身体形成について 身体形成とは何か 身体からみた体育の可能性について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	体育で競争をどのように位置づけるか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	技術指導からみた体育について 体育と指導者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	子どもたちからみた体育の存在意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	社会変化と今後の体育について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	スポーツとグローバリゼーションについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	スポーツとドーピング、ナショナリズムについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	スポーツとオリンピズム、ルールについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	スポーツメディア・コミュニティについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	スポーツの制度化と暴力について スポーツとジェンダーについて スポーツ障がい者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容の復習（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科　４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを　（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，EDP444108，EDP544117）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし，研究室にて対応。				

概要

履修目標

現代社会の変容の中で，児童生徒の抱える問題が多様化し，深刻化する傾向も見られる。こうした様々な問題に対して，学校の対応が求められている。その現状を踏まえ，「チーム学校」の一員として対応をするために必要な教育相談の進め方について学び，こどもの不適応問題に対しての基礎知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP２，DP４に対応する科目（２０２１年度）。
デザイン学科のDP２，DP３に対応する科目（２０２１年度）。
建築学科のDP３に対応する科目（２０２１年度）。

到達目標

・教育相談の基本的な進め方について理解する。
・こどもの不適応行動について理解する。
・支援をする上で利用可能なリソースを知る。
・対応するために教師，スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。

授業全体の内容と概要

学校教育における教育相談の意義，役割について学ぶ。こどもの不適応に関する授業の際には，事前に授業で取り上げる事柄について自ら調べるなどして，受講生は関心を高める努力をする。そして，実際に対応に必要なことは何かを考える。

「SDG.4質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，教科書，パワーポイント，配布資料などを使用して，講義形式で行う（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む）。授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
テキストを必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。
レポート，授業態度等，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して，学校で起こる教育的諸課題について，資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して，学校で起こる教育的諸課題について，資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について，資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について，キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・デザイン学科・建築学科　４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを	（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，EDP444108，EDP544117 ）			
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2	（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて，講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ガイドブック　あつまれ！みんなで取り組む教育相談　ケース理解×チームづくり×スキルアッ	益子洋人・平野直己	明石書店	２０２２	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『深掘り！関係行政論　教育分野　公認心理師必携』	髙坂　康雄	北大路書房	２０２１	978-4-7628-3178-2	
2	『「支える生徒指導」の始め方』	新井　肇	教育開発研究所	２０２３	9784865608052	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明 教育相談とは	教育相談について調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外にる教	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外にる教	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外にる教	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	対応の基本スキルを学ぶ①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	対応の基本スキルを学ぶ②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	対応の基本スキルを学ぶ③	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	学校で起きる諸課題の特徴①いじめ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	学校で起きる諸課題の特徴②不登校	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	学校で起きる諸課題の特徴③発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	学校で起きる諸課題の特徴④アタッチメントに関わる課題	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	学校で起きる諸課題の特徴⑤児童虐待	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	学校で起きる諸課題の特徴⑥自然災害	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	学校で起きる諸課題の特徴⑦「危機」対応	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	学校で起きる諸課題の特徴⑧保護者支援	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理（９０分）	レポート作成（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを	（科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，EDP444108，EDP544117）			
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは事前にチャットにて連絡後調整をし，研究室にて対応。				

概要

履修目標

現代社会の変容の中で，児童生徒の抱える問題が多様化し，深刻化する傾向も見られる。こうした様々な問題に対して，学校の対応が求められている。その現状を踏まえ，「チーム学校」の一員として対応をするために必要な教育相談の進め方について学び，こどもの不適応問題に対しての基礎知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP2，DP4，DP５，DP６，DP７，DP９に対応する科目（２０２１年度）

到達目標

・教育相談の基本的な進め方について理解する。
・こどもの不適応行動について理解する。
・支援をする上で利用可能なリソースを知る。
・対応するために教師，スクールソーシャルワーカーとしてできることを自分なりに考える。

授業全体の内容と概要

学校教育における教育相談の意義，役割について学ぶ。こどもの不適応に関する授業の際には，事前に授業で取り上げる事柄について自ら調べるなどして，受講生は関心を高める努力をする。そして，実際に対応に必要なことは何かを考える。

「SDG.４質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，教科書，パワーポイント，配布資料などを使用して，講義形式で行う（グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む）。授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
テキストを必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。
レポート，授業態度等，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート）を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	授業で学んだ知識を利用して，学校で起こる教育的諸課題について，資料等を見ずに説明することができた。	授業で学んだ知識を利用して，学校で起こる教育的諸課題について，資料等を見て説明することができた。	学校で起こっている教育的諸課題について，資料等から探し出すことができた。	学校で起こっている教育的諸課題について，キーワードを見つけることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを (科目ナンバリング：EDP124065，EDP244108，EDP344106，EDP444108，EDP544117)				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者：　蝦名　美穂　)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとしての経験を踏まえて，講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ガイドブック　あつまれ！みんなで取り組む教育相談　ケース理解×チームづくり×スキルアッ	益子洋人・平野直己	明石書店	２０２２	978-4-7503-5462-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『深掘り！関係行政論　教育分野　公認心理師必携』	髙坂　康雄	北大路書房	２０２１	978-4-7628-3178-2	
2	『「支える生徒指導」の始め方』	新井　肇	教育開発研究所	２０２３	9784865608052	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明 教育相談とは	教育相談について調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外にる教	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外にる教	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	教育相談におけるチームづくり 学校組織の内外にる教	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	対応の基本スキルを学ぶ①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	対応の基本スキルを学ぶ②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	対応の基本スキルを学ぶ③	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	学校で起きる諸課題の特徴①いじめ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	学校で起きる諸課題の特徴②不登校	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	学校で起きる諸課題の特徴③発達障害	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	学校で起きる諸課題の特徴④アタッチメントに関わる課題	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	学校で起きる諸課題の特徴⑤児童虐待	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	学校で起きる諸課題の特徴⑥自然災害	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	学校で起きる諸課題の特徴⑦「危機」対応	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	学校で起きる諸課題の特徴⑧保護者支援	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理（９０分）	レポート作成（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA223046　）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

映像分野について、そのメディアも含めて知識を深め、設計作業を通じて、そのデザイン工程を正しく理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

映像制作を行う上で，一般的な作業工程と既成の作品を分析し、必要な業務内容やスタッフの役割分担を認識して、作品の完成度を上げるための基本的な方法論を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像史を絡めた作品研究を行い，様々な技術の成り立ちや演出法の発達にふれることで基本から応用までの流れを吸収する。さらに、シナリオやストーリーボードの作成を通じて適切な情報提供が行える映像作品の設計と制作工程を学ぶ。
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

１～１０回までは様々な過去の映像作品を資料としたPowerPointを用いて講義形式の授業を行う。
毎回のレポートは、其々の注目すべき点を取り上げて調査・分析し、映像制作に必要とされる知識を積み上げることを目的として作成する。
質問に対しては随時対応し、レポートについては次回授業の導入に於いて講評を行う。
１１～１５回は、それまでに得た知識を基にして、実際に映像作品を構想し、設計する。
その際に、専用の用紙を必要枚数配布し、それを用いて映像の設計（ストーリーボードの作成）を行う。
完成したストーリーボードは各自のプレゼンテーションとする。
質問には随時対応し、作画やト書きなどの表現的指導は個別に行う。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内で提示される資料映像は、授業時間の関係もあるため、断片での紹介になる。よって、時間外では可能な限り全編を観る努力をしなければならない。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実を図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関連付けが不十分であり、内容が不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けした設計作業ができていない。	映像の成り立ちや理論が理解できず、設計作業ができなかった。
思考力・判断力・表現力「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行えているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解が不十分なため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。
主体性・多様性・協働性「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が理解できず、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅰ （科目ナンバリング：AEA223046 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 映像の学び方	シラバスを一読しておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
2	「サイレントピクチャー」 完成形とは何か？	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
3	「トーキングピクチャー」 新旧技術の対比 総合芸術としての映像	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
4	「SFX（特殊効果撮影）の誕生」 カメラ技術によるトリック映像撮影	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
5	「VFX（特殊効果撮影）の効果」 リアルから誇張表現	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
6	「アニメーションの進化」 作画＋合成による進化	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
7	「サウンド表現」 音響作家の仕事	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
8	「感情操作」 観客の喜怒哀楽を操作する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
9	「シナリオ、演出、撮影」 著名な監督の演出方法を分析する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
10	ストーリーボード（絵コンテ） 用紙の使い方	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと（４５分）	レポート作成 資料の再確認（４５分）
11	映像の設計 ストーリーボードの作成　①	前週に配布された用紙の複製をおこなっておくこと（４５分）	構想～ラフ作成（４５分）
12	映像の設計 ストーリーボードの作成　②	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
13	映像の設計 ストーリーボードの作成　③	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
14	映像の設計 ストーリーボードの作成　④	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
15	映像の設計 ストーリーボードの作成　⑤	作業進度の確認と調整。資料映像の再確認（４５分）	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと（４５分）
16	映像の設計 ストーリーボードの講評 授業改善アンケートの実施	完成したストーリーボードの自己評価（４５分）	ストーリーボードの映像化をシミュレーションする（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅱ　（科目ナンバリング：APT323063　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　佐々木哲之（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	安藤淳一　佐々木哲之（実務経験あり）	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	安藤淳一（一級建築士取得教員）　佐々木哲之（一級建築士取得教員）		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

将来受験する一級建築士試験（学科1計画）に合格するための受験対策を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3.DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

一級建築士学科試験（学科１計画）合格

授業全体の内容と概要

建築計画に係る内容が単元ごとにまとめられているテキストと問題集を用いて，試験問題に取り組む。終了後自己採点をおこない，単元ごとのポイント，出題問題のポイントについてテキストならびに問題集の解説をもとに説明をおこなう。

授業の方法

各自単元ごとの試験問題に取り組み，解答終了後自己採点をおこなう。終了後，問題内容の解説をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本科目を履修できるのは一級建築士特別養成コースの学生のみ
テキストは毎回持参のこと

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則，全ての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	80%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各種建築に求められる役割とそのための空間構成が理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
各種建築の規模・空間の大きさ・高さをはじめとする数値に係ることが理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない
社会状況の変化に伴い建築に求められる新たな課題や専門的用語を理解できる。	主要事項と関連する事項についても理解できている	完璧に理解できている	理解できている	なんとか理解できている	理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅱ　（科目ナンバリング：APT323063　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　佐々木哲之（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	安藤淳一　佐々木哲之（実務経験あり）	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	安藤淳一（一級建築士取得教員）　佐々木哲之（一級建築士取得教員）		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『1級建築士学科テキスト　学科　計画Ⅰ』		日建学院	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業ガイダンス　担当　安藤　佐々木	事前配布資料の確認（45分）	ガイダンス説明内容の確認（45分）
2	第1章　建築基本計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
3	第2章　住宅建築計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
4	第3章　公共建築計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
5	第4章　商業建築計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
6	第5章　公共・商業建築計画融合　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
7	第6章　建築計画一般　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
8	第7章　建築積算　担当　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
9	第8章　建築生産　担当　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
10	第9章　都市計画　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
11	第10章　建築史　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
12	建築計画　振り返り１　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
13	建築計画　振り返り２　担当　安藤	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
14	建築計画　振り返り３　担当　安藤　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
15	建築計画　振り返り４　担当　安藤　佐々木	対象内容の予習（45分）	回答結果の振返りと復習（45分）
16	総括	受講結果・成績の確認（45分）	最終結果の確認と振り返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅴ （科目ナンバリング：AHD323043 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の外構空間やアプローチ空間の再構成をテーマとした課題に取り組む。さらに，建築模型課題では外観から内部空間までを製作の対象とし，細かな材質感の表現のほかに，模型写真を用いたプレゼン表現や，建築透視図の表現力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

建築表現や模型の基本的な技術はすでに習得していることを前提として，道具・材料の選択から表現方法まで，模型による多様な表現能力の向上を，空間構成では製図ペンを用いた表現能力修得と透視図技法の理解することができる。

授業全体の内容と概要

建築模型課題については，作品完成後に模型と模型写真を用いたプレゼンテーションボードによる作品講評をおこなう。空間構成については，課題ごとに講評会をおこなう。未完成の場合，次回の授業開始時までに完成させたものに限り受け付ける。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし，課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会わ開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８５％	０％	０％	１５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築表現や模型の基本的技術を習得していることを前提とし，道具・材料の選択から模型による多様な表現能力を修得する。	道具と材料の選択に対し最適な判断のうえで制作できた。	道具と材料の選択を自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をおおむね自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をし制作できた。	模型の製作することができなかった。
製図用インクペンを用いた手書きでの空間構成の表現力と透視図技法を修得する。	透視図法を完璧に理解した上での表現ができた。	透視図法を理解した上での表現ができた。	透視図法をおおむね理解した上での表現ができた。	透視図法で表現ができた。	透視図法が理解できなかった。
模型写真を用いデジタルツールによるプレゼン表現を修得する。	デジタルツールを完璧に使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使いこなした表現ができた。	デジタルツールをおおむね使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使った表現ができた。	デジタルツールが使いこなせなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅴ （科目ナンバリング：AHD323043 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	建築模型１（課題及び材料の説明）	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	建築模型制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	プレゼンテーション（建築模型写真）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（建築模型・建築模型写真）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	空間構成１（階段）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	空間構成２（アプローチ）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（階段・アプローチ）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	空間構成３（アプローチと外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	空間構成４（空間の展開）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	講評会（アプローチと外観・空間の展開）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
12	建築パース１（外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	建築パース２（内観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	建築パース３（彩色）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（建築パース）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評） 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	体育史 （科目ナンバリング：SPS522061 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近代体育に・スポーツの特徴とその成立過程を学び、ヨーロッパの近代体育の成立・展開過程を踏まえて、日本の近代体育の成立・展開過程についての認識を深め体育の特徴と相違点について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・我が国ならびに欧米における学校体育出現について理解している。
・時代背景や因果関係をおさえながら体育・スポーツの発展・展開について具体例を示しながら説明できる。
・近代オリンピック復興の思想について説明できる。
・オリンピック・ムーブメントの概念と内容について説明できる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツの歴史について、主に日本や欧米諸国の通史を概説する。また、体育・スポーツと関連のある歴史にも触れ、広範な知識を身に付ける。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業科目。

授業の方法

・資料に基づき、講述とパワーポイントによる解説を中心としながら授業を進める。
・毎時間、学修した内容を確認するためのミニレポートを課す。
・パワーポイントで１人１回課題を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○・	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・積極的に取り組むことを期待します。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
・中間テストを行います。
・授業中の飲食および携帯電話の使用は厳禁。
・災害等不測の事態によりオンラインで授業する場合もある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	２０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体育およびスポーツに対する概念理解	体育・スポーツについての概念について深く理解できる。	体育・スポーツについての概念についておおむね理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できる。	体育・スポーツについての概念について多少理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できていない。
オリンピックの歴史と定義と理解	オリンピックの歴史について知識を深く理解できる。	オリンピックの歴史について知識をおおむね理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できる。	オリンピックの歴史について知識を多少理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できない。
スポーツ競技の歴史の知識と理解	各スポーツ競技の歴史について深く理解できる。	各スポーツ競技の歴史についておおむね理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できる。	各スポーツ競技の歴史について多少理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	体育史 （科目ナンバリング：SPS522061 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体育史講義』	岸野雄三	大修館書店	1984年	9784469261011	
2	『体育・スポーツ史概論』	木村吉次	市村出版	2001年	9784902109399	
3	『資料配布』					
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明」 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	競技の歴史調査①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	競技の歴史調査②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	競技の歴史調査③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	競技の歴史調査発表録画①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（９０分）
7	競技の歴史発表録画②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	競技の歴史発表録画③	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（９０分）
9	古代オリンピックと近代オリンピック	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する（９０分）。
10	オリンピックの歴史①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（９０分）
11	オリンピックの歴史②	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（９０分）
12	我が国における体育・スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	女性とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	スポーツとメディア	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	各県のスポーツの歴史調査 定期試験	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（ ９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	まとめ 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容をを復習し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する。（ ９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育史	（科目ナンバリング：EDU141151，EDU241095，EDU341091，EDU441093，EDU541100）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の歴史や様々な教育思想に関する基礎的知識をはじめ、それらと多様な教育の理念とのかかわりや過去から現在に至る教育や学校の歴史的変遷についての知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし（２０２４年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育史	（科目ナンバリング：EDU141151，EDU241095，EDU341091，EDU441093，EDU541100）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』	広岡義之ほか	ミネルヴァ書房	2019	9784623087723	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 日本の古代・中世の教育制度と教育の歴史について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	日本の近世の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	明治維新と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本における近代国家の確立と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	大正デモクラシーと教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の戦時体制下の教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	日本の戦後の教育政策について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	日本の現代の教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	古代のギリシア・ローマの教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	中世・ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	１７・１８世紀及び革命期の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	近代公教育制度の成立について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	１９世紀の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	２０世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	世界の教育制度と改革の動向について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	７０分の試験終了後，残りの２０分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝIII （科目ナンバリング：DES223028 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝIII （科目ナンバリング：DES223028 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 造形確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 プレゼンの方法を考える	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン修正 自分の意志は反映されているか確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング 構図を考える	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング 商品の特徴が出ているか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング 効果的な表現か	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング 色味、色彩構成確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリングフィニッシュに向ける	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリング完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト等考察	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 見せ方を考える	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 （科目ナンバリング：AHS522063 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校保健活動を構成する「保健管理」と「保健教育」の二大領域とこれらの円滑な運営のための保健組織活動について、それぞれに包含される「健康管理・環境管理」、「保健学習・保健指導」の具体的活動内容と法的背景、またこれを支える組織・体系等について学習・理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP4に対応する。（2023･2022年度）

到達目標

児童、生徒の健康問題の解決、改善に関わる学校保健活動について、具体的な取り組みについて理解し、学校教育活動の実践との繋がりを理解する。

授業全体の内容と概要

児童、生徒の健康問題の現状、改善、解決に向けた学校保健の取組みについて、実態把握、学校における児童、生徒の具体的例をもとに討議をまじえ、学校保健に関する知識を身につける。

授業の方法

児童、生徒の健康問題の現状等については主としてパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的事例の提示、アンケート調査結果から学生自身の考えについてグループワークを行い理解を深める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後２０分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は，１３回以上。
復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。毎回、小テストを実施し理解度を評価する。次回の学習内容に関わる予習課題を提示するのでしっかり取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	４０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校保健活動の領域構成について理解できている。	学校における子どもの安全、健康問題の変遷と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健３領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状と取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健３領域と関連づけて具体的な活動内容例を列挙しながら説明できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について、学校保健活動を構成している「保健教育」「保健管理」「組織活動」の各領域ごとに列挙できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていた。	学校における子どもの安全、健康問題の予防、改善の現状について列挙できていなかった。
学校保健活動に係る法的根拠と具体的な活動について理解できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の歴史的変遷を踏まえ、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の３領域を関連づけながら説明できていた。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法に記されている内容を基に、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について各法との関わりを整理できていた。	学校保健安全法と学校における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動を関連づけて整理できていた。	学校保健安全法における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について列挙できていた。	子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の根拠となる関連法規、具体的な学校保健活動について列挙できていなかった。
子どもの安全、健康問題の予防、改善につなげるための個別ならびに集団に対する具体的な支援について理解できている。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えやアイデアを根拠を持って相手に伝えることができていた。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて、主として個別保健指導の観点から自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 （科目ナンバリング：AHS522063 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学校保健ハンドブック 第7次改訂』	教員養成系大学保健協議会	株式会社ぎょうせい	2019	9784324105771	
2	『新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション』	徳山美智子ほか	東山書房	2019	9784827815702	
3	『学校保健』	門田新一朗、大津一義	大学教育出版	2016	9784864294102	
4	『学校保健統計調査』	文部科学省	双葉レイアウト	2019	9784990813048	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、学校保健の意義	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	学校保健の仕組み（担い手、組織活動、計画、行政）	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	健康の考え方、学校保健の歴史と課題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	育成すべき保健の学力とその学習の進め方	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	保健の担当教員として求められる力量形成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	学校の教育活動全体を通じて行う健康に関する指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	学校における性教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	食育、がん教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	児童生徒の発育発達、疾病・異常、感染症	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	精神の健康、児童生徒の自殺、いじめ問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	児童生徒の健康状態の把握と指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	学校環境衛生、学校安全	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	応急手当 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	定期試験	教科書等を活用し、試験内容に関連する事項について事前に復習しておく。（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境)　（科目ナンバリング：CHS122080　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師控室		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識，技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「環境」の領域の観点から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

１．保育を展開していくための方法や技術、援助、関わりについて具体的に理解する。
２．保育所保育指針に示す乳児保育の３つの視点や保育における領域「環境」について理解する。

授業全体の内容と概要

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の３つの視点や保育における領域「環境」について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループ学習を取り入れ、質疑応答の時間を設定する。
課題やレポートには必ずコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「環境」に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「環境」について基礎的な知識を深く理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識をおおむね理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を多少理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を深理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について多少考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	環境を通した保育について理解したことをわかりやすく説明できた。	環境を通した保育について理解したことをおおむね説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明できた。	環境を通した保育について理解したことを多少説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境)　（科目ナンバリング：CHS122080　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師控室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針』	厚生労働省	フレーベル館	2018/3	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針における養護と教育のねらいと内容の理解	保育指針の第一章を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育指針における環境の領域のねらいと内容、保育者の関わりについて	保育指針の「環境」の領域を事前に読むこと（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	環境教育の重要性と留意点、環境設定する際のポイント 保育の現場での危機管理、安全管理について	自信が考える環境の重要性についてメモにまとめておくこと（９０分）	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。 回目の課題を作成する（90分）。
4	子どもの自主性、主体性を引き出す魅力的な環境とは。 環境教育における保育者の役割と重要性について	保育指針における第二章　乳児保育を事前読むこと（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育における環境の重要性、安全衛生管理について	保育指針における乳児保育及び衛生安全管理を事前読むこと（９０分）	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	理想の保育環境を考える ①物的環境　②自然環境	保育における物的環境について事前学習しておく（９０分）。	６回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
7	理想の保育環境を考える ③人的環境（保育者の資質、専門性）	保育における人的環境について事前に学習しておくこと（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	まとめ　環境を通した保育とは レポートの作成 授業改善アンケートの実施	これまでの授業内容を確認しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅰ　（科目ナンバリング：APT324066　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は，建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の２次試験製図課題の傾向を探り，実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び，多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し，出題者の意図を探り，計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し，作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには，とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き，その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数１１回以上)と，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計与条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅰ　（科目ナンバリング：APT324066　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの確認。　授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表：各伏図１	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方：各伏図２	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 （科目ナンバリング：BAM522064 ）				
授業担当者（所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 黒川　泰任 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

生理学は生物、特にヒトの正常機能を追求する学問の一分野である。ヒトの生物学的機能を再考察し、生体の働きのメカニズムを理解することを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ヒトの身体における正常機能について、理解を深める。

授業全体の内容と概要

われわれ、すなわちヒトの身体を、生命という視点から、生き物の最小単位としてその機能の必然性について理解し、生命活動、疾病、運動時などにおける変化につき考察する。

授業の方法

板書および配布資料を活用しながら、呼吸、血液、循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体維持に関する機能としくみについて、順次、要点を講義、および対話形式ですすめる。また、理解度の確認のため、各講義終了時に小テストを実施し、成績判定に用いる。前回の講義内容要約を配布するので、復習と定期試験のために参考とすること。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。
首席は表彰される。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上。
定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	４０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がいえる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相違性を理解する	ヒトという生物も、機械も、活動のしくみは同じだと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできている。	講義に参加していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 （科目ナンバリング：BAM522064 ）				
授業担当者（所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 黒川　泰任 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ぜんぶわかる人体解剖図』	坂井ら	成美堂出版	2017	9784415306193	
2	『はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版』	照井直人／編	羊土社	2011	9784758120296	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを確認しておく（９０分）	人の生理について興味ある点を、まとめておく（９０分）
2	生き物とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（９０分）	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める（９０分）
3	細胞と環境	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
4	細胞と循環	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
5	呼吸、酸素の恩恵	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
6	血液	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
7	神経１　中枢神経と末梢神経	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
8	神経２　脳の機能局在	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
9	神経３　脳の解剖学的特徴	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
10	神経と運動	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
11	神経とホルモン、下垂体	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
12	腎臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
13	消化器１　消化管	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
14	消化器２　肝臓と膵臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
15	免疫	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後、残り３０分で解説を行う。 授業改善アンケートの実施	試験準備（９０分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学　（科目ナンバリング：SOM522065　）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの現状について、国民衛生の動向や健康日本２１から現在の日本人の健康状態について理解し、その後生活習慣病や感染症などの疾病の原因そして予防方法、また環境要因と健康の関連性などについて理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。（2022年度）

到達目標

健康を保持・増進するための具体的な支援として、健康と環境の両側面から理解を深める。健康な生活と疾病予防についての衛生及び公衆衛生の地域保健の具体的取り組みについて理解する。

授業全体の内容と概要

各ライフステージにおける特徴的な健康問題および対策の現状について、衛生統計、地域保健の取り組みの現状や事例を通して理解を確実なものにする。

授業の方法

各ライフステージにおける健康問題の現状等は主として統計資料及びパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的な取り組み事例を提示して、学生自身の健康問題の予防及び改善に関する考えについてグループワークとプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後２０分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による３回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。
基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	0%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの意義、目的について理解できている。	疾病及び健康課題の変遷から衛生学及び公衆衛生学の歴史と現状を踏まえ、健康課題の改善、取組みに関する資料を整理、解釈できていた。	疾病及び健康課題の現状と衛生学及び公衆衛生学の取組みを関連づけて説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の意義、目的について説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていなかった。
各ライフステージにおける健康課題について理解できている。	各ライフステージに特徴的な健康課題の変遷及び現状について資料を解釈し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を基に整理できていた。	健康課題の現状について列挙できていた。	健康課題の現状について列挙できていなかった。
地域ごとに特徴的な健康課題の現状について理解できている。	地域ごとに異なる健康課題の特徴について資料を基に自分の考えを整理し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとに異なる特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとの健康課題の特徴について資料を基に整理できていた。	地域に特徴的な健康課題について列挙できていた。	各々のが抱えている健康課題について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学　（科目ナンバリング：SOM522065　）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『シンプル衛生公衆衛生学2024』	小山羊監修	南光堂	2024	978-4-524-21022-0	
2	『国民衛生の動向　2023/2024（第70巻第9号）』	一般財団法人厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会	2023	978-4-87511-898-5	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション、日本における健康問題の現状	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	公衆衛生学序論Ⅰ　－公衆衛生の目的と内容－	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	公衆衛生学序論Ⅱ　－疫学の目的・調査方法－	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	疾病予防と健康管理（Ⅰ）母子保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	疾病予防と健康管理（Ⅱ）：学校保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	疾病予防と健康管理（Ⅲ）：成人・老人保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	疾病予防と健康管理（Ⅳ）：産業保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	病予防と健康管理（Ⅴ）：感染症と現状の予防	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	環境保健（Ⅰ）環境因子による健康影響と評価	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	環境保健（Ⅱ）健康を守り育てるための環境条件	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	介護保険制度の現状と課題	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	精神保健、保健医療の制度と法規	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	国際保健：各国における健康課題の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法Ⅰ　（科目ナンバリング：ESS343095　）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横山　哲也　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
学生が高等学校工業科教員としての必要な資質を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標
工業教育の意義と役割を考え，基礎的知識及び技術，指導内容及び指導方法を理解することができる。

授業全体の内容と概要
工業教育の基礎的知識及び技術，指導内容・指導方法を理解し学ぶ。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法
授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題提出後、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
積極的に教育に関心をもつこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
１1回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工業教育の意義と役割の理解	講義の内容から工業教育の意義と役割について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について大体理解した。	工業教育の意義と役割について理解しなかった。
工業教育の基礎的知識及び技術の理解	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について大体理解した。	工業教育の基礎的知識及び技術について理解しなかった。
指導内容及び指導方法の理解	講義の内容から指導内容及び指導方法について完璧に理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法についてほぼ理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について大体理解した。	指導内容及び指導方法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS343095 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『高等学校学習指導要領』	文部科学省				
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	教育と教師像	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	工業教育の目的，目標の変遷，役割	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	工業教育の内容及び教科内容１	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	工業教育の内容及び教科内容２	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	工業教育の内容及び教科内容３	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	一般教育としての工業・技術教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	西欧の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	工業教育の始まり	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	明治以前の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	明治の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	大正期の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	昭和期の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	戦後の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年3月告示）による改訂	学習指導要領の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：SEM324068 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科Ⅰ「建築計画」にターゲットを絞り，その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科Ⅰに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	６０%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができた	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅰ （科目ナンバリング：SEM324068 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。環境工学―気象・室内環境・屋外気候・換気・通風 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	環境工学―伝熱・結露・日照・日射	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	環境工学―採光・音響・色彩	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	環境工学―環境工学融合・用語	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	建築計画―独立住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	建築計画―集合住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	建築計画―商業建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	建築計画―公共建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	建築計画―計画一般	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	建築計画―都市計画・地域計画	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	建築設備―用語・空気調和設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	建築設備―給水・給湯・排水・衛生設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	建築設備―電気設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築設備―照明設備 指	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築設備―消火・防災・設備融合 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 （科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。①貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。②対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。③貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表（B/S）、損益決算書（P/L）、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法

本講義はパワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００%	０%	０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	３つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	３つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	３つの財務諸表の違いを述べることができた。	３つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 （科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
2	財務諸表の見方①　貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
3	財務諸表の見方②　損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
5	会社の財務安全性①　流動比率　当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
6	会社の財務安全性②　自己資本比率　固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
7	会社の収益性①　資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
8	会社の収益性②　売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
9	会社の活性性①　回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
10	会社の活性性②　設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
11	会社の発展性　　成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
15	まとめ　試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしておくこと。（９０分）	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論（SP）	（科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016　　）			
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　石山　玄幸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。①貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。②対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。③貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表（B/S）、損益決算書（P/L）、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法

本講義はパワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	３つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	３つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	３つの財務諸表の違いを述べることができた。	３つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論（SP）	（科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016 ）			
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者：　石山　玄幸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として２００社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
2	財務諸表の見方①　貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
3	財務諸表の見方②　損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
5	会社の財務安全性①　流動比率　当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
6	会社の財務安全性②　自己資本比率　固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
7	会社の収益性①　資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
8	会社の収益性②　売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
9	会社の活性性①　回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
10	会社の活性性②　設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
11	会社の発展性　　成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
15	まとめ　試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（９０分）	講義終了時に練習問題の復習。（９０分）
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしておくこと。（９０分）	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅰ　（科目ナンバリング：ESS243093　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、に対応する。（2021・2022・2023年度）

到達目標

・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成することができる。

授業全体の内容と概要

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、指導案の作成などを行う。指導案の作成では他の学生の指導案についてお互いに検討し、ディスカッションを行う。最終講義までに再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指導案の作成・検討などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。
『中学校美術の教科書1～3年』　（開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など）について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので1冊各自購入し、持参すると学びにつながる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案作成能力	学習指導要領や題材研究の成果と課題を踏まえて学習指導案を適切に作成することができた。	学習指導要領に沿って適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた。	学習指導案を作成することができなかった。
演習を通した考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学修が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS243093 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編　平成29年7月―平成29年告示』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽・美術・工芸・書道）編・音楽編・美術編　平成30年7	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆眞、茂木一司、福本謹一	建帛社	2012年	9784767921013	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業についてのオリエンテーション 美術科教育の目的・意義（１）美術科教育の位置づ	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	美術科教育の目的・意義（２）学習指導要領における目的	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書を読み、授業内容を復習する（９０分）
3	美術科教育の歴史：子どもの発達、造形教育と美術教育	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	美術科教育の教科特性：美術科教育における「表現」と「鑑賞」	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	美術科教育の教科特性：絵画・彫刻領域とデザイン・工芸領域	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	学習指導要領（中学）：美術科の各学年の内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	学習指導要領（高校）：目標と内容 指導計画・学習指導案の構成	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	「表現」の教材研究（１）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	「表現」の教材研究（２）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	「表現」の教材研究（３）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	「表現」の教材研究（４）	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。（９０分）	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	学習指導案の作成（１）：方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	指導案を作成する（９０分）
13	学習指導案の作成（２）：検討の視点と方法	指導案を作成する（９０分）	指導案を作成する（９０分）
14	学習指導要領： 指導上の留意点、評価について	指導案を作成する（９０分）	指導案を作成する（９０分）
15	指導案の作成の振り返り	指導案を作成する（９０分）	自分の作成した指導案についての気づきをまとめる（９０分）
16	指導案の講評　フィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返り、疑問点等を挙げておく。（９０分）	フィードバックを受けて授業の内容の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションIII （科目ナンバリング：AEA223042 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　正人 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

本科目は，デザイン現場に於けるイラスト制作やイラストの多様性，表現方法を学び，イラストレーターの役割を実践形式で学び習得する。イラスト，デザイン，アートのみならず様々なものから積極的な探求心，研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

アドバタイジング，エディトリアルの各媒体目的を意識して完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し，独自のイラスト表現を確立できる。

授業全体の内容と概要

マチエール，下地と画材表現の研究。また各課題のテーマ，コンセプトに合わせて個々の表現を模索して，オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で実践的制作過程を学び，画材表現，イラスト表現を習得する。

授業の方法

各課題説明書に沿って各テーマに合ったアイデア発想，表現を考え，その後実技にてイラスト作品制作を行っていく。作品提出ごとにプレゼンを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。
イラストの多様性・実践的制作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的制作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的制作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションIII （科目ナンバリング：AEA223042 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　正人 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マイワーク３１』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（イラストレーターの仕事について，イラスト表現の多様性，イラスト制作過程の注意点などについて講義）、シラバスの説明。授業	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	オリエンテーション（イラストレーターの仕事について，イラスト表現の多様性，イラスト制作過程の注意点などについて講義）、シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	マチエール，下地の研究１。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
4	マチエール，下地の研究１。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
5	マチエール，下地の研究２。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
6	マチエール，下地の研究２。ジェッソを中心に各メディウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。（４５分）	各マチエール，メディウムの特性の理解を深めておくこと。（４５分）
7	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
8	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
9	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
10	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
11	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	アドバタイジングイラストレーションの研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	アドバタイジングイラストレーション研究，実習・５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
16	アドバタイジングイラストレーション研究，実習・５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	エディトリアルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
18	エディトリアルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
19	エディトリアルイラストレーション研究，実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
20	エディトリアルイラストレーション研究，実習・２。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
21	エディトリアルイラストレーション研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
22	エディトリアルイラストレーション研究，実習・３。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
23	エディトリアルイラストレーション研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
24	エディトリアルイラストレーション研究，実習・４。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
25	エディトリアルイラストレーション研究，実習・５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
26	エディトリアルイラストレーション研究，実習５。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
27	オリジナルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
28	オリジナルイラストレーション研究，実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
29	オリジナルイラストレーション研究，実習・２。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
30	オリジナルイラストレーション研究，実習・２。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
31	オリジナルイラストレーション研究，実習・３。総合プレゼンテーション＆全体講評会。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	オリジナルイラストレーション研究，実習・３。総合プレゼンテーション＆全体講評会。授業改善のアンケート実施。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅱ （科目ナンバリング：SEM324069 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	向井　実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科Ⅱ「建築法規」にターゲットを絞り，その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科Ⅱに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	６０%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項の理解	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法の用語の定義と建築基準法各条項に関する問題を解くことができなかった。
建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項の理解	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を正確に解くことができた	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法施行令の用語の定義と建築基準法施行令各条項に関する問題を解くことができなかった
建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項の理解	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができた。	建築基準法以外の関連法律の用語の定義とそれらの各条項に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅱ （科目ナンバリング：SEM324069 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井　実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所での経験を活かして、実践的な授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。用語・面積・高さ 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーションで配布した資料の熟読（４５分）	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	採光・換気	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	階段・傾斜路	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	構造強度，構造計算	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	法22条区域内・特殊建築物	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	木造３階建共同住宅等	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	防火地域・準防火地域内	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	防火区画・内装制限・用途地域	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	容積率・建ぺい率・高さの制限	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	道路・壁面線	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	雑則・その他，基準法融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	バリアフリー法・耐震改修法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築士法・都市計画法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	品確法・長期優良住宅法 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅤ　（科目ナンバリング：IRE323076　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅤ （科目ナンバリング：IRE323076 ）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1 （単位認定責任者： ）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 （科目ナンバリング：MAN413013，MAN523038 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

履修目標

経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

教科書を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。ハンドアウトを多用する。

授業の方法

テキストを用いての講義に加え、PCを活用した課題なども実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学習を妨げる行為（私語等）は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はポイントにまとめてノートに記載すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上（出席数は自身で管理すること）。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。個人向けのリモート授業は本科目には存在しない。対面で出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としそれ以上遅れた場合及び15分以上途中退席した場合は、欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	0%	２０%	０%	20%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめることができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめることができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめることができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 （科目ナンバリング：MAN413013，MAN523038 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『１からの人的資源管理』	西村孝史・島貫智行・西岡由美	碩学舎・中央経済グループパブリッ	2022	9784502407017	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	イントロダクション（人的資源管理とは） シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
2	人的資源管理とは何か	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
3	組織構造と職場マネジメント	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
4	日本的経営の成り立ち	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
5	社員区分制度と格付け制度	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
6	人的資源確保　採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
7	人的資源確保　評価	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
8	人的資源確保　配置と異動	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
9	人的資源確保　育成とキャリア	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
10	人的資源確保　報酬管理	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
11	人的資源管理　退職管理と雇用調整	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
12	人的資源管理　労働時間管理	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
13	労働環境　健康管理と安全衛生	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
15	まとめ（期末試験に向けて） 授業改善アンケートの実施	テキストの該当箇所を熟読すること（90分）	試験勉強に取り組むこと（90分）
16	試験（60分）と総括（30分）	試験勉強に取り組むこと（90分）	各自で科目総括を行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論（SP）（科目ナンバリング：MAN413013，MAN523038 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

履修目標

経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

授業全体の内容と概要

教科書を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。ハンドアウトを多用する。

授業の方法

テキストを用いての講義に加え、PCを活用した課題なども実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

学習を妨げる行為（私語等）は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はポイントにまとめてノートに記載すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上（出席数は自身で管理すること）。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。個人向けのリモート授業は本科目には存在しない。対面で出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としそれ以上遅れた場合及び15分以上途中退席した場合は、欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	0%	２０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめることができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめることができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめることができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論（SP）（科目ナンバリング：MAN413013，MAN523038 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『１からの人的資源管理』	西村孝史・島貫智行・西岡由美	碩学舎・中央経済グループパブリッ	2022	9784502407017	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	イントロダクション（人的資源管理とは） シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
2	人的資源管理とは何か	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
3	組織構造と職場マネジメント	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
4	日本的経営の成り立ち	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
5	社員区分制度と格付け制度	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
6	人的資源確保　採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
7	人的資源確保　評価	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
8	人的資源確保　配置と異動	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
9	人的資源確保　育成とキャリア	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
10	人的資源確保　報酬管理	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
11	人的資源管理　退職管理と雇用調整	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
12	人的資源管理　労働時間管理	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
13	労働環境　健康管理と安全衛生	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	テキストの該当箇所を一読すること（90分）	講義内での指定課題に取り組むこと（90分）
15	まとめ（期末試験に向けて） 授業改善アンケートの実施	テキストの該当箇所を熟読すること（90分）	試験勉強に取り組むこと（90分）
16	試験（60分）と総括（30分）	試験勉強に取り組むこと（90分）	各自で科目総括を行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅱ （科目ナンバリング：PSS522067 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携、国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２に対応する。（２０２１年度）

到達目標

①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

①ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
②現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
③精神障害の発生予防や偏見・差別の解消について学ぶ。
④精神保健活動を行っている関係機関について学ぶ。
⑤世界的な精神保健の動向について学ぶ。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅱ （科目ナンバリング：PSS522067 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の動向と基本的考え方	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりを	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	家族に関連する精神保健の課題と支援②（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（社会的孤立、性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健に関する発生予防と対策①（精神保健における予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策、うつ病	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健に関する発生予防と対策②（子育て支援と暴力・虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体つくり運動 （科目ナンバリング：HSS522069 ）				
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 是枝　亮 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自己の体に関心を持ち、体力づくりにはどのような運動が効果的であるかを理解し、指導実践できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

学校教育において「体つくり運動」が導入された経緯と必要性、その目的・教育の方法を理解する。

授業全体の内容と概要

自己の体を動かしながら、身体について考え、その働きを学習する。また、仲間と交流したりするための手軽な運動や規律的な運動を学習する。

授業の方法

授業は実技を中心に行い、学習内容の課題をグループごとに実施・発表する。
中間課題評価は、体力つくりの基礎技術を見る。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。
上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻２回で一回の欠席とみなす。１０分以上の遅刻は欠席とみなす」但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	３０％	４０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体つくり運動についての理解・認識	体つくり運動の目的や必要性を十分に理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができ、また自ら運動や指導法を見出すことができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解し、授業で行った運動と結び付けることができた。	体つくり運動の目的や必要性は理解することができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解することができなかった。
自分や他者の体への意識と運動の実施	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、効果的に運動や指導を実践することができた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、指示された運動の効果を考えながら運動を試みていた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、指示された運動の効果を考える努力が窺えた。	指示された運動をとりあえず実施していた。	自分や他者の体に意識を向けることはなく、運動の実施もできなかった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体つくり運動	（科目ナンバリング：HSS522069 ）			
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 是枝　亮 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１７		
2	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８		
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体つくり運動-授業の考え方と進め方-改訂版』		東洋館出版社	２０１３		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ・体つくり運動とは何か	シラバスを読んでおくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
2	体ほぐしの運動① ・基礎運動① 「柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
3	体ほぐしの運動② ・基礎運動② 「ペアグループでの柔軟体操、ストレッチン	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
4	体ほぐしの運動③ ・一人での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩、走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
5	体ほぐしの運動④ ・複数での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩、走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
6	体ほぐしの運動⑤ ・器具を使用した各運動（ボール、フープ、ナワ、棒、シャトル等）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
7	体力を高める運動① ・柔軟性向上の運動（ストレッチングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
8	体力を高める運動② ・筋力向上の運動（自体重負荷）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
9	体力を高める運動③ ・巧みさ向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
10	体力を高める運動④ ・持久力向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
11	体力を高める運動⑤ ・パワー向上の運動（ウェイトトレーニングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
12	体力を高める運動⑥ ・総合的体力向上の運動（レペテーション、サーキット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
13	体力を高める運動⑦ ・有酸素運動（エアロビック）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
14	模擬授業①（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
15	模擬授業②（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（４５分）
16	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（９０分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 （科目ナンバリング：S0C123135， ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の２つに具体化される。①社会学の基礎を学修する。②現代社会の特質、社会生活の変化、青年期の意義、自己形成、自己実現、職業生活、〈高等学校　学習指導要領、公民、公共の部分〉に対応する、社会学用語、思考を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2022年度）

到達目標

①社会学の基本になる学術用語の説明ができる、②社会学応用領域における社会問題について、社会学の概念、理論的枠組みを用いることで課題を把握して考察ができる、③社会学の概念について、専門辞書を読解することで定義と問題を説明ができる。
下記のルーブリック、評価基準（C）は、合格の最低レベル、到達目標である。上位の基準である、履修目標をめざしてベストをつくすこと。成績は、相対性と絶対性により評価される。

授業全体の内容と概要

「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会学の概念と理論的枠組みについて、社会化、社会集団、現代日本社会、教育社会学の基礎的概念を学ぶ。
高校公民（現代社会）の基礎となる、社会学（現代日本社会の歴史社会学、学校教育の比較社会学）の文献精読（小熊英二：2019）、渡辺雅子（2004）をおこなう。

授業の方法

・「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担発表について説明をおこなう。
・文献精読は三色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、２００５）の技法をもとに、プレゼンテーション（分担発表）、文献読解（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）の授業構成になる。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・教職課程科目（中学社会・高校公民）必修。中学校、高校教員準備のための自律的学修、教材研究は「単に教えられたことを暗記しはきだすのでなく、深い理解、深い学習」（松下佳代：２０１５）　をおこなう。
・教育実習前年度の科目であることから、中学校、高校の教員の行動モデル（時間管理、体調管理、仕事責任遂行力）測定する。
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、全授業回数の３/２以上である、計１１回以上の出席が必要になる。
・文献読解（分担報告；本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語について、例をあげて説明記述する）、プレゼンテーション（分担発表）をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。
・分担割当は履修登録にもとづき調整をおこなう。小熊英二（２０１９）、渡辺雅子（２００４）を、計２回以上の分担を基本にする。
（個別報告、レポート作成提出を含む）
・前年度は履修人数による課題内容、報告手順の調整をおこなった。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	４０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明をしていた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明をした。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明をしていた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶことについて、充分ではないが、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得はできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生（教職課程の教生）としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自らの理解して行動することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 （科目ナンバリング：S0C123135， ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本社会のしくみ』	小熊英二	講談社	２０１９	9784065154298	講談社現代新書2528
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『納得の構造』	渡辺雅子	東洋館	２００４	9784491020211	
2	『社会学事典』	日本社会学会	丸善出版	２０１９	9784621082546	
3	『社会学用語図鑑』	田中正人/香月孝史	プレジデント社	２０１９	9784833423113	
4	『社会学文献辞典（縮刷版）』	見田宗介	弘文堂	２０１４	9784335551642	
5	『現代文解釈の基礎（新訂版）』	遠藤嘉基/渡辺実	筑摩書房	２０２１	9784480510730	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス、前年度本科目、授業改善アンケート結果の説明 履修学生状況をふまえ、報告役割分担の確認をおこ	シラバスを熟読する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	文献精読　小熊英二（２０１９）；日本社会の三つの生き方	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
3	文献精読　小熊英二（２０１９）；日本の働き方、世界の働き方	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
4	文献精読　小熊英二（２０１９）；「日本型雇用」の起源	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
5	文献精読　小熊英二（２０１９）；慣行の形成	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
6	文献精読　小熊英二（２０１９）；民主化と「社員の平等」	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
7	文献精読　小熊英二（２０１９）；高度成長と「学歴」	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	文献精読　小熊英二（２０１９）；「一億総中流」から「新たな二重構造」へ	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	文献精読　小熊英二（２０１９）；「社会のしくみ」と「正義」のありか	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
10	文献精読　小熊英二（２０１９）と高校「公共」の比較	テキストを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
11	文献精読　渡辺雅子（２００４）；学校教育の比較社会論（作文、歴史１－２）を精読する。	配布資料を読んで予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
12	文献精読　渡辺雅子（２００４）；学校教育の比較社会論（作文、歴史１－２）を精読します。	配布資料を読んで予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
13	文献精読　渡辺雅子（２００４）；学校教育の比較社会論（作文、歴史３－４）を精読する。	配布資料を読んで予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
14	文献精読　渡辺雅子（２００４）；学校教育の比較社会論（作文、歴史５）を精読する。	配布資料を読んで予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
15	文献精読　渡辺雅子（２００４）；学校教育の比較社会論（作文、歴史６－７）を精読する。	配布資料を読んで予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
16	社会学の基礎的理解、現代日本社会、日本の学校教育について総括する。 授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動 （科目ナンバリング：HSS522070 ）				
授業担当者（所属・職名）	廣田　修平（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 廣田　修平 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自己の能力に適した課題をもって器械運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるような指導方法を身につけるため、器械運動の基礎技術の習得を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

当該種目の歴史・文化的に形成された意義や独自の技術、ルールを理解し、集団や社会に応じて実践できる力を養う。
各種目で修得した技術を発表する能力を養う。

授業全体の内容と概要

器械運動(マット、鉄棒、とび箱)で行われる基本技の技術構造を理解することで、自己の習熟度を高めるとともに、技の指導に関する基本的な知識を得る。また、新たな技を学習することによって「できないものができるようになる」ということの意義を再認識する。

授業の方法

授業は実技中心に行う。安全性を重視しながら基本技術を習得し、出来ない生徒への指導方法や補助方法についても学ぶ。また、レポート課題や中間課題評価や最終課題評価も実施する。中間課題評価や最終課題評価は、マット運動、鉄棒、跳び箱の実技を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。
上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻２回で一回の欠席とみなす。１０分以上の遅刻は欠席とみなす」但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価や各種目の最終課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業回数の１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
遅刻は１５分以上で欠席とみなす。遅刻２回で欠席１回とみなす。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	０%	0%	30%	20%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
器械運動の基礎技術の習得	器械運動の基礎技術が優れたレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、十分なレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、自己の能力に適したレベルで身に付いた。	器械運動の基礎技術が、最低限度身に付いた。	器械運動の基礎技術が身に付かなかった。
技術習得に向けた思考力と実践力	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。また、周囲の学生に対しても自らの考えを助言や指導という形で表現できていた。	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。	技術習得の過程で、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	技術習得の過程で、考え方や解決に対する努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	取り組みにおける考え方や努力が不十分であった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	１Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動 （科目ナンバリング：HSS522070 ）				
授業担当者（所属・職名）	廣田　修平（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 廣田　修平 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マット運動』	金子明友	大修館書店	１９８２		
2	『鉄棒運動』	金子明友	大修館書店	１９８４		
3	『教師のための運動学』	金子明友ほか	大修館書店	１９９６		
4	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１７		
5	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業全体の概要と授業のねらいを理解する。	シラバスを読んでおくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
2	マット運動　接転技群「前転」系の学習① ・マット運動の前転（開脚前転含む）に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
3	マット運動　接転技群「前転」系の学習② ・マット運動の「前転」系の発展技である「伸膝前転」や「倒立前転」に必要な基本技術を理解し、そ	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
4	マット運動　接転技群「後転」系の学習① ・マット運動の後転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
5	マット運動　接転技群「後転」系の学習② ・マット運動の「後転」系の発展技である「伸膝後転」や「後転倒立」に必要な基本技術を理解し、そ	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
6	マット運動　「倒立」及び「側方倒立回転」の学習 ・マット運動の「倒立」及び「側方倒立回転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
7	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習① ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
8	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習② ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
9	鉄棒運動　後方支持回転技群「後方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の後方支持回転に必要な基本技術を理解	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
10	鉄棒運動　前方支持回転技群「前方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の前方支持回転に必要な基本技術を理解	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
11	鉄棒運動　懸垂振動技の学習 ・鉄棒運動の懸垂振動技に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
12	マット運動　発展技「前方倒立回転とび」　鉄棒運動　発展技「け上がり」の学習① ・マット運動「前方倒立回転とび」及び鉄棒運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
13	マット運動　発展技「前方倒立回転とび」　鉄棒運動　発展技「け上がり」の学習② ・マット運動「前方倒立回転とび」及び鉄棒運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
14	とび箱運動　切り返し系運動の学習 ・「開脚とび」などの切り返し系運動の基礎技能獲得と指導方法学習。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
15	とび箱運動　回転系運動の学習 ・「台上前転」などの回転系運動の基礎技能獲得と指導方法学習。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（４５分）
16	最終まとめ、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（９０分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法Ⅰ　（科目ナンバリング：ESS243095　）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（美術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023･2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2021年度）

到達目標

工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。

授業全体の内容と概要

工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学習指導要領解説を用いて行い、学習内容はパワーポイントやプリント資料で説明する。
主体的で対話的な学びを目指し、グループワーク・ディスカッション・発表などを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。
課題は期日までに提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	２０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	意見を述べることができない。
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法Ⅰ （科目ナンバリング：ESS243095 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（美術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　美術編』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 工芸とは何か　学校教育の中での「用と美」	シラバスをよく読んでおくこと（90分）	授業内容を復習する（９０分）
2	工芸教育の歴史と背景	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
3	中学校学習指導要領解説美術編　「美術科の目標と内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
4	中学校学習指導要領解説美術編　「各学年の目標及び内容」おけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
5	中学校学習指導要領解説美術編　「指導計画の作成と内容の取り扱い」及び映像メディアの活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
6	高等学校学習指導要領解説芸術編「工芸」の性格、目標、内容、内容の取り扱いについて	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
7	学習指導計画	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
8	教材研究①	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
9	教材研究②	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
10	教材研究③	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
11	教材研究④	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
12	学習指導案の作成１	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
13	学習指導案の作成２	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
14	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
15	指導案作成の振り返り	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
16	課題・レポートの解説 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと（90分）	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 （科目ナンバリング：BSM324030 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐々木　哲之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ，設計物件に対する積算業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築積算は建築物を造るために必要な費用を算出し，かつ予測することにある。近年の建築をめぐる社会経済情勢の変化が激しい中，建築物のコスト管理はますます重要になっている。そこで国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築数量積算基準」，「建築工事内訳書標準書式」に基づく積算数量の正確な計算方法を習得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ３，ＤＰ４，ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２に対応する。（２０２３・２２年度）
建築学科のＤＰ２，ＤＰ３，ＤＰ５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り，建築生産の中で，数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに，建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。

授業全体の内容と概要

建築工事の各工法の理解度を高め，使用材料の数量積算を行う。現場で使われている道具，材料など細部にわたりプロジェクターなどにより説明を行う。建築産業を支える建築積算の意義と役割並びに建築工事費の構成を学ぶ。

授業の方法

テキストに加えて，プロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また各単元ごとに演習課題出題し，提出してもらう。課題返却後，それを解説する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義にはテキスト，ノート，電卓は必ず持参し，講義内容と資料を整理すること。４回目以降は演習課題を実施し，課題提出の評価配分は高いので遅刻，欠席には注意すること。
３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻３回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	４０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており，それを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており，それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
土工事・地業工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
躯体工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
仕上げ工事の数量積算に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 （科目ナンバリング：BSM324030 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐々木　哲之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ，設計物件に対する積算業務を行っていた。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基準にもとづく建築積算入門』	赤堀弘	彰国社	2013	978-4-395-00921-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築数量積算基準・同解説』	日本建築積算協会	建築コスト管理システム研究所	2017	4-8028-8979-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 建築産業を支える建築積算の意義と役割	シラバスにより次回の部分を予習すること（90分）	授業内容を復習すること（90分）
2	コストプランニング，コストコントロール，施工発注方式・請負契約	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
3	建築工事費の構成	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
4	積算数量：設計数量，所要数量，計画数量	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
5	建築数量積算基準―１　土工・地業の数量積算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
6	建築数量積算基準―２　躯体の定義と区分，計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
7	建築数量積算基準―３　コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
8	建築数量積算基準―４　コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
9	建築数量積算基準―５　鉄筋の数量積	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
10	建築数量積算基準―６　鉄骨の数量積	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
11	建築数量積算基準―７　仕上げの定義と区分，計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
12	建築数量積算基準―８　仕上げ各部分の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
13	市場単価と分掛り単価事	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
14	科目別構成比と部分別構成比	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
15	事例分析：部分別数量と躯体の数量分析 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（90分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（90分）
16	定期試験（60分）及び解説（30分）	これまでの授業範囲を見直し予習すること（90分）	試験内容を振り返り，特に専門用語を復習すること（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222024 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、紙面全体の構成を考えて編集して、効果的なデザインを行うことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。

授業全体の内容と概要

印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。

授業の方法

授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料等で次の工程の説明をする。
Adobe illustrator, InDesign, Photoshopを使用する。
制作物は、各自で印刷すること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視し、制作過程の提出物、および完成作品において評価する。
授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。
第１C室のパソコンおよびソフトウエアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコン・タブレットを持参しても良い。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に、効果的で説得力のあるデザインに仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に効果なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に制作できた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的でバランスの良い紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、分かりやすい紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げることができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げることができた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222024 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 エディトリアルデザインとは	シラバスを読んでくること（90分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（90分）
2	小冊子制作１ 課題について	身の周りのエディトリアルデザインを観察する（90分）	課題について構想をまとめる（90分）
3	小冊子制作２ ラフ制作	課題について構想をまとめる（90分）	ラフ制作を進める（90分）
4	小冊子制作３ ページネーション（ページ割り）	ラフを仕上げる（90分）	ページ割りを進める（90分）
5	小冊子制作４ ページネーション（ページ割り）	ページ割りを進める（90分）	ページ割りを仕上げる（90分）
6	小冊子制作５ イラストレーション制作	イラストレーションの準備をする（90分）	イラストレーションを進める（90分）
7	小冊子制作６ イラストレーション制作	イラストレーションを進める（90分）	イラストレーションを進める（90分）
8	小冊子制作７ インデザインによるタイポグラフィ演習	タイポグラフィについて検討する（90分）	タイポグラフィについて検討する（90分）
9	小冊子制作８ インデザインによるタイポグラフィ演習	タイポグラフィについて検討する（90分）	タイポグラフィについて検討する（90分）
10	小冊子制作９ タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて検討する（90分）	デザインエレメントについて検討する（90分）
11	小冊子制作１０ 表紙	表紙制作の準備をする（90分）	表紙制作を進める（90分）
12	小冊子制作１１ 表紙	表紙制作を進める（90分）	表紙を仕上げる（90分）
13	小冊子制作１２　試し刷り	試し刷りの準備をする（90分）	ブラッシュアップに取り組む（90分）
14	小冊子制作１３　ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む（90分）	データを完成させる（90分）
15	小冊子制作１４　印刷・製本	印刷の準備をする（90分）	講評に向けて準備をする（90分）
16	講評　課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅱ　（科目ナンバリング：SEM324059　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

国家資格である「１級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「１級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。また、定期試験にて成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
１級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	１級建築施工管理技士技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に向けて取り組む意志があった。	１級建築施工管理管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていなかった、または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅱ　（科目ナンバリング：SEM324059　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『令和５年度　１級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	２０２３		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	施工計画－問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	施工管理・工程管理・品質管理１－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	施工管理・工程管理・品質管理１－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	品質管理２－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	品質管理２－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	安全管理・応用能力－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	安全管理・応用能力－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	法規１－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	法規１－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	法規２－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	法規２－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	模擬試験－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	模擬試験－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	定期試験－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	定期試験－解説 授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122030 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーク各領域（高齢、障がい、児童、地域・行政）の現場実習を通じて、ソーシャルワーク各領域における利用者理解、現場理解、職種理解、他職種・他機関との連携、地域における共生、今後の社会福祉行政の課題について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

専門知識、相談援助技術及び関連知識を実際に活用し、福祉ニーズを抱える人々に対する相談援助業務に必要となる資質、技術、倫理、課題把握能力など、総合的なジェネリックソーシャルワークに対応できる能力を習得する。相談援助実習の事前訪問を含め、個別の実習計画を作成する。

授業全体の内容と概要

２年次において「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」及び「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得し、実習生としてふさわしい態度と意欲のある学生（面接を行う）に対し、「相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳ」及び「相談援助実習」は開講される。「相談援助実習指導Ⅲ・Ⅳ」と「相談援助実習」は３つの授業に分かれているが、一体のものと理解すべきである。「相談援助実習指導Ⅲ」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導Ⅳ」は事後学習と考える。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域・行政の各々の実習領域に分かれて授業を展開する。授業内容は担当教員に一任されているが、各領域の職場・職種・ソーシャルワークについての事例・法規・制度が中心となり、使用する教材は各教員が用意する。年間を通しての課題として実習終了後のレポート提出、報告書の提出課題を義務付ける。学生の要望・課題には、可能な範囲で随時対応する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各領域実習担当教員の指示を厳守すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーク資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	３０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
事前学習における各領域の利用者理解ができている。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現に必要なＳＷの視点と連携について説明できる。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現の視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明でき、且つ、それに必要なＳＷの視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
事前学習における実習領域の関係法規と制度の特徴が理解できている。	実習領域の関連法規と制度の特徴を説明でき、且つ、地域行政との関連をも説明できる。	実習領域の関連法規の特徴、及び関連制度について説明できる。	実習領域の関連法規と制度の関係を説明できる。	実習領域の関連法規を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習領域における具体的ソーシャルワーク技法を理解している。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明でき、且つ、自分の実習計画に昇華できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法（面接、記録、コミュニケーション、他職種連携、地域連携）が説明できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明できる。	実習領域におけるソーシャルワーク技法のうち、利用者と具体的にかかわる技法を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122030 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明と事前学習（利用者理解①）	２年時の講義の復習（９０分）	配布プリントの読み込み（９０分）
2	事前学習（利用者理解②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
3	事前学習（利用者理解③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
4	事前学習（関連法規・制度理解①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
5	事前学習（関連法規・制度理解②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
6	事前学習（関連法規・制度理解③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
7	事前学習（ソーシャルワーク技法①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
8	事前学習（ソーシャルワーク技法②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
9	事前学習（ソーシャルワーク技法③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
10	事前学習（他職種・他機関連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
11	事前学習（他職種・他機関連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
12	事前学習（他職種・他機関連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
13	事前学習（地域連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
14	事前学習（地域連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
15	事前学習（地域連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）
16	実習計画作成と修正	前回プリントの読み込み（９０分）	前回プリントの読み込み（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222025 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、編集内容の考察を深め、視覚的効果に配慮してデザインを行うことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。

授業全体の内容と概要

印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。

授業の方法

授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料等で次の工程の説明をする。
Adobe illustrator, InDesign, Photoshopを使用する。
制作物は、各自で印刷すること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視し、制作過程の提出物および完成作品において評価する。
授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。
「エディトリアルデザインⅠ」を履修・修得していることが望ましい。
第１C室のパソコンおよびソフトウエアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコンおよびタブレットを持参しても良い。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に、効果的で説得力のあるデザインに仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に効果なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に制作できた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的でバランスの良い紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、分かりやすい紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げることができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げることができた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222025 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 エディトリアルデザイン制作について	シラバスを読んでくること（90分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（90分）
2	冊子制作１ 課題について	エディトリアルデザインについて理解を深める（90分）	課題について構想をまとめる（90分）
3	冊子制作２　アイデア・コンセプト	課題について構想をまとめる（90分）	課題について構想をまとめる（90分）
4	冊子制作３　サイズ・ページネーション	サイズ・ページネーションを検討する（90分）	サイズ・ページネーションを検討する（90分）
5	冊子制作４　デザインコンセプト	デザインコンセプトを検討する（90分）	デザインコンセプトを検討する（90分）
6	冊子制作５　サムネイル	デザインコンセプトを決定する（90分）	サムネイルを仕上げる（90分）
7	冊子制作６　取材	取材の準備をする（90分）	取材を行う（90分）
8	冊子制作７　インタビューの文字起こし	取材を行う（90分）	文字起こしを仕上げる（90分）
9	冊子制作８　写真加工	写真の準備をする（90分）	写真加工を仕上げる（90分）
10	冊子制作９　インデザインによる編集① レイアウトとデザインエレメントの検討	編集の準備をする（90分）	デザインエレメントについて検討し、編集する（90分）
11	冊子制作１０　インデザインによる編集② 文字組の調整	文字組の調整を行う（90分）	文字組の調整を行う（90分）
12	冊子制作１１　インデザインによる編集③ 余白・全体の調整	余白や全体の調整を行う（90分）	余白や全体の調整を行う（90分）
13	冊子制作１２　試し刷り	全体の調整を行う（90分）	ブラッシュアップに取り組む（90分）
14	冊子制作１３　ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む（90分）	データを完成させる（90分）
15	冊子制作１４　印刷・製本	印刷の準備をする（90分）	講評に向けて準備をする（90分）
16	講評　課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：MAN424016，MAN524018 ）				
授業担当者（所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 猪尾　紀幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

本講義は、学生が経営における専門知識を広範に活用して創業計画を作成することを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

本講義は、①事業計画の重要性を理解する。②企業（経営者）がとるべき戦略について理解する。③経営に関する専門用語についての意味や概念を理解する。以上の３つを理解した上で、創業計画書を作成することができることを到達目標としている。

授業全体の内容と概要

本講義は、創業計画書の作成を通して、事業コンセプト、企業理念、ビジョン、ビジネスモデル、ターゲット、市場の概念、マーケティングなど、事業計画の重要性と事業計画策定の肝を学ぶ。講義の後半は、創業計画の作成に傾注し、最終的には、ビジネスプランをプレゼンテーションしてもらい評価とする。

授業の方法

本講義の前半は、パワーポイント及び配布物資料で講義を進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、講師とディスカッションしながら、創業計画を作成してもらう。最終的には、創業計画の内容をパワーポイントを使いプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、積極的に経営を学びたいという意欲ある学生の受講を期待する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。
課題（創業計画）を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
創業計画書の作成に対応した文章表現力	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容がわかりやすく書かれていた。	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容が書かれていた。	創業計画書の各項目に対応する内容が書かれていた。	創業計画書の内容が最低限、読み手に伝わた。	創業計画書の内容が読み手に伝わらなかった。
創業計画書に対応したプレゼンテーション力	ビジネスプランの内容をについて、身振り手振りを加え、制限時間内に相手に伝わる発表ができた。	ビジネスプランの内容を聞きやすい言葉で制限時間内に発表することができた。	ビジネスプランの内容を時間内に発表することができた。	最低限、ビジネスプランの内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。
創業計画における総合的な実現性	オリジナリティがあり、戦略、財務計画までもが現実的な内容であった。	ある程度、オリジナリティのあるビジネスで市場性が高かった。	既存のビジネスに追従しつつも、差別化戦略が明確であった。	既存のビジネスに追従する内容でああった。	創業計画書が完成していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論	（科目ナンバリング：MAN424016，MAN524018 ）			
授業担当者（所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 猪尾　紀幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ＭＢＡビジネスプラン』	グロービズ経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	9784478014745	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要，講義のやり方，評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	起業・創業とはどういうことか？　ビジネスプラン　キャリアプランの意味	起業家と呼ばれる人材を事前に調べること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
3	創業・事業計画のから何がわかるのか？　何のために計画を策定するのか？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
4	企業理念、ビジョンとは？　端的な言葉が人を動かす	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
5	市場と顧客の概念、ターゲットとは？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
6	ビジネスモデルと業態　どんな儲け方をするのか？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
7	マーケティングの基本的な考え方	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
8	マーケティング分析のフレームワーク（４Ｐ、３Ｃ分析など）	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
9	マーケティング分析のフレームワーク（ＳＷＯＴ分析、ＳＴＰ分析など）	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
10	ビジネスプラン作成【ビジョン・コンセプトの設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
11	ビジネスプラン作成【ターゲット・商品の設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
12	ビジネスプラン作成【営業戦略を考える―販路・販売手法―】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
13	ビジネスプラン作成【運営組織・生産体制を考える】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
14	ビジネスプラン作成【損益計算書・資金繰り計画】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
15	プレゼンテーションの基本　伝えるではなく→伝わることの重要性	プレゼンテーションの準備をする。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
16	ビジネスプランのプレゼンテーション、講義全体のまとめ、課題提出、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備をする。（９０分）	フィードバックを受けて自分のビジネスプランを見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅰ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ)　（科目ナンバリング：HSS522073　）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育においてバスケットボールを教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。そのため、授業において履修者自身のバスケットボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023･2022年度）

到達目標

まずはバスケットボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要

バスケットボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバスケットボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。
その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	0%	0%	0%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとるこがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅰ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ)　（科目ナンバリング：HSS522073　）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　天野　雅斗　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館			
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認　（４５分）	ガイダンス内容の理解（４５分）
2	バスケットボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	基本技術①　ドリブルシュート	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	基本技術②　ジャンプシュート	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	基本技術③　パス・コンビネーション	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	オフェンス①　１対１での攻め方	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	オフェンス②　アウトナンバー	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	ディフェンス①　マンツーマンディフェンス	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	ディフェンス②　ゾーンディフェンス	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	戦術練習①　ハーフコートでの攻防	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	戦術練習②　オールコートでの５体５	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	試験課題の確認（４５分）
15	実技試験	試験課題の確認（４５分）	試験の出来の　振り返り（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（４５分）	身に付いた事の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅱ(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ) （科目ナンバリング：HSS522074 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育においてバレーボール教材を扱うのに相応しい、態度・能力・嗜好性のある人材を目指す。授業において履修者自身のバレーボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP4に対応する。（2023･2022年度）

到達目標

まずはバレーボールの基礎技術を履修者全員が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要

バレーボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバレーボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項および詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１3回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身につき、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身につき、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身についており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最適限度のレベルで身についている。	バレーボールの技術が身につかなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる進言ができる場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・ペアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅱ(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ) （科目ナンバリング：HSS522074 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（４５分）	ガイダンス内容の理解（４５分）
2	バレーボールの構造把握、スキルチェック	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	基本技術①　オーバーハンドパスの習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	基本技術②　アンダーハンドパスの習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	基本技術③　ボールヒット（サーブ）の習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	基本技術④　スパイクの習得・指導	基本技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	応用技術①　実践的な場面におけるオーバーハンドパスの活用について	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	応用技術②　アンダーハンドパスにおけるレセプション・ディグの実際	習得した技術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	応用技術③　ブロックの習得・指導、ディフェンスにおけるチーム戦術の提示	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	バレーボールにおける複合的練習①　オフェンス（コンビネーション攻撃）	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	バレーボールにおける複合的練習②　ディフェンス（トータルディフェンス）	基本戦術の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	ゲームにおける展開・戦術の組み方	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認（４５分）	試験課題の確認（４５分）
15	実技試験	試験課題の確認（４５分）	試験の出来の振り返り（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（４５分）	身についたことの確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 （科目ナンバリング：AEA221141 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。 これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。 本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く。
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学び、自分なりの表現技術の基礎を作る。

授業の方法

教科書、補足資料、パワーポイント、板書などに内容に応じて用いる。
授業形態は講義および、講義に対応した課題をその場で実施する。
アクティブラーニングとしては、自身で課題を製作するため、それ自体がアクティブそのものである。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm，できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができている。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 （科目ナンバリング：AEA221141 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築図法　立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、授業の進め方「線と分割」	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の復習（９０分）
2	「つなげる」	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
3	「平面・立面・断面」（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
4	「平面・立面・断面」（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
5	アイソメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
6	アクソノメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
7	ヴォリュームの組み合わせと陰影図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
8	透視図（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
9	透視図（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
10	透視図（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
11	作品制作（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
12	作品制作（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
13	作品制作（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
14	作品制作（４）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
15	作品制作（５）講評	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
16	総評・授業評価アンケート	未提出課題等の仕上（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17		¥	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅳ(ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ)　（科目ナンバリング：HSS522076　）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　米野　宏　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の経験年数は５年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ソフトボールの基礎からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、競技特性やルールを学ぶ。また、中学・高等学校の体育実技に於いて、健康・安全に留意できる指導能力を身に着ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通じてルールや審判法を習得する。

授業全体の内容と概要

前半は、ソフトボールの歴史や競技の特性を概説するとともに、攻撃や守備の基本動作の理論と練習方法を習得し、徐々に応用技術や実践的練習方法へと展開する。後半は試合形式の練習やゲームの中でルールや審判法も学ぶ。また、少人数での特殊なゲームも体験する。

授業の方法

ソフトボールの実技及びゲームは、野球場で行う。雨天時は、基本的に室内練習場で行うが、ビデオ視聴を利用する場合は、教室で実施する。
授業内での準備運動では不十分な場合は、早めに到着し、自主的に実施してください。基本技術の習得には個人差が生じます。未熟な技術を自覚できた場合は、熟練者に手伝ってもらい、技術の向上に努めてください。　不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ソフトボールまたは野球のユニホームを着用するのが望ましいが、屋外での運動にふさわしい物であれば構わない。金具の付いたスパイクシューズは危険なので使用禁止。ジョギングシューズで構わない。グローブは数に限りがあるので、できるだけ個人で用意するのが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	３０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ルールと審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。
守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。
打撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に充分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅳ(ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ) （科目ナンバリング：HSS522076 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の経験年数は５年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） (授業改善アンケート結果反映の説明) ソフトボールの歴史	シラバスを読んで確認する。（４５分）	資料は保管し、ノートで確認する。（４５分）
2	基本技術（送球・捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
3	基本技術（ゴロ捕球・飛球の捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
4	基本技術（打撃）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
5	応用技術（攻撃・守備・走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
6	戦術に関する理解と実践（攻撃、走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
7	戦術に関する理解と実践（守備）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
8	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
9	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
10	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
11	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
12	多人数での実戦練習とゲームの工夫（１０人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
13	多人数での実戦練習とゲームの工夫（１０人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
14	少人数での実戦練習とゲームの工夫（６人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
15	少人数での実戦練習とゲームの工夫（６人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（４５分）
16	ふりかえり、達成度のチエック	シラバスを確認し、準備をする。（４５分）	学んだことを再確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123041　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2022年度）

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。

授業全体の内容と概要

①ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークについて学ぶ。
②ソーシャルアクションについて学ぶ。
③各分野における精神保健福祉士の実践展開について学ぶ。
「SDGｓ．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123041　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業内容の説明、シラバスの説明 ソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	コミュニティワークについて①（精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	コミュニティワークについて②（地域における精神保健福祉の向上）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	ソーシャルアクションについて①（基本的視点・体制整備）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	ソーシャルアクションについて②（政策提言・政策展開）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	多職種連携について①（意義・目的・留意点など）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	多職種連携について②（チームビルディング・チーム形態と特徴）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	多職種連携について③（連携における精神保健福祉士の役割）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	ソーシャルアドミニストレーションについて①（概念・意義）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	ソーシャルアドミニストレーションについて②（組織と精神保健福祉士の関係性）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	ソーシャルアドミニストレーションについて③（実践モデル・組織運営管理の実際）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	実践展開について①（学校・教育分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	実践展開について②（産業分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	実践展開について③（司法分野）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	実践展開について④（災害・その他）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　（科目ナンバリング：DES223050　）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし，実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生がコンピュータを用いwebデザインの基礎の学び，表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし，実際のコンテンツ制作の基礎，応用まで可能なスキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

コンセプト設定，情報の構造化，ページデザイン，インターフェース，画像処理手法等の講義とHTML，CSSのコーディングを学び，その成果を作品として制作し発表する。

授業の方法

授業では，テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

コンピュータを利用するため，遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」の知識が必要なので履修済みであること。
WEBデザイナー検定（CG-ARTS）の受験を推奨する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。 検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。
Webコーディングの理解	HTML5やCSS3を完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	HTML5やCSS3を理解し、検定に合格できるレベルに達している。	HTML5やCSS3をお概ね理解していた。	HTML5やCSS3を最低限理解していた。	HTML5やCSS3の理解できていなかった。
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおり、Webサイトを制作することができる。	Webサイトを制作することができる。	Webサイトを概ね制作することができた。	Webサイトを最低限制作することができた。	Webサイトを制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　（科目ナンバリング：DES223050　）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし，実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門Webデザイン　第四版』	画像情報教育振興協会		2022	9784903474663	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション -シラバスの説明，コンテンツデザインとは 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	インターネットとWeb	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	Webサイトのしくみ	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	情報の構造化とアクセスルート，画面構成	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	Webページを実現する技術の基礎（HTMLの基本構成）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
6	Webページを実現する技術の基礎（画像表示、リンク処理）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
7	Webページを実現する技術の基礎（表組処理）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
8	Webページを実現する技術の基礎（文字の装飾）	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
9	コンセプトメイキング	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	レイアウトデザイン	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	オリジナルWeb制作　1	レイアウトのラフを完成させること（90分）	Web制作（90分）
12	オリジナルWeb制作　2	Web制作（90分）	Web制作（90分）
13	オリジナルWeb制作　3	Web制作（90分）	Web制作（90分）
14	オリジナルWeb制作　4	Web制作（90分）	Web制作（90分）
15	オリジナルWeb制作　5 プレゼンテーション	プレゼン用レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
コンピュータを用いてデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標
Adobe社Illustratorを使用し、学生が作品制作のスキルを修得できる。

授業全体の内容と概要
基本機能からレイヤー、グラデーション、テキスト処理など、演習を通して学ぶ。

授業の方法
授業では，各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれを解決しながら学習する。提出された課題をプレゼンテーションを通して評価しフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
デザイン学科デザイン専攻は推奨し、アート専攻のみ選択履修可能である。
積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程（美術）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
PCの基本的操作スキル	パーソナルコンピュータ（PC)を、十分適切に使うことができ、更に学習を深めることができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を、適切に使うことができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を概ね使うことができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を最低限使うことができた。	パーソナルコンピュータ（PC)を使うことができなかった。
ソフトウエアの操作スキル	学習したコンピュータソフトを十分使うことができ、応用することができる。	学習したコンピュータソフトを適切に使うことができた。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができた。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができた。	学習したコンピュータソフトを使うことができなかった。
学習したソフトを利用した作品の制作と表現	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作でき、他者に伝えることが概ねできる作品となっている。	自分が表現したい作品を最低限制作でき、他者に伝えるための最低限の作品となっている。	自分が表現したい作品を制作できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『オリジナルプリントを配布』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe Illustrator CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 PC（Macintosh）の基本操作及画面の基本 授業改善アンケート結果反映の説明	PCについての語句を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	アートボード及び図形、線の基本	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	ペンツールの修得	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	色彩基本、イラストレータの基本	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	パスファインダ、ブレンドについて	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	テキスト処理①	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	テキスト処理②	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	トリムマーク、紙面のデザイン	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	マップの作成	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	グラデーションの作成	下絵を完成させること（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
11	デジタル作品の制作1	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
12	デジタル作品の制作2	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
13	デジタル作品の制作3	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
14	デジタル作品の制作4	デジタル作品の制作を行うこと（90分）	デジタル作品の制作を行うこと（90分）
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品返却　講評　まとめ 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技VI(ｻｯｶｰ)　（科目ナンバリング：HSS522078　）				
授業担当者（所属・職名）	木島　敦（経営学科・非常勤講師）　小助川　真木（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階スポーツ課	
単位数	1　（単位認定責任者：　木島　敦　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、スポーツ課で対応。				

概要

履修目標

基本からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず作戦を生かした攻防を展開しゲームが出来るようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力をつける。

授業全体の内容と概要

サッカーの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

実技を中心とし競技の特性を生かしたグループワークから課題解決し（模擬授業を含む）、確認テスト等でより深くサッカー理解を深める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①服装はトレーニングウエア等を着用。
②グランドでの実技はアップシューズで行う。
③雨天の場合は体育館で行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	３０%	２０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解と習得　ドリブル・パス・シュート・ヘディング・ボールコントロール	試合形式の中で高いレベルで正確にできた。	試合形式の中でおおむね正確にできた。	技術練習の中では一定的達成していた。	技術練習の中では達成していた。	技術練習の中でも達成していなかった。
個人戦術に関する理解と実践　守備・攻撃	試合形式の中でも高いレベルで理解できていた。	試合形式の中でもおおむね理解できていた。	導入練習の中ではおおむね理解できていた。	導入練習の中では一定的理解できていた。	導入練習の中でも理解できていなかった。
指導の実践	設定と導入が目標を越えたレベルを達成できた。	設定と導入が目標レベルをおおむね達成できた。	設定と導入が目標レベルを一定的達成できた。	設定と導入が理解できていた。	目標レベルを達成できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科SP・３年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技VI(ｻｯｶｰ)　（科目ナンバリング：HSS522078　）				
授業担当者（所属・職名）	木島　敦（経営学科・非常勤講師）　小助川　真木（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階スポーツ課		
単位数	1　（単位認定責任者：　木島　敦　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 サッカーガイダンス　授業の進め方	シラバスの確認（４５分）	シラバスの再確認（４５分）
2	基本技術の理解と習得 ①ドリブル・パス	試合映像確認 （４５分）	ドリブル・パスの練習（４５分）
3	基本技術の理解と習得 ②シュート・ヘディング	試合映像の確認（４５分）	シュート・ヘディングの練習（４５分）
4	基本技術の理解と習得 ③ボールコントロール	試合映像の確認（４５分）	ボールコントロールの練習（４５分）
5	基本技術の確認	ドリブル・パス・ヘディングシュートボールコントロールの練習（４５分）	試合映像の確認（４５分）
6	応用技術の理解と習得	基本技術の確認練習（４５分）	応用技術の確認練習（４５分）
7	戦術に関する理解と実践 ①守備における基本と原則	試合映像の確認（４５分）	試合映像による守備における基本と原則の確認 （４５分）
8	戦術に関する理解と実践 ②攻撃における基本と原則	試合映像の確認（４５分）	試合映像による攻撃における基本と原則の確認 （４５分）
9	戦術に関する理解と実践 ③攻撃における戦術	試合映像の確認（４５分）	試合映像による守備・攻撃における戦術の確認 （４５分）
10	レフリングとチーム運営	試合映像の確認（４５分）	試合映像によるレフリングとチーム運営の確認 （４５分）
11	試合形式によるレフリーの実践	試合映像の確認（４５分）	試合映像によるレフリーの確認（４５分）
12	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
13	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・攻撃	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
14	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備と攻撃	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
15	試合	試合映像の確認（４５分）	試合映像の確認（４５分）
16	実技試験 フィードバック 授業改善アンケートの実施	基本・応用のトレーニング（４５分）	試合映像の確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ	（科目ナンバリング：　　）			
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータを用いデザインの基礎の学び、表現手法を修得し、オリジナルの作品を制作できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

画像処理ソフトAdobe社Photoshopを使用し、学生が画像処理及び作品制作のスキルを修得できる。

授業全体の内容と概要

基本機能からフォトレタッチ、色調補正、テキスト処理などの画像処理の方法を学ぶ。

授業の方法

授業では、各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、その評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デジタルデザインを履修済みであること。
積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソフトウエアの理解	各種機能を十分理解し、自ら進んで学ぶことが十分できる。	各種機能を十分理解している。	各種機能を概ね理解している。	各種機能を最低限理解している。	各種機能を理解していない。
ソフトウエアの操作スキル	学習したコンピュータソフトの機能を完全に理解し、十分に使うことができ、更に学習を進め応用スキルが身についている、	学習したコンピュータソフトの機能を理解し、適切使うことができる。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができる。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができる。	学習したコンピュータソフトを使うことができない。
学習したソフトを利用した作品の制作と他者に伝える表現力	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分伝えることができる表現となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる表現となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作できる。	自分が表現したい作品を最低限制作できる。	自分が表現したい作品を制作できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　上坂　恒章　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe　Photoshop　CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 画像処理の基本について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、画像処理を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	画像解像度、ファイル形式について	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	選択範囲について	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	イラストレータとの統合処理	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	フォトレタッチ	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	色調補正（レベル補正，トーンカーブ）	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	テキスト処理	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	レイヤーアニメーション	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	チャネル、マスク処理の応用	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	フィルター処理の応用	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	課題作品制作1	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
12	課題作品制作2	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
13	課題作品制作3	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
14	課題作品制作4	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品返却 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習　（科目ナンバリング：SWS122044　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）、畠山　明子（社会福祉学科・准教		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2022年度）

到達目標

①ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。

授業全体の内容と概要

１、２年次のソーシャルワーク演習で学んできた、自己覚知（自己理解と他者理解）、基本的なコミュニケーション技術（言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）、非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等)、基本的な面接技術（面接の構造化、場の設定(面接室、生活場面、自宅等)、ツールの活用（電話、e-mail 等)）、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見、インテーク・アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、ソーシャルワークの記録（支援経過の把握と管理）、グループダイナミクスの活用（グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー）、グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)、プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション）について、精神保健福祉分野の教材を活用して復習する。
「SDG3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
③講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。成績は、レポート（５０点）、平常点（５０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておおむ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について関係するキーワードを理解しておらず、
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるよ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできることに
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習　（科目ナンバリング：SWS122044　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）、畠山　明子（社会福祉学科・准教		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
2	自己覚知（自己理解と他者理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
3	基本的なコミュニケーション技術①（言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
4	基本的なコミュニケーション技術②（非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
5	基本的な面接技術①（面接の構造化）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
6	基本的な面接技術②（場の設定(面接室、生活場面、自宅等)）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
7	基本的な面接技術③（ツールの活用（電話、e-mail等)）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
8	ソーシャルワークの展開過程①（講義）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
9	ソーシャルワークの展開過程②（事例検討：医療）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
10	ソーシャルワークの展開過程③（事例検討：地域）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
11	ソーシャルワークの記録①（講義）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
12	ソーシャルワークの記録②（実習日誌の作成）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
13	グループダイナミクスの活用①（グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
14	グループダイナミクスの活用②（グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期））	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
15	プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
16	まとめ	１５回分の内容を復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論	（科目ナンバリング：LIH422046，LIH522045 ）			
授業担当者（所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 猪尾　紀幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的で実践的な講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

地域は、情報の一方的な受け手ではなく、自らの地域情報を発信することにより地域への関心を高め、地域活性化を推進することが求められている。地域情報発信の意義、効果、方法について理解することを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

地域活性化という観点から見た地域情報について理解し、地域内外に対する地域情報発信の意義、効果、方法について理解し見識を持つ。

授業全体の内容と概要

地域情報の例、地域情報発信の意義、効果、方法についての講義を行う。
「SDG 11.住み続けられるまちづくりを」の関連科目。
「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。

授業の方法

プロジェクターでの投影や板書を行い、双方向授業を活用しながら講義を進める。必要に応じて資料を配布したり、調査学習を行う。毎回の授業では授業に関する振り返りを簡潔に「振り返りシート」に記入し提出する。振り返りシートの内容をもとに次回授業冒頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は【授業態度】を重視する。【授業態度】においては、授業中の居眠り、私語、携帯電話・スマートホン等の操作は指示された場合を除き厳禁とし、再度の注意を受けたものは退室を命じ欠席扱いとする。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。
課題を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報管理（文献・情報検索）	一観点に対して図書館等の文献調査から得た資料を基に必要な情報を整理（短文等）できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料を閲覧し必要な情報を取得できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料（３つ以上）を入手できた。	図書館等の文献調査ができた。	図書館等の文献調査ができなかった。
ICTスキル・情報リテラシー	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた効果的な論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成、データ分析、授業内外で効果的にICTを活用。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成でき、ICTを活用した。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価・取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセス・統合して使用できた。	PC等を活用して論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用できず、指定の体裁で論文やレポート、プレゼンテーション資料が作成できなかった。必要な情報・データにアクセスできなかった。
情報整理	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリーに分けることができる観点ごとにまとめ、それらのリスト（規格統一表記）作成した。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリーに分けることができる観点ごとにまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等を別にまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究関連としてまとめた。	文献や電子資料の情報整理を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論	（科目ナンバリング：LIH422046，LIH522045 ）			
授業担当者（所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 猪尾　紀幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的で実践的な講義をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要，講義のやり方，評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
2	地域情報論・総論①（経営的観点からみた地域活性化）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
3	地域情報論・総論②（地域活性化と地域情報）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
4	北広島市の概要①（地域の歴史、文化）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
5	北広島市の概要②（地域の産業、企業）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
6	北広島市の地域情報の例①（地域の特産品）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
7	北広島市の地域情報の例②（地域のビジョン）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
8	北海道の他地域情報の例①（移住推進地域）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
9	北海道の他地域情報の例②（観光推進地域）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
10	情報発信手法①（メディアミックス）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
11	情報発信手法②（トリプルメディア）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
12	情報発信手法③（ＩＴ普及と消費者行動の変化）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
13	情報発信手法④（インターネット、ホームページ、ＳＮＳ）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
14	情報発信手法⑤（その他の手法）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
15	情報発信手法⑥（注意点、商標権、著作権）	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。（９０分）	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）
16	講義全体のまとめ、課題提出 授業改善アンケートの実施	学習内容に基づき課題を作成	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習　（科目ナンバリング：SWS122045　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）、畠山　明子（社会福祉学科・准教		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2022年度）

到達目標

①ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーク演習を踏まえ、精神保健福祉士による実践の専門性を習得するために、事例検討を中心に進める。具体的には、事例に登場する精神保健福祉士が勤める職場と支援対象となるクライエントを理解したうえで、問題の発生経過や支援経過をたどりながら、自分が精神保健福祉士として支援する立場になった時の状況をどう捉え、どのような社会資源を活用しながら支援を展開していくのか、個人ワークやグループワークを通して検討を行う。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
③講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。成績は、レポート（５０点）、平常点（５０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について具体的	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎についておむ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎につい	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎について関係するキーワードを理解しておらず、
②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるように具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにおおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるよ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかけ	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民に	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできることに
⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習　（科目ナンバリング：SWS122045　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）、畠山　明子（社会福祉学科・准教		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
2	ソーシャルワークの課題を通じた演習①（個人に対する相談援助の理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
3	ソーシャルワークの課題を通じた演習②（グループにおける相談援助の理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
4	ソーシャルワークの課題を通じた演習③（コミュニティソーシャルワークの理解）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
5	支援の場に応じた相談援助の理解①（精神科医療機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
6	支援の場に応じた相談援助の理解②（精神科医療機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
7	支援の場に応じた相談援助の理解③（精神科医療機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
8	支援の場に応じた相談援助の理解④（障害福祉サービス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
9	支援の場に応じた相談援助の理解⑤（障害福祉サービス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
10	支援の場に応じた相談援助の理解⑥（障害福祉サービス事業所）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
11	支援の場に応じた相談援助の理解⑦（行政機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
12	支援の場に応じた相談援助の理解⑧（行政機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
13	支援の場に応じた相談援助の理解⑨（教育機関）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
14	支援の場に応じた相談援助の理解⑩（司法）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
15	支援の場に応じた相談援助の理解⑪（産業・労働）	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）
16	まとめ	１５回分の内容を復習する。（４５分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：MAN423037 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、食料生産に関連する農業という産業の成立ちから、その特殊性・必要性について学んだ上で、農業関連ビジネスの発展過程と今後について学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

本講義終了時の達成目標は、以下の３つである。①農業における必要性・特殊性を述べることができる。②農業関連ビジネスとは何かを述べることができる。③今後の農業関連ビジネスの展望について述べることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は，農業に関連するビジネスについて学ぶことを目的としているため、農業という産業の必要性・特殊性を基本として、農業政策・農業市場・農産物の流通等、農業経済学の側面からアプローチする。そのため、本講義は農業に関する専門的な知識がなくても理解できる内容としている。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。１枚のパワーポイントを掲示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」１０％は講義ノートの評価とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０％	０％	０％	０％	０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を１つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。
アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を信憑性の高い自分の言葉で述べることができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸﾞﾘﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：MAN423037 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	２０２０年	9784297113636	
2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社	２０１７年	9784833451178	
3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	１９９８年	4641085943	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	「アグリビジネス論」ガイダンス　シラバスの説明（講義の進め方，評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	産業としての農業	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
3	農業の必要性・特殊性	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
4	農業協同組合の仕組み①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
5	農業協同組合の仕組み②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
6	農業政策について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
7	農業政策について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
8	農業市場について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
9	農業市場について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
10	農産物の流通について①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
11	農産物の流通について②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
12	アグリビジネスの定義	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
13	アグリビジネスの事例①	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
14	アグリビジネスの事例②	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
15	アグリビジネスの事例③、授業改善アンケートの実施	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた準備をしておくこと。（９０分）	定期試験のフィードバックを受けて、アグリビジネス論を総括すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 （科目ナンバリング：SWS122054 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーが存在する意義・役割、スクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP5に対応する（2022年度）。

到達目標

１．今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。
２．発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解・説明できる。
３．スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。

授業全体の内容と概要

１．学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーが存在する意義・役割について、いじめ・不登校・学習保障・保護者対応・児童虐待への対応など、具体的な事例に基づいて、演習形式でスクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。
２．「ＳＤＧｓ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧｓ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は「演習」形式である。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低７回なければ試験を受験することはできない。
４．その他について、出席状況、演習における話し合いの態度や発言するなどの取り組みで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解する。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。
【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができなかった。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。
【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解する。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができなかった。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 （科目ナンバリング：SWS122054 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野則子など	ミネルヴァ書房	2016年	9784623078349	価格 ／3,080（本体／2,800）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
2	事例検討：スクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
3	事例検討：スクールソーシャルワークと『自殺防止』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
4	事例検討：スクールソーシャルワークと『発達障害・精神疾患』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
5	事例検討：スクールソーシャルワークと『児童虐待』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
6	事例検討：スクールソーシャルワークと『性的マイノリティ』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
7	スクールソーシャルワークと『保護者対応-いじめ・不登校・非行・発達障害・貧困など』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
8	事例検討：スクールソーシャルワークと『災害に備えた学校づくり』への対応 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
9	スクールソーシャルワークと『新たに求められていること』への対応～演習に取り組んできた事後エッセンス～	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅰ　（科目ナンバリング：CHS122071　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解することで、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。
①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
⑤社会的養護の現状と課題について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解することができる。
②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができる。
③社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる。
④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができる。
⑤社会的養護の現状と課題について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について学ぶ。
②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。
③社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。
④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。
⑤社会的養護の現状と課題について学ぶ。

授業の方法

授業は、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。子どもの健やかな成長とより良い育ちを支援する保育士に必要な事柄を理解するとともに、自らの将来のあるべき保育士像を構築しながら受講することを求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について、理解することができなかった。
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。
社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。
社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅰ　（科目ナンバリング：CHS122071　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認を含む）、現代社会における社会的養護の意義（社会的養護の理念と概念）、授業改善アンケート結果反映の説明	社会的養護とは（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
2	社会的養護の歴史的変遷	社会的養護の歴史的変遷（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
3	社会的養護の基本①子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利擁護（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
4	社会的養護の基本②社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原則（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
5	社会的養護の基本③社会的養護における保育士等の倫理と責務	保育士等の倫理と責務（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の法体系（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護の実施体系（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
8	社会的養護の対象	社会的養護の対象（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
9	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
10	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
11	社会的養護の現状と課題①社会的養護に関する社会的状況	社会的養護に関する社会的状況（９０分）	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成（９０分）
12	社会的養護の現状と課題②施設等の運営管理	施設等の運営管理（９０分）	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成（９０分）
13	社会的養護の現状と課題③被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の虐待防止（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
14	社会的養護の現状と課題④社会的養護と地域福祉	地域福祉とは（９０分）	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
15	まとめ（事例研究）授業改善アンケートの実施	文献学習（９０分	ノート整理、疑問点の解消（９０分）
16	課題（レポート）対する解説を行いフィードバックする	文献学習（９０分）	文献学習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑVII （科目ナンバリング：IRE324078 ）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1 （単位認定責任者： ）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑVII　（科目ナンバリング：IRE324078　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉)　（科目ナンバリング：CHS122081　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「言葉」の領域から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「言葉」の領域を学ぶことにより，子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「言葉」を学修する。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
最後に「言葉」「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。
なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「言葉」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を深く理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術をおおむね理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術をやや理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を理解できなかった。
領域を意識した「言葉」に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉)　（科目ナンバリング：CHS122081　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現技術』	古橋和夫	萌文書林	２０１９	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケートの結果反映の説明 子どもの言葉と育ち	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育所保育指針における「言葉」の理解 乳幼児期の言葉の発達	指針「言葉」を事前学習しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか-	環境保育について事前学習しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び）	語彙について事前学習しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ①（児童文化財）	発達過程を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ②（児童文化財）	発達過程について事前学習しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題を作成する（９０分）。
7	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ③（児童文化財）	ここまでに学んだことを整理しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	特別な配慮が必要な子どもの関わり 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック 授業改善アンケートの実施	「言葉」の意義を事前学習しておく（９０分）。	これまでの授業で理解した点を整理する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅴ(表現)　（科目ナンバリング：CHS122082　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「表現」の領域から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP１、DP３、DP５、DP６、DP９に対応する。（2021年度）

到達目標

「表現」の領域を学ぶことにより，子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「表現」を学修する。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
最後に「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。
なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「表現」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「「表現」の側面から具体的なな援助技術を深く理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術をおおむね理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術を理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術をやや理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術を理解できなかった。
思考力判断力表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ｖ(表現)　（科目ナンバリング：CHS122082　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 子どもの姿に学ぶ 保育における領域「表現」のねらいと内容	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育内容「表現」と他領域の関係 表現とICT	指針「表現」を事前学習しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育室における表現① 保育室における表現②	環境保育について事前学習しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	保育室における表現③ 屋外における表現①	表現の基礎について事前学習しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	屋外における表現② 屋外における表現③	発達過程を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	地域・行事における表現① 屋外における表現②	保育の阻害環境について事前学習しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題を作成する（９０分）。
7	屋外における表現③ 幼児期からみた連携プログラム	ここまでに学んだことを整理しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	児童期からみた連携プログラム	「表現」の意義を事前学習しておく（９０分）。	８回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 （科目ナンバリング：EHS122075 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
２．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
３．食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
４．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
５．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度）

到達目標

小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であり小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解し、また、保育との関連の中で小児に適切な食事が提供できることの意義と保育における食生活が心の健康にも影響すること、食生活が家族の健康や生活地域との密接な関係があること、食生活を通じて生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

授業全体の内容と概要

小児期の成長・発達は，最も著しい時期である。とくに小児期の栄養は，生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。小児期の身体発育や運動機能・精神的発達などを充分に理解し，適正な栄養のあり方を学び，実習を行う。
「ＳＤＧｓ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書を中心に、パワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら講義形式で行う。
調理実習も伴うので必要に応じでグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習を含む科目（グループで実習）なので欠席は極力さけること。単位認定に必要となる出席回数は１１回以上とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

定期試験，レポート，出席，その他（授業態度、平常点（活動状況、表等）を上表の基準で評価する。単位認定に必要となる出席回数は１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	５%	０%	０%	１０%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(理解力)	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を十分に理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を概ね理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を多少理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し深く考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連についてに理解し概ね考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し多少考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業を休まず出席できた。(１６回)	授業を概ね休まず出席できた。(１５回)	授業を休むことがあるが出席できた。(１４～１３回)	授業を休みがちだが出席できた。(１２～１１回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(１０～０回)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 （科目ナンバリング：EHS122075 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『子どもの食生活　第6版 栄養・食育・保育』	上田玲子	ななみ書房	2022	9784903355986	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明	子どもの食生活に関係した話題を調べる(９０分)	シラバスの確認をする。毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
2	子どもの健康と食生活の意義－子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
3	栄養に関する基本的知識（１）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
4	栄養に関する基本的知識（２）食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
5	子どもの発育・発達と食生活（１）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
6	子どもの発育・発達と食生活（２）幼児期の心身の発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
7	子どもの発育・発達と食生活（３）学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
8	食育の基本と内容（１）食育における養護と教育の一体性	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
9	食育の基本と内容（２）食育の内容と計画及び評価・食育のための環境	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
10	食育の基本と内容（３）地域の関係機関や職員間の連携・食生活指導及び食を通した保護者への支援	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(９０分)
13	調理実習（１）	調理実習に必要な要件について調べておく事(９０分)	うまく行かなかった点や反省点を次回に繋げる様考える(９０分)
14	調理実習（２）	調理実習に必要な要件について調べておく事(９０分)	調理実習についてレポートを作成する(９０分)
15	まとめ	子どもの栄養について理解したことをまとめる(９０分)	受講後の考察をレポートにまとめる(９０分)
16	授業改善アンケートの実施及び定期試験実施 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います。	試験準備（９０分）	試験のふりかえり（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 （科目ナンバリング：MUD422056 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 由水　伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

この世界にはあらゆる種類の膨大な情報が存在する。情報は目的に応じて、収集、管理、検索可能なデーターベースとすることで、ビジネスや科学技術の発展に強力なツールとなる。実際、行政や医療、企業等の組織活動の他、日頃利用するブログやSNSといったネットサービスの裏方でもデーターベースが活躍している。
本講義では経営学部の学生として必要になる、データ処理や管理に関する基本的なスキルを習得し、合わせて企業活動や組織のデータ分析や意思決定についても利用すべく、データベースに対する理解を深めることを目指すものである。

授業の位置づけ

経営学科における全てのＤＰに対応する。

到達目標

効率的なデータベースを設計、構築、および管理できる。
ユーザーのニーズに合わせたアプリケーションの開発とカスタマイズできる。
データを分析し、ビジネスや実務上の問題を解決するための利用法を提案することができる。

授業全体の内容と概要

データベースの概念の基本的な理解と、構築、運用、保守とカスタマイズの能力を、段階的に学ぶ。
最後に、各自が事例研究した内容をプレゼンテーションし、まとめとして知識を共有する。
「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

授業はパソコンやモバイル端末などICT機器を活用して、講義と実習を交えて行い、知識を体感的に理解することを可能としている。。
事例研究の際はグループに分けて実施する。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・専門的内容につき、情報処理に関する基礎知識が必要である。情報システム論、プログラミング論を受講しておくことが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は１１回以上。
30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
各回の授業で課題がある。したがって、遅刻・欠席は成績に影響する。
事例研究の成果物を提出しない場合は、作品・課題点の50点を失うので、不合格となる点に注意が必要である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
データベース設計と開発能力 ・効率的なデータベースを設計、構築、および管理する能力。	高度に複雑なデータベースを自立して設計・開発でき、データベースの高度な機能を駆使して最適化を図ることができる。	必要なデータベース設計と開発タスクを適切に実行できる。標準的な手法に従い効率的なデータベースの利用を構築できる。	基本的なデータベース設計と開発はできるが、複雑な要件や最適化には苦労する。	単純なデータベースの設計と開発には対応できるが、エラーや非効率性を含むことがある。	データベース設計と開発の基本的なタスクを遂行できない。
アプリケーション開発とカスタマイズ ・ユーザーのニーズに合わせたアプリケーションの開発とカスタマイズの能力。	データベースを用いて高度にカスタマイズされたアプリケーションを開発でき、ユーザーインターフェースと使い勝手の良さの向上に貢献できる。創造的かつ革新的な解決策を提案できる。	効率的かつ機能的なデータベースシステムを開発できる。ユーザーニーズを適切に理解し、要件に応じたカスタマイズを行うことができる。	基本的なカスタマイズは行えるが、複雑なデータベース構築やユーザーインターフェースの設計には限界がある。	簡単なフォームやレポートのカスタマイズはできるが、データベース構築・管理には能力が不十分である。	データベースの利用に必要な基本的なスキルが欠けている。
解析と問題解決 ・データを分析し、ビジネスや実務上の問題を解決するための利用法を提案する能力。	複雑なビジネス問題をデータベースを使用して効果的な解決策を提案できる。また、データ分析とレポート作成スキルが優れている。	実務上の問題に対する実用的なデータベースの利用法を提案できる。また、良好なデータ分析能力を持ち、適切なレポートを作成できる。	基本的な問題解決は可能だが、複雑な問題に対する分析や解決策の提案には助けが必要である。	単純なデータ解析は行えるが、問題解決のための利用法の提案には能力が不十分である。	解析と問題解決のスキルが不足しており、適切なデータベースの利用法を提案できない。
事例研究への取り組み ・自ら課題を見つけ、調査してまとめたものを、プレゼンテーションする能力。	真面目に取り組み、成果物の内容は模範的に優秀であった。 プレゼンテーションに説得力があった。	真面目に取り組み、成果物の内容が優秀であった。 プレゼンテーションも優れていた。	真面目に取り組み、成果物の内容は十分であった。 プレゼンテーションは十分であった。	取り組み意欲が薄く、成果物の内容は必要最小限のものであった。 プレゼンテーションは控えめな内容だった。	興味を示さず、取り組みは消極的で、成果物が提出されなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 （科目ナンバリング：MUD422056 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 由水　伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の概要	データーベースについて概要を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
2	データベースの基礎 基本概念と歴史的経緯 データーベースの基本用語	学習内容欄の用語について事前に調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
3	データモデリングの基本 テーブル作成とデータの型 ERダイアグラムとデーターベース、他	学習内容欄の用語について事前に調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
4	データ入力と管理 レコードの追加、検索、編集 データのインポートとエクスポート	SQL言語について理解しておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
5	リレーショナルデータベースの基本 テーブル間のリレーションシップの設定、キーの指定、他	データベース管理ツールについて調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
6	データ操作言語 SQL入門	学習内容欄の用語について事前に調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
7	フィールドの高度な設定 計算フィールドと集計フィールド データのバリデーション	データウェアハウスとビッグデータについて事前に調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
8	データの抽出・更新・削除 クエリー操作 スクリプト・マクロの利用	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
9	データベースとセキュリティ セキュリティ機能（パスワード保護、データのセキュリティ）	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
10	データベースとWeb データベースサーバーとWebサーバーの連携 アプリ開発	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
11	トラブルシューティングと最適化 パフォーマンスのモニタリング データーベースの最適化	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
12	ビッグデータとデータベース ビッグデータ概念の理解と利用価値、他	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
13	データベーストレンド 各種データベース技術の比較 事例紹介	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
14	事例研究 グループ分け グループによる事例研究テーマ選択と発表資料作成	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
15	事例研究（発表） グループ毎のプレゼンテーション フィードバックと質疑応答	前回、教員から支持された内容を調べておく（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）
16	定期試験（60分）および解答解説	定期試験合格に向けて復習を行う（９０分）	学習内容の振り返り学習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122092 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

共生社会の創造のために以下の５つの観点で幅広い教養を身に付ける
１．障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
２．様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
３．障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
４．障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
５．障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について具体的に述べることができる。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業全体の内容と概要

障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達の援助、障害児保育の実際，家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について学修する。

授業の方法

教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で講義形式とし、教科書の内容の確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着を図る。また、DVD で具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のDVD 教材を視聴した後に事例に基づいたレポート作成を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・教科書を必ず持参すること。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	２０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害児保育Ⅰの理解	障害児保育Ⅰについて、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	障害児保育Ⅰについて、必要な知識・技能を理解することができた。	障害児保育Ⅰについて、一定程度の理解ができた。	障害児保育Ⅰについて、一部理解することができた。	障害児保育Ⅰについて、理解できなかった。
障害児保育Ⅰの思考・判断・表現	障害児保育Ⅰについて、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	障害児保育Ⅰについて、思考・判断し、自ら表現することができた。	障害児保育Ⅰについて、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	障害児保育Ⅰについて、思考しようとすることはできた。	障害児保育Ⅰにかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業への関心を示すことはできた。	授業への積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	１Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅰ （科目ナンバリング：SNE122092 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『障がいのある子どもの保育・教育の実践』	中山智哉・濱田尚志・末成妙子	学文社	2022年	978-4-7620-3121-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、障害児保育Ⅰの概要	シラバスを確認しておくこと （９０分）	「障害」についての概念を確認する （９０分）
2	障害の理解と保育における発達の援助（１）肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	障害の理解と保育における発達の援助（２）知的障害児の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	障害の理解と保育における発達の援助（３）発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	障害の理解と保育における発達の援助（４）発達障害児の理解と援助②（PDD、自閉症スペクトラム等）	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	障害児保育の実際（１）保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	障害児保育の実際（２）個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	障害児保育の実際（３）子ども同士のかかわりと育ち合い	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	障害児保育の実際（４）職員間の協働	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	家庭及び関係機関との連携（１）保護者や家族に対する理解と支援	教科書の「家族への支援と保育者の役割」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	家庭及び関係機関との連携（２）地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
12	家庭及び関係機関との連携（３）小学校等との連携	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
13	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（１）保健・医療における現状と課題	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（２）福祉・教育における現状と課題の概要、ＤＶＤの視聴	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ＤＶＤ視聴時のメモを元に整理すること （９０分）
15	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題（２）福祉・教育における現状と課題 「授業改善アンケートの実施」	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこ（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残り３０分で解説する。）	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと（９０分）	試験の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 （科目ナンバリング：CHS122095 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標

以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。
①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開について理解する。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開について理解することができる。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に学ぶ。
②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。

授業の方法

授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	７０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育相談支援の特性について	保育相談支援の特性について、理解を深めた。	保育相談支援の特性について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の特性について、やや理解を深めた。	保育相談支援の特性について、理解することができた。	保育相談支援の特性について、理解することができなかった。
保育相談支援の展開について	保育相談支援の展開について、理解を深めた。	保育相談支援の展開について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の展開について、やや理解を深めた。	保育相談支援の展開について、理解することができた。	保育相談支援の展開について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の内容について	保育士の行う子育て支援の内容について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の方法及び技術について	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 （科目ナンバリング：CHS122095 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認を含む）、子育て支援の特性①子どもの保育とともに行う保護者の支援 授業改善アンケート結果反映の説明	保護者の支援について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
2	子育て支援の特性②日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	信頼関係の形成について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
3	子育て支援の特性③保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	多面的な理解について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
4	子育て支援の特性④子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	多様な機会や場の提供について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
5	子育て支援の展開①子ども及び保護者の状況・状態の把握	クライエントの状況・状態の把握について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
6	子育て支援の展開②支援計画と環境の構成	支援計画について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
7	子育て支援の展開③支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
8	子育て支援の展開④社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用について（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
9	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）①保育所等における支援	保育所等における支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
10	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）②地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
11	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子どもの家庭に対する支援（４５分）	レポート作成（４５分）
12	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）④特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子どもの家庭に対する支援（４５分）	レポート作成（９０分）
13	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑤子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応（９０分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
14	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑥要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援（４５分）	演習の記録と自己覚知（４５分）
15	子育て支援とその実際（内容・方法・技術）⑦多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解、まとめ（授業改善アンケートの実施）	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭（４５分）	事例研究（４５分）
16	課題（レポート）対する解説を行いフィードバックする	事例研究（４５分）	事例研究（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 （科目ナンバリング：SNE122111 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　千葉　聡美　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。病弱・身体虚弱教育に必要な基本的な知識と健康や病気の状態に応じた指導の在り方等の知識を取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、DP４、DP５に対応する。（２０２３年度・２０２２年度）

到達目標

病弱・身体虚弱児教育の教育課程、指導内容・方法等についての基礎的知識を理解することができる。

授業全体の内容と概要

病弱・身体虚弱児の健康や病気の状況に応じた教育課程や指導内容・方法、医療機関との連携、医療的ケアの在り方等について構成する。
「SDG3　すべての人に健康と福祉」「SDG４　質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジメ）で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。また具体的な事例のＶＴＲ教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能についての基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容についてほぼ学修できた。	知識・技能について不十分ながら理解することができた。	知識・技能の基礎的内容について理解できなかった。
病弱教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断に課題がみられ，表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが参加できた。	授業への態度に課題があり，参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 （科目ナンバリング：SNE122111 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	ジアース教育新社	ジアース教育新社	２０２０	978-4-86371-543-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明とオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱教育」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	病弱教育の歴史的変遷	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	病弱教育の特別支援学校・特別支援学級	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	教育課程と学習指導要領（１）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	教育課程と学習指導要領（２）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	個別の教育支援計画と個別の指導計画	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	教科指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
8	自立活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	病弱教育におけるICTの活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	病気等の状態に応じた指導と配慮	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	重度重複児の指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	訪問教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	保護者との連携	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	多職種連携と医療的ケア	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	進路指導と自立 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	講義内容の重要事項について整理しておくこと（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 （科目ナンバリング：MAN423025，MAN523027 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際経営の歴史的変化、全体像、国際経営の成果、課題について学ぶ。国際企業の社会的責任や役割、
グローバル企業として成長していく為の資質を考える。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP6に対応する。（2021年度）

到達目標

国際経営についての基礎的知識の修得。

授業全体の内容と概要

日本企業の国際経営について学び、実際の動きや将来の課題について考える。

授業の方法

板書、パワーポイントを用い、講義形式・学生参加型授業を行う。　中間テスト、定期試験の解説等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席重視、テキスト持参

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には１０回以上の出席が必要です。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０％	０％	０％	４０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績９割以上。用語･理論共によく理解していた。	試験の成績８割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績７割以上。用語･理論をある程度理解していた。	試験の成績６割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績６割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力･表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力･表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力･表現力共に弱い。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 （科目ナンバリング：MAN423025，MAN523027 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「はじめての国際経営」』	中川　功一，林　正　他	有斐閣ストゥディア	２０１７	978-4-641-15017-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業全般、評価方法についてガイダンス（シラバスの説明） 国際経営とは何か　①	シラバスを読むこと。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
2	国際経営とは何か　② 海外進出の理由	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
3	海外直接投資の理論	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
4	多国籍企業による国際競争の歴史　① 多国籍企業の栄枯盛衰	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
5	多国籍企業による国際競争の歴史　② 第二次世界大戦前後	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
6	多国籍企業の組織デザイン　① 組織デザインから見えること	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
7	多国籍企業の組織デザイン　② 多国籍企業の戦略と組織	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
8	中間テスト 海外子会社の経営　①	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
9	海外子会社の経営　② 海外子会社が担う多様な役割	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
10	国際マーケティング　① マーケティングとは何か	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
11	国際マーケティング　② 国際マーケティングのプロセス	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
12	ものづくりの国際拠点展開　① 単独海外生産拠点の設立・運営	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
13	ものづくりの国際拠点展開　② 国際生産ネットワーク	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
14	国際的な人的資源管理　① グローバル人材の時代	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
15	国際的な人的資源管理　② 海外駐在員のマネジメント	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施	指定されたページを読み予習する。（９０分）	授業中に学んだことを復習。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論　（科目ナンバリング：SNE122114　）				
授業担当者（所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な知識を理解するとともに、その特性等に応じた教育内容、方法等の対応に必要な基本的な知識、配慮事項等を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な内容がわかり、指導上の基本的な配慮事項等がわかる。

授業全体の内容と概要

重複障害の概要及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等に関する定義、原因、医学的診断、状態の把握（アセスメント、心理検査）、認知特性、行動特性等について、教育的な望ましい対応の視点から説明する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイントのスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
授業前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイトを検索を通して内容を探究する。
授業後半には、内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。
Microsoft Forms等を活用し、小テストなどを実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用して迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配付や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	３０％	０％	０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
重複障害及び限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、さらに深化させたり、発展的な学修ができた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について部分的に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論　（科目ナンバリング：SNE122114　）				
授業担当者（所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堀川　厚志　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2	『新版子どもの発達障害事典』	原　仁	合同出版	2019	978-4-7726-1382-8	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション （シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、重複障害、発達障害等の概要について）	シラバスを読む （９０分）	内容を振り返る （９０分）
2	重複障害と発達障害等の理解について	状態像を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
3	重複障害と発達障害等の定義と診断基準について	定義と診断基準を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
4	重複障害と発達障害等の行動の特徴と原因等の変遷について	行動の特徴と原因論を調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
5	重複障害及び自閉スペクトラム症等の状態像とその理解について	高機能自閉症等について調べる（９０分）	重要事項を整理する （９０分）
6	重複障害及び限局性学習症の状態像とその理解について	学習障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
7	重複障害及び注意欠如多動症の状態像とその理解について	注意欠陥多動性障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
8	知的障害と重複障害等について	知的発達の遅れについて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
9	知的障害児及び重複障害児への学習支援について	知的障害児について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
10	発達障害児の学びと状態状態の変化について	二次的な障害について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
11	限局性学習症の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
12	注意欠如多動症の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
13	自閉スペクトラム症（高機能自閉症、アスペ症候群症候群）等の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
14	自閉スペクトラム症（アスペルガー症候群）の子への教育的な対応について	望ましい対応ついて調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
15	アセスメントと実態把握等について 授業改善アンケートの実施	アセスメント等について調べる （９０分）	重要事項を整理する （９０分）
16	定期試験 （６０分間の筆記テスト、終了後１５分間の解答解説の実施）	全内容を整理する （９０分）	全内容を振り返る （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 （科目ナンバリング：S0C422043，S0C522042 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近代産業社会はどのように成り立ってきたのか、その構造と特質はどのようなものか、また、現代の産業社会の変化について学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

産業社会に関する理論や実態について単に知識を習得するだけでなく、高度産業化の過程をわれわれの日常生活との多面的な関わりでとらえ、批判的に考察する姿勢を持てるようになることが目標となる。

授業全体の内容と概要

まず、産業革命によって近代産業社会が生み出されたこと、近代化と産業化の関係と矛盾などについて学ぶ。次に、産業化は社会をどのように変えたかを理解し、２０世紀半ば以降の第三世界の産業化にも触れる。そして、現代の産業社会の変化はわれわれの生活に何をもたらしているかを探り、新しい生産世界について展望し、考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追再試験結果が保留の場合、レポート課題の提出が必要。再試験合格の場合、評価はCとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	同部分で８０%以上９０%未満の正答であった。	同部分で７０%以上８０%未満の正答であった。	同部分で６０%以上７０%未満の正答であった。	同部分の正答が６０%に満たなかった。
思考力・判断力等	脱工業化概念を軸にして、現代産業社会の構造的特質を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
高度産業社会への分析力・主体性等	近代産業社会が脱工業化社会・脱産業社会へ変化してきたことに伴うさまざまな社会的問題への充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 （科目ナンバリング：S0C422043，S0C522042 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　山本　一彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス‥‥全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明(シラバス説明を含む)、前年度授業アンケート結果概要説明	シラバス内容の事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習・確認（９０分）
2	Ⅰ．近代化と産業社会の成立 ‥‥インダストリアリズの誕生	産業社会とは何かに関する事前考察（９０分）	近代化における産業化・工業化についての復習・理解（９０分）
3	Ⅱ．産業社会の構造 ‥‥基礎社会の衰耗、エンプロイー化、市場化、	産業化・工業化が社会に何をもたらしたかの事前考察（９０分）	産業化・工業化による社会変動についての復習・理解（９０分）
4	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （１）産業構造･職業構造の変	現代産業社会の特質に関する事前考察（９０分）	脱工業化・脱産業化の意味と趨勢についての復習・理解（９０分）
5	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （１）産業構造･職業構造の変	現代の産業構造・職業構造の特質に関する事前考察（９０分）	産業・職業の構造変化による働くことの変化についての復習・理解（９０分）
6	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （２）知識集約化	高度産業化段階における知識集約化に関する事前考察（９０分）	知識集約社会・知識基盤社会についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ．高度産業社会への移行 １．脱工業化社会の到来 （３）資本主義の文化的矛盾	現代産業社会の問題点についての事前考察（９０分）	解決すべき問題の復習・確認（９０分）
8	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （１）グローバリゼーションと産業	グローバリゼーションとはどのような過程かについての事前考察（９０分）	グローバリゼーションによる産業・地域社会の変化についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システ	近代社会の官僚制とは何かについての事前考察（９０分）	近代組織が官僚制的であることの復習・確認（９０分）
10	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システ	産業活動における企業組織と官僚制に関する事前考察（９０分）	産業官僚制とは何かについての復習・理解（９０分）
11	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システ	日本的経営システムの特質についての事前考察（９０分）	日本的経営システムの非官僚制的側面についての復習・理解（９０分）
12	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （２）産業官僚制と日本的経営システ	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察（９０分）	日本的経営システムに対する評価の変遷と環境変化についての復習・理解（９０分）
13	Ⅲ．高度産業社会への移行 ２．生産の高度化と労働・職業の変容 （３）就業者のネットワーク	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察（９０分）	働く者の連帯とネットワークのあり方に関する復習・理解（９０分）
14	Ⅳ．新しい「生産世界」へ ‥‥産業主義を超えて	産業社会を超える社会のあり方についての事前考察（９０分）	インダストリアリズムとは何であったかの復習・再確認・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック（９０分）	評価に関する確認・理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA222072　）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）三		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（金属）：金属（鍛金）の特性を活かした美しい作品を制作することが出来る。
（染色）：広大な染色の世界の一端としての型染めを知る。技法の特質と道具、材料の名称、使用法を知る。型の連続によるデザインの可能性を知る。
（テキスタイルデザイン）：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知り、知識を深める。スクリーンプリント技法を学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023･2022年度）
デザイン学科のDP1,DP2、DP4、DP5に対応する（2021年度）

到達目標

（金属）：金属（鍛金）の特性を理解して作品を制作することが出来る。
（染色）：型染めの歴史と特性を知り説明できる。型染めの道具、材料の使用方法と技法の基礎を知り制作ができる。型染め特有のデザインの方法を知り実践できる。
（テキスタイルデザイン）：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知る。スクリーンプリント技法を体験する。

授業全体の内容と概要

（金属）では、「鍛金」を行う。道具の名称や使用方法を実践を通じて学ぶ。制作した作品はポスター（プレゼンテーションボード）にまとめ提出する。
（染色）では、型染めの歴史と技法を学び、自身のデザインで制作に取り組む授業である。オムニバスの少ない授業時間であるが型彫から水元までの型染め全行程を体験する。
（テキスタイルデザイン）では、身の回りにあふれるテキスタイルデザインに注目し、オリジナルのデザインを考える。スクリーンプリント技法を学び、実践する。テキスタイル小作品を制作し、発表・展示を行う。
「SDG12．つくる責任 つかう責任」の関連授業。

授業の方法

（金属）スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。
（染色）板書，作例によって歴史と作業の基礎を学び，各自の構想による原画をもとに型染めの制作を行う実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。ここで学ぶ型染めは四方送りの技法である。
（テキスタイルデザイン）授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後に説明用動画はTeamｓに保存するので振り返りが可能。課題は添削、講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

（金属）制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。
（染色）限られた時数の中で工程数が多いので遅刻、欠席は極力避けることが肝要である。
染料と水を使う作業なので対応する服装を心がける。
（テキスタイルデザイン）授業開始から３０分間で作業の説明を行うので遅刻しないこと。作業計画のスケジュールは変更できないので必ず出席すること。簡単なレポート提出あり。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

オムニバスの各講座につき、それぞれ８割以上の出席をすること。
各講座で課される作品等を全て完成させ、期限内に提出をすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工芸作品の基本的な特性の理解	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用した作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、作品をを制作した。	工芸技法を使って作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作できなかった。
表現力	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に十分に表現することができた。	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に表現することができた。	課題の意図を受け止め、制作テーマを決定し、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	綿密な制作計画を立て、十分な準備をして、高度で丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、十分な準備をして、丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、適度な準備をして、順調な制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅰ （科目ナンバリング：AEA222072 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）三		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(梅田・中島・三上) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解する事（４５分）
2	（梅田） 鍛金について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
3	（梅田） アイススプーン デザイン案（鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
4	（梅田） アイススプーン デザイン案（鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（45分）
5	（梅田） アイススプーン （鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
6	（梅田） アイススプーン （鍛金）	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（45分）
7	（梅田） アイススプーン （鍛金）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
8	（梅田） アイススプーン （鍛金）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	ポスター作成（４５分）
9	（梅田） ポスターセッション （講評）	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
10	（梅田） ポスターセッション （講評）	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
11	（中島） 型染めの歴史、特性、技法の説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	課題を理解し、準備を進める事（４５分）
12	（中島） 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	（中島） 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	（中島） 型彫り 洋型紙に図案を彫る	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	（中島） 型彫り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	（中島） 型彫り 糊を作り生地に置く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	（中島） 染色 色糊を作り、型の上から引く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	（中島） 染色	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	（中島） 蒸し、水元、定着	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	（中島） 完成作品発表・講評	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省すること（４５分）
21	（三上） テキスタイルデザインとスクリーンプリント技法についての説明	シラバスを読んでどんな作品を作るか考えておくこと（４５分） と（４５分）。	課題を理解し、準備を進める事（４５分）
22	（三上） 作業計画を立てる	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	（三上） ラフデザイン①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	（三上） ラフデザイン②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	（三上） 版下作成①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	（三上） 版下作成②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	（三上） 製版	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	（三上） 刷り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	（三上） 落版・掃除	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	（三上） 定着・仕上げ	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	（梅田・中島・三上） 展示・発表・講評	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	（梅田・中島・三上） まとめ 授業改善アンケートの実施	事前に質問したい事をまとめておく（４５分）	講評を受けて今後の制作に活かす（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ （科目ナンバリング：SWS124028 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・小 早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・大	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解する。
２．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を理解する。
３．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
４．地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
５．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
６．実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
７．ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7に対応する（2021年度）。

到達目標

１．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて理解できる。
２．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を理解できる。
３．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解できる。
４．地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解できる。
５．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解できる。
６．実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解できる。
７．ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解できる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて学ぶ。
２．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力について学ぶ。
３．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ。
４．地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に学ぶ。
５．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に学ぶ。
６．実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に学ぶ。
７．相談援助演習(専門)Ⅰ・Ⅱで学んだ内容や技術を基礎に、実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に学ぶ。
８．「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は演習形式で、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．適宜、質疑応答を交える。
３．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
４．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
５．大学のペーパレス化に伴い、資料はなるべく少なく対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．必要な資料等は適宜配布する。
２．配布資料は必ず持参すること。
３．授業は８回であり、５回は出席すること。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

１．出席回数は最低５回なければ単位の認定はできない。
２．その他については、８０%は出席４０%、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度４０%で評価します。２０%は授業内で作成した作成物で評価します。
３．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する－実習経験をふまえー	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた－実習経験をふまえー	左記の専門用語を一つも説明できなかった－実習経験をふまえー
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する－実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた－実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた－実習経験をふまえー	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた－実習経験をふまえー	面接における身体技法を実践できた －実習経験をふまえー	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった－実習経験をふまえー
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の矢ｊ区割りをロールプレイングで実践できた－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた－実習経験をふまえー	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた－実習経験をふまえー	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった－実習経験をふまえー

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)III　（科目ナンバリング：SWS124028　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・小 早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・大		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明） ・ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱの説明	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
2	ソーシャルワークの展開過程～児童分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
3	ソーシャルワークの展開過程～児童分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
4	ソーシャルワークの展開過程～地域分野・高齢分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
5	ソーシャルワークの展開過程～地域分野・高齢分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
6	ソーシャルワークの展開過程～障害分野のミクロの事例を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
7	ソーシャルワークの展開過程～障害分野のメゾ・マクロの事例を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
8	ソーシャルワークの展開過程～児童分野・地域分野・高齢分野・障害分野をソーシャルワークのグローバル定義を用いて－実習経験をふまえ－	資料を事前に読んでおくこと（９０分）	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・ （科目ナンバリング：SNE122105 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

共生社会創造のための授業として肢体不自由教育を効果的に行うために必要な心理や病理・行動特性等の基本的な知識を理解して、指導上の配慮事項等の基礎知識を得る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

肢体不自由児の心理や行動特性、指導上の配慮事項等について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」の基本的理念を押さえ、肢体不自由児の身体的・心理的な特性を事例や視覚教材を活用しながら構成する。「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配付資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着を図る。また、DVD を視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・肢体不自由児の身体的、心理的な特性に応じた指導を行うにはどうしたらよいのかを考えながら、必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、実践事例の DVD 教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	２０％	０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解	肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解について、学修した知識・技能を基盤に、更に学修を深めることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一部理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、理解ができなかった。
肢体不自由児者の心理整理・病理についての思考・判断・表現	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考活動に取組み、表現しようとすることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考できた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理にかかわる、思考・判断・表現についての必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業へいくらか関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・ （科目ナンバリング：SNE122105 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員 ）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3 版 』』	篠田達明	金芳堂	2015 年	978-4-7653-1628-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、肢体不自由者の心理・生理・病理の概要	シラバスを確認しておくこと （９０分）	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見通しを立てる（９０ 分）
2	肢体不自由者の概念と疾患	指定した教科書の「特別支援教育の対象」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	脳性まひの起因と症状（１）	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	脳性まひの起因と症状（２）	指定した教科書の「脳性まひ」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	二分脊椎の起因と症状	指定した教科書の「二分脊椎」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	筋ジストロフィーの起因と症状	指定した教科書の「筋ジストロフィー」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	ペルテス病の起因と症状	「ペルテス病」について事前に調べておくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	肢体不自由の特性を呈するその他の障害	指定した教科書の「医学的側面から見た肢体不自由」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	重症心身障害	配布した資料に基づき事前に調べること（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	障害に対する医療的対応	指定した教科書の「医学的側面からの把握」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	ＤＶＤの視聴及びレポート作成	事前に配布したＤＶＤの資料を読んでおくこと（９０ 分）	ＤＶＤ視聴時に取ったメモに基づき整理しておくこと（９０分）
12	生涯学習と医療・社会福祉	指定した教科書の「幼児児童生徒への対応」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
13	肢体不自由者の心理的特性	指定した教科書の「心理学的・教育学的側面からみた肢不自由」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	肢体不自由者の療育上特に留意すべき事項	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
15	「授業改善アンケート」の実施 バリアフリーとまとめ	配布した資料に基づき「バリアフリー」について調べておくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
16	定期試験(６０ 分の試験終了後、残りの３０分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(９０ 分)	試験の結果を見直す（９０ 分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅰ （科目ナンバリング：PSS123034 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師） ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP９に対応する。（2021年度）

到達目標

１．精神医学，精神医療の歴史を説明する。２．脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。３．代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状，経過，治療等についての理解を深める。
「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
筆記試験で規定の成績を得たもの。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅰ　（科目ナンバリング：PSS123034　）				
授業担当者（所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師））		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座第1巻　精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会＝編集	中央法規出版	２０２１年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
2	精神医学、精神医療の歴史	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
3	脳および神経の生理・解剖	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
4	精神医学の概念	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
5	精神障害の成因と分類	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
6	診断法①　診断の手順と方法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
7	診断法②　精神症状と状態像	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
8	診断法③　心理検査と身体的検査	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
9	代表的な精神障害①　症状性を含む器質性精神障害（老人性認知症を含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
10	代表的な精神障害②　精神作用物質使用による精神および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
11	代表的な精神障害③　統合失調症，統合失調型障害および妄想性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
12	代表的な精神障害④　気分（感情）障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
13	代表的な精神障害⑤　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
14	代表的な精神障害⑥　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
15	まとめ	講義全体でわからないことがあれば質問をまとめておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと（９０分）	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習　（科目ナンバリング：SWS123048　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
②精神保健福祉における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目領域

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰを修了していることを前提とする。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習　（科目ナンバリング：SWS123048　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバス説明	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
2	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
3	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
4	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
5	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
6	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
7	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
8	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
9	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
10	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
11	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
12	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
13	実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
14	実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
15	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）
16	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			